資料２０

沖縄県のがん登録
2013年症例と2011年罹患

平成27年度第4回沖縄県がん診療連携協議会
ダイジェスト版



2013年院内がん登録　報告書

沖縄県在宅医療人材育成･質の向上センター
琉球大学医学部附属病院がんセンター

もくじ

はじめに 1

Ⅰ 2013年沖縄県院内がん登録実施施設集計 調査方法 2
1. 収集の対象と方法 2
（1）収集の対象
（2）収集方法
（3）収集項目と定義
2. 院内がん登録集計の対象と集計方法 4
（1）集計の対象
（2）集計項目の定義
（3）症例区分8:その他 の扱いについて
3. 生存率の集計対象と集計方法 6
（1）集計の対象
（2）集計項目の定義
（3）生存率の集計方法
4. 公表の対象 7

Ⅱ 沖縄県のがんの現状 11

Ⅲ 2013年沖縄県院内がん登録実施施設 集計結果 17
1. 全登録対象の特性 18
2. 登録対象の特性 20
3. 二次保健医療圏別の登録数 22
4. 年齢階級別登録数の推移 24
5. 部位別登録数の推移 25
6. 2007年診断例 5年相対生存率 集計結果 28

Ⅳ 2013年沖縄県院内がん登録実施施設 部位別 集計結果 33
1. 胃 34
2. 大腸 38
3. 肝臓 42
4. 膵臓 46

5. 肺 50
6. 乳房 54
7. 子宮頸部 58
8. 子宮体部 62
9. 前立腺 66
10. 血液腫瘍 70

Ⅴ 2013年沖縄県院内がん登録実施施設 施設別 集計結果 75
1. 北部地区医師会病院 75
2. 国立病院機構沖縄病院 83
3. 沖縄県立中部病院 91
4. 中頭病院 99
5. 中部徳洲会病院 107
6. ハートライフ病院 115
7. 那覇市立病院 123
8. 沖縄赤十字病院 131
9. 浦添総合病院 139
10. 琉球大学医学部附属病院 147
11. 南部病院 155
12. 南部徳洲会病院 163
13. 沖縄協同病院 171
14. 豊見城中央病院 179
15. 沖縄県宮古病院 187
16. 沖縄県立八重山病院 195

Ⅵ 参考実数 203

Ⅶ がん診療にかかわる情報 289

Ⅷ 編集後記
1. 2013年院内がん登録報告書 コメント協力者 290
2. 2015年 沖縄県院内がん登録実務者・報告書協力者 291
3. あとがき・編集協力・制作者一覧 292

沖縄県のがんの現状



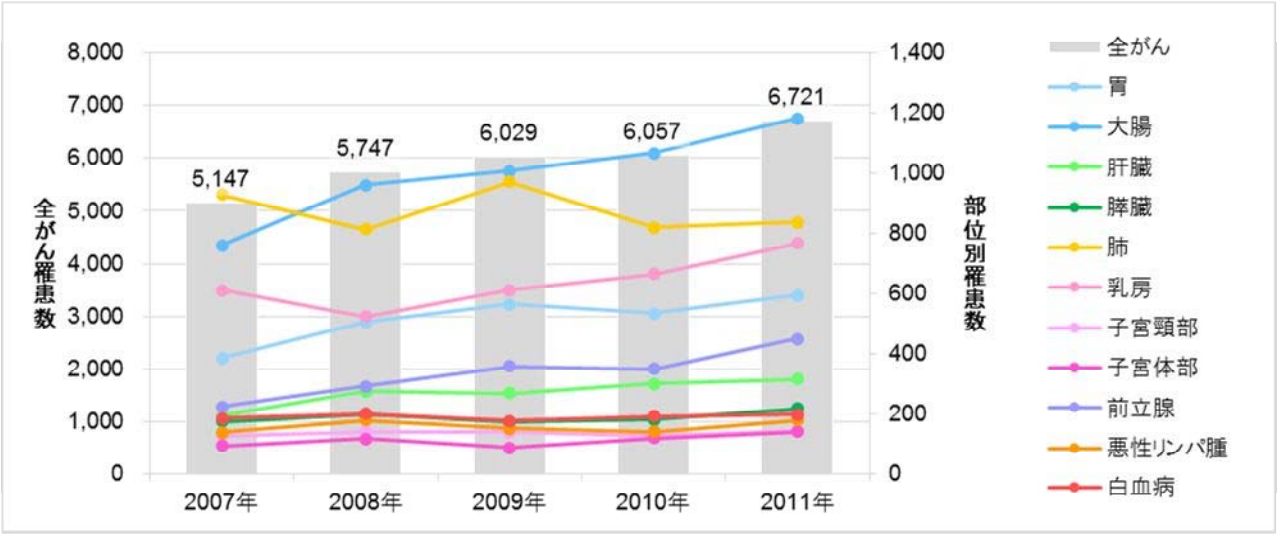
沖縄県のがんの現状

☞データをみると

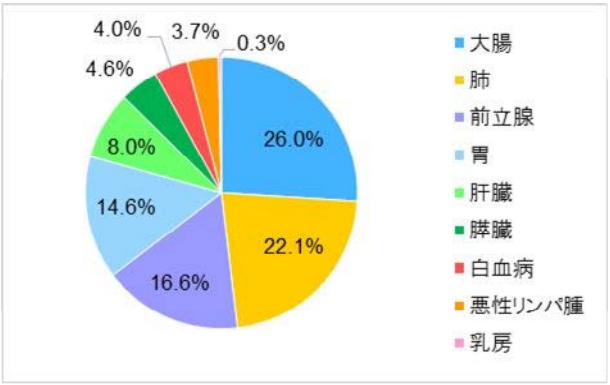
沖縄県におけるがんの罹患数（発生数）は、人口の高齢化とともに年々増加しています。2011年に沖縄県でがんと診断された方は6,721人でした。発生数の多いがんは男女で異なり、上位5部位は、男性では大腸がん（706人）、肺がん（601人）、前立腺がん（450人）、肝がん（218人）、口腔・咽頭がん（138人）、女性では乳がん（758人）、大腸がん（476人）、肺がん（237人）、胃がん（197人）、子宮頸がん（143人）です。

年齢構成の異なる時代間で比較するため、年齢構成の違いによる影響を除去した年齢調整罹患率（人口10万人あたりの人数）を示しました。2007年から2011年にかけて、全がんの罹患率はほぼ横ばいですが、大腸がん、乳がん、前立腺がんは増加傾向です。

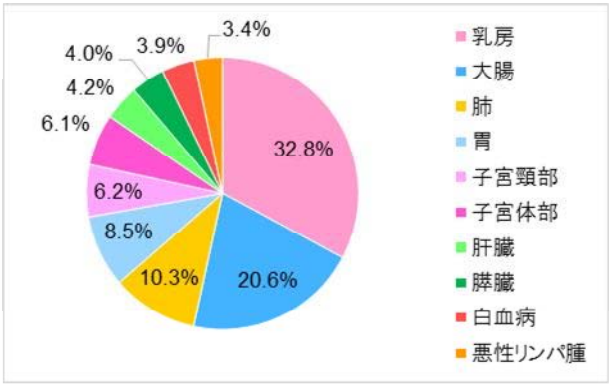
沖縄県　罹患数の推移



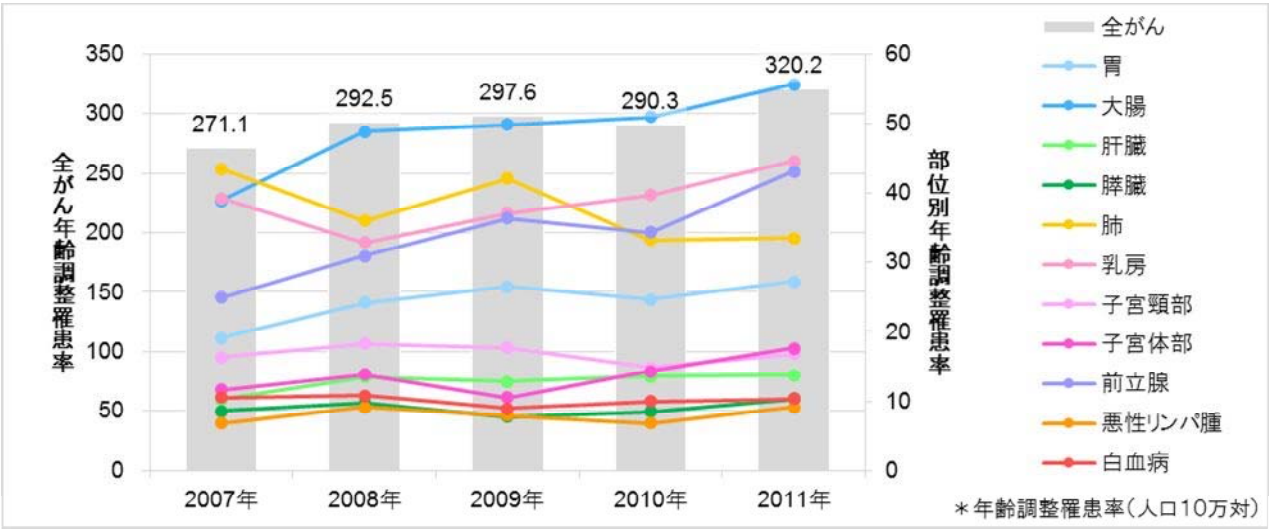
沖縄県　罹患割合ー男、2011年



沖縄県　罹患割合ー女、2011年



沖縄県　年齢調整罹患率の推移



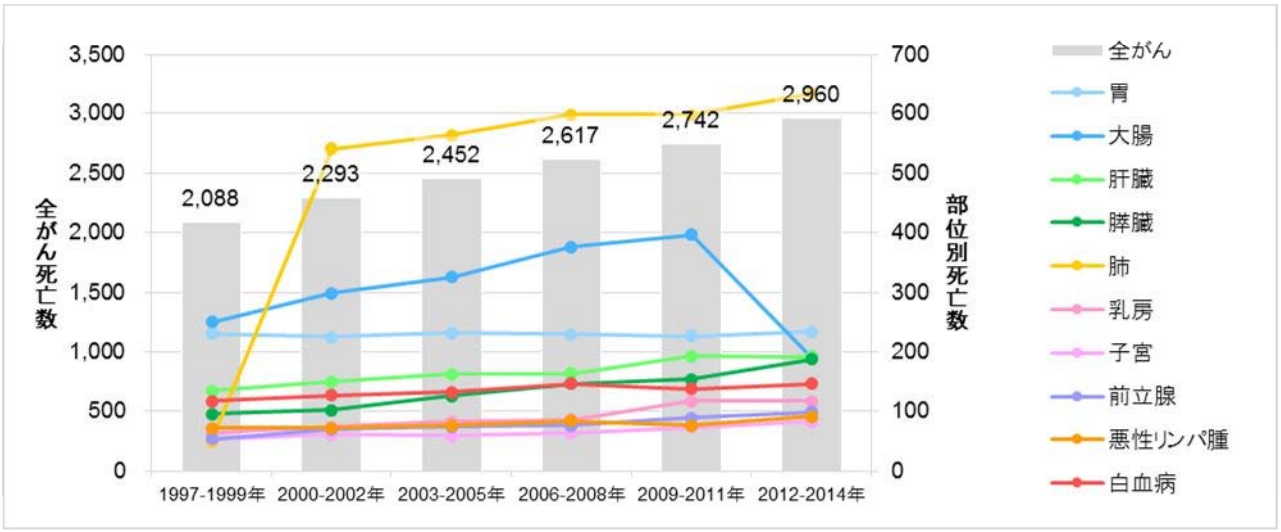
＊上皮内がんを除いて集計

☞データをみると

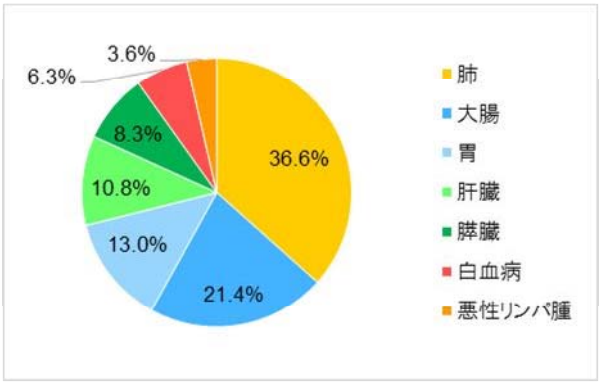
沖縄県におけるがんの死亡数は、人口の高齢化とともに年々増加しています。2012－2014年に沖縄県でがんで亡くなられた方は年平均2,960人でした。死亡数の多いがんは男女で異なり、上位5部位は、男性では肺がん（年平均450人）、大腸がん（263人）、胃がん（160人）、肝がん（132人）、膵臓がん（102人）、女性では大腸がん（189人）、肺がん（183人）、乳がん（117人）、膵臓がん（85人）、子宮がん（83人）です。

年齢構成の異なる時代間で比較するため、年齢構成の違いによる影響を除去した年齢調整死亡率（人口10万人あたりの人数）を示しました。1997-1999年以降、全がんの死亡率は減少傾向で、胃がん、肝がん、肺がんなどの減少が影響しています。

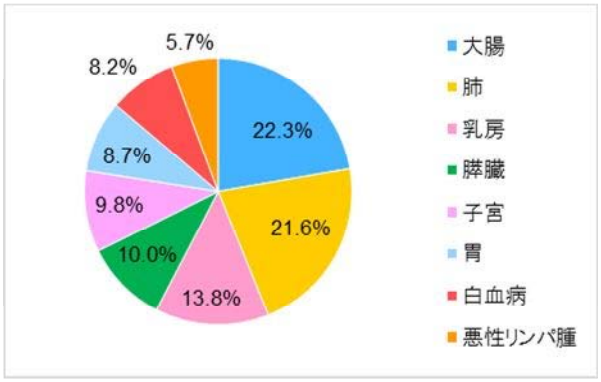
沖縄県　死亡数の推移



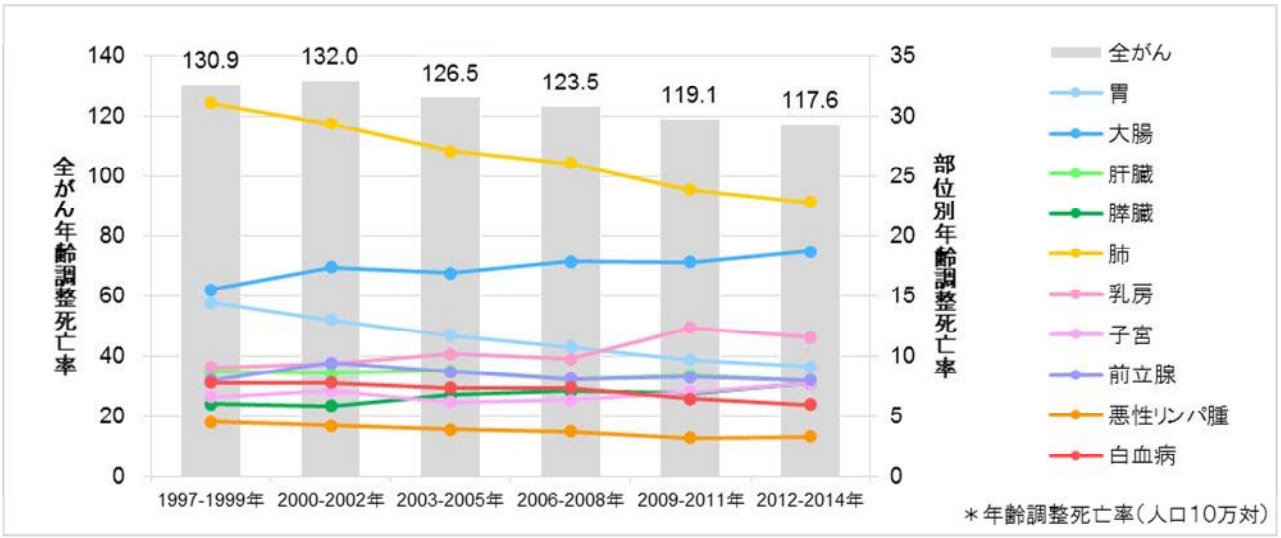
沖縄県　死亡割合ー男、2012-2014年



沖縄県　死亡割合ー女、2012-2014年



沖縄県　年齢調整死亡率の推移



市町村のがんの現状

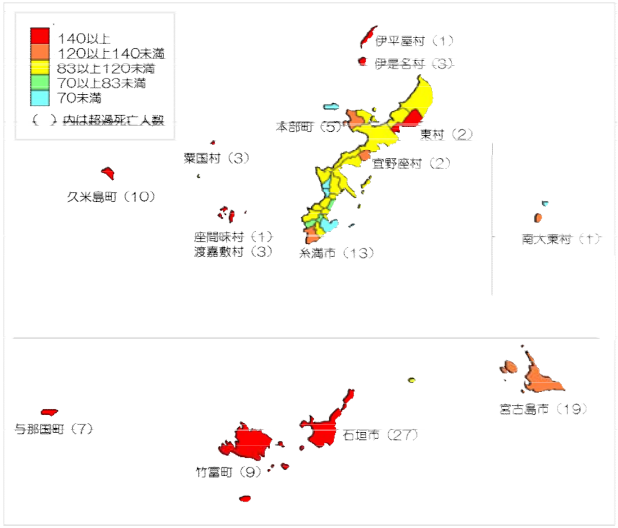
☞データをみると

市町村別に標準化死亡比（沖縄県を基準値）を示しました。標準化死亡比が基準値（100）より大きいということは、その市町村の死亡状況は沖縄県より高いということを意味し、基準値より小さいということは、沖縄県より低いことを意味します。

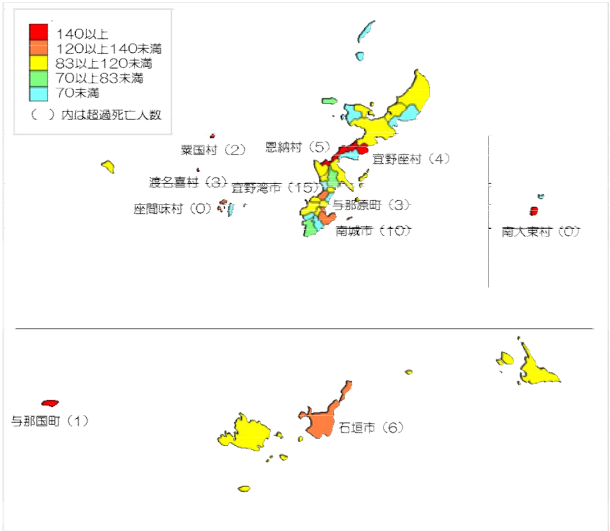
沖縄県の死亡より高い市町村をがん種別にみますと、次のとおりでした。

1. 胃がん（男）では、石垣市、糸満市、宮古島市、東村、本部町、宜野座村、渡嘉敷村、座間味村、粟国、南大東村、伊平屋村、伊是名村、久米島村、竹富町、与那国町
2. 胃がん（女）では、宜野湾市、石垣市、南城市、恩納村、宜野座村、与那原町、座間味村、粟国村、渡名喜村、南大東村、与那国町
3. 大腸がん（男）では、糸満市、うるま市、国頭村、宜野座村、渡嘉敷村、渡名喜村、多良間村
4. 大腸がん（女）では、沖縄市、宮古島市、恩納村、北大東村、多良間村
5. 肝がん（男）では、大宜味村、本部町、伊江村、与那原町、粟国村、渡名喜村、久米島村、竹富町
6. 肝がん（女）では、名護市、糸満市、宮古島市、今帰仁村、宜野座村、与那原町、座間味村、南大東村、竹富町
7. 肺がん（男）では、恩納村、渡嘉敷村、座間味村、渡名喜村、伊是名村、八重瀬町、多良間村、竹富町、与那国町
8. 肺がん（女）では、宜野湾市、東村、伊江村、嘉手納町、渡名喜村、南大東村、多良間村、竹富町
9. 乳がん（女）では、沖縄市、本部町、恩納村、中城村、粟国村
10. 子宮がんでは、浦添市、宮古島市、国頭村、大宜味村、宜野座村、中城村、南大東村、久米島町、八重瀬町

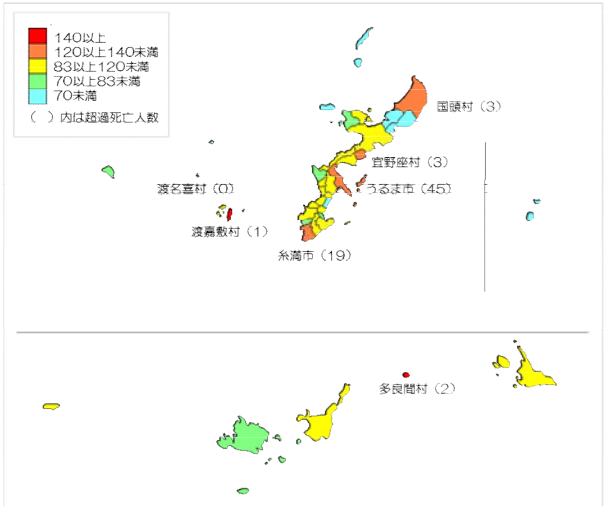
沖縄県　標準化死亡比ー胃、男、2003-2012年



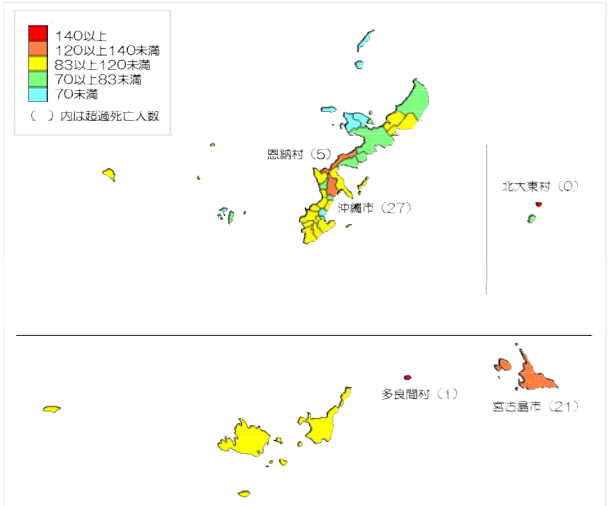
沖縄県　標準化死亡比ー胃、女、2003-2012年



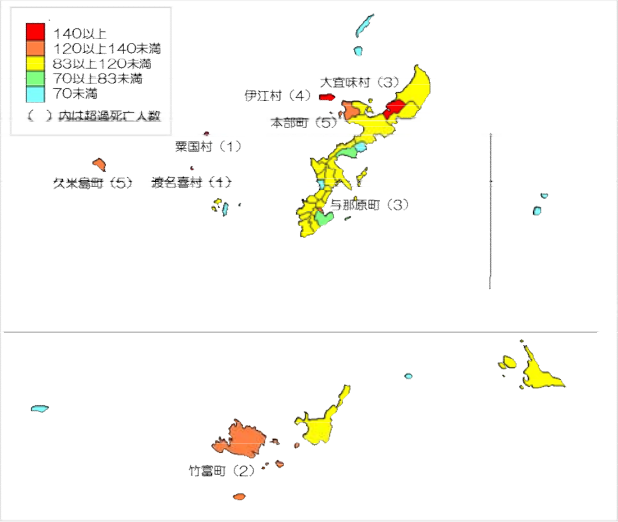
沖縄県　標準化死亡比ー大腸、男、2003-2012年



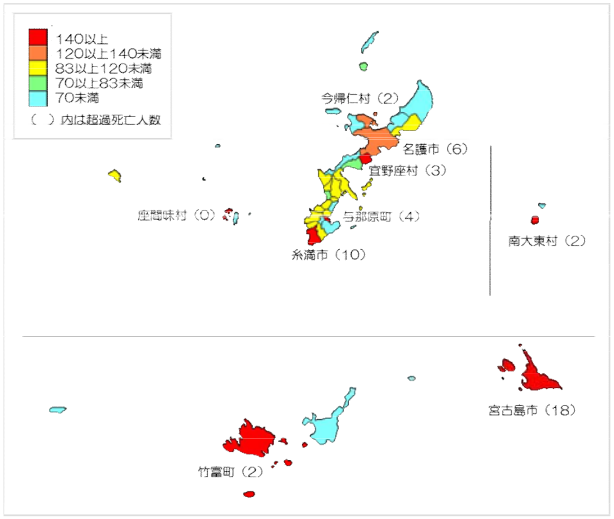
沖縄県　標準化死亡比ー大腸、女、2003-2012年



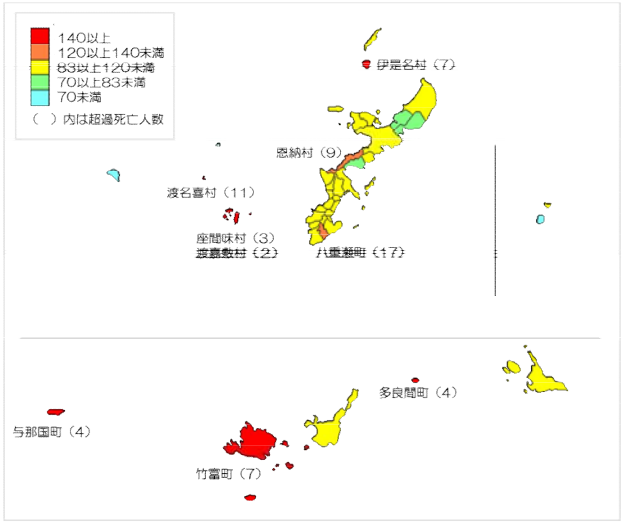
沖縄県　標準化死亡比ー肝、男、2003-2012年



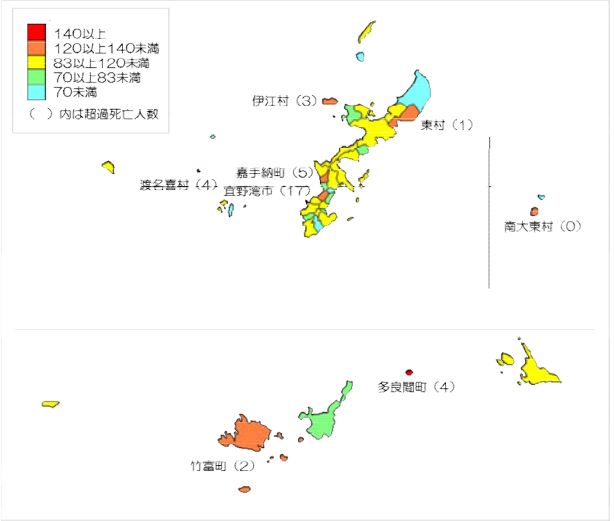
沖縄県　標準化死亡比ー肝、女、2003-2012年



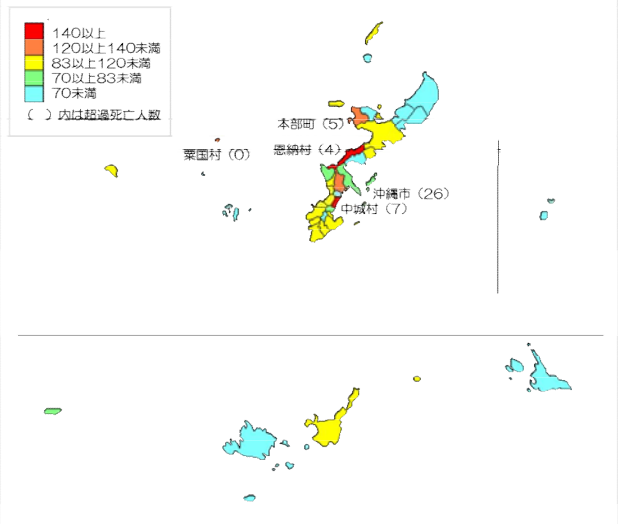
沖縄県　標準化死亡比ー肺、男、2003-2012年



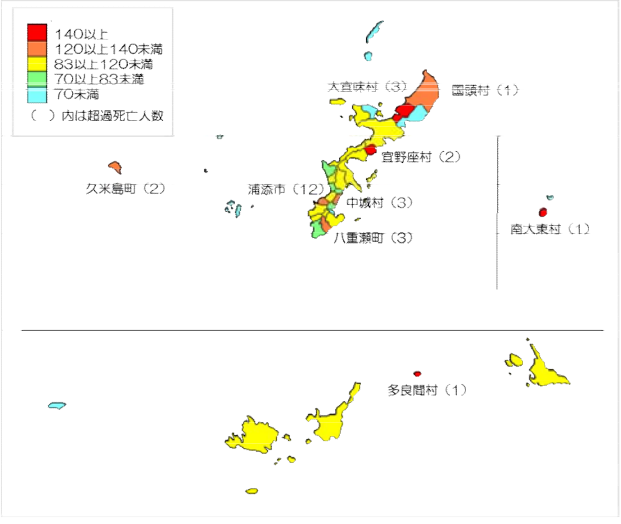
沖縄県　標準化死亡比ー肺、女、2003-2012年



沖縄県　標準化死亡比ー乳房、女、2003-2012年



沖縄県　標準化死亡比ー子宮、2003-2012年



沖縄県（16施設）



全登録対象の特性

データをみると

16施設の全登録数は計8,595件（2013年）で、2011年に県推薦病院で院内がん登録が開始され、実施施設が13施設に増加、2013年に新たに3施設増えて16施設となったため、登録数は増加傾向です。16施設の登録における腫瘍の重複や、罹患年2011年（最新年）と登録対象の診断年（2013年）の不一致などが大きく影響していますが、院内がん登録の精度が年々向上していることを考慮すると、沖縄県で発生するがんを16施設でほぼカバーしていると推測されます。

施設別全登録数は140件～1,319件で、全登録数に占める「自施設診断・自施設治療」の割合は、6.8%～84.7%と施設間でバラツキがありました。「診断のみ」は2.8%～35.3%と県立宮古病院と県立八重山病院で、「他施設診断・自施設治療」は2.8%～34.9%と琉球大学医学部附属病院で高い傾向で、さらに多くの施設で「他院紹介」の占める割合（18.2%～90.3%）が高く、医療機関間の連携が認められました。また、「治療開始後」も0.0%～87.4%と施設間でバラツキがみられ、これは手術後の化学療法や放射線治療、近年推進が図られている緩和ケア治療の体制が整った施設による受け入れなど、医療機関の役割分担の影響が考えられます。

施設別の医療圏別登録数では、いずれの医療機関においても、当該医療機関の所在する医療圏に在住する患者数の割合（34.9%～98.6%）が最も大きく、「地元の医療機関」への通院傾向が認められました。

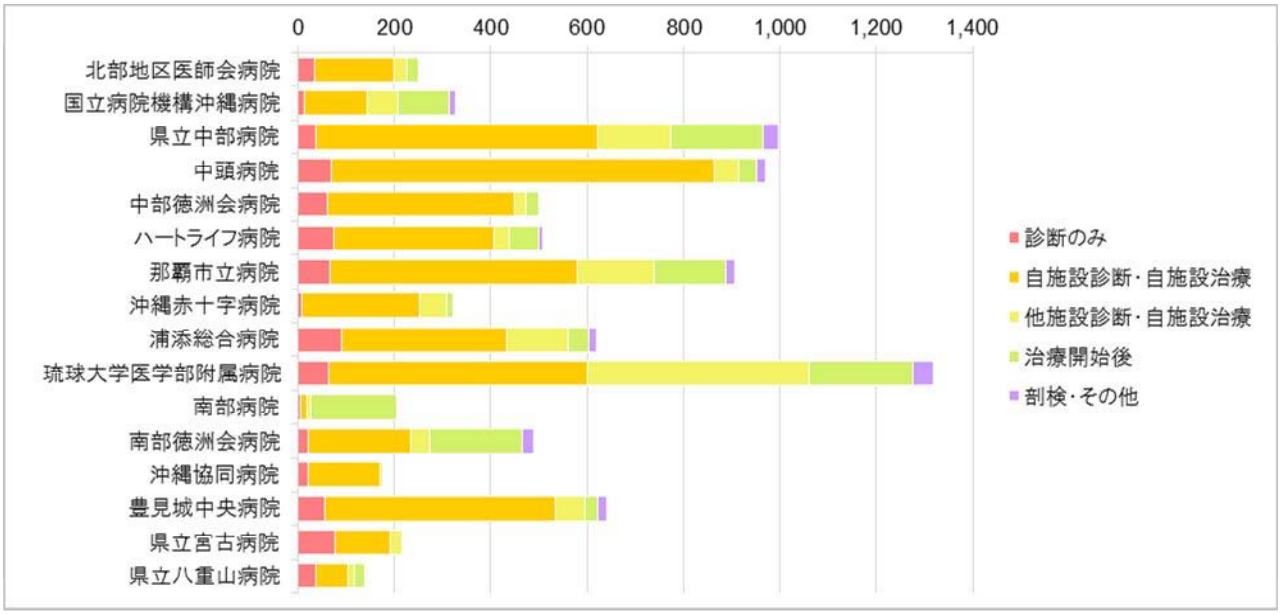
施設別　全登録数およびカバー率*の推移

★県拠点病院　☆県支援病院

		2009年		2010年		2011年		2012年		2013年	
二次保健医療圏	罹患数（沖縄県）	7,350	（100.0%）	7,426	（100.0%）	7,614	（100.0%）	7,614*	（100.0%）	7,614*	（100.0%）
	施設合計	2,586	（35.2%）	2,921	（39.3%）	6,795	（89.2%）	7,124	（93.6%）	8,595	（112.9%）
北部保健医療圏	北部地区医師会病院☆	-	-	-	-	213	（2.8%）	227	（3.0%）	254	（3.3%）
中部保健医療圏	国立病院機構沖縄病院	-	-	-	-	-	-	-	-	327	（4.3%）
	県立中部病院★	736	（10.0%）	892	（12.0%）	998	（13.1%）	969	（12.7%）	997	（13.1%）
	中頭病院	-	-	-	-	1,064	（14.0%）	1060	（13.9%）	970	（12.7%）
	中部徳洲会病院	-	-	-	-	386	（5.1%）	460	（6.0%）	499	（6.6%）
	ハートライフ病院	-	-	-	-	420	（5.5%）	448	（5.9%）	509	（6.7%）
南部保健医療圏	那覇市立病院★	700	（9.5%）	929	（12.5%）	851	（11.2%）	884	（11.6%）	907	（11.9%）
	沖縄赤十字病院	-	-	-	-	-	-	-	-	324	（4.3%）
	浦添総合病院	-	-	-	-	493	（6.5%）	502	（6.6%）	619	（8.1%）
	琉球大学医学部附属病院★	1150	（15.6%）	1100	（14.8%）	1135	（14.9%）	1056	（13.9%）	1,319	（17.3%）
	南部病院	-	-	-	-	162	（2.1%）	190	（2.5%）	206	（2.7%）
	南部徳洲会病院	-	-	-	-	186	（2.4%）	394	（5.2%）	490	（6.4%）
	沖縄協同病院	-	-	-	-	-	-	-	-	176	（2.3%）
	豊見城中央病院	-	-	-	-	560	（7.4%）	610	（8.0%）	640	（8.4%）
宮古保健医療圏	県立宮古病院☆	-	-	-	-	169	（2.2%）	185	（2.4%）	218	（2.9%）
八重山保健医療圏	県立八重山病院☆	-	-	-	-	158	（2.1%）	139	（1.8%）	140	（1.8%）

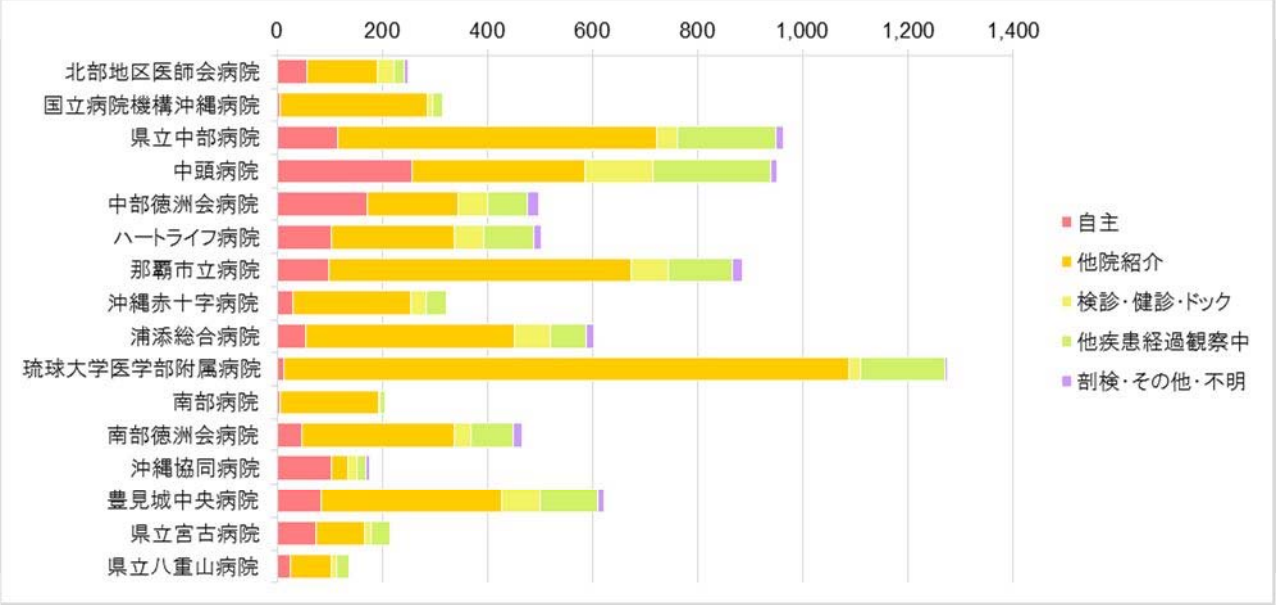
＊登録数の罹患数に占める割合
＊罹患数は2011年罹患（最新値）

施設別　症例区分別　登録数－2013年

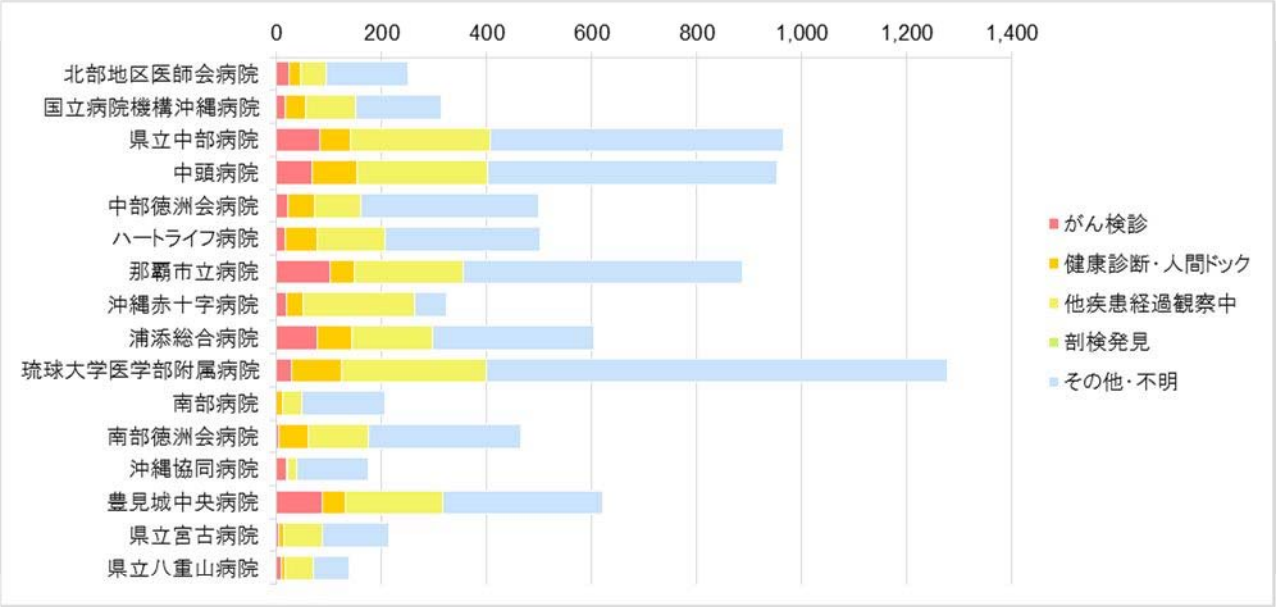


＊上皮内がんを含めて集計

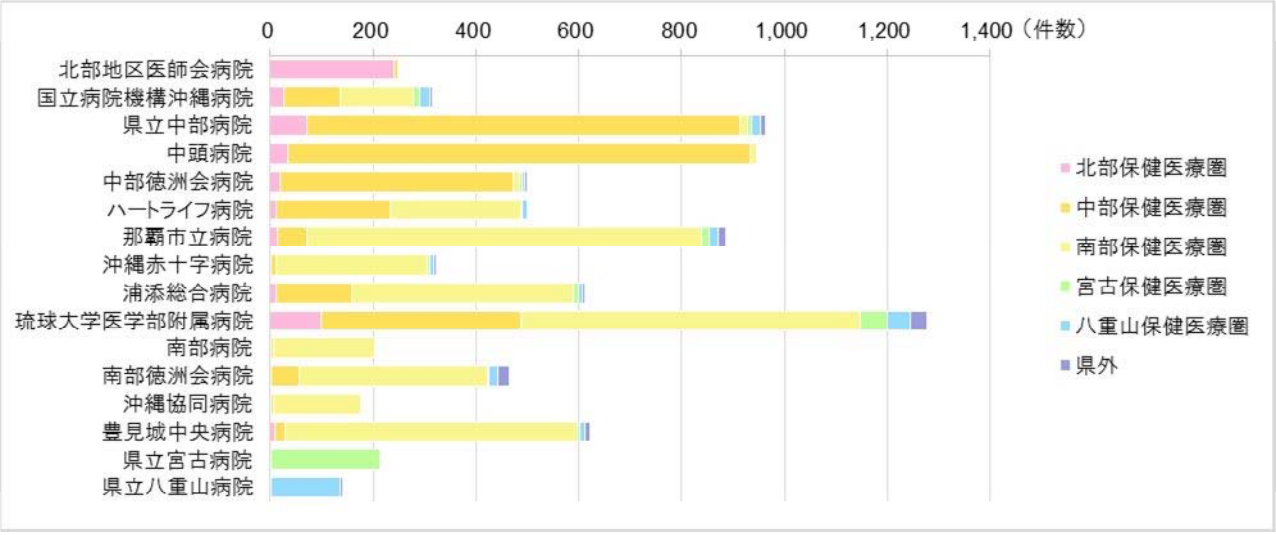
施設別　来院経路別　登録数－2013年



施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　二次保健医療圏別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

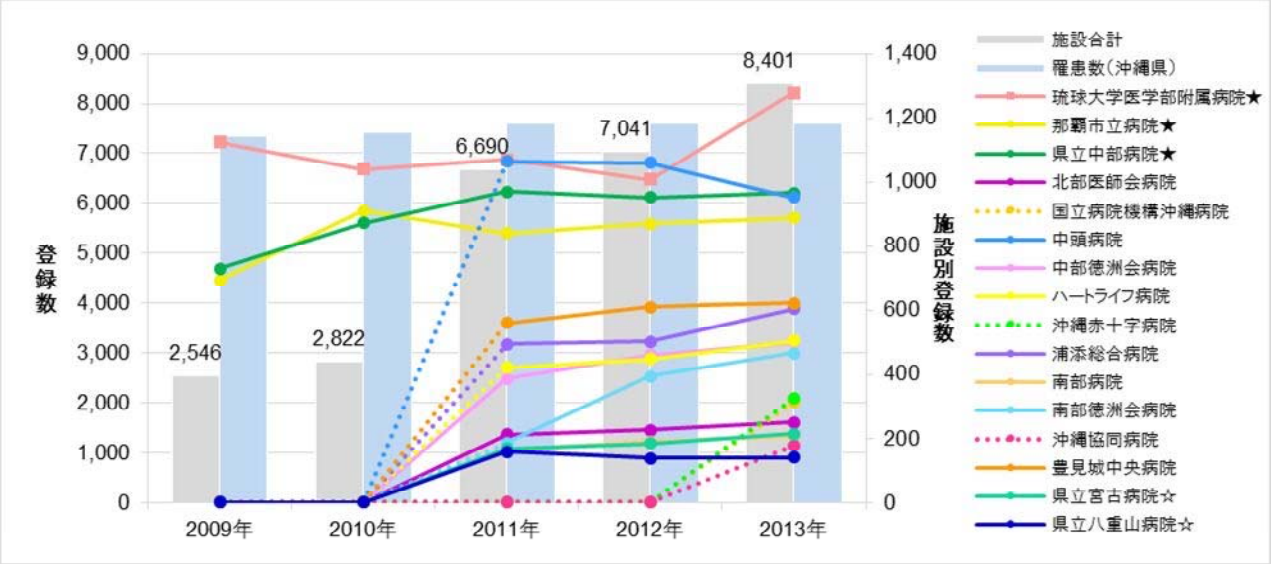
登録対象の特性

データをみると

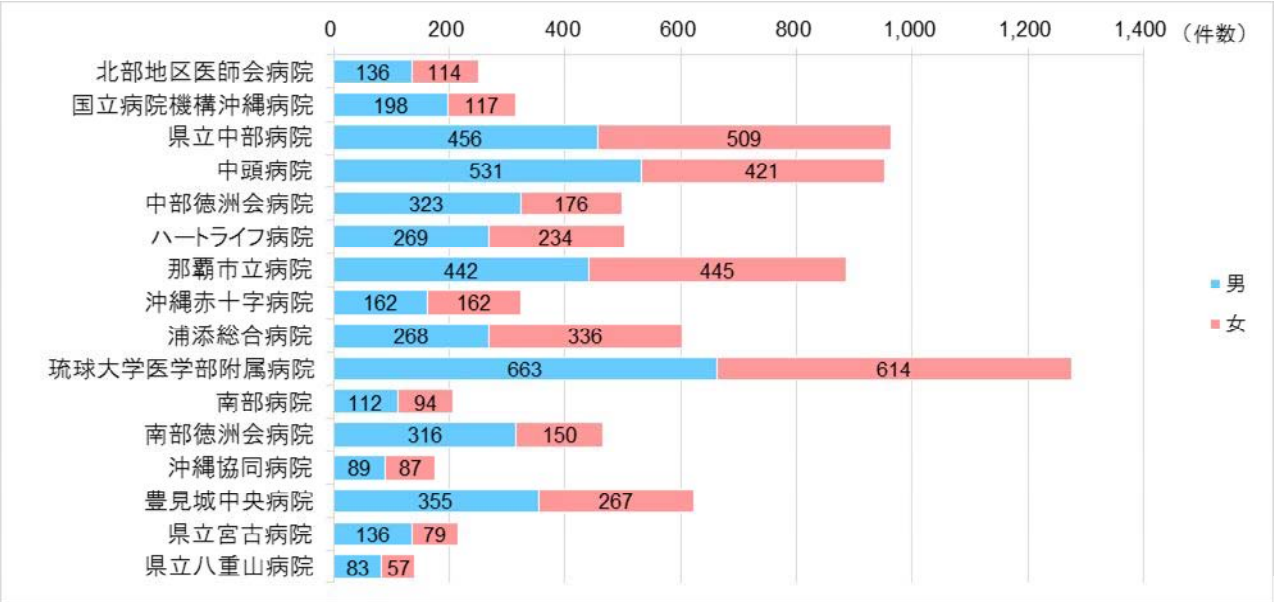
全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の登録数は計8,401件（2013年）で、全登録数（8,595件）に占める割合は97.7%、施設別登録数は140件～1,277件でした。登録数の年齢階級別割合をみると、60歳～69歳では24.4%、70歳～79歳では28.2%、80歳以上では19.8%と、罹患数（沖縄県，2011年）の当該年齢階級別割合（順に21.3%、27.5%、24.0%）と比べると、ほぼ同程度でした。小児（15歳未満）及びAYA世代（15歳～29歳）のがんが登録されていたのは、16施設中13施設で登録数にバラツキがありました。

登録数に占める割合の高い上位5部位を施設別に示しました。上位5部位に、我が国に多い5部位のがん（胃、大腸、肝、肺、乳がん）が含まれる施設が多いことが認められます。それ以外のがんで上位5部位に含まれたのは、頭頸部がん（琉球大学医学部附属病院）、胆嚢・胆管がん（南部病院）、膵がん（北部地区医師会病院、国立病院機構沖縄病院、南部病院、沖縄協同病院）、皮膚がん（中部徳洲会病院、琉球大学医学部附属病院）、子宮頸がん（県立中部病院、沖縄赤十字病院、琉球大学医学部附属病院、県立宮古病院、県立八重山病院）、前立腺がん（中頭病院、中部徳洲会病院、ハートライフ病院、那覇市立病院、南部徳洲会病院、豊見城中央病院、県立宮古病院、県立八重山病院）、血液腫瘍（県立中部病院、中頭病院、ハートライフ病院、那覇市立病院、沖縄赤十字病院、琉球大学医学部附属病院）で、沖縄県のがん罹患の特徴を反映しています。

施設別　登録数の推移

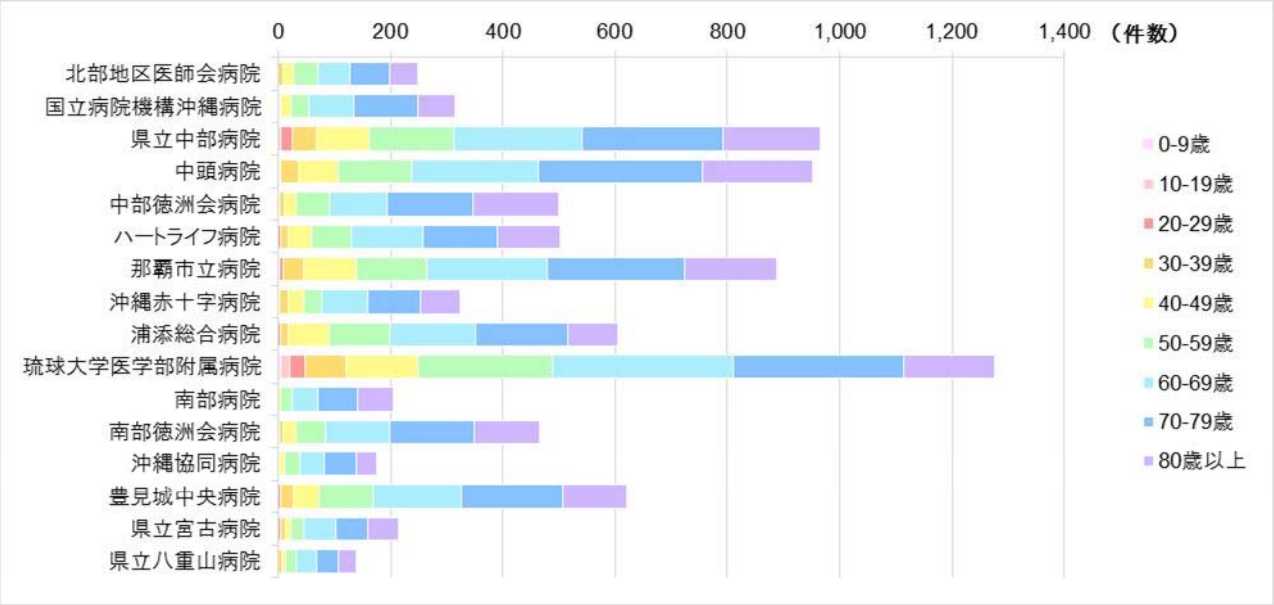


施設別　性別の登録数－2013年

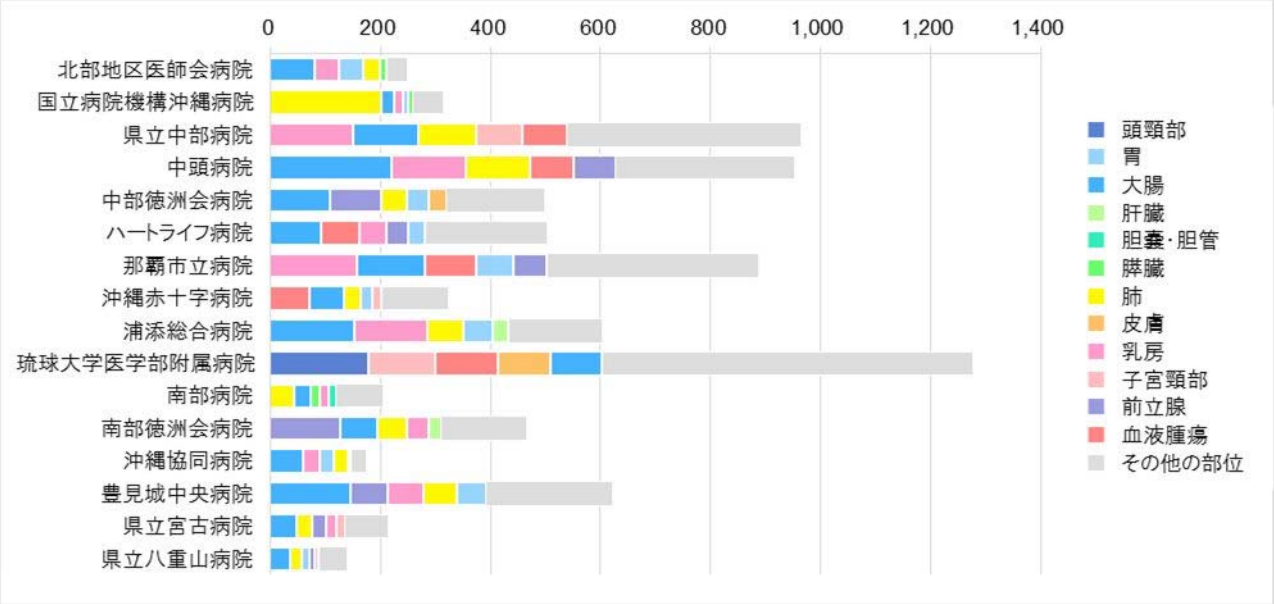


＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

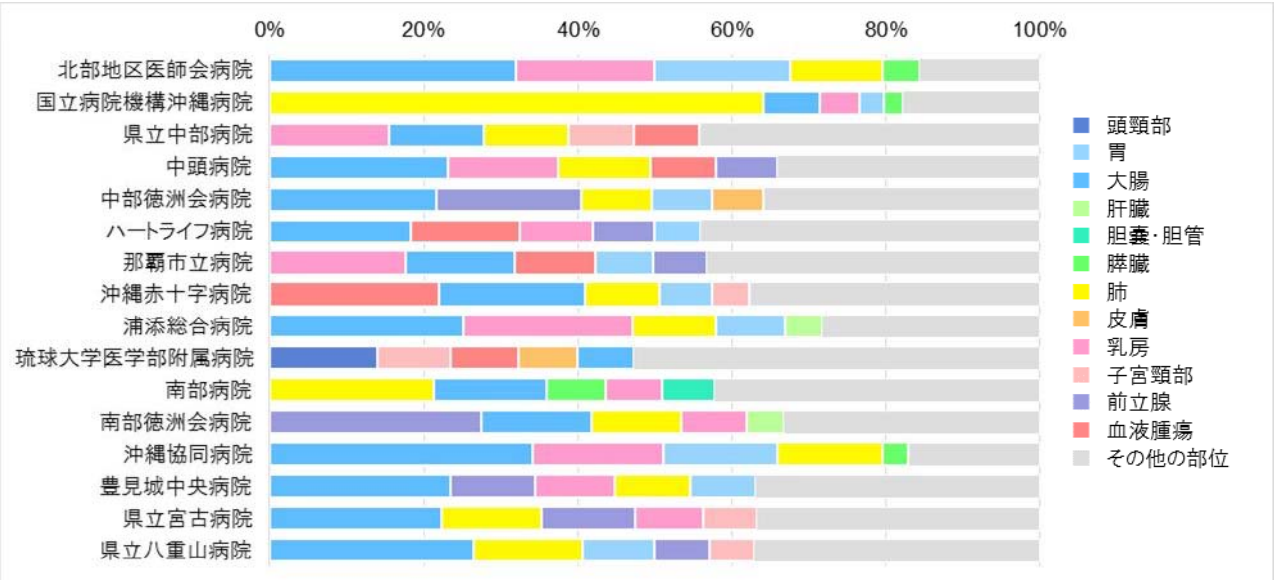
施設別　年齢階級別　登録数－2013年



施設別　上位５部位の登録数－2013年



施設別　上位５部位の割合－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

二次保健医療圏別の登録数

データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオン、など）を除いた登録数を観察しました。16施設の登録数（2013年）が罹患数（沖縄県，2011年）に占める割合は112.6%で、二次保健医療圏別では、宮古医療圏を除いた医療圏別でカバー率が100%を超えていました。二次保健医療圏別においても、そこで発生するがんを16施設でほぼカバーしていると推測されます。

本島に所在する施設について、登録された離島在住患者数は5人～116人で、その登録数に占める割合は、北部医師会病院、国立病院機構沖縄病院、那覇市立病院、沖縄赤十字病院、琉球大学医学部附属病院、豊見城中央病院で5%を超えていました。

二次保健医療圏別　登録数－2013年

圏域名	市町村名	罹患数（2011年）	16施設登録数（2013年）	カバー率*	カバー率上位3部位*	
北部保健医療圏	名護市　国頭村　大宜味村 東村　今帰仁村　本部町 伊江村　伊平屋村　伊是名村	517	541	104.6%	大腸	17.2%
					乳房	15.3%
					肺	13.2%
中部保健医療圏	宜野湾市　沖縄市　うるま市　恩納村 宜野座村　金武町　読谷村　嘉手納町 北谷町　北中城村　中城村	2,720	3,224	118.5%	大腸	20.7%
					乳房	15.0%
					肺	13.5%
南部保健医療圏	那覇市　浦添市　糸満市　豊見城市 南城市　西原町　与那原町 南風原町　渡嘉敷村　座間味村 粟国村　渡名喜村　南大東村 北大東村　久米島町　八重瀬町	3,597	3,892	108.2%	大腸	19.0%
					乳房	12.1%
					肺	11.4%
宮古保健医療圏	宮古島市　多良間村	363	332	91.5%	大腸	16.5%
					肺	13.2%
					前立腺	9.1%
八重山保健医療圏	石垣市　竹富町　与那国町	269	297	110.4%	大腸	18.6%
					肺	18.2%
					胃	9.7%
沖縄県内医療圏不定者		3	0	0.0%	-	-
沖縄県外		-	124	-	-	-
合計		7,469	8,410	112.6%	大腸	19.3%
					乳房	13.0%
					肺	12.6%

＊「保健医療圏」とは、一次、二次、三次保健医療圏があり、一次保健医療圏は、日常の健康相談等の保健サービスと、かかりつけ医等による初期医療を提供していくための最も基礎的な単位であり、住民の日常生活に密着した保健医療サービスが提供される地域の範囲で、市町村を一次保健医療圏とされています。二次保健医療圏は、医療機能を考慮した病院や救急医療体制の整備の他、一般的な入院医療への対応を図るとともに、保健・医療・福祉の総合的な取り組みを行うために、市町村を超えて設定する地域の範囲で、沖縄県では北部、中部、南部、宮古、八重山の5つの二次保健医療圏があります。三次保健医療圏は、一次、二次保健医療圏での医療提供体制と連携し、高度で特殊な専門医療を提供するとともに、広域的に実施することが必要な保健医療サービスを提供するための地域の範囲で、沖縄県全域を三次保健医療圏とされています。

＊上皮内がんを含めて集計

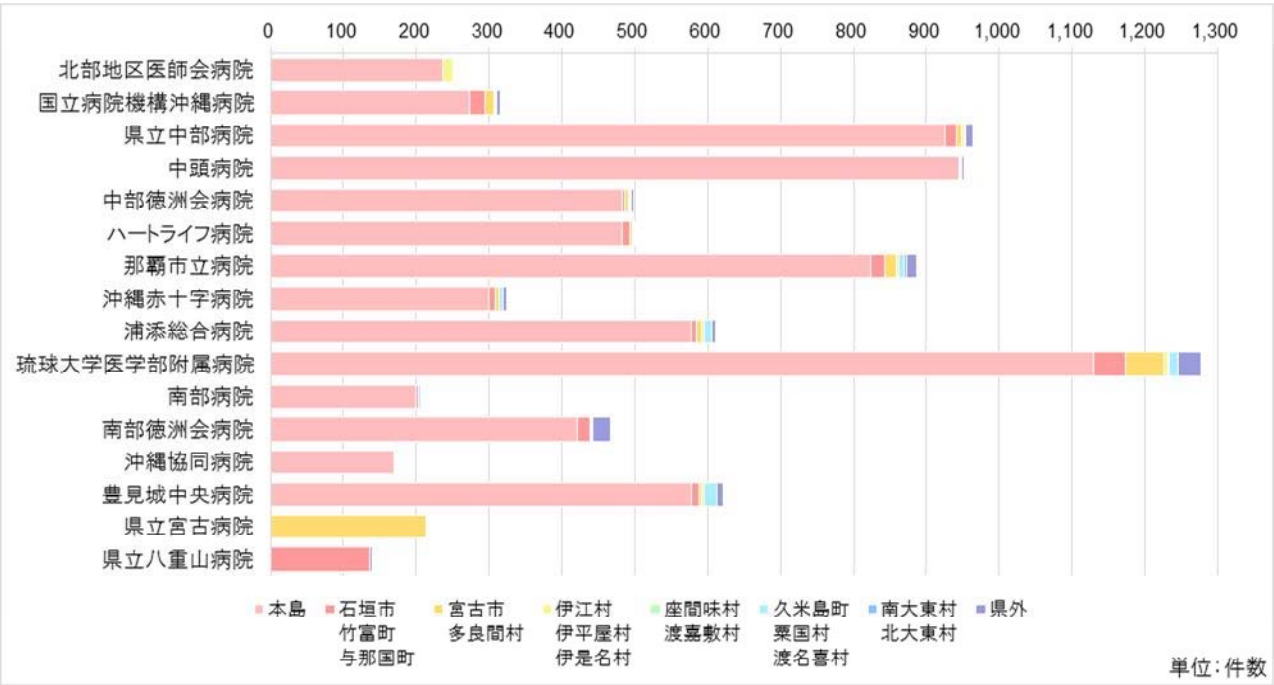
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

＊当該医療圏を診断時住所とする登録数の当該医療圏の罹患数に占める割合

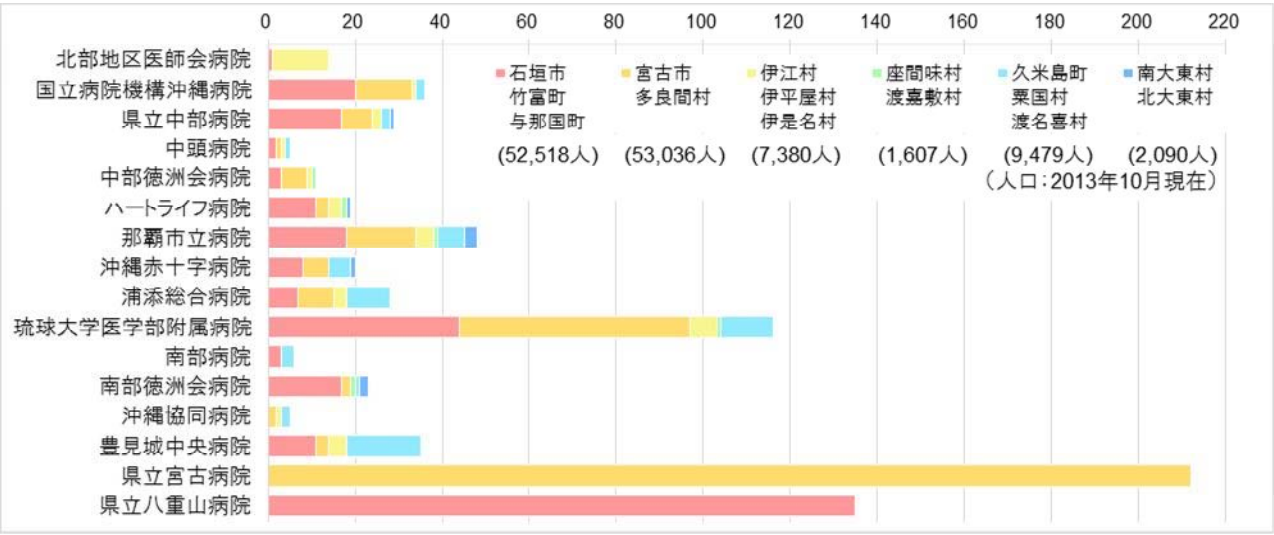
二次保健医療圏別　部位別　登録数の割合－2013年



施設別　本島・離島市町村在住患者*の登録数－2013年



施設別　離島市町村在住患者*の登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計
＊離島市町村在住患者とは、沖縄本島に移動する手段として航空機、船舶の利用が不可欠な市町村に在住の患者

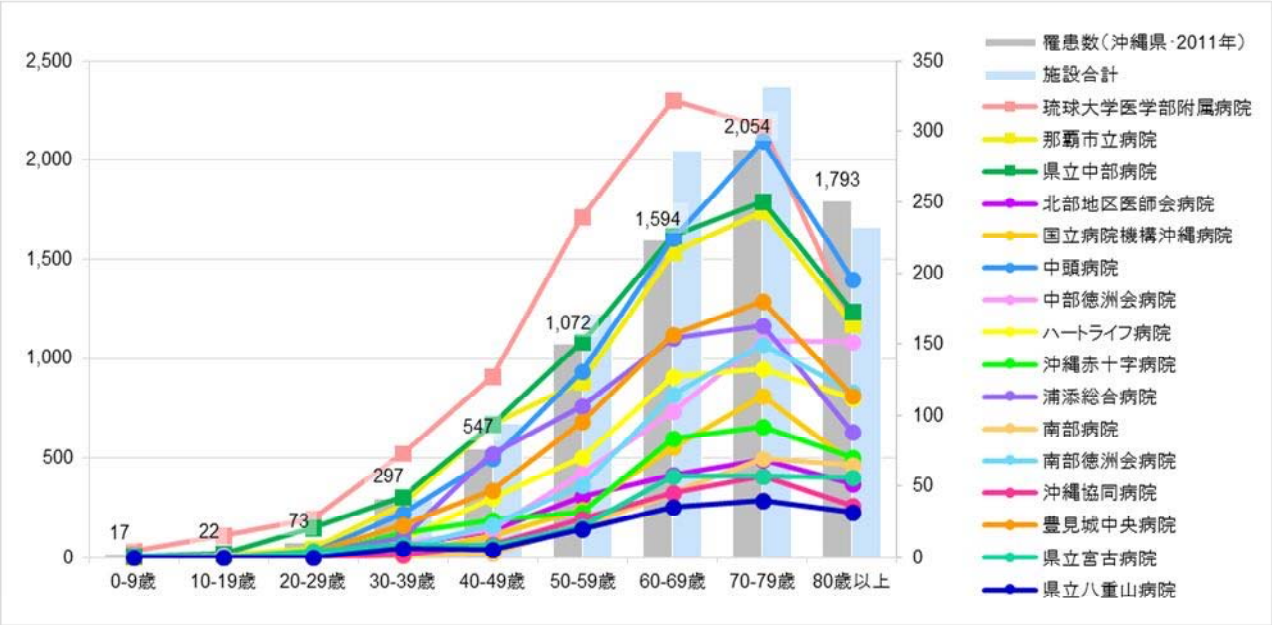
年齢階級別登録数の推移

データをみると

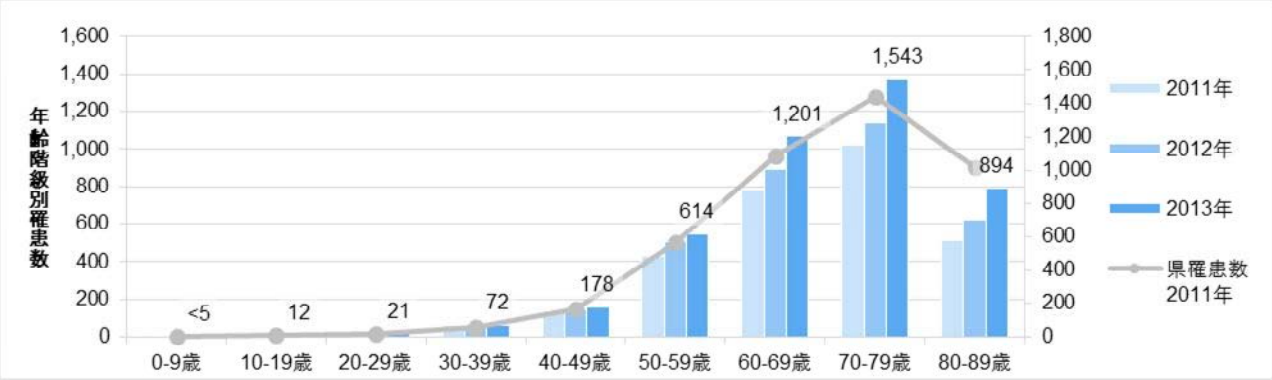
全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。施設別の年齢階級別登録数を比較すると、ほとんどの施設で70歳～79歳にピークを認めました。

16施設の年齢階級別登録数（2013年）と年齢階級別罹患数（沖縄県，2011年）を比べると、男性ではその分布が類似していましたが、女性では異なっていました。罹患数（女）では、年齢階級が上がるに伴い罹患数の増加を認めましたが、16施設の登録数（女）では、60歳～69歳に登録数のピークを認めました。これは主に、乳がん患者さんが「診断」「手術」「化学療法・放射線療法」で複数の医療機関を受診し、登録が重複しているためと推測されます。

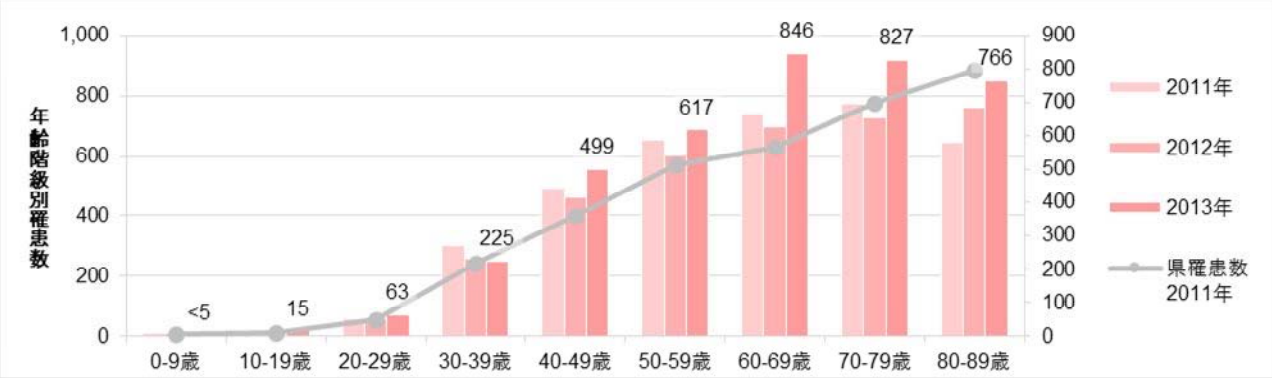
施設別　年齢階級別　登録数－2013年



年齢階級別　登録数の推移－男



年齢階級別　登録数の推移－女



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

部位別登録数の推移

データをみると

より実態を明らかにするため、「症例区分2：自施設診断・自施設治療」と「症例区分3：他施設診断・自施設治療」を集計対象とし、部位別カバー率（当該部位登録数の罹患数に占める割合）を算出しました。

16施設のカバー率（男女計）は、全部位では68.2%（2011年）でしたが、院内がん登録実施施設の増加と登録精度の向上を考慮すると、83.6%（2013年）がより実態を反映していると推測されます。

部位別では、多くの部位でカバー率は70%（2013年）を超えていますが、肝臓（63.8%）、胆嚢・胆管（64.9%）、乳房（65.3%）、卵巣（65.5%）、多発性骨髄腫（39.5%）などで、カバー率が低い傾向を認めました。乳房については、低いカバー率の要因として、16施設に含まれない診療所における早期発見・早期治療、その症例数の多さ、それらが今回の集計に含まれていないなどが考えられます。

部位別　登録数とカバー率の推移

	2011年 罹患数	2011年	2012年	2013年
全部位	7,614 (100.0%)	5,189 (68.2%)	5,320 (69.9%)	6,368 (83.6%)
口腔･咽頭	191 (100.0%)	163 (85.3%)	167 (87.4%)	186 (97.4%)
食道	144 (100.0%)	116 (80.6%)	113 (78.5%)	154 (106.9%)
胃	595 (100.0%)	420 (70.6%)	391 (65.7%)	454 (76.3%)
結腸	1,021 (100.0%)	778 (76.2%)	759 (74.3%)	880 (86.2%)
直腸	425 (100.0%)	325 (76.5%)	332 (78.1%)	388 (91.3%)
肝臓	315 (100.0%)	167 (53.0%)	159 (50.5%)	201 (63.8%)
胆嚢･胆管	211 (100.0%)	124 (58.8%)	125 (59.2%)	137 (64.9%)
膵臓	218 (100.0%)	127 (58.3%)	159 (72.9%)	180 (82.6%)
喉頭	35 (100.0%)	31 (88.6%)	36 (102.9%)	43 (122.9%)
肺	840 (100.0%)	419 (49.9%)	425 (50.6%)	720 (85.7%)
骨･軟部組織	9 (100.0%)	24 (266.7%)	28 (311.1%)	28 (311.1%)
皮膚	239 (100.0%)	196 (82.0%)	219 (91.6%)	254 (106.3%)
乳房	890 (100.0%)	513 (57.6%)	504 (56.6%)	581 (65.3%)
子宮頚部	374 (100.0%)	317 (84.8%)	258 (69.0%)	314 (84.0%)
子宮体部	141 (100.0%)	132 (93.6%)	120 (85.1%)	145 (102.8%)
子宮NOS	18 (100.0%)	0 (0.0%)	<5 -	<5 -
卵巣	84 (100.0%)	65 (77.4%)	55 (65.5%)	55 (65.5%)
前立腺	450 (100.0%)	321 (71.3%)	408 (90.7%)	423 (94.0%)
膀胱	168 (100.0%)	129 (76.8%)	167 (99.4%)	191 (113.7%)
腎･他の尿路	185 (100.0%)	140 (75.7%)	163 (88.1%)	225 (121.6%)
脳･中枢神経系	59 (100.0%)	89 (150.8%)	107 (181.4%)	135 (228.8%)
甲状腺	129 (100.0%)	108 (83.7%)	108 (83.7%)	108 (83.7%)
悪性リンパ腫	179 (100.0%)	139 (77.7%)	140 (78.2%)	199 (111.2%)
多発性骨髄腫	81 (100.0%)	50 (61.7%)	32 (39.5%)	32 (39.5%)
白血病	199 (100.0%)	120 (60.3%)	125 (62.8%)	143 (71.9%)
他の造血器腫瘍	64 (100.0%)	33 (51.6%)	61 (95.3%)	44 (68.8%)
その他	350 (100.0%)	143 (40.9%)	157 (44.9%)	147 (42.0%)

＊カバー率について：地域（都道府県）のがん罹患や生存率を把握する仕組みが地域がん登録で、施設（病院）におけるがん診療の実態を把握する仕組みが院内がん登録である。カバー率とは、院内がん登録で登録された登録数の、地域の罹患数に占める割合であり、例えば、沖縄県で発生するがんのどのくらいを当該医療機関でカバーしているか、などの把握に用いられる。
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「２：自施設診断・自施設治療」と「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

データをみると

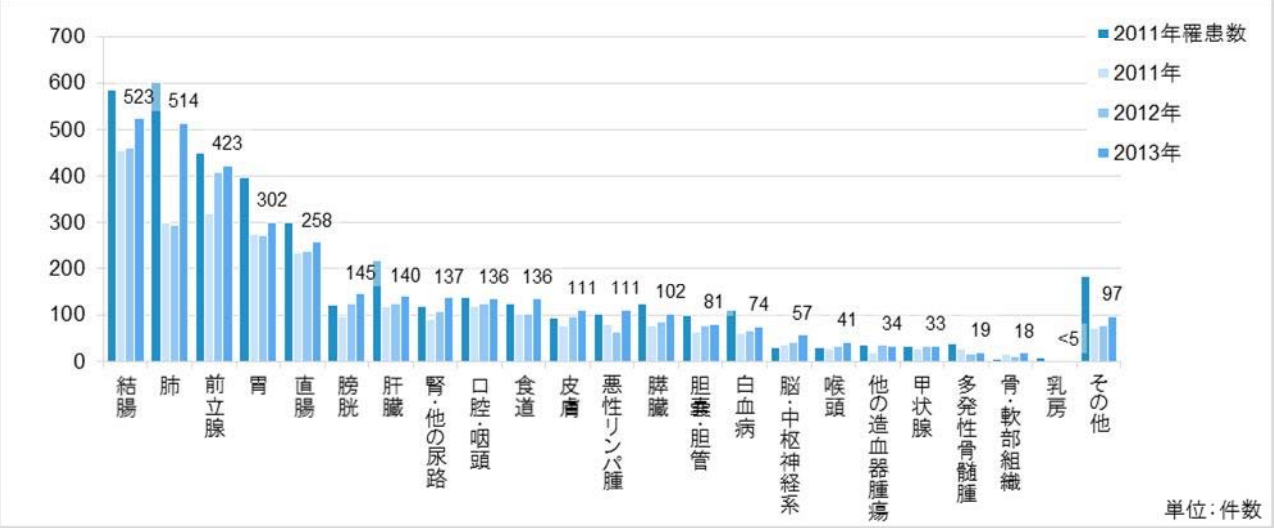
より実態を明らかにするため、「症例区分2：自施設診断・自施設治療」と「症例区分3：他施設診断・自施設治療」を集計対象とし、部位別カバー率（当該部位の登録数の罹患数に占める割合）を算出しました。

16施設のカバー率（男）は、全部位では68.3%（2011年）でしたが、院内がん登録実施施設の増加と精度が年々向上していることを考慮すると、88.3%（2013年）がより実態を反映していると推測されます。

部位別では、多くの部位でカバー率は70%超で（2013年）、肝臓（64.2%）、多発性骨髄腫（50.0%）、白血病（67.9%）などで、カバー率が低い傾向を認めました。

部位別　登録数とカバー率の推移ー男

	2011年 罹患数	2011年	2012年	2013年
全部位	3,955 (100.0%)	2,701 (68.3%)	2,894 (73.2%)	3,493 (88.3%)
口腔･咽頭	138 (100.0%)	119 (86.2%)	124 (89.9%)	136 (98.6%)
食道	124 (100.0%)	102 (82.3%)	101 (81.5%)	136 (109.7%)
胃	398 (100.0%)	276 (69.3%)	272 (68.3%)	302 (75.9%)
結腸	585 (100.0%)	455 (77.8%)	462 (79.0%)	523 (89.4%)
直腸	301 (100.0%)	234 (77.7%)	238 (79.1%)	258 (85.7%)
肝臓	218 (100.0%)	119 (54.6%)	123 (56.4%)	140 (64.2%)
胆嚢･胆管	99 (100.0%)	64 (64.6%)	76 (76.8%)	81 (81.8%)
膵臓	125 (100.0%)	76 (60.8%)	85 (68.0%)	102 (81.6%)
喉頭	31 (100.0%)	28 (90.3%)	32 (103.2%)	41 (132.3%)
肺	602 (100.0%)	302 (50.2%)	296 (49.2%)	514 (85.4%)
骨･軟部組織	6 (100.0%)	17 (283.3%)	12 (200.0%)	18 (300.0%)
皮膚	94 (100.0%)	76 (80.9%)	96 (102.1%)	111 (118.1%)
乳房	9 (100.0%)	<5 -	<5 -	<5 -
子宮頚部	- -	- -	- -	- -
子宮体部	- -	- -	- -	- -
子宮NOS	- -	- -	- -	- -
卵巣	- -	- -	- -	- -
前立腺	450 (100.0%)	321 (71.3%)	408 (90.7%)	423 (94.0%)
膀胱	122 (100.0%)	97 (79.5%)	124 (101.6%)	145 (118.9%)
腎･他の尿路	118 (100.0%)	92 (78.0%)	108 (91.5%)	137 (116.1%)
脳･中枢神経系	31 (100.0%)	37 (119.4%)	40 (129.0%)	57 (183.9%)
甲状腺	33 (100.0%)	27 (81.8%)	34 (103.0%)	33 (100.0%)
悪性リンパ腫	101 (100.0%)	80 (79.2%)	63 (62.4%)	111 (109.9%)
多発性骨髄腫	38 (100.0%)	27 (71.1%)	16 (42.1%)	19 (50.0%)
白血病	109 (100.0%)	60 (55.0%)	67 (61.5%)	74 (67.9%)
他の造血器腫瘍	37 (100.0%)	19 (51.4%)	37 (100.0%)	34 (91.9%)
その他	186 (100.0%)	71 (38.2%)	78 (41.9%)	97 (52.2%)



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「2：自施設診断・自施設治療」と「3：他施設診断・自施設治療」のみ集計

データをみると

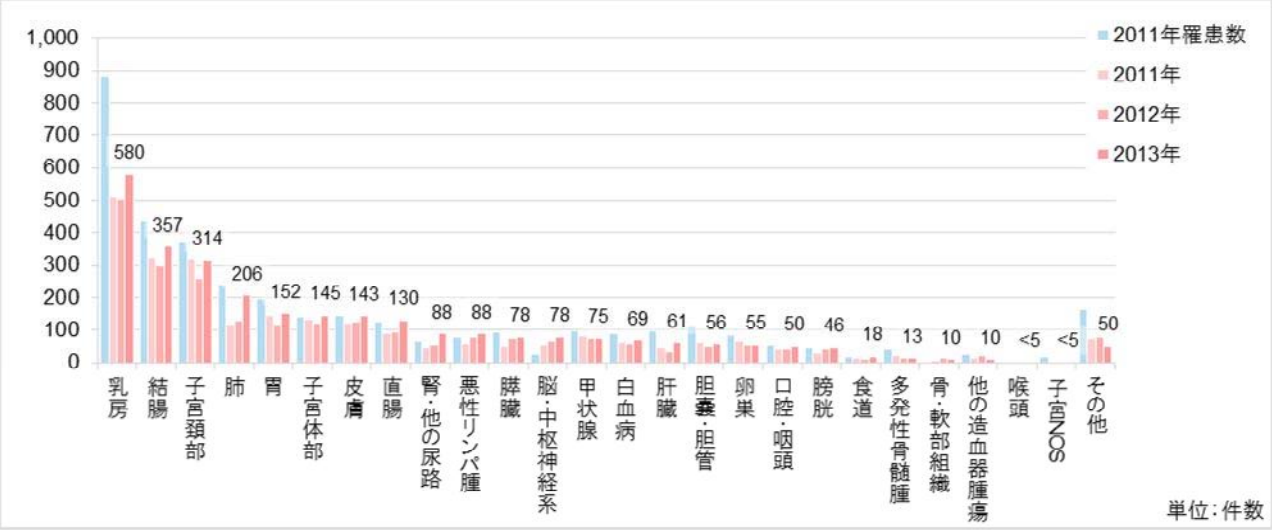
より実態を明らかにするため、「症例区分2：自施設診断・自施設治療」と「症例区分3：他施設診断・自施設治療」を集計対象とし、部位別カバー率（当該部位の登録数の罹患数に占める割合）を算出しました。

16施設のカバー率（女）は、全部位では68.0%（2011年）でしたが、院内がん登録実施施設の増加と精度が年々向上していることを考慮すると、78.6%（2013年）がより実態を反映していると推測されます。

部位別では、多くの部位でカバー率は70%超で（2013年）、肝臓（62.9%）、胆嚢・胆管（50.0%）、乳房（65.8%）、卵巣（65.5%）、多発性骨髄腫（30.2%）などで、カバー率が低い傾向を認めました。

部位別　登録数の推移ー女

	2011年 罹患数		2011年		2012年		2013年	
全部位	3,659	(100.0%)	2,488	(68.0%)	2,426	(66.3%)	2,875	(78.6%)
口腔･咽頭	53	(100.0%)	44	(83.0%)	43	(81.1%)	50	(94.3%)
食道	20	(100.0%)	14	(70.0%)	12	(60.0%)	18	(90.0%)
胃	197	(100.0%)	144	(73.1%)	119	(60.4%)	152	(77.2%)
結腸	436	(100.0%)	323	(74.1%)	297	(68.1%)	357	(81.9%)
直腸	124	(100.0%)	91	(73.4%)	94	(75.8%)	130	(104.8%)
肝臓	97	(100.0%)	48	(49.5%)	36	(37.1%)	61	(62.9%)
胆嚢･胆管	112	(100.0%)	60	(53.6%)	49	(43.8%)	56	(50.0%)
膵臓	93	(100.0%)	51	(54.8%)	74	(79.6%)	78	(83.9%)
喉頭	4	(100.0%)	<5	(75.0%)	<5	-	<5	-
肺	238	(100.0%)	117	(49.2%)	129	(54.2%)	206	(86.6%)
骨･軟部組織	3	(100.0%)	7	(233.3%)	16	(533.3%)	10	(333.3%)
皮膚	145	(100.0%)	120	(82.8%)	123	(84.8%)	143	(98.6%)
乳房	881	(100.0%)	511	(58.0%)	502	(57.0%)	580	(65.8%)
子宮頚部	374	(100.0%)	317	(84.8%)	258	(69.0%)	314	(84.0%)
子宮体部	141	(100.0%)	132	(93.6%)	120	(85.1%)	145	(102.8%)
子宮NOS	18	(100.0%)	0	(0.0%)	<5	-	<5	-
卵巣	84	(100.0%)	65	(77.4%)	55	(65.5%)	55	(65.5%)
前立腺	-	-	-	-	-	-	-	-
膀胱	46	(100.0%)	32	(69.6%)	43	(93.5%)	46	(100.0%)
腎･他の尿路	67	(100.0%)	48	(71.6%)	55	(82.1%)	88	(131.3%)
脳･中枢神経系	28	(100.0%)	52	(185.7%)	67	(239.3%)	78	(278.6%)
甲状腺	96	(100.0%)	81	(84.4%)	74	(77.1%)	75	(78.1%)
悪性リンパ腫	78	(100.0%)	59	(75.6%)	77	(98.7%)	88	(112.8%)
多発性骨髄腫	43	(100.0%)	23	(53.5%)	16	(37.2%)	13	(30.2%)
白血病	90	(100.0%)	60	(66.7%)	58	(64.4%)	69	(76.7%)
他の造血器腫瘍	27	(100.0%)	14	(51.9%)	24	(88.9%)	10	(37.0%)
その他	164	(100.0%)	72	(43.9%)	79	(48.2%)	50	(30.5%)



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「2：自施設診断・自施設治療」と「3：他施設診断・自施設治療」のみ集計

5年相対生存率（全国と沖縄県）

部位別　臨床進行度別　５年相対生存率

		地域がん登録（2003-2005、全国推計値）				院内がん登録（2007、全国177施設）			
		対象者数	相対生存率	相対標準誤差	生死不明割合	対象者数	相対生存率	相対標準誤差	生死不明割合
全がん	限局	81,127	88.9	0.2	-	80,375	89.0	0.3	-
	領域	49,256	49.4	0.3	-	45,799	57.9	0.5	-
	遠隔	32,096	11.8	0.2	-	28,765	17.0	0.5	-
	全体	190,404	58.6	0.1	-	168,978	64.4	0.3	-
胃	限局	18,418	96.0	0.3	-	16,074	95.5	0.7	-
	領域	9,054	44.8	0.6	-	5,664	56.7	1.5	-
	遠隔	5,905	5.1	0.3	-	4,279	7.1	0.9	-
	全体	36,411	63.3	0.3	-	26,834	71.2	0.7	-
大腸	限局	14,522	96.5	0.4	-	9,843	95.4	0.8	-
	領域	9,274	65.7	0.6	-	6,846	74.6	1.3	-
	遠隔	5,291	11.9	0.5	-	4,108	17.8	1.3	-
	全体	31,558	69.2	0.3	-	21,292	72.1	0.7	-
肝臓	限局	5,837	40.8	0.7	-	6,020	46.4	1.4	-
	領域	1,510	13.0	0.9	-	1,493	15.0	2.1	-
	遠隔	941	2.0	0.5	-	724	2.6	1.5	-
	全体	11,035	27.9	0.5	-	8,977	36.0	1.1	-
肺	限局	5,965	77.2	0.7	-	7,226	81.4	1.2	-
	領域	6,904	23.1	0.6	-	6,194	31.3	1.3	-
	遠隔	7,318	3.7	0.2	-	6,839	5.1	0.6	-
	全体	23,177	29.7	0.3	-	21,252	39.4	0.7	-
女性乳房	限局	9,813	98.2	0.3	-	8,997	98.9	0.5	-
	領域	5,313	84.5	0.6	-	5,084	89.6	1.0	-
	遠隔	831	28.2	1.7	-	795	40.3	3.5	-
	全体	17,162	89.1	0.3	-	15,082	92.2	0.5	-

		沖縄県地域がん登録（2007-2008）				院内がん登録（2007、沖縄県拠点3施設）			
		対象者数	相対生存率	相対標準誤差	生死不明割合	対象者数	相対生存率	相対標準誤差	生死不明割合
全がん	限局	-	-	-	-	758	87.7	1.8	10.0
	領域	-	-	-	-	368	58.2	3.0	11.1
	遠隔	-	-	-	-	285	11.5	2.1	5.3
	不明	-	-	-	-	103	45.0	5.5	8.7
	全体	-	60.2	-	-	1,514	63.4	1.5	9.3
胃	限局	-	-	-	-	56	96.9	4.8	10.7
	領域	-	-	-	-	18	46.6	14.3	5.6
	遠隔	-	-	-	-	17	12.2	8.1	0.0
	不明	-	-	-	-	2	0.0	0.0	0.0
	全体	-	58.9	-	-	93	72.6	5.9	7.5
大腸	限局	-	-	-	-	80	89.1	5.3	6.3
	領域	-	-	-	-	49	70.3	7.8	4.1
	遠隔	-	-	-	-	46	10.2	4.8	4.3
	不明	-	-	-	-	15	68.0	14.7	0.0
	全体	-	64.8	-	-	190	64.2	4.1	4.7
肝臓	限局	-	-	-	-	28	36.0	11.2	17.9
	領域	-	-	-	-	13	0.0	0.0	0.0
	遠隔	-	-	-	-	10	0.0	0.0	0.0
	不明	-	-	-	-	3	0.0	0.0	33.3
	全体	-	25.3	-	-	54	17.9	6.2	11.1
肺	限局	-	-	-	-	21	71.5	13.0	9.5
	領域	-	-	-	-	33	25.2	8.7	6.1
	遠隔	-	-	-	-	60	0.0	0.0	5.0
	不明	-	-	-	-	5	54.8	28.2	20.0
	全体	-	30.0	-	-	119	23.0	4.5	6.7
女性乳房	限局	-	-	-	-	79	97.8	2.6	8.9
	領域	-	-	-	-	29	86.5	7.5	3.4
	遠隔	-	-	-	-	7	14.6	13.5	0.0
	不明	-	-	-	-	0	-	-	-
	全体	-	91.9	-	-	115	90.8	3.4	7.0

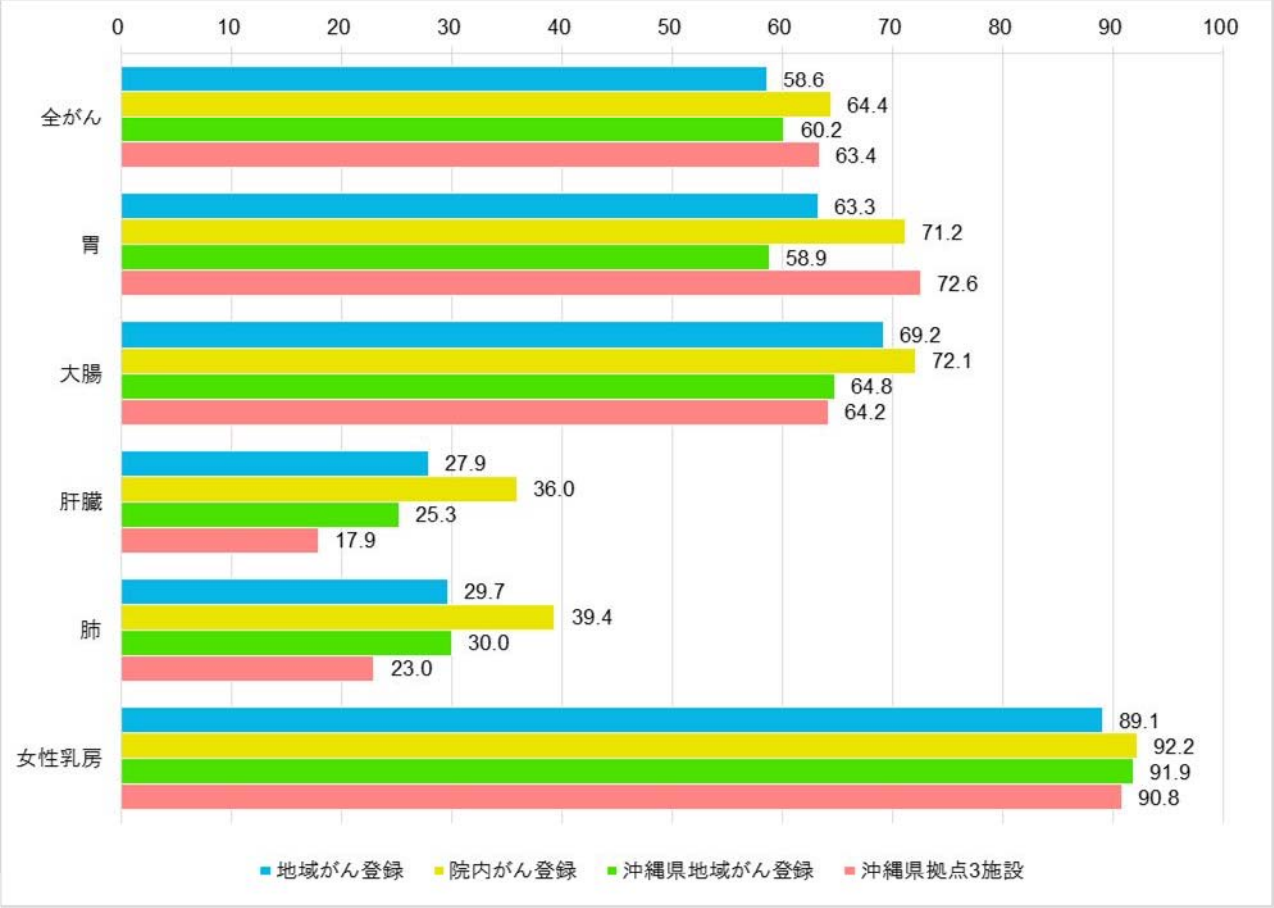
データをみると

地域がん登録（2003-2005年、全国推計値）、院内がん登録（2007年、全国がん診療連携拠点病院177施設）、沖縄県がん登録（2007-2008年）、沖縄県院内がん登録（2007年、沖縄県がん診療連携拠点病院3施設）の5年相対生存率を比較しました。

沖縄県の全がんの5年生存率は、全国推計値と比べて、1.6ポイントを上回っていましたが、沖縄県がん診療連携拠点病院3施設と比べると、3.2ポイントを下回ってました。部位別にみると、胃がんで沖縄県と沖縄県がん診療連携拠点病院3施設の5年生存率の較差が10ポイント以上あり、進行度（診断時のがんの拡がり）別生存率や早期診断割合などのより詳細な分析が必要です。

沖縄県がん診療連携拠点病院3施設の5年生存率は、肝がんと肺がんで低い傾向を認め、沖縄県と比べて、5ポイント以上下回っていました。肝がんと肺がんでは、これら3施設に専門とする施設が含まれていないことから、低い生存率が観察されたと推測されます。

部位別　５年相対生存率



データ集計担当者から

2007年診断例は、院内がん登録が開始されて初めて収集されたデータであるため、登録されているUICC TNM分類のT（がんの拡がり）、N（所属リンパ節転移の有無と拡がり）、M（遠隔転移の有無）情報からみて、臨床進展度が正しく登録されていない例が散見されました。そのため、本集計では登録されているUICC TNM分類のT、N、M情報から臨床進展度の修正を行いました。また、本集計対象である新生物（腫瘍）の性状コードが3（悪性新生物（腫瘍））と登録されているものの、上皮内がん（性状コード2）と登録されていた例については、UICC TNM分類のTを修正し、臨床進展度も修正しました。

前述のとおり、院内がん登録が開始されて初めて収集された例のため、院内がん登録（沖縄県拠点3施設）の集計結果の解釈にはご留意ください。

＊「５年相対生存率」とは、あるがんと診断された場合に、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標。あるがんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体（※１）で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらい低いかで表します。100%に近いほど治療で生命を救えるがん、0%に近いほど治療で生命を救い難いがんであることを意味します。
※１）正確には、性別、生まれた年、および年齢の分布を同じくする日本人集団
＊生存率集計対象には、①上皮内がん、②重複がんの場合は第2浸潤がん以降を含まず
＊「全体」には臨床進行度が不明を含む
＊症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計
＊地域がん登録：国立がん研究センターがん対策情報センター．全国がん罹患モニタリング集計 2003-2005 年生存率報告．2013年（宮城県、山形県、新潟県、福井県、滋賀県、大阪府、長崎県データ）
＊院内がん登録：国立がん研究センターがん対策情報センター．がん診療連携拠点病院院内がん登録 2007 年生存率集計報告書．2015年
＊沖縄県地域がん登録：沖縄県地域がん登録事業．5年相対生存率（2007-2008年診断）．http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/gantouroku/documents/2007-2008seizonnritu.pdf
＊院内がん登録（沖縄県拠点３施設）：琉球大学医学部附属病院、那覇市立病院、沖縄県立中部病院の３施設

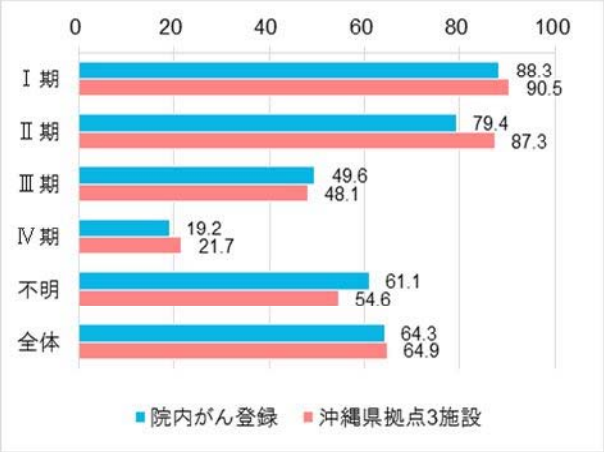
5年相対生存率（院内がん登録）

部位別　UICC TNM分類　ステージ別　５年相対生存率

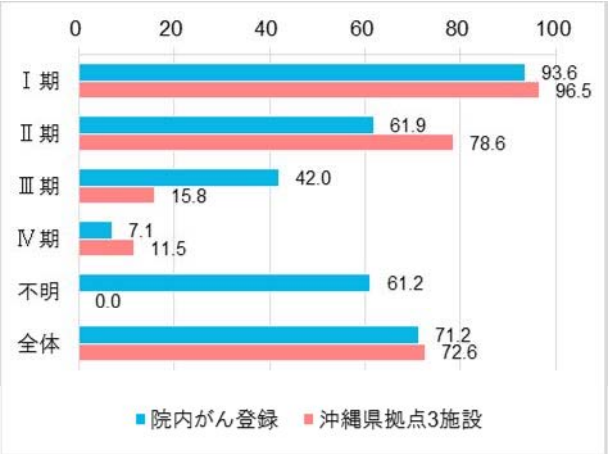
		院内がん登録（2007、全国177施設）				院内がん登録（2007、沖縄県拠点３施設）			
		対象者数	相対生存率	95%信頼区間	生死不明割合	対象者数	相対生存率	95%信頼区間	生死不明割合
全がん	Ⅰ期	58,209	88.3	88.0-88.7	-	467	90.5	90.4-90.7	9.9
	Ⅱ期	34,236	79.4	78.9-80.0	-	318	87.3	87.0-87.6	8.8
	Ⅲ期	26,519	49.6	48.9-50.3	-	244	48.1	47.6-48.6	10.2
	Ⅳ期	30,341	19.2	18.7-19.7	-	346	21.7	21.4-21.9	8.1
	不明	9,619	61.1	60.0-62.3	-	86	54.6	53.3-56.0	15.1
	空欄	9,590	-	-	-	-	-	-	-
	全体	168,514	64.3	64.1-64.6	-	1,461	64.9	64.8-64.9	9.6
胃	Ⅰ期	16,707	93.6	92.9-94.3	-	54	96.5	95.2-97.8	11.1
	Ⅱ期	2,150	61.9	59.5-64.3	-	11	78.6	69.0-88.3	0.0
	Ⅲ期	2,378	42.0	39.7-44.2	-	9	15.8	4.3-27.2	11.1
	Ⅳ期	4,359	7.1	6.3-8.0	-	18	11.5	8.0-15.1	0.0
	不明	1,095	61.2	57.6-64.6	-	1	0.0	-	0.0
	空欄	146	-	-	-	-	-	-	-
	全体	26,835	71.2	70.6-71.9	-	93	72.6	71.4-73.8	7.5
大腸	Ⅰ期	5,832	95.0	93.9-96.0	-	41	92.9	90.9-94.8	12.2
	Ⅱ期	4,452	83.3	81.8-84.8	-	47	78.2	76.0-80.4	0.0
	Ⅲ期	5,580	77.4	76.0-78.8	-	44	71.0	68.5-73.4	4.5
	Ⅳ期	3,863	16.9	15.7-18.2	-	45	10.5	9.0-11.9	4.4
	不明	1,348	69.1	66.0-72.2	-	13	71.0	62.3-79.7	0.0
	空欄	221	-	-	-	-	-	-	-
	全体	21,296	72.1	71.4-72.9	-	190	64.2	63.6-64.8	4.7
肝臓	Ⅰ期	3,399	56.2	54.2-58.1	-	15	25.0	18.6-31.4	6.7
	Ⅱ期	2,525	37.5	35.4-39.6	-	9	40.2	24.0-56.3	33.3
	Ⅲ期	1,971	14.0	12.4-15.8	-	17	14.3	9.7-18.8	5.9
	Ⅳ期	732	2.0	1.1-3.3	-	10	0.0	-	0.0
	不明	334	18.2	13.8-23.1	-	3	0.0	-	33.3
	空欄	<10	-	-	-	-	-	-	-
	全体	8,964	35.9	34.8-37.0	-	54	17.9	16.2-19.5	11.1
肺	Ⅰ期	7,836	78.2	77.0-79.4	-	21	71.5	65.9-77.0	9.5
	Ⅱ期	1,361	44.1	41.1-47.1	-	10	43.9	33.1-54.7	0.0
	Ⅲ期	5,113	19.5	18.3-20.7	-	24	12.1	9.0-15.2	4.2
	Ⅳ期	6,253	3.9	3.4-4.4	-	58	0.0	-	5.2
	不明	609	45.3	40.8-49.8	-	6	64.6	44.0-85.3	33.3
	空欄	80	-	-	-	-	-	-	-
	全体	21,252	39.4	38.7-40.1	-	119	23.0	22.2-23.8	6.7
女性乳房	Ⅰ期	6,554	99.7	99.2-100.0	-	43	97.0	95.7-98.2	7.0
	Ⅱ期	6,072	94.7	93.9-95.5	-	50	96.2	95.2-97.1	10.0
	Ⅲ期	1,465	77.9	75.5-80.2	-	15	82.8	77.1-88.4	0.0
	Ⅳ期	770	37.5	33.9-41.0	-	7	14.6	4.5-24.6	0.0
	不明	214	85.6	78.5-91.3	-	0	-	-	-
	空欄	13	-	-	-	-	-	-	-
	全体	15,088	92.2	91.7-92.8	-	115	90.8	90.2-91.4	7.0

＊「５年相対生存率」とは、あるがんと診断された場合に、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標。あるがんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体（※１）で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらい低いかで表します。100%に近いほど治療で生命を救えるがん、0%に近いほど治療で生命を救い難いがんであることを意味します。
（※１）正確には、性別、生まれた年、および年齢の分布を同じくする日本人集団
＊UICC TNM分類の治療前ステージ別に集計
＊全体にはUICC TNM分類治療前ステージが空欄のものを含む
＊症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計
＊院内がん登録：国立がん研究センターがん対策情報センター．がん診療連携拠点病院院内がん登録 2007 年生存率集計報告書．2015年
＊院内がん登録（沖縄県拠点３施設）：琉球大学医学部附属病院、那覇市立病院、沖縄県立中部病院の３施設

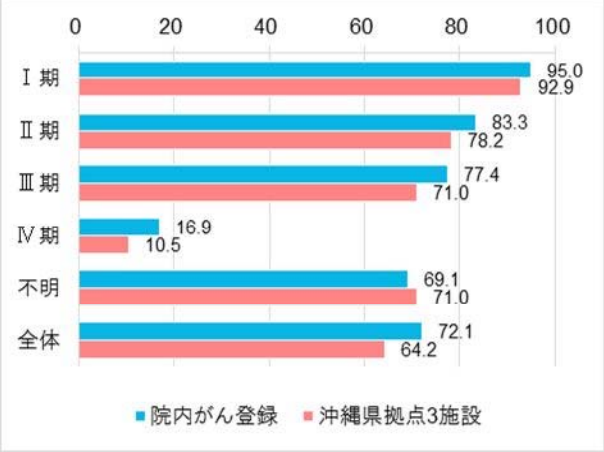
全がん UICC TNM分類 ステージ別 5年相対生存率



胃がん UICC TNM分類 ステージ別 5年相対生存率



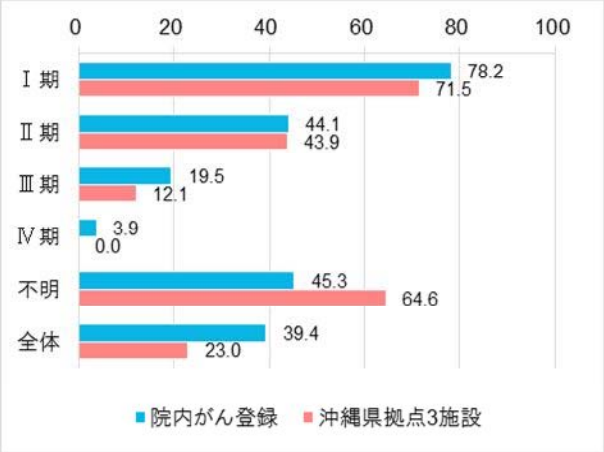
大腸がん UICC TNM分類 ステージ別 5年相対生存率



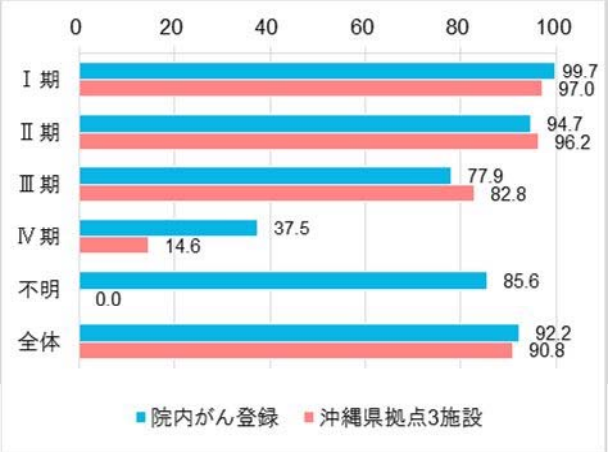
肝がん UICC TNM分類 ステージ別 5年相対生存率



肺がん UICC TNM分類 ステージ別 5年相対生存率



乳がん―女 UICC TNM分類 ステージ別 5年相対生存率



データ集計担当者から

2007年診断例は、院内がん登録が開始されて初めて収集されたデータであるため、登録されているUICC TNM分類のT（がんの拡がり）、N（所属リンパ節転移の有無と拡がり）、M（遠隔転移の有無）情報からみて、臨床ステージ（病期）が正しく登録されていない例が散見されました。そのため、本集計では登録されているUICC TNM分類のT、N、M情報から臨床ステージの修正を行いました。また、本集計対象である新生物（腫瘍）の性状コードが3（悪性新生物（腫瘍））と登録されているものの、臨床ステージが0期（上皮内がん：性状コード2）と登録されていた例については、UICC TNM分類のTを修正し、臨床ステージも修正しました。

前述のとおり、院内がん登録が開始されて初めて収集された例のため、院内がん登録（沖縄県拠点3施設）の集計結果の解釈にはご留意ください。

部位別（10部位）



胃(C16)

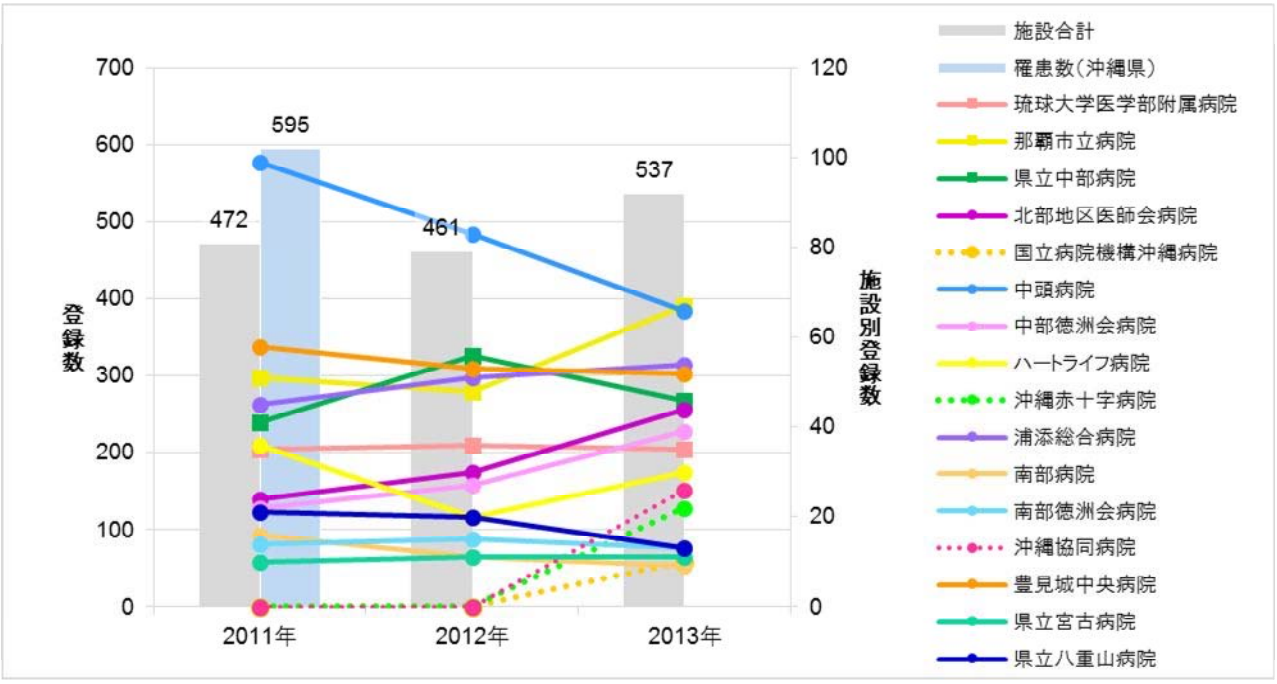
データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の胃がん登録数における腫瘍の重複はありますが、胃がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は79.3%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、90.3%（2013年）と増加傾向を認めました。

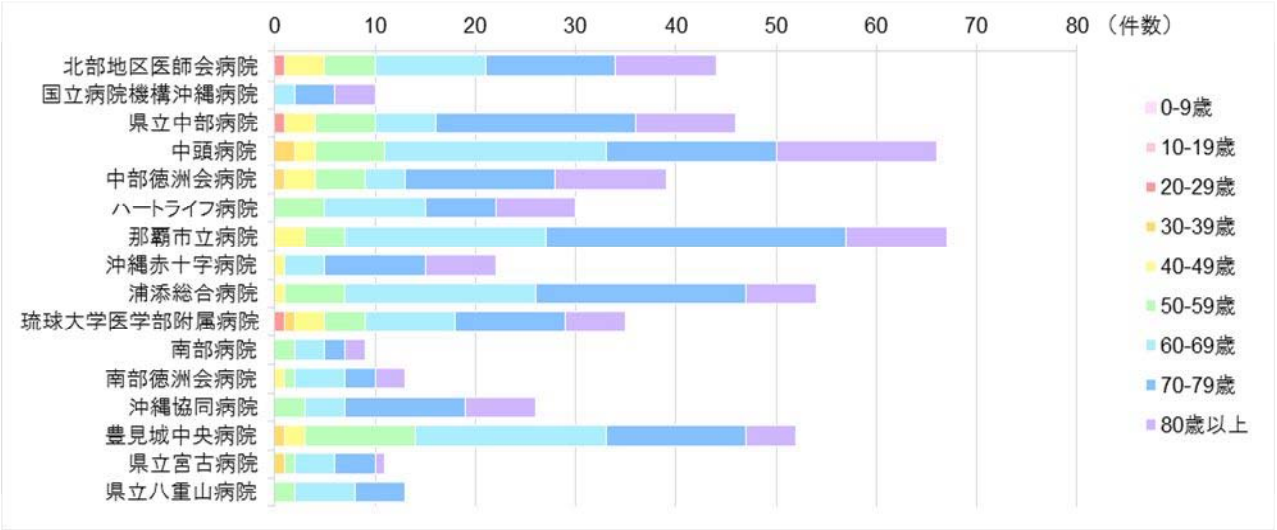
16施設の胃がん登録数は537件（2013年）で、そのうち発見経緯が「がん検診または健康診断・人間ドック」由来のものは128件（23.8%）でした。「がん検診または健康診断・人間ドック」由来では、年齢階級別分布は50歳～59歳で18.8%、60歳～69歳で40.6%、70歳～79歳で25.8%、80歳以上で6.3%と、16施設の胃がん登録数の年齢階級別分布（順に11.5%、27.6%、35.0%、19.9%）と比べてより若い傾向で、また、治療前ステージⅠ期は102件（79.7%）でした。

治療前ステージ別件数を施設別にみると、Ⅰ期で0件～32件（件数の多い上位3施設は、那覇市立病院、中頭病院、豊見城中央病院）、Ⅱ期で0件～10件（豊見城中央病院、北部地区医師会病院、県立中部病院、中頭病院、中部徳洲会病院、ハートライフ病院、那覇市立病院、沖縄赤十字病院、浦添総合病院）、Ⅲ期で0件～9件（中頭病院、中部徳洲会病院、北部地区医師会病院、県立中部病院、浦添総合病院）、Ⅳ期で0件～14件（県立中部病院、那覇市立病院、浦添総合病院）でした。16施設の治療前ステージ別登録数のⅣ期の割合（22.6%）は、全国409施設の割合（13.6%）と比べて、9ポイント上回っていました。

施設別　登録数の推移

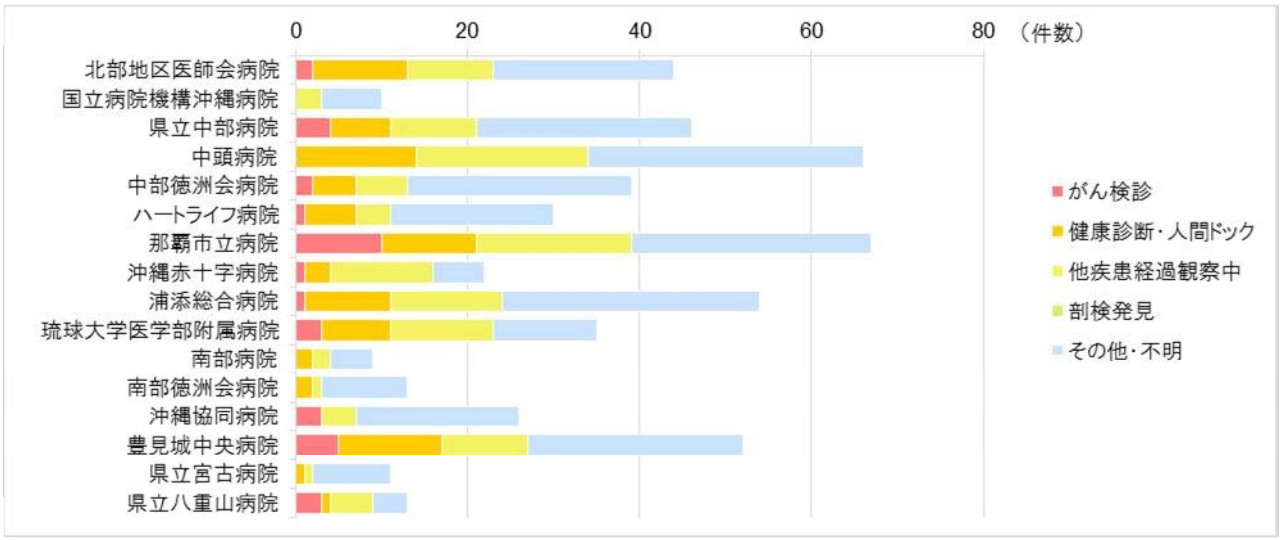


施設別　年齢階級別　登録数－2013年

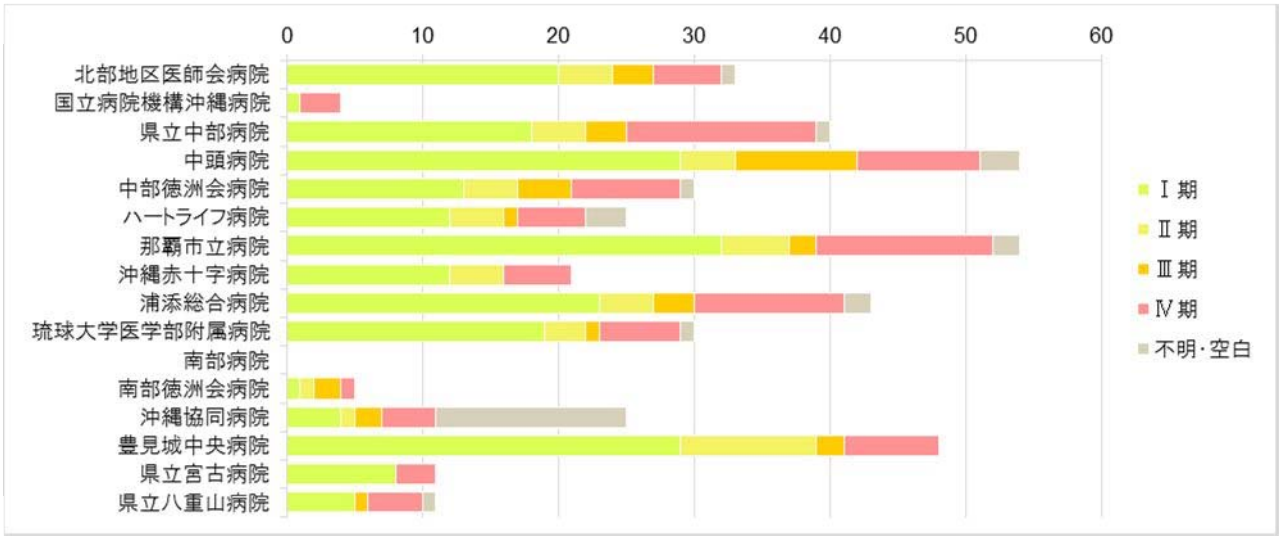


＊症例区分「８：その他」を除いて集計

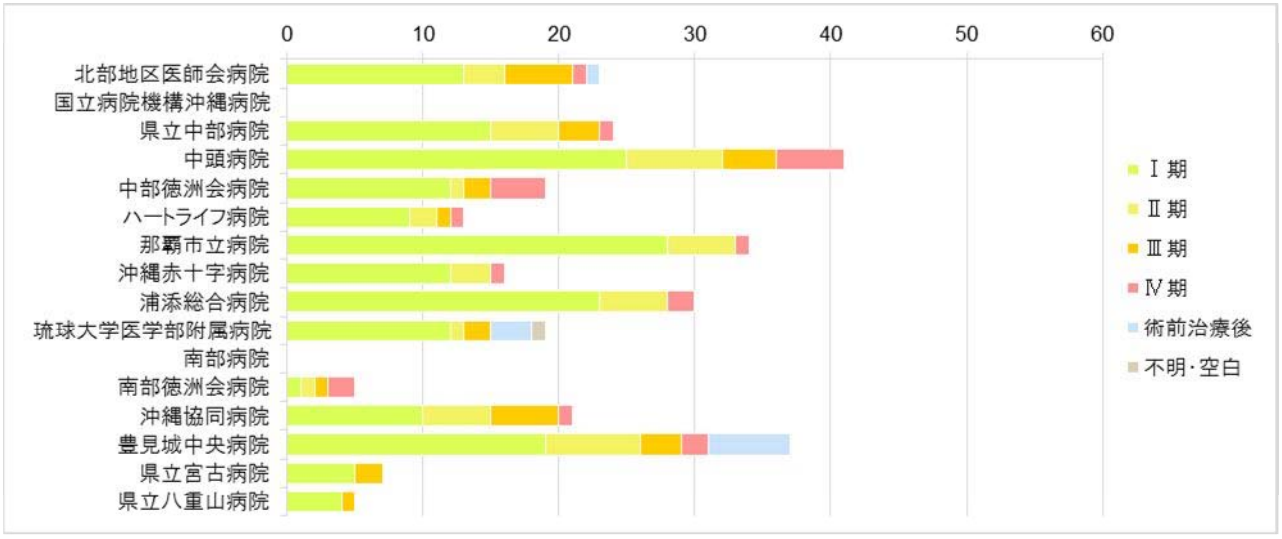
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

胃(C16)

胃

臨床医からのコメント

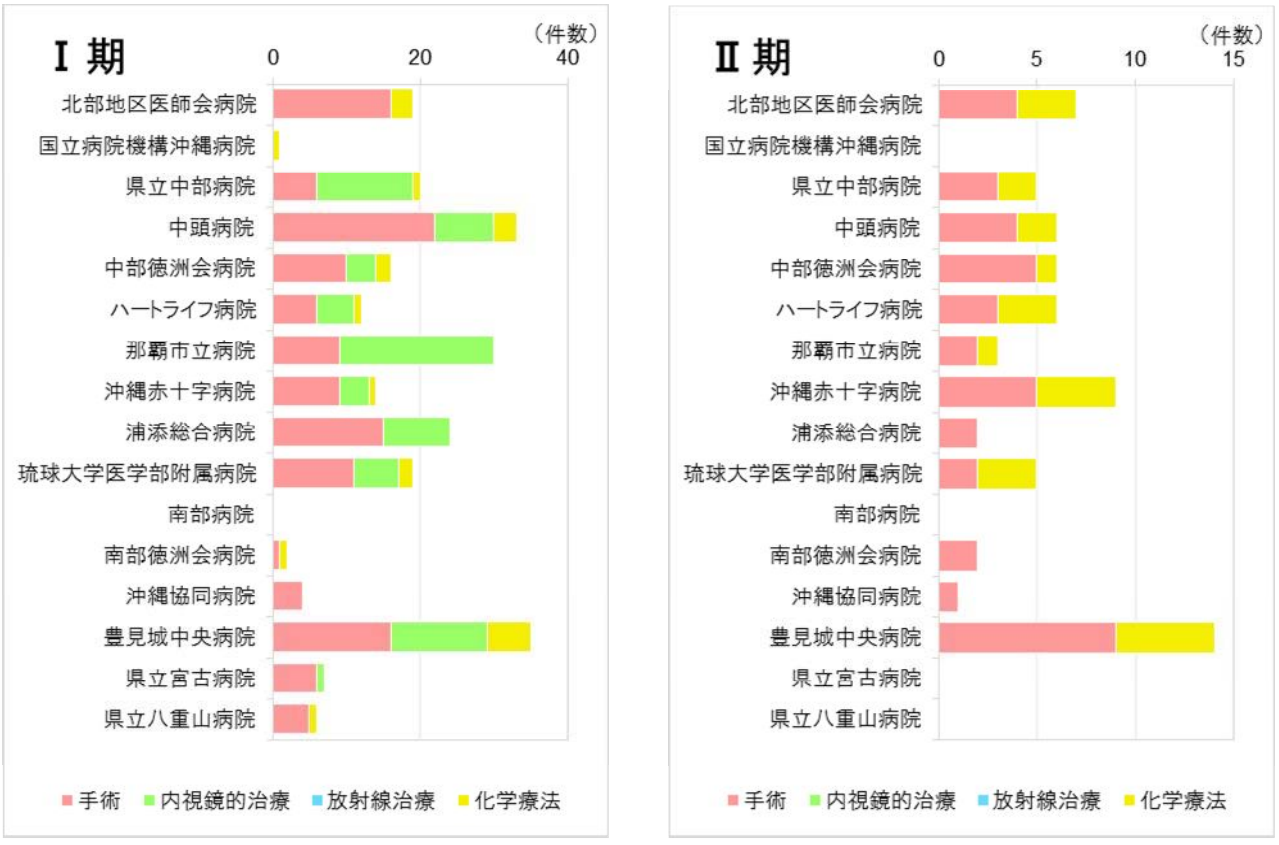
沖縄県における診療状況を評価すると16施設における2013年院内がん登録データによる胃がん登録数の施設平均は36例でした。50例以上を4施設（中頭病院、浦添総合病院、那覇市立病院、豊見城中央病院）に認めるものの多くの施設で平均数に近い登録数であり、各地域・病院での平均的な登録状況がみられました。発見経緯は他疾患経過観察中がもっとも多く、健康診断・人間ドックでの発見経緯が続いていました。この状況は更なる評価が必要です。

沖縄県施設合計の胃がんの登録数はⅠ期が52.1%と最も多い結果でした。しかし、Ⅳ期の全国登録割合は13.6%であったのに対し、沖縄県施設合計では22.6%と多い結果でした。

沖縄県施設合計での治療組み合わせは手術のみが最も多く、続いて内視鏡治療もしくは手術／内視鏡+薬物の順となっていました。Ⅰ期の治療組み合わせは体腔鏡的治療が28.8%に行われていました（50%以上の施設は中頭病院、琉球大学医学部附属病院、沖縄協同病院）。また、県立中部病院と那覇市立病院においては内視鏡治療の件数が手術数より多い結果でした。Ⅱ期、Ⅲ期の治療組み合わせは手術／内視鏡+薬物がそれぞれ41.7%、63.6%と高く、術後補助化学療法との組み合わせが推測されました。Ⅳ期は多くの施設で化学療法のみの治療を選択されていました。

胃がんの発生状況は今後減少傾向にあると一般的に報告されています。しかし、それはがん年齢（40歳以上）以外にも若年者層でのヘリコバクターの除菌治療が重要であり、健診・ドックの必要性はかわりません。

UICC　TNM分類　治療前ステージ別　治療の件数ー2013年



＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅲ期
（件数）
0
5
10
15
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法


Ⅳ期
（件数）
0
5
10
15
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法

大腸(C18-C20,D01.0-D01.2)

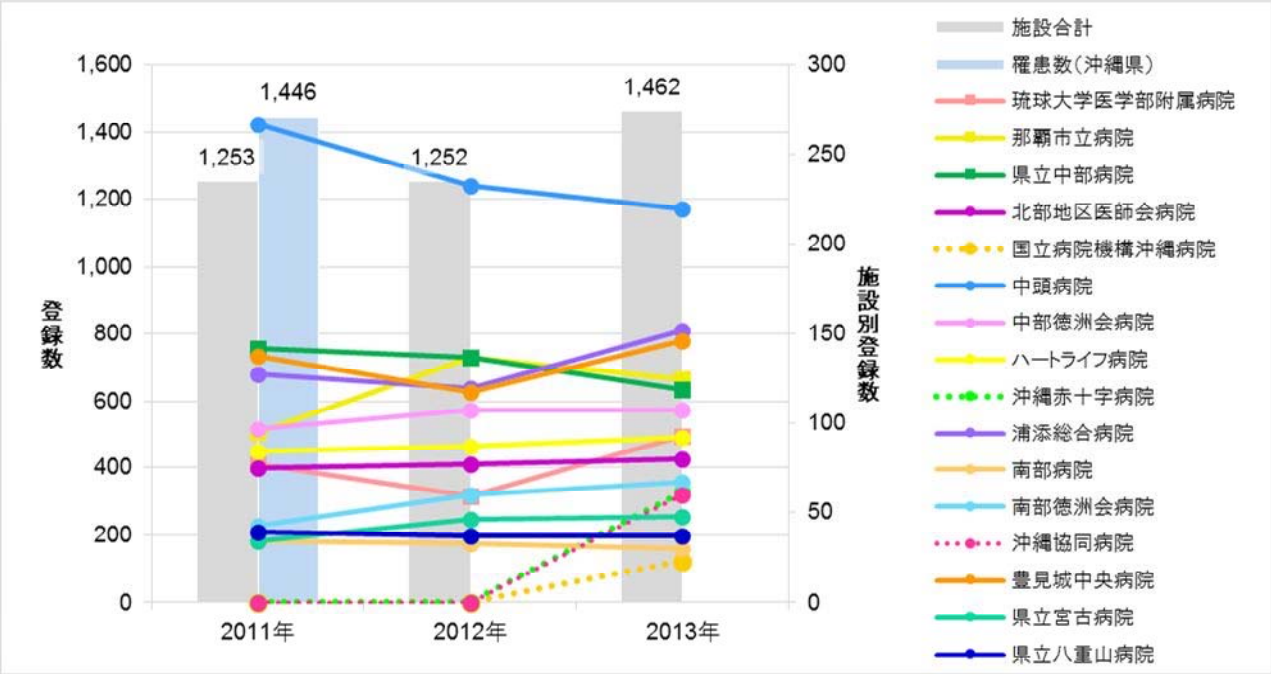
データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の大腸がん登録数における腫瘍の重複はありますが、大腸がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は86.7%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、101.1%（2013年）と増加傾向を認めました。

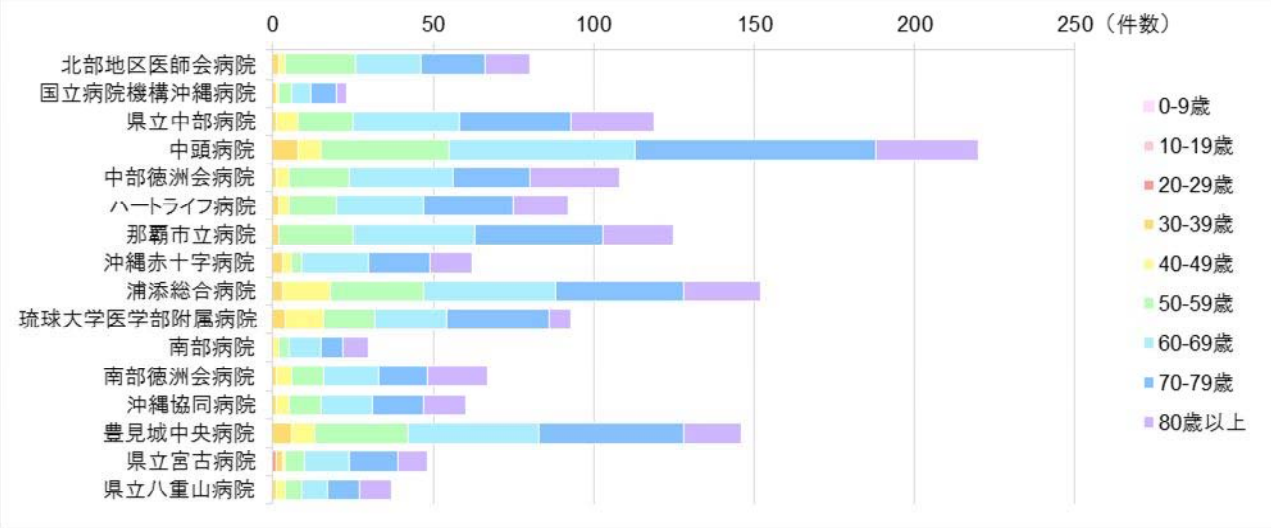
16施設の大腸がん登録数は1,462件（2013年）で、そのうち発見経緯が「がん検診または健康診断・人間ドック」由来のものは240件（16.4%）でした。「がん検診または健康診断・人間ドック由来」では、その年齢階級別分布は50歳～59歳で20.8%、60歳～69歳で35.8%、70歳～79歳で27.5%、80歳以上で5.0%と、16施設の大腸がん登録数の年齢階級別分布（順に17.2%、27.6%、29.3%、18.0%）と比べてより若い傾向で、また、治療前ステージ0期は34件（14.2%）、Ⅰ期は78件（32.5%）でした。

治療前ステージ別件数を施設別にみると、0期で0件～20件（件数の多い上位3施設は、浦添総合病院、北部地区医師会病院、県立中部病院）、Ⅰ期で0件～27件（中頭病院、豊見城中央病院、北部地区医師会病院）、Ⅱ期で0件～39件（中頭病院、豊見城中央病院、ハートライフ病院）、Ⅲ期で0件～40件（中頭病院、県立中部病院、浦添総合病院）、Ⅳ期で0件～24件（中頭病院、豊見城中央病院、県立中部病院）でした。16施設の治療前ステージ別登録数0期の割合（7.5%）は、全国409施設の割合（14.7%）と比べて、約7ポイント下回っていました。

施設別　登録数の推移

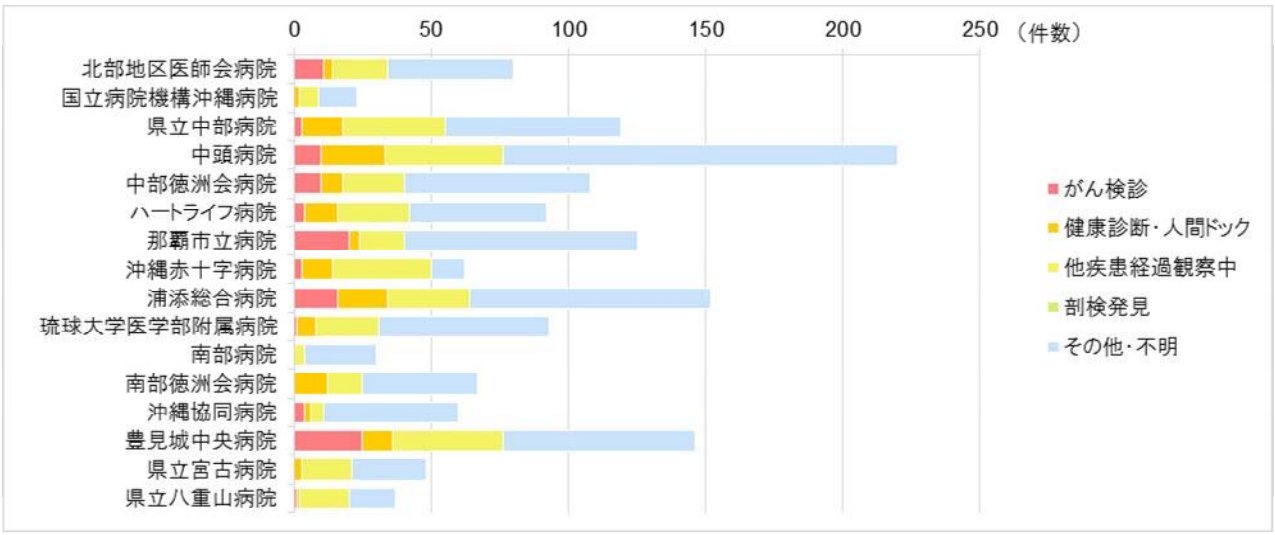


施設別　年齢階級別　登録数－2013年

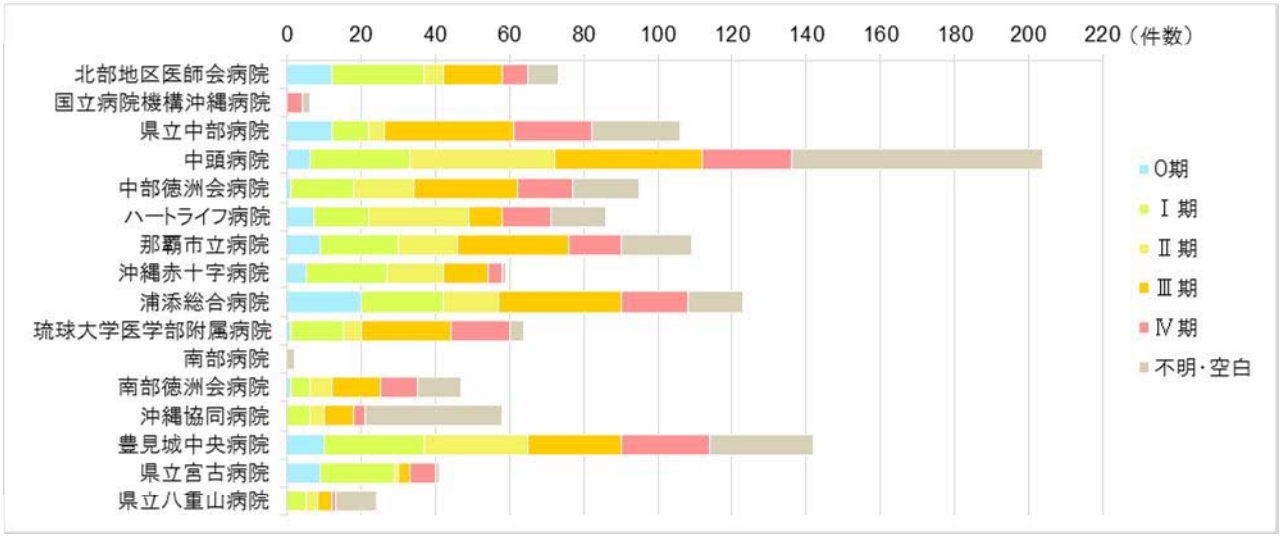


＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「8：その他」を除いて集計

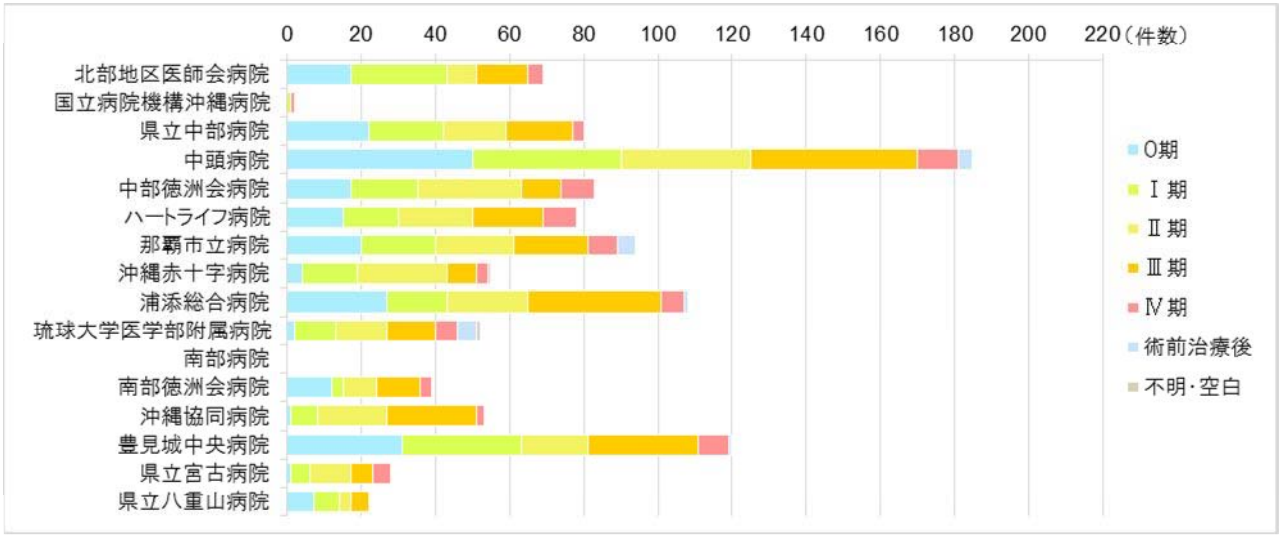
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

大腸(C18-C20,D01.0-D01.2)

臨床医からのコメント

全登録数に対する各施設の登録数の占める割合は、対象期間においては毎年ほぼ一定であり、15～18%を占める施設と8～10%を占める施設と2～8%の施設群は経年においても変化はありませんでした。登録数は病院規模（病床数）とは比例していませんでした。登録数の偏在の原因として、地域の枠を越えた他施設受診が少ない可能性や、登録数の多い施設に関しては専門施設としての認識が地域で定着している可能性があります。

発見経緯については施設間で明らかな違いがありました。がん検診からの発見が多い施設（豊見城中央病院17.1%、那覇市立病院16.0%）がある一方、健康診断・人間ドックからの発見が多い施設（南部徳洲会病院17.9%、沖縄赤十字病院17.7%）があり、離島の施設では他疾患経過観察中からの発見が多い結果でした。（宮古病院37.5%、八重山病院48.6%）施設間の違いについては、考えられる要因は幾つかあるものの推測の域を出ません。

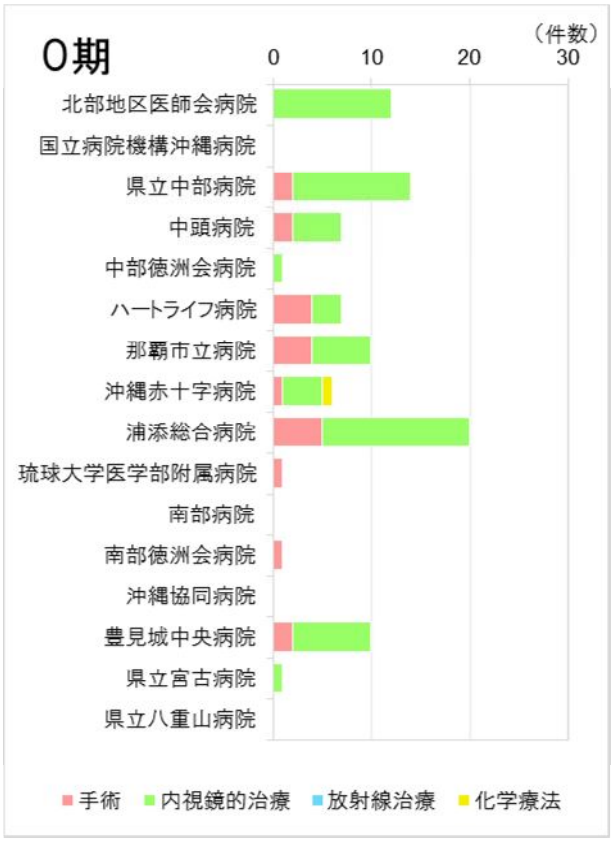
部位については、医療統計や文献ではS状結腸と直腸で全大腸がんの60～70%が発生するとされています。沖縄県ではS状結腸と直腸を合わせて59.5%（2013年）との実数が本登録で明らかになりました。

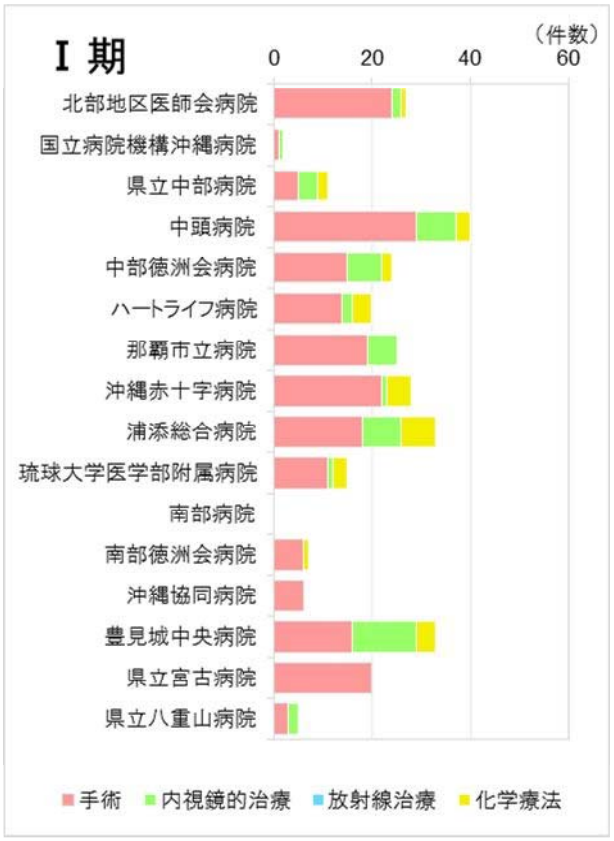
ステージ別頻度として大腸癌研究会・大腸癌全国登録ではⅠ期21.9%、Ⅱ期28.9%、Ⅲ期32.1%、Ⅳ期16.8%と公表されており、全国集計の治療後ステージ別登録はⅠ期20.1%、Ⅱ期20.0%、Ⅲ期19.1%、Ⅳ期8.6%でした。沖縄県施設合計の治療後ステージ別登録はⅠ期22.1%、Ⅱ期23.3%、Ⅲ期24.4%、Ⅳ期7.3%と全国とほぼ同様でした。しかし、登録数が比較的多い6施設（登録数80例以上）を並べてみると、0期は21.3～27.5%とほぼ同様の割合であったがⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期は割合に違いが見られました。要因として、地域の検診受診率や受診経緯などの患者状況や、病理標本の取り扱い精度などが考えられるが今後の分析を待ちたいと思います。

治療前ステージ別の治療としては、0期では殆どの施設で内視鏡的治療が行われていたが手術的治療が優位な施設もありました。Ⅲ期では化学療法が安定的に選択されており、Ⅳ期では化学療法を基本として積極的な外科的治療の考慮が定着していると思われます。放射線の併用治療は、全ステージ全施設合計で10例（全登録数の0.8%）と少い結果でした。

沖縄県には6名の大腸肛門病専門医と37名の消化器外科専門医と124名の消化器内視鏡学会専門医がおり(2015年)、大腸肛門病専門医と消化器外科専門医で検討すると、専門医と施設登録数に関して、在籍の有無と登録数、あるいは在籍人数と登録数には相関はありませんでした。

UICC　TNM分類　治療前ステージ別　治療の件数－2013年

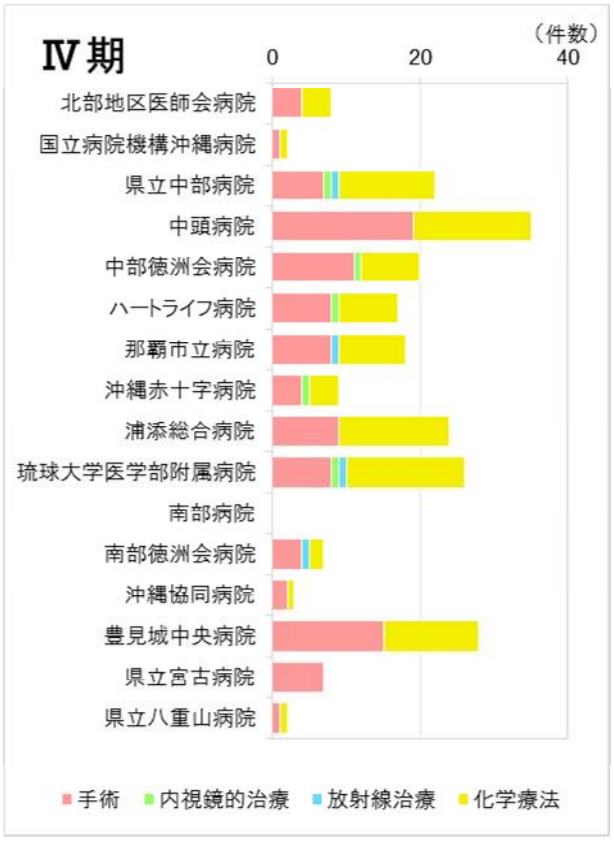




＊上皮内がんを含めて集計
＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅱ期
（件数）
0
20
40
60
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法


Ⅲ期
（件数）
0
50
100
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法


Ⅳ期
（件数）
0
20
40
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法

肝臓(C22)

肝臓

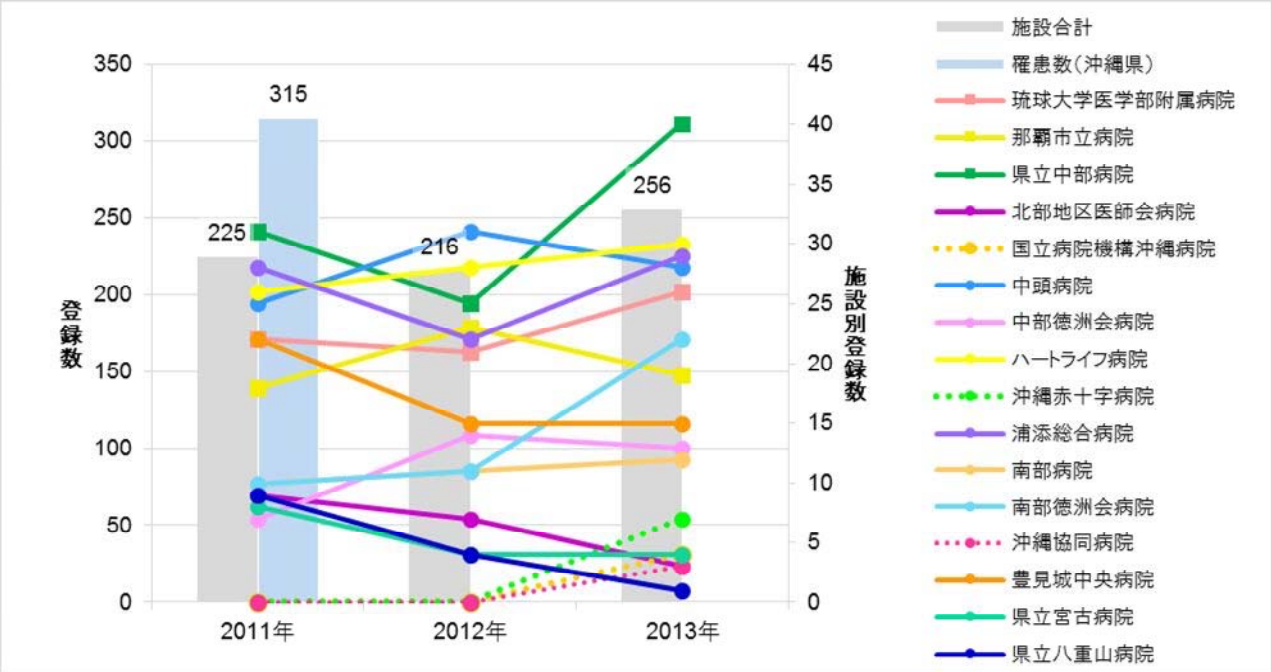
データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の肝がん登録数における腫瘍の重複はありますが、肝がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は71.4%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、81.3%（2013年）と増加傾向を認めました。

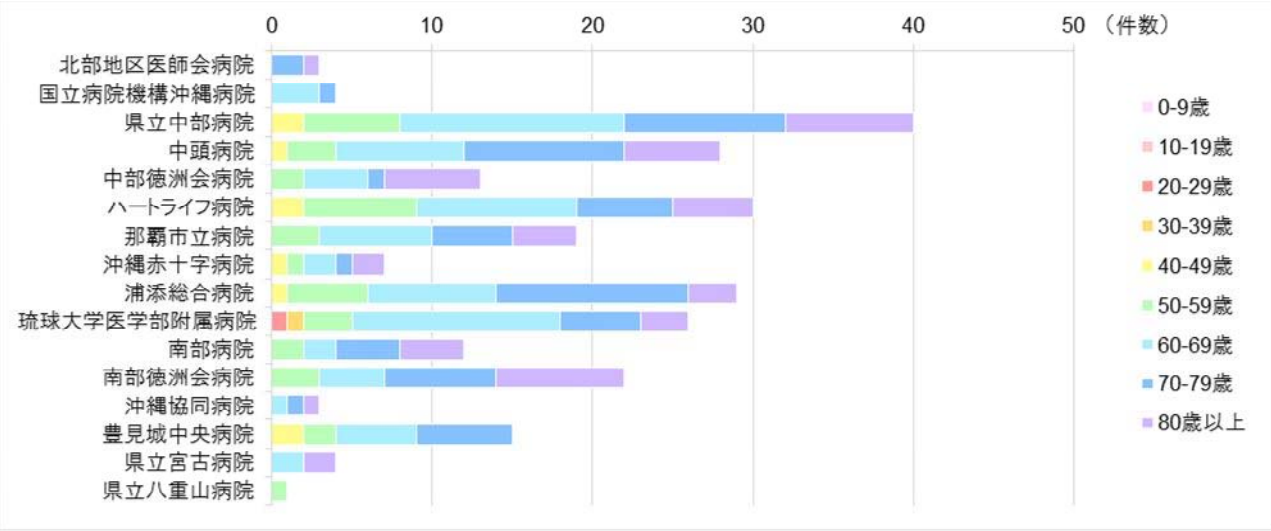
16施設の肝がん登録数は256件（2013年）で、その年齢階級別分布は50歳～59歳で14.8%、60歳～69歳で32.4%、70歳～79歳で27.7%、80歳以上で20.7%と、肝がん罹患数の当該年齢階級別割合（順に12.6%、23.2%、31.4%、30.2%）と比べてより若い傾向でした。

治療前ステージ別件数を施設別にみると、Ⅰ期で0件～11件（件数の多い上位3施設は、ハートライフ病院、浦添総合病院、県立中部病院、中頭病院、那覇市立病院）、Ⅱ期で0件～8件（浦添総合病院、県立中部病院、ハートライフ病院）、Ⅲ期で0件～9件（県立中部病院、中頭病院、南部徳洲会病院）、Ⅳ期で0～10件（県立中部病院、中頭病院、南部徳洲会病院）でした。16施設の治療前ステージ別登録数Ⅲ期の割合（16.6%）とⅣ期の割合（25.1%）は、全国409施設のⅢ期の割合（14.2%）とⅣ期の割合（13.4%）と比べて上回っており、Ⅳ期については約12ポイント上回っていました。

施設別　登録数の推移

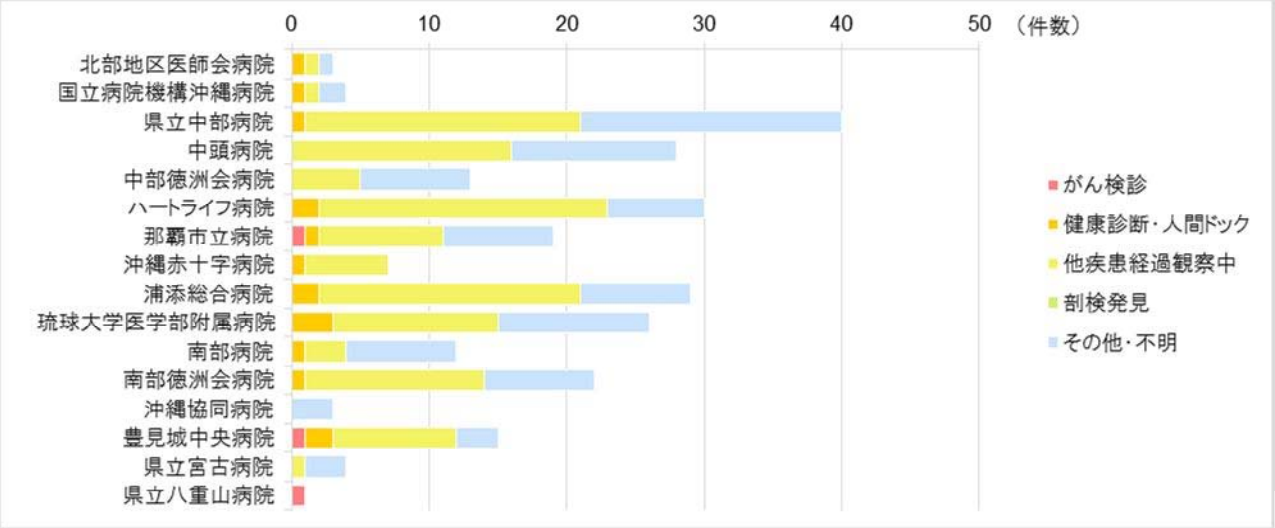


施設別　年齢階級別　登録数－2013年

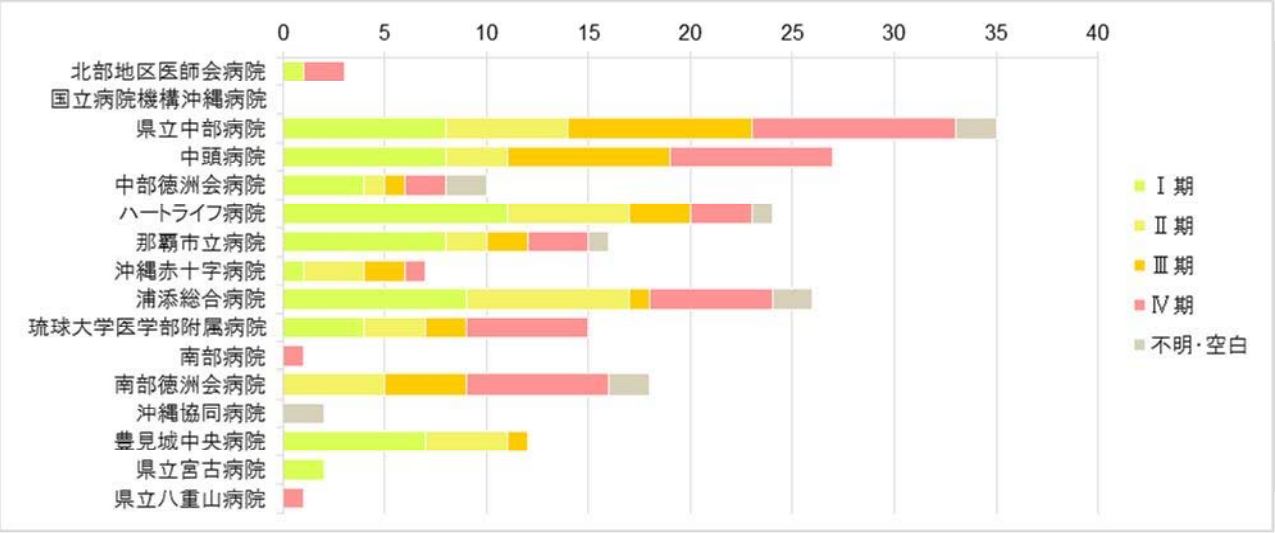


＊症例区分「８：その他」を除いて集計

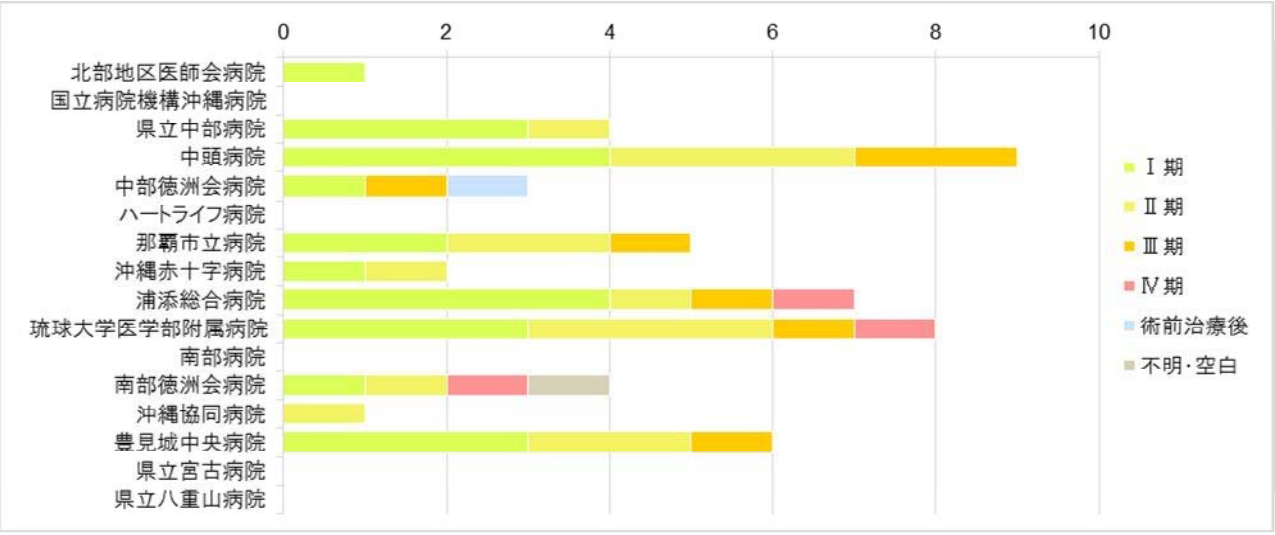
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　肝癌の取扱い規約分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

肝臓(C22)

臨床医からのコメント

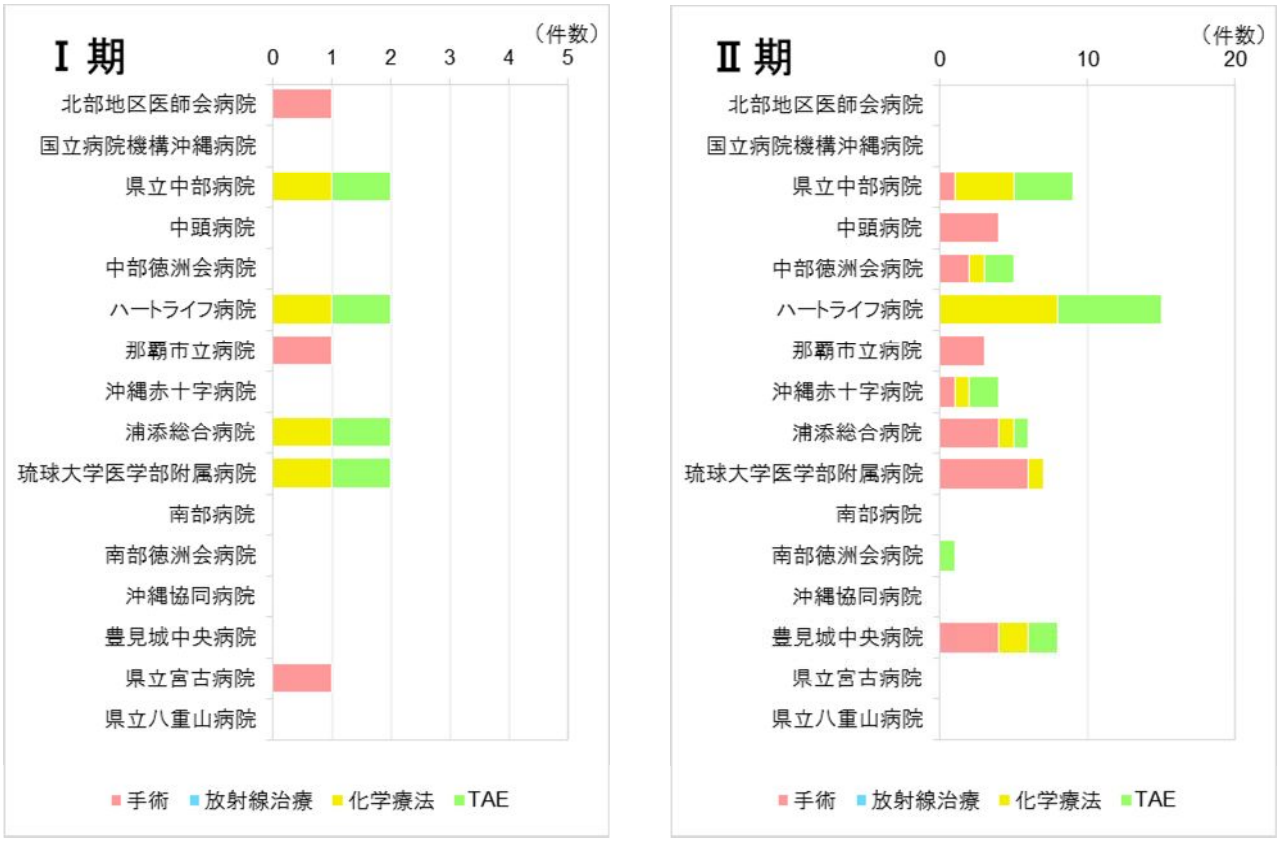
沖縄県は肝がんの死亡率が全国で最も低くなっています。その主な原因として、C型肝炎ウイルスの持続感染者が全国一低いことが指摘されています。一方で、B型肝炎持続感染者の割合は全国一高いのですが、ウイルスゲノタイプ（遺伝子型）の違いにより、B型の肝硬変、肝がんも少ないと言われています。

今回県内の主な医療施設からの集計を検討すると、いくつかの特徴が浮かび上がってきます。まず、原発性肝がんの中に肝内胆管がんの占める割合が高いことが分かります。全国的には、原発性肝がんの90%以上が肝細胞がんですが、沖縄県の場合、肝内胆管がんが約20%を占めます。また、検診で発見される肝がんが約20%おり、更に進行した肝がん（Ⅲ、Ⅳ期）の割合が全国平均と比較して高いことが注目されます。

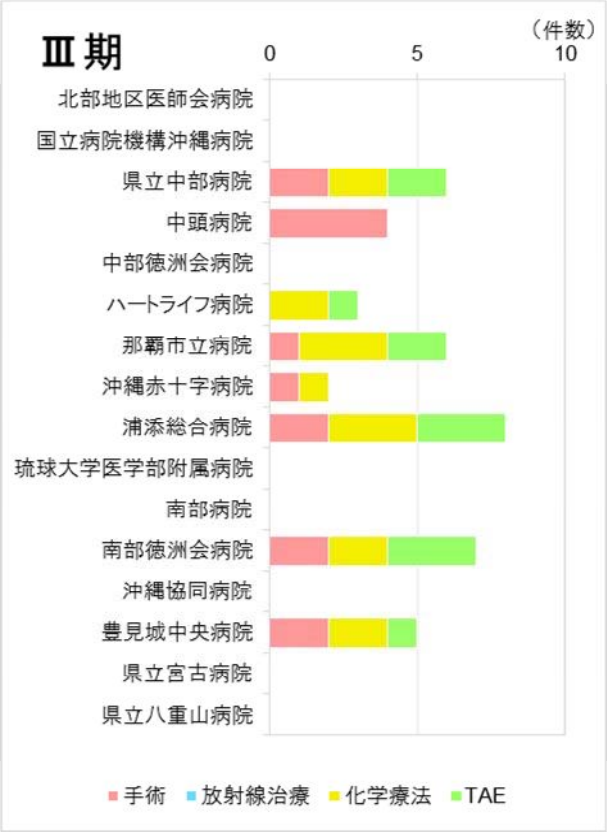
肝細胞がんは慢性肝炎や肝硬変を基礎疾患として発症することが多く、したがって、慢性肝疾患のフォロー中にがんが見つかることが多いと言われています。より早期に肝細胞がんを発見するためには慢性肝炎、肝硬変等のハイリスクグループに対して定期的に画像診断を行うことが重要と言われています。沖縄県で検診発見のがんが多く、進行がんの割合が多い原因として、C型慢性肝炎、肝硬変が少ないこと、ハイリスクが特定できない胆管細胞がんが多いこと、県民の外来受療率が低いこと等が考えられます。

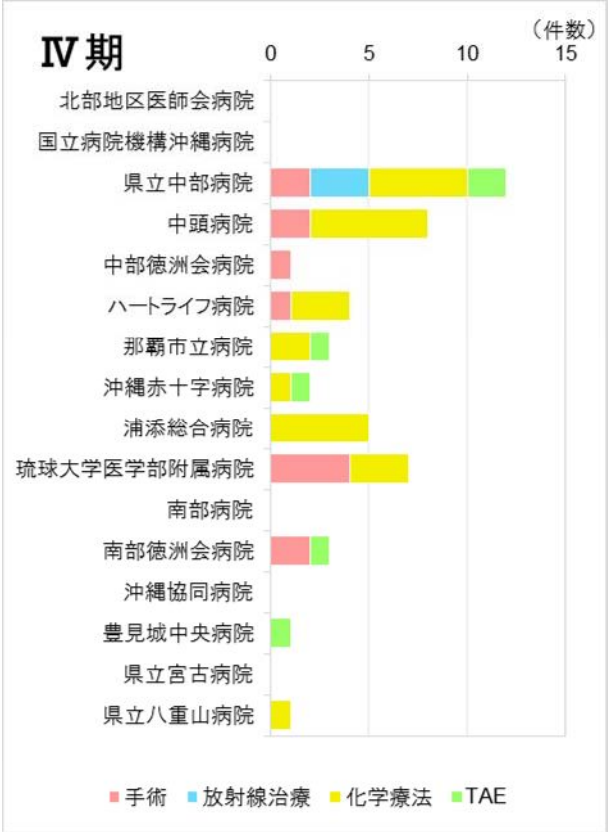
全国的に肝がん死亡率は2002年をピークに減少しています。また、高齢で非ウイルス性肝がんが増加していると言われています。一方で沖縄県は肝がん死亡率が増加傾向にあり、非ウイルス性肝がんの占める割合も他府県と比較して高いという特徴があります。今後は、如何に早期の肝がんを発見し、治療に結びつけるかが重要になってくると思われます。

肝癌の取扱い規約分類　治療前ステージ別　治療の件数－2013年



＊TAE（肝動脈塞栓術）とは、がんに酸素を供給している血管を人工的にふさぎ、がんを窒息させる治療法
＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療・内視鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅲ期
（件数）
0
5
10
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法
TAE


Ⅳ期
（件数）
0
5
10
15
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法
TAE

膵臓(C25)

膵臓

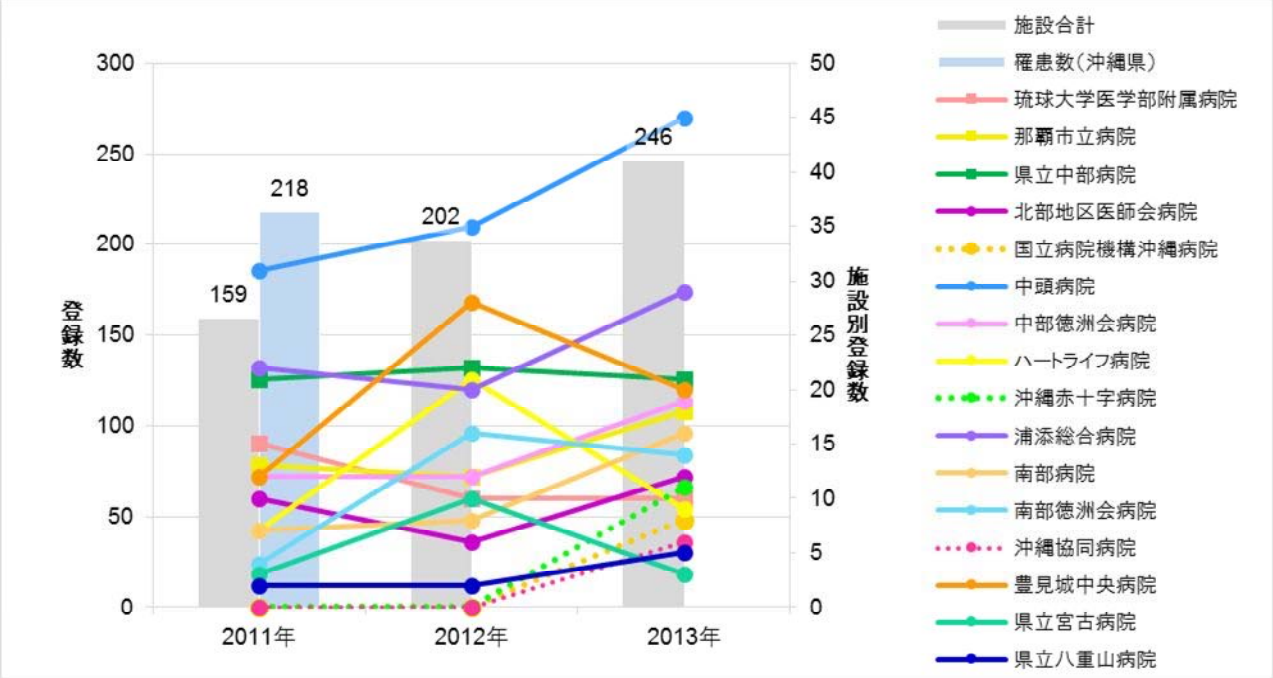
データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の膵がん登録数における腫瘍の重複はありますが、膵がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は72.9%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、112.8%（2013年）と増加傾向を認めました。

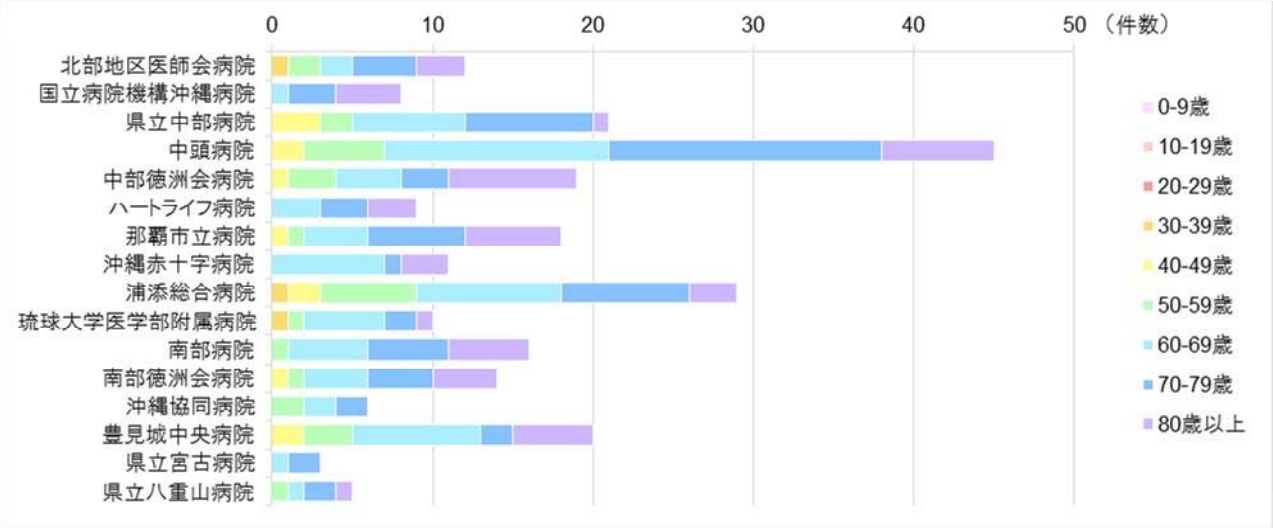
16施設の膵がん登録数は246件（2013年）で、その年齢階級別分布は50歳～59歳で11.4%、60歳～69歳で31.3%、70歳～79歳で29.3%、80歳以上で22.0%と、膵がん罹患数の当該年齢階級別割合（順に11.5%、31.2%、30.3%、22.5%）とほぼ同程度でした。

治療前ステージ別件数を施設別にみると、0期で0件、Ⅰ期で0件～4件（件数の多い上位3施設は、中頭病院、県立中部病院、那覇市立病院）、Ⅱ期で0件～9件（中頭病院、浦添総合病院、県立中部病院、豊見城中央病院）、Ⅲ期で0件～5件（那覇市立病院、中部徳洲会病院、ハートライフ病院、琉球大学医学部附属病院、豊見城中央病院）、Ⅳ期で0件～23件（中頭病院、中部徳洲会病院、浦添総合病院）でした。16施設の治療前ステージ別登録数Ⅰ期の割合（9.1%）とⅡ期の割合（23.3%）は、全国409施設のⅠ期の割合（3.9%）とⅡ期の割合（6.3%）と比べて、上回っており、Ⅱ期については17ポイント上回っていました。

施設別　登録数の推移

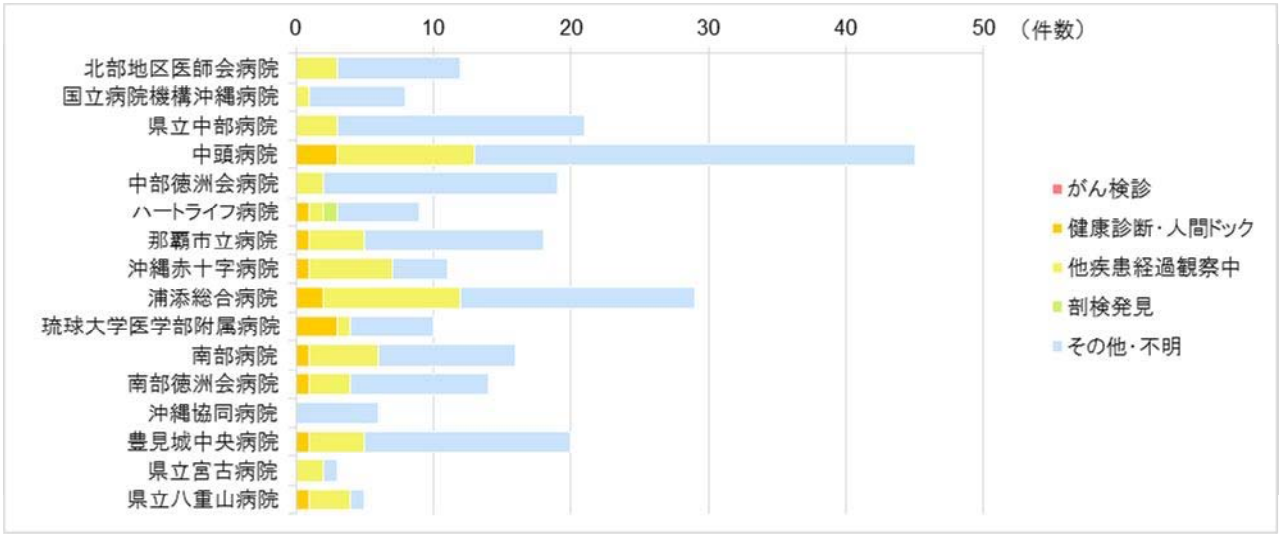


施設別　年齢階級別登録数－2013年

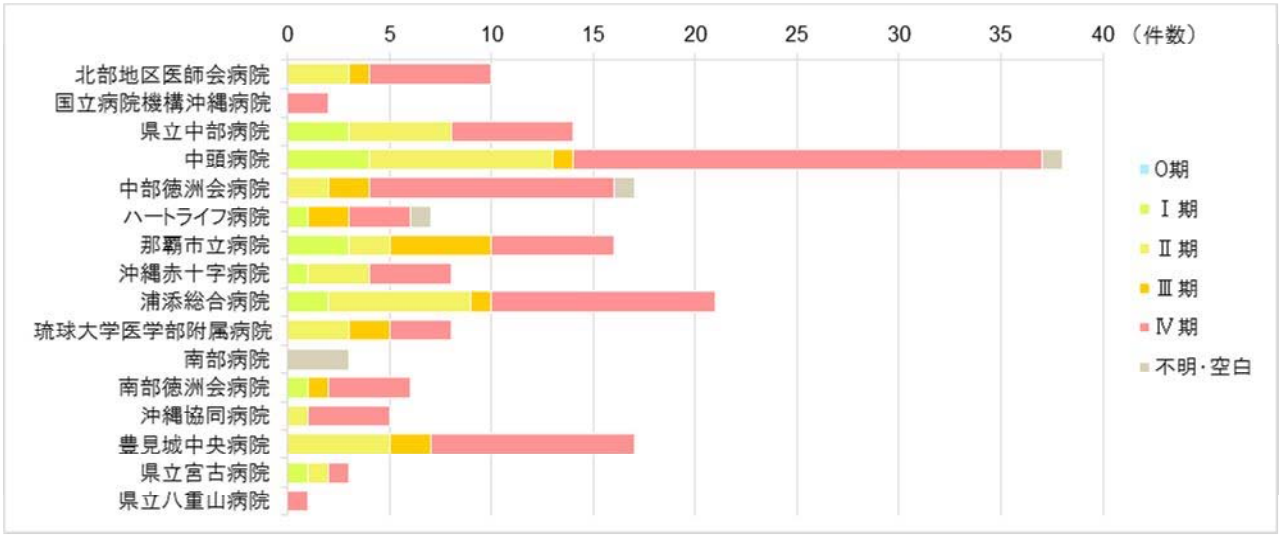


＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

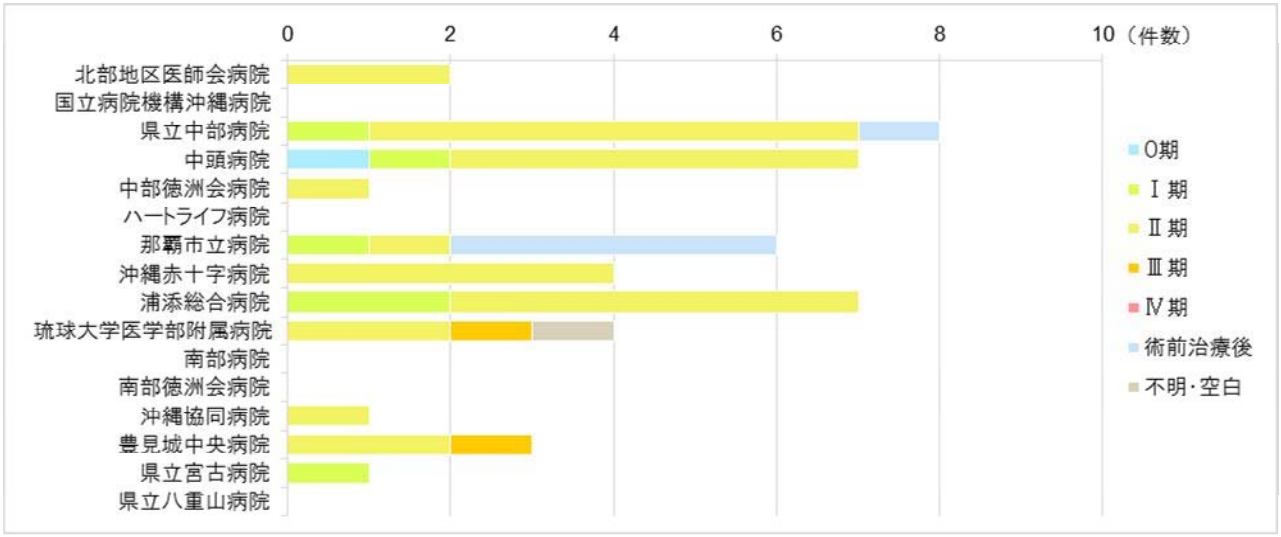
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

膵臓(C25)

膵臓

臨床医からのコメント

膵がんは本邦のがん部位別死亡数第4位であり、今後も増加することが予測されています。また、最も予後不良な悪性腫瘍として知られており、切除術ができるのは約20～40%、切除例の5年生存率が10～20%、膵がん全体の5年生存率が7%とされています。他部位のがんと比較した膵がんの特徴としては、早期発見が難しく進行がんが多いこと、根治や長期生存を目指せるのは手術療法しかないこと、手術は難易度が高く侵襲が大きいこと、手術適応は施設による差が大きいこと、などがあげられます。

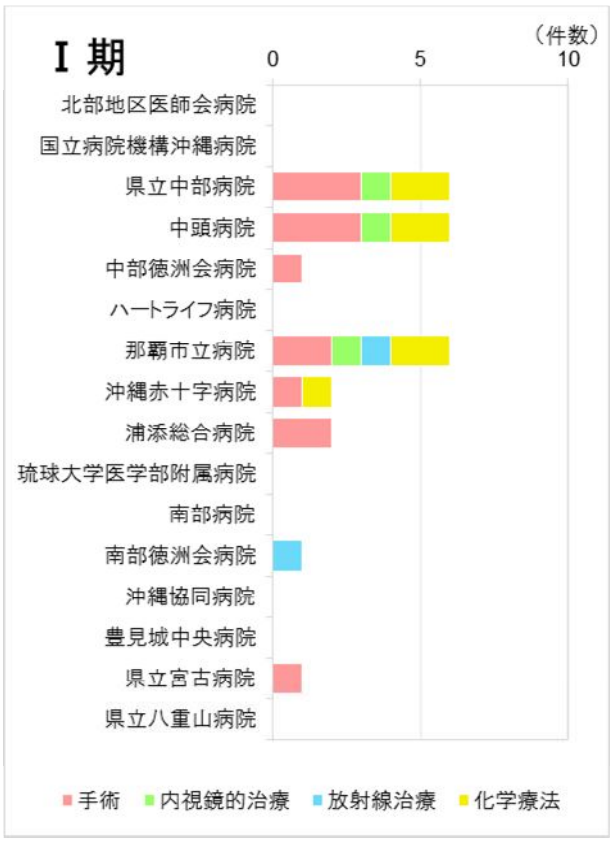
今回のデータでも、沖縄県における膵がんの登録症例は増加傾向にあります。罹患数の増加と診断精度や院内がん登録の精度向上などが要因として考えられます。

発見経緯は、がん検診や健康診断、人間ドックで発見されたのは5.9%であり、検診による早期発見の難しさが今回のデータにもあらわれています。

膵がんにおけるUICC TNM分類（国際的に用いられている悪性腫瘍の病期分類）別の一般的治療法としては、0～Ⅱ期は切除術、Ⅲ期は局所進行膵がんとして化学療法や放射線療法(専門施設では一部の症例に腹腔動脈合併切除を伴う尾側膵切除術や術前化学放射線療法後の切除)、Ⅳ期は遠隔転移を伴うため化学療法がおこなわれます。沖縄県におけるⅡ期、Ⅲ期の外科治療の割合は39.5%、13.3%でした。年齢やPerformance status（全身状態の指標）、併存疾患などの要因もありますが、今後はいかに切除率を向上させるかが課題だと思われます。それには各施設での内科、放射線科と外科の連携とともに、沖縄県では膵切除術の専門施設(肝胆膵外科高度技能修練施設)は浦添総合病院と琉球大学医学部附属病院の2施設しかないため、施設間の連携体制の構築が重要だと思われます。

UICC　TNM分類　治療前ステージ別　治療の件数－2013年





＊上皮内がんを含めて集計
＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅱ期
（件数）
0
5
10
15
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法


Ⅲ期
（件数）
0
5
10
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法


Ⅳ期
（件数）
0
10
20
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法

肺(C33-C34,D02.1-D02.2)

データをみると

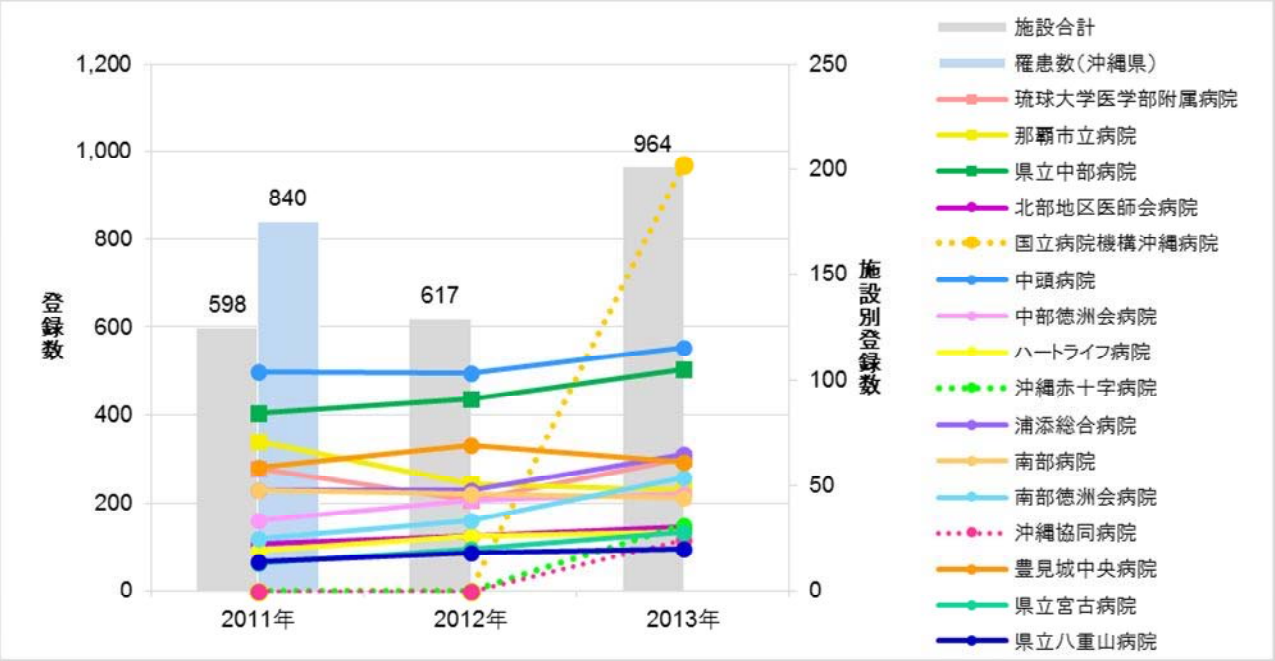
全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の肺がん登録数における腫瘍の重複はありますが、肺がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は71.2%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、114.8%（2013年）と増加傾向を認めました。

16施設の肺がん登録数は964件（2013年）で、そのうち発見経緯が「がん検診または健康診断・人間ドック」由来のものは128件（13.3%）でした。「がん検診または健康診断・人間ドック」由来では、その年齢階級別分布は、50歳～59歳で19.5%、60歳～69歳で28.1%、70歳～79歳で33.6%、80歳以上で13.3%と、16施設の肺がん登録数の年齢階級別分布（順に10.6%、20.0%、37.4%、29.6%）と比べてより若い傾向で、また、治療前ステージ0期は0件（0.0%）、Ⅰ期は59件（46.1％）でした。

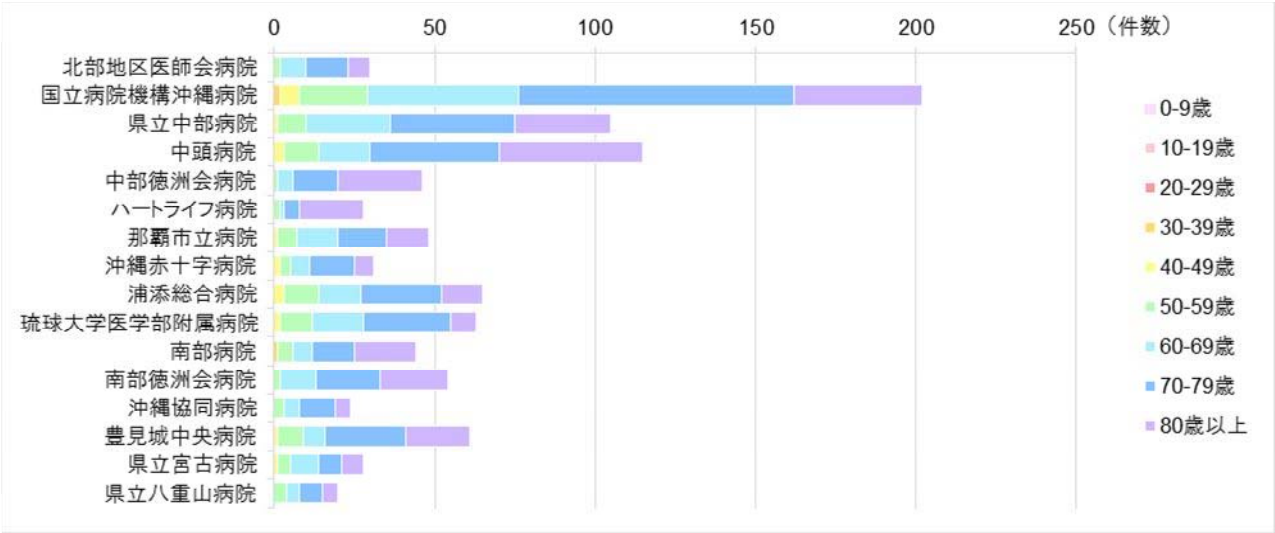
治療前ステージ別件数を施設別にみると、0期で0件～1件（件数の多い上位3施設は、浦添総合病院のみ）、Ⅰ期で0件～76件（国立病院機構沖縄病院、中頭病院、浦添総合病院）、Ⅱ期で0件～14件（国立病院機構沖縄病院、中頭病院、琉球大学医学部附属病院）、Ⅲ期で0件～35件（国立病院機構沖縄病院、中頭病院、県立中部病院）、Ⅳ期で0件～37件（県立中部病院、国立病院機構沖縄病院、中頭病院）でした。16施設の治療前ステージ別登録数Ⅲ期の割合（19.6%）とⅣ期の割合（37.4%）は、全国409施設のⅢ期の割合（15.6%）とⅣ期の割合（32.4%）と比べて、約5ポイント上回っていました。

肺

施設別　登録数の推移

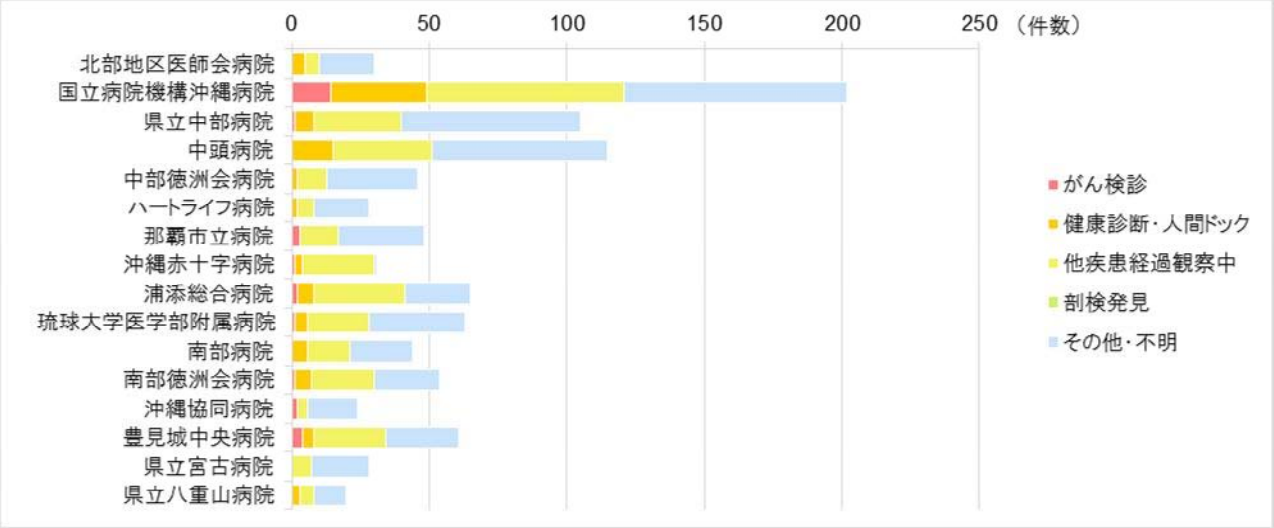


施設別　年齢階級別　登録数－2013年

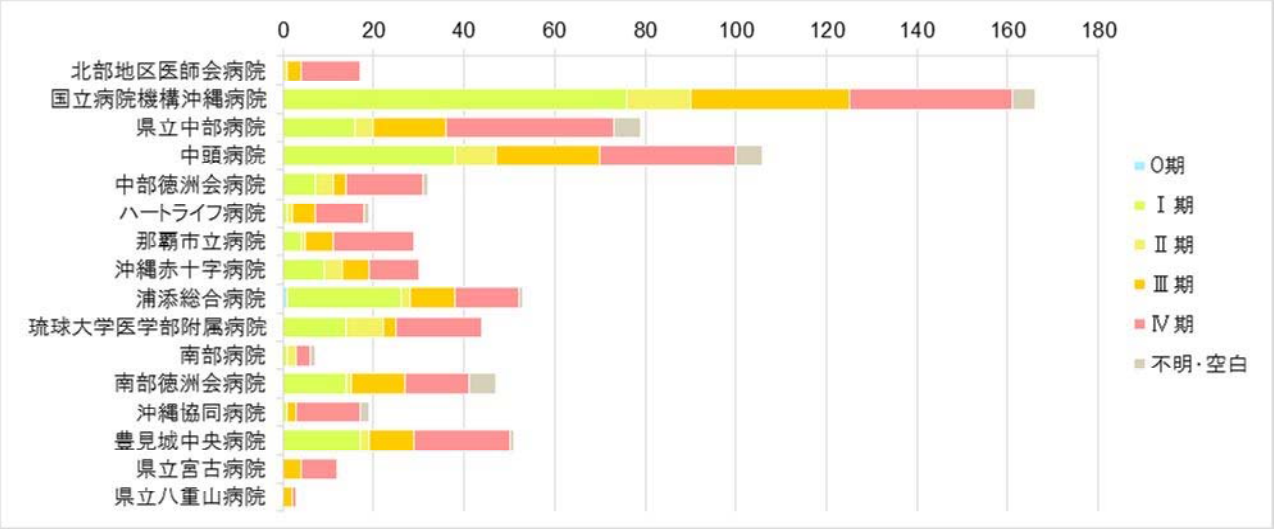


＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

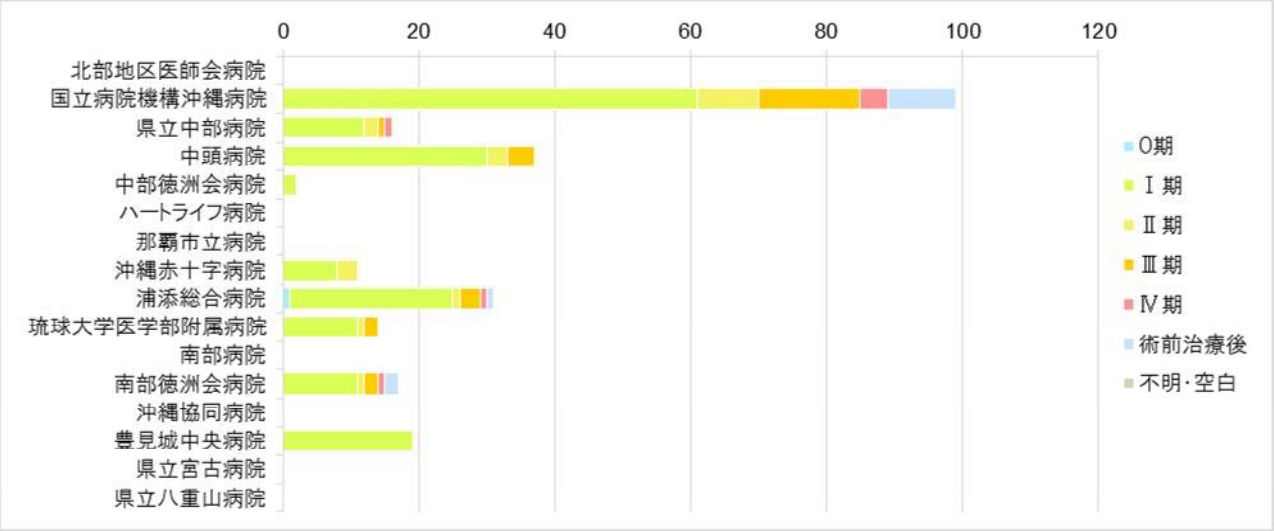
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

肺（C33-C34,D02.1-D02.2）

臨床医からのコメント

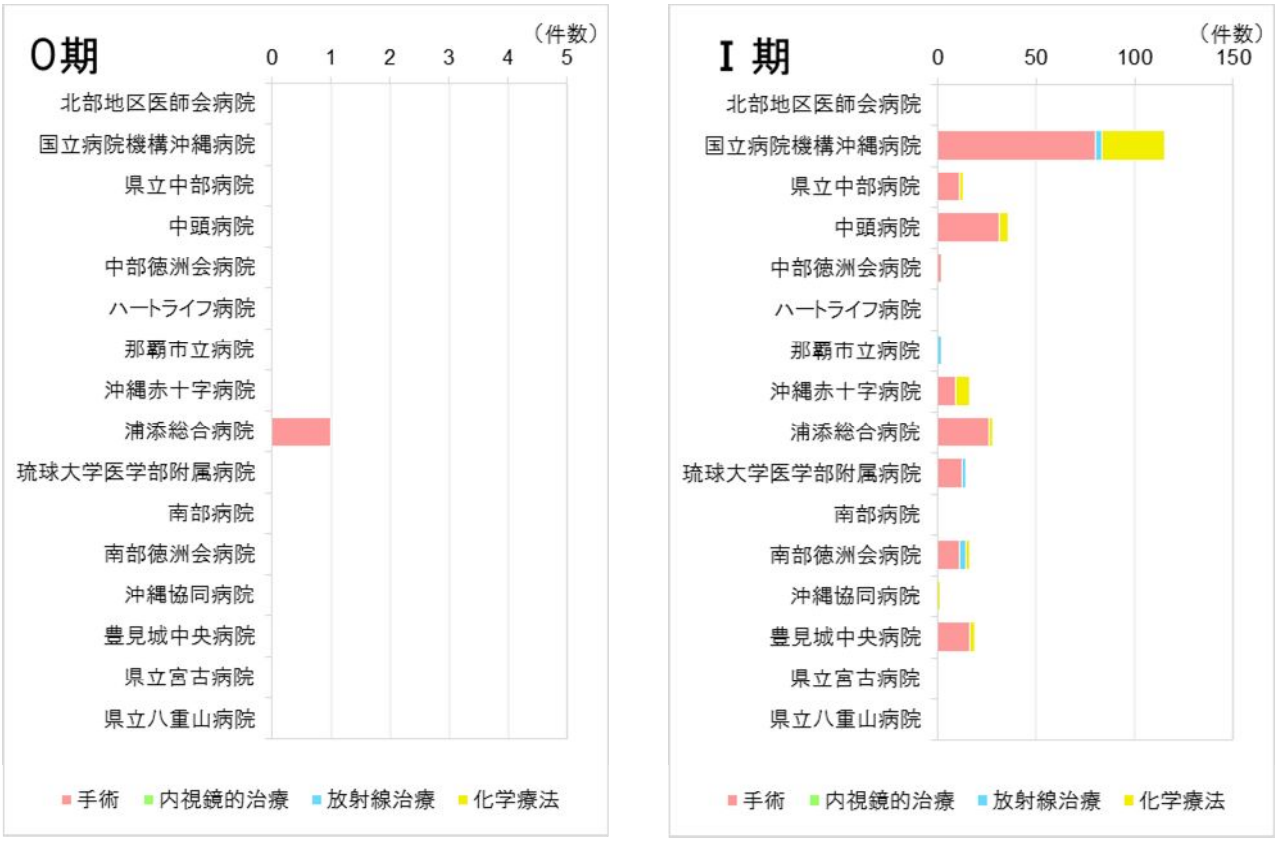
平成22年の沖縄県の疫学調査によりますと、がんの部位別死亡数のトップは男女とも肺がんであり、肺がんの死亡数低下に向けた取り組みが急務であります。沖縄県の肺がんの特徴は1960年代～70年代にはタールの含有量の高い沖縄ブランドのタバコ（バイオレット・ハイトーン・うるま・ロンなど）が普及したことにより、中枢型の扁平上皮がんが多くみられましたが、1980年代以降は腺がんの比率が急激に増加しています。加えて全国に比べて男女とも肺がん患者の喫煙率が高いのが特徴であります。喫煙開始年齢が低い本県においては小・中学生に対する啓蒙活動が特に重要と考えます。

肺がんは手術、化学療法、放射線治療、もしくはこれらを組み合わせた治療が基本となります。2013年沖縄県院内がん登録データの肺がん登録の資料によりますと、沖縄県内では登録数100件以上が国立病院機構沖縄病院（以下国立沖縄病院）202件、中頭病院115件、県立中部病院105件で、手術数50件以上は国立沖縄病院のみ（102件）でありました。登録数、手術件数とも県内では群を抜いています。国立沖縄病院における切除率はおよそ5割で、全国的な平均である3割と比較して高いのが特徴です。その理由として、検診発見（Ⅰ期）が多いこととⅢ期などの進行がんに対しても術前化学（・放射線）療法を行うことにより、切除可能となったケースが多かったからです。しかし、県内の肺がん全体では5割から7割の患者さんは化学療法、放射線治療、もしくはそれを組み合わせた治療となっているのが資料からみてとれます。

肺がん治療の進歩は目覚ましいものがあり、治療前の的確な組織診断とがんの遺伝子変異の検査で、治療戦略を立てる『個別化』が急速に進んでいます。現在、沖縄県には概ね気管支鏡指導医4名、呼吸器外科専門医12名、呼吸器学会指導医21名が医療に従事しています。そして放射線治療施設が7施設あります。資料からは沖縄県内の肺がん治療は主に16の施設で行われておりますが、それ以上に分散化されているのが現状です。理想的には放射線治療施設を有し、キャンサーボード（呼吸器外科専門医・癌治療教育医、認定医・放射線治療専門医・病理専門医で治療方針を討議）が開催されているような専門性の高い病院に治療・機能が集約化されることが望まれます。気管支鏡指導医2名、呼吸器外科指導医3名・専門医4名、呼吸器学会指導医4名を擁する国立沖縄病院のような専門性の高い病院に治療・機能を集約し、肺がん診療の核となるような施設と関連施設との連携で、沖縄県の肺がんの治療成績はさらに向上するものと考えます。

肺

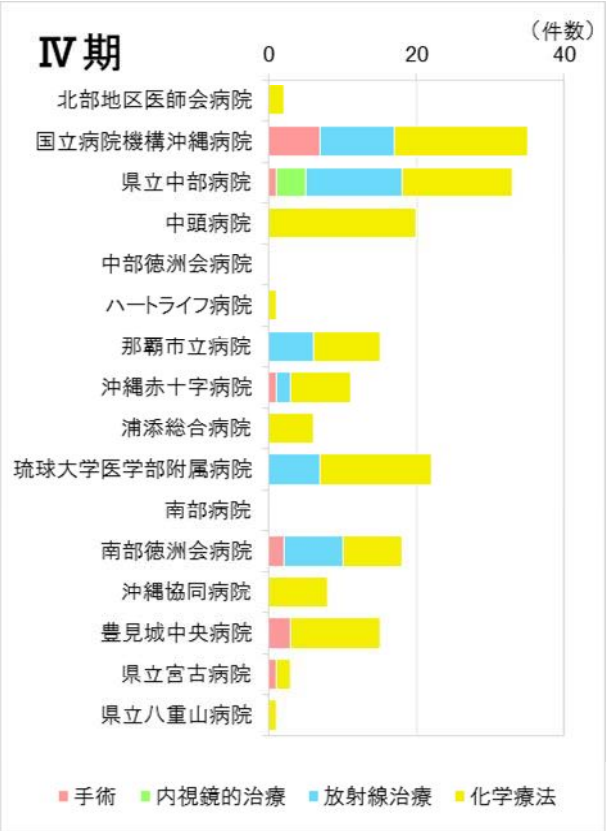
UICC　TNM分類　治療前ステージ別　治療の件数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅱ期
（件数）
0
10
20
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法


Ⅲ期
（件数）
0
20
40
60
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法


Ⅳ期
（件数）
0
20
40
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
内視鏡的治療
放射線治療
化学療法

乳房(C50,D05)

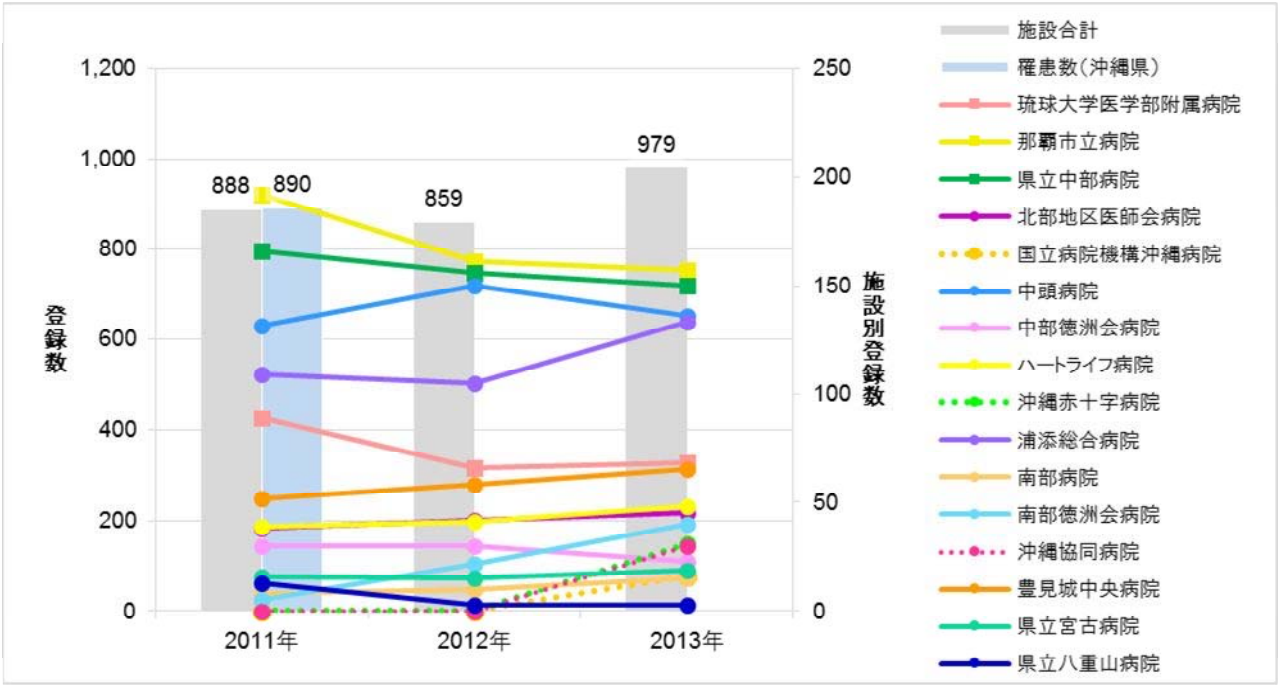
データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の乳がん登録数における腫瘍の重複はありますが、乳がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は99.8%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、110.0%（2013年）と増加傾向を認めました。

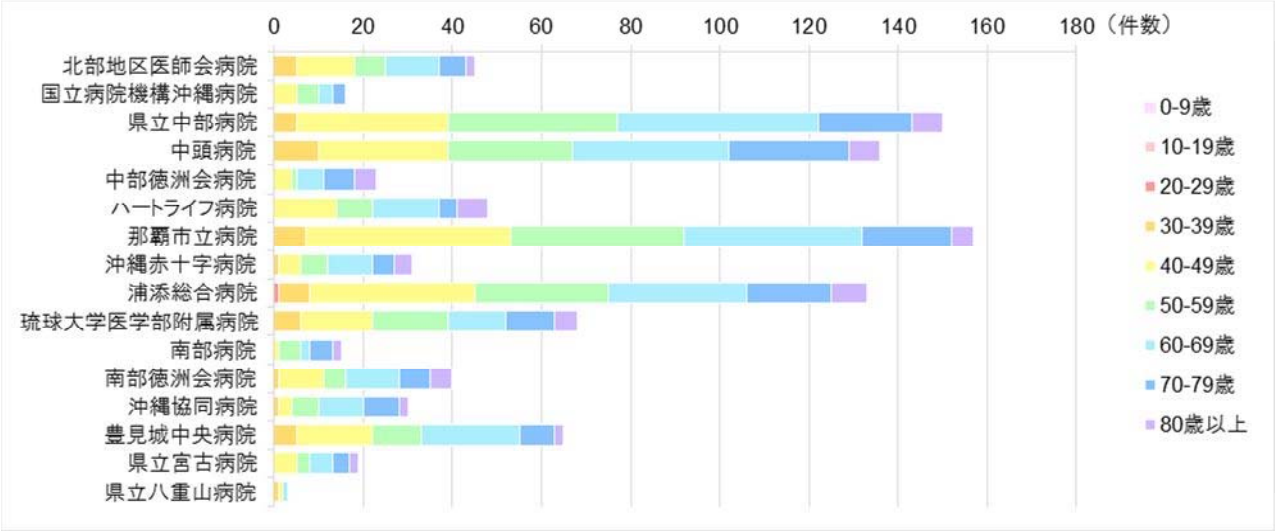
16施設の乳がん登録数は979件（2013年）で、そのうち発見経緯が「がん検診または健康診断・人間ドック」由来のものは297件（30.3%）でした。「がん検診または健康診断・人間ドック由来」では、その年齢階級別分布は40歳～49歳で28.3%、50歳～59歳で19.5%、60歳～69歳で34.7%、70歳～79歳で11.4%、80歳以上で2.4%と、16施設の乳がん登録数の年齢階級別分布（順に24.5%、21.3%、26.8%、15.8%、6.4%）と比べてより若い傾向で、また、治療前ステージ0期は70件（23.6%）、Ⅰ期は142件（47.8%）でした。

治療前ステージ別件数を施設別にみると、0期で0件～23件（件数の多い上位3施設は、浦添総合病院、中頭病院、県立中部病院、那覇市立病院）、Ⅰ期で0件～43件（中頭病院、浦添総合病院、那覇市立病院）、Ⅱ期で0件～40件（中頭病院、浦添総合病院、那覇市立病院）、Ⅲ期で0件～14件（中頭病院、浦添総合病院、沖縄赤十字病院）、Ⅳ期で0件～7件（那覇市立病院、豊見城中央病院、浦添総合病院）でした。 16施設の治療前ステージ別登録数Ⅳ期の割合（7.8%）は、全国409施設のⅣ期の割合（4.9%）と比べて、約3ポイント上回っていました。

施設別　登録数の推移

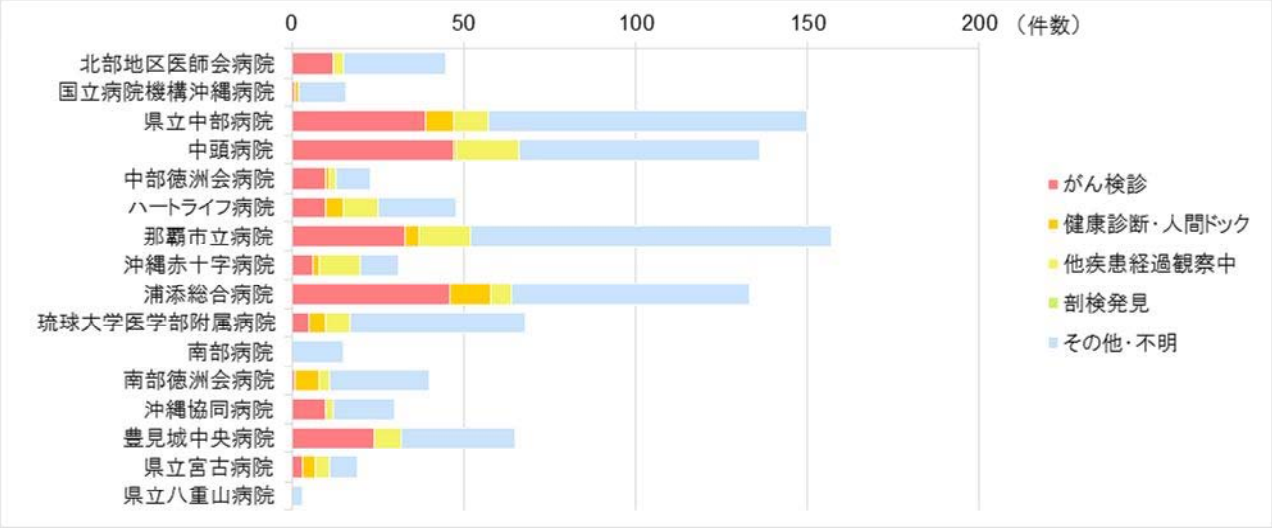


施設別　年齢階級別　登録数－2013年

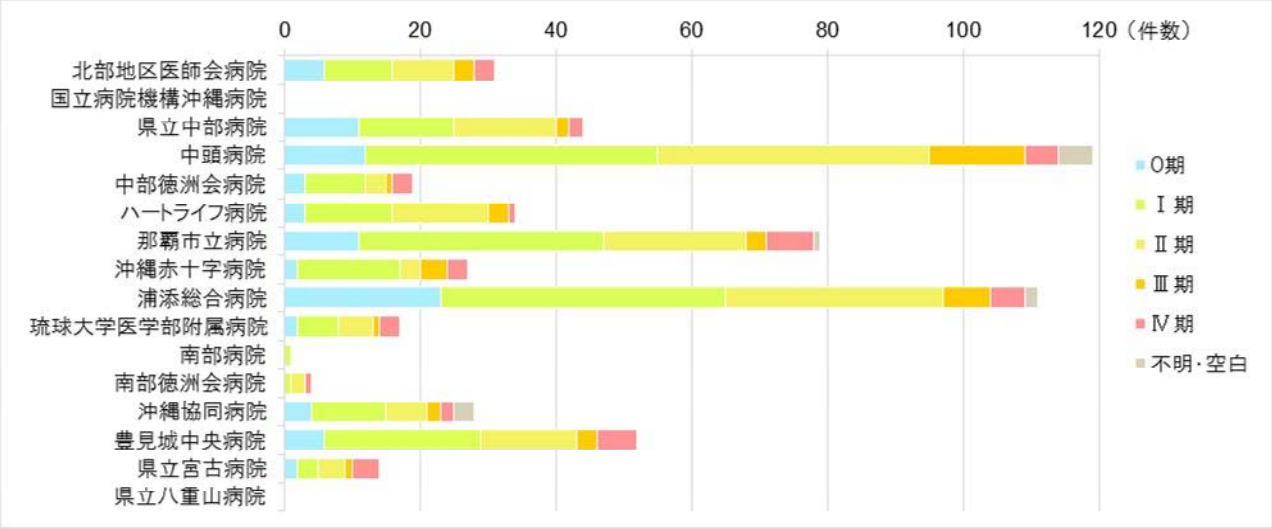


＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

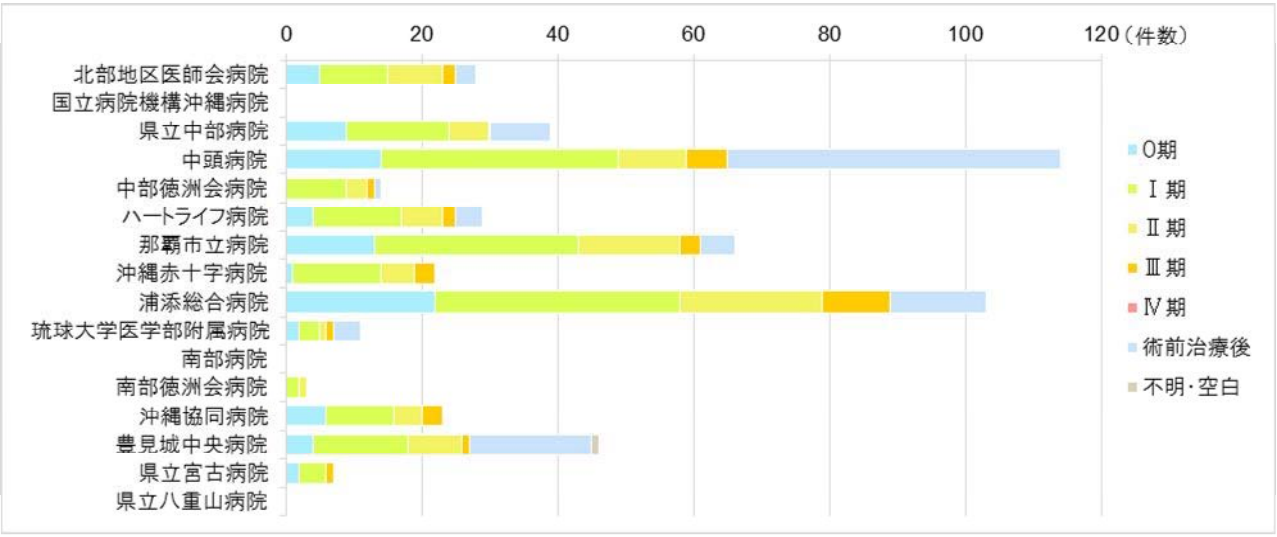
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

乳房(C50,D05)

臨床医からのコメント

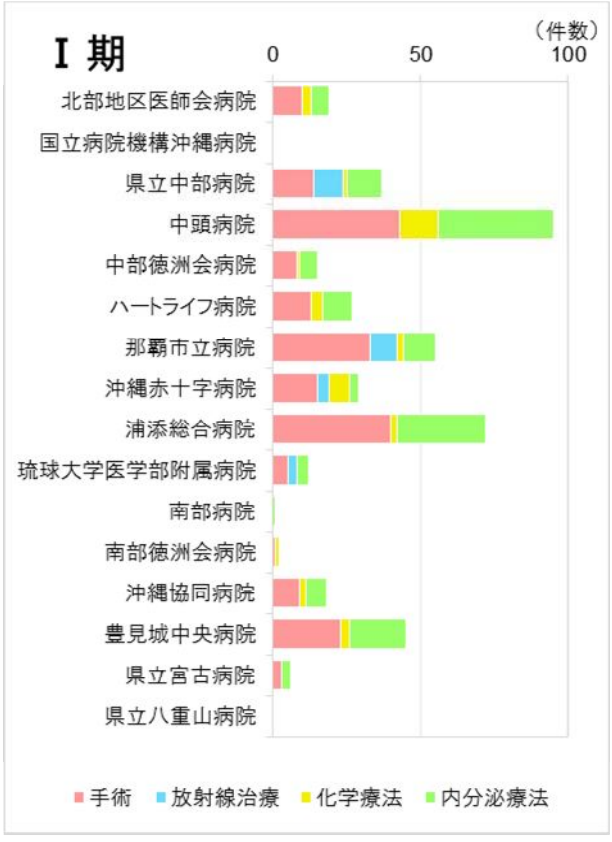
乳がんは女性のがん罹患率第1位で、罹患率、死亡率ともに増加傾向にあります。2013年の国民生活基礎調査によると沖縄県の乳がん検診受診率は41.1%で全国平均の34.2%をやや上回っていますが、欧米の受診率には遠く及びません。乳がん死亡率改善のためには今後も更なる啓蒙活動が必要と思われます。今回の院内がん登録のデータを見ても発見経緯ががん検診や人間ドックであった割合は30.3%で、全部位の15.5%より多いのですがまだ十分だとは言えません。

2013年沖縄県院内がん登録データの乳がん登録の状況を見てみると、年々登録数が増えてきてはいるものの乳がんのカバー率は65.3%と低く、その原因としては術後の放射線治療症例などの重複が多いこと（放射線治療機器を有する施設の登録数が実際の手術症例をより多く登録されている）と、県内で最も多くの症例を治療している乳腺専門クリニックが登録に参加していないことが挙げられます。2016年からは全国がん登録が始まるため、より精度の高いデータが得られるものと期待しています。

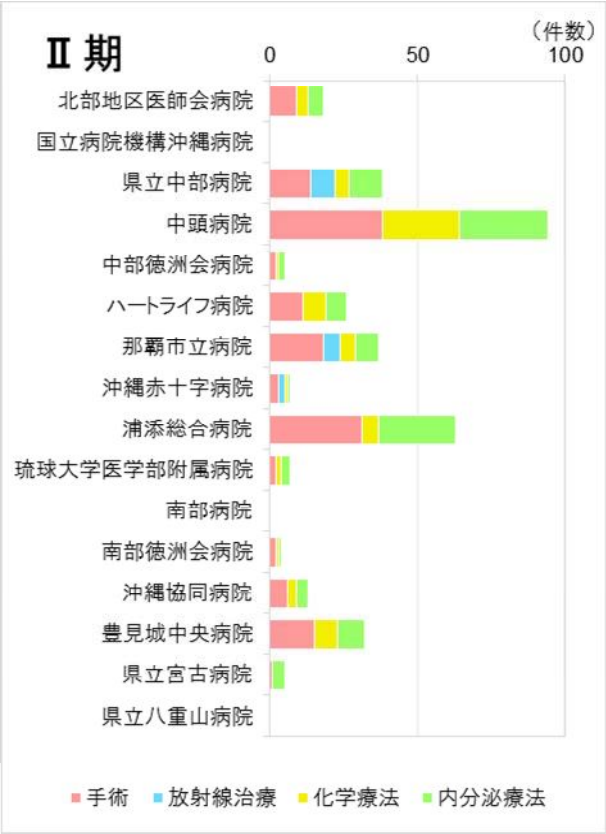
今回のデータで最も気になった点はステージ別登録でⅣ期の割合が高いことです。全国の4.9%に比べ沖縄県では7.8%で1.5倍以上となっています。初診時にⅣ期の方は乳房腫瘤を自覚しているにも関わらず、医療機関を受診することをためらっているうちに症状が進行してしまうケースが多く見受けられます。乳がん検診の啓蒙だけでなく、乳房腫瘤を自覚した場合の対応や専門医療機関などの情報提供も必要であると思われます。

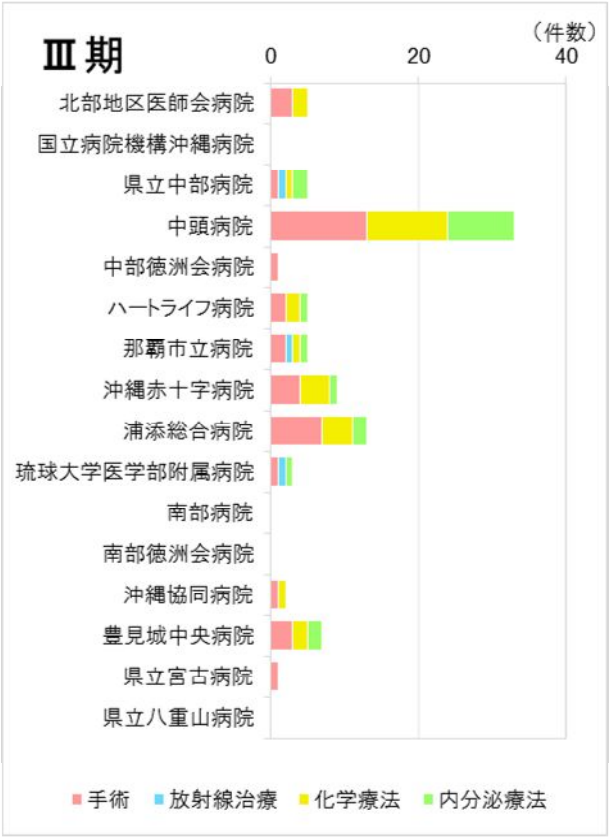
UICC　TNM分類　治療前ステージ別　治療の件数－2013年





＊上皮内がんを含めて集計
＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療・内視鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅱ期
（件数）
0
50
100
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法
内分泌療法


Ⅲ期
（件数）
0
20
40
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法
内分泌療法


Ⅳ期
（件数）
0
5
10
15
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法
内分泌療法

子宮頸部(C53,D06)

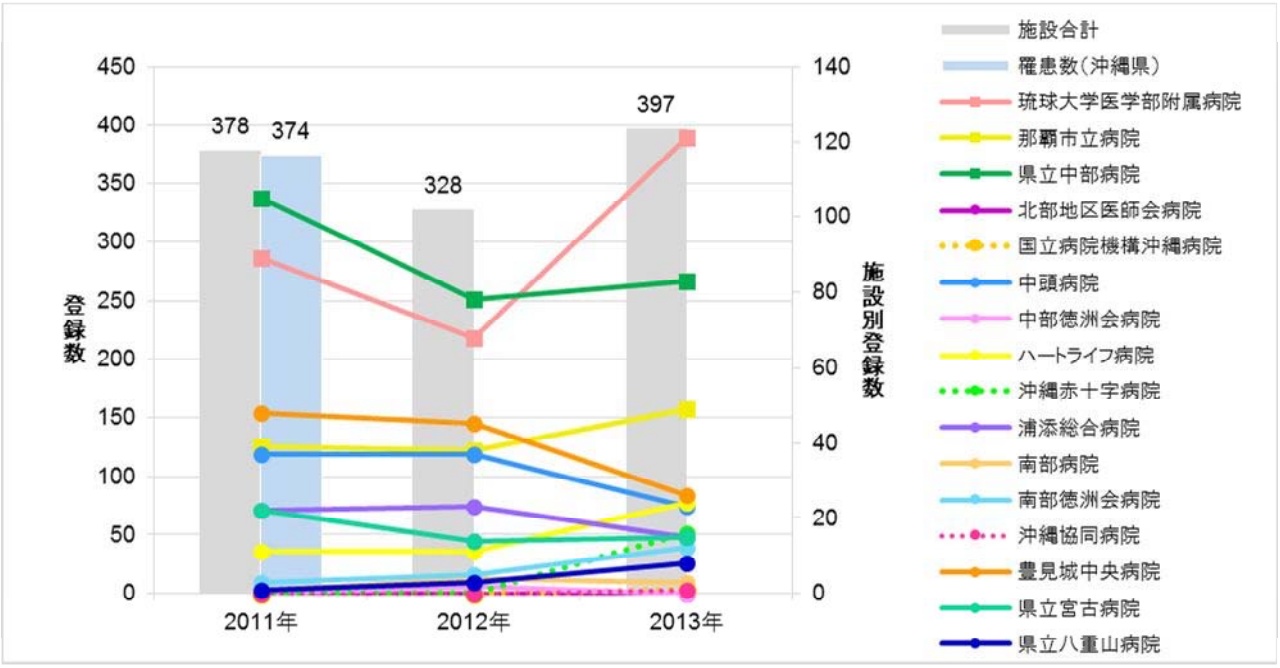
データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の子宮頸がん登録数における腫瘍の重複はありますが、子宮頸がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は101.1%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、106.1%（2013年）と増加傾向を認めました。

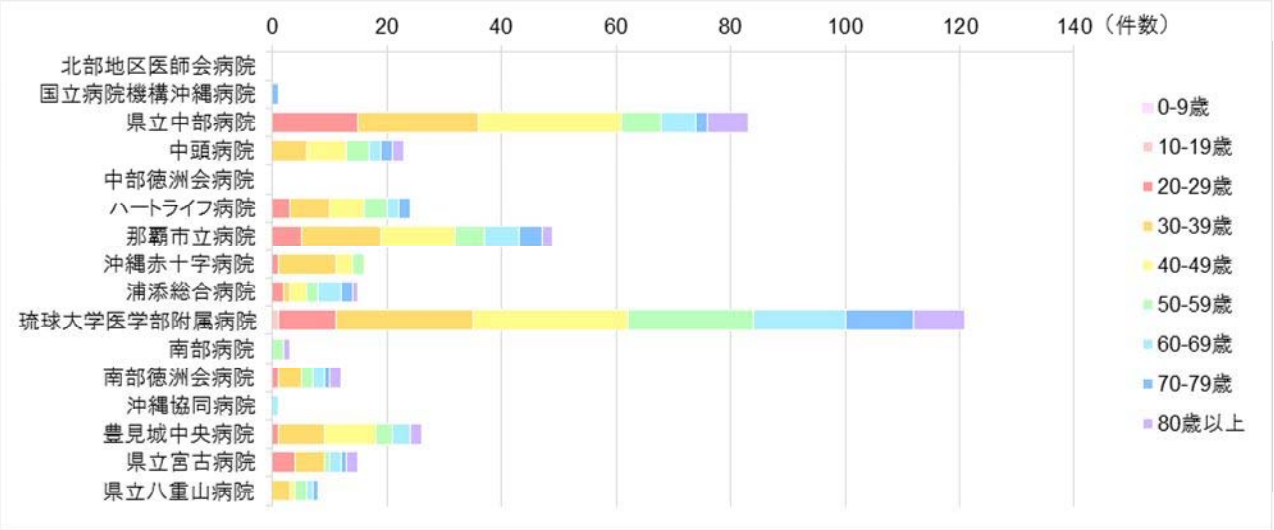
16施設の子宮頸がん登録数は397件（2013年）で、そのうち発見経緯が「がん検診または健康診断・人間ドック」由来のものは137件（34.5%）でした。「がん検診または健康診断・人間ドック」由来では、その年齢階級別分布は20歳～29歳で12.4%、30歳～39歳で29.9%、40歳～49歳で30.7%、50歳～59歳で10.9%、60歳～69歳で10.2%と、16施設の子宮頸がん登録数の年齢階級別分布（順に10.6%、25.9%、23.7%、14.1%、11.3%）と比べてより若い傾向で、また、治療前ステージ0期は115件（83.9%）、Ⅰ期は16件（11.7%）でした。

治療前ステージ別件数を施設別にみると、0期で0件～58件（件数の多い上位3施設は、県立中部病院、那覇市立病院、琉球大学医学部附属病院）、Ⅰ期で0件～34件（琉球大学医学部附属病院、県立中部病院、豊見城中央病院）、Ⅱ期で0件～10件（琉球大学医学部附属病院、県立中部病院、沖縄赤十字病院、浦添総合病院）、Ⅲ期で0件～18件（琉球大学医学部附属病院、県立中部病院、県立宮古病院）、Ⅳ期で0件～18件（琉球大学医学部附属病院、県立中部病院、那覇市立病院）でした。16施設の治療前ステージ別登録数Ⅳ期の割合（8.6%）は、全国409施設のⅣ期の割合（2.5%）と比べて、6ポイント上回っていました。

施設別　登録数の推移

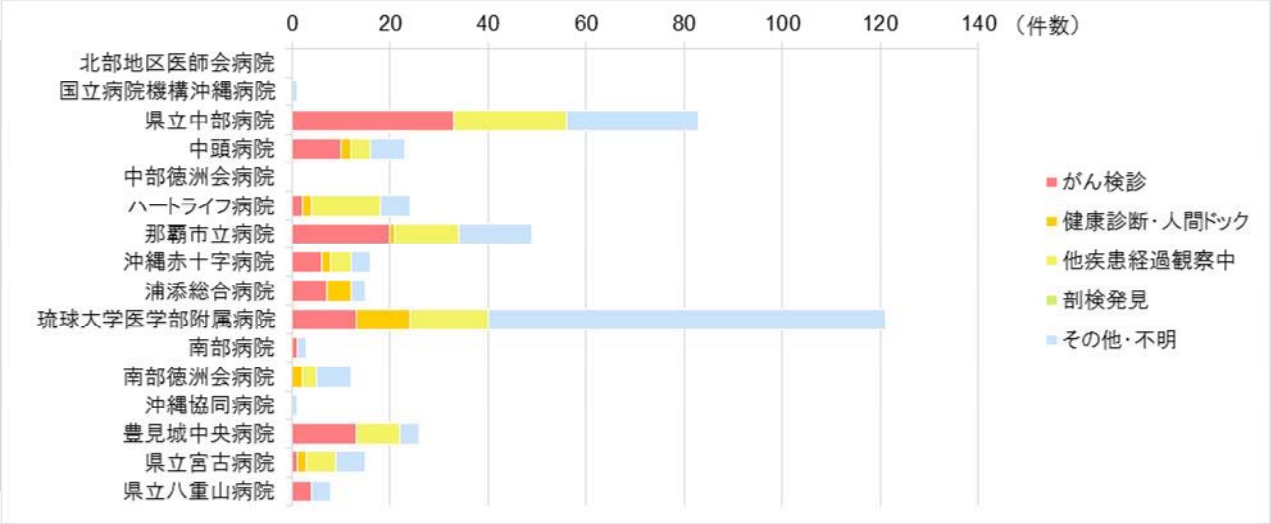


施設別　年齢階級別　登録数－2013年

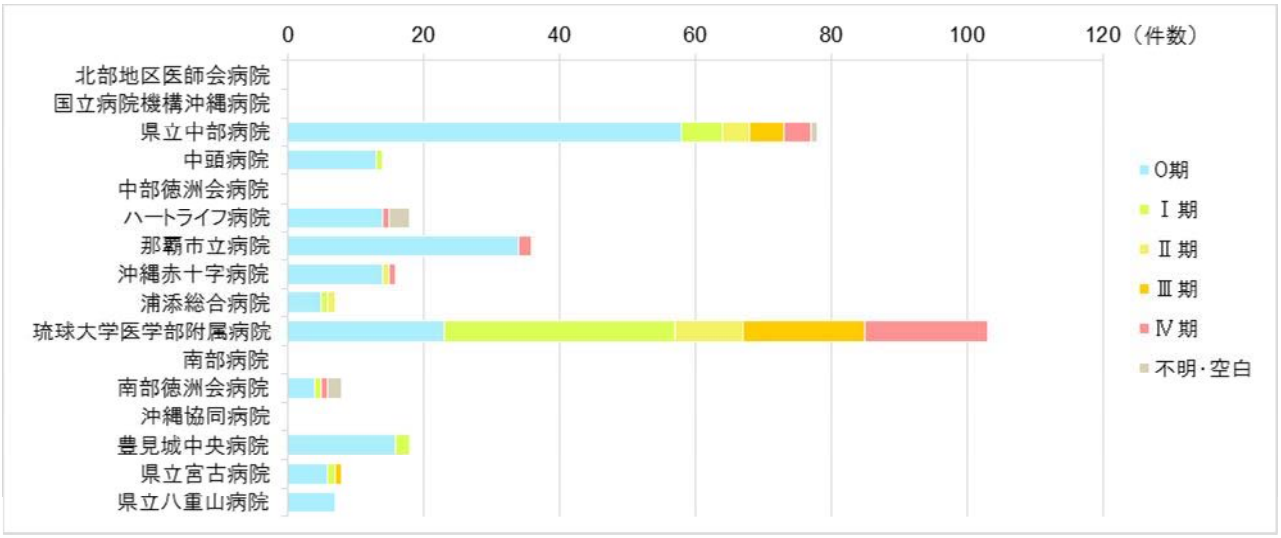


＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

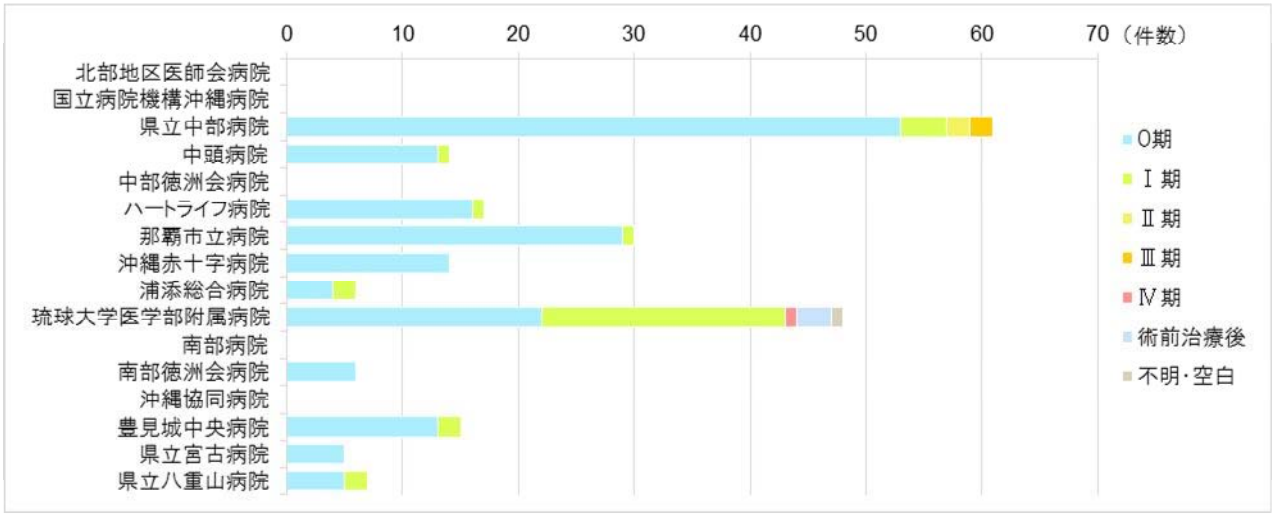
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

子宮頸部（C53,D06）

臨床医からのコメント

婦人科がんの登録は、日本産科婦人科学会の婦人科悪性腫瘍登録（全国主要施設の初回治療症例）と県内では琉球大学産婦人科で集計している沖縄県婦人科悪性腫瘍登録（県内55施設の初回治療症例）もあるので、これらも参考にコメントします。

沖縄県院内がん登録2013年の治療前ステージ別登録数では上皮内がんが194件、浸潤がんが113件登録されています。沖縄県婦人科悪性腫瘍登録2013年ではCINⅢ（上皮内がん）が281件、浸潤がんが103件、婦人科悪性腫瘍登録2013年ではCINⅢ13,885件、浸潤がん7,280件であり、全国に比べ県内で浸潤がんに対するCINⅢ症例が多い傾向となっています。上皮内がんは県内多数箇所の病院で治療されていますが、浸潤がんは約8割が琉球大学医学部附属病院で治療されています。進行病期分類は、沖縄県院内がん登録治療前ステージ（上皮内を除く）ではⅠ期41%、Ⅱ期 14%、Ⅲ期21%、Ⅳ期24%ですが、沖縄県婦人科悪性腫瘍登録では、それぞれ60%、15%、17%、9%、婦人科悪性腫瘍登録ではそれぞれ57%、23%、9.8%、10.2%と、治療症例では県内で若干Ⅱ期が少なく、Ⅲ期が多い傾向にあります。沖縄県院内がん登録治療前ステージ（上皮内を除く）ではⅣ期が24%と多いが未治療は2件となっており、他の登録との違いは十分説明つかないが、同じ患者が複数の病院で登録された可能性もありえます。

治療法は沖縄県院内がん登録（上皮内がん含む）では治療され301件中219件（72.7%）で手術を受けており、婦人科悪性腫瘍登録（浸潤がんのみ）では約65%が手術を受けています。沖縄県院内がん登録ではⅡ期症例に手術はほとんど行われていないが、婦人科悪性腫瘍登録ではⅡ期の11%強に手術が行われており、県内ではⅡ期より進行した例には放射線治療が主体と推察されます。

婦人科腫瘍専門医は2015年5月で全国720名、沖縄県内に8名おり、琉球大学医学部附属病院には2名で、子宮頚がん（浸潤がん）の治療は県内ではかなり集約化されているが専門医は分散しているといえます。

UICC　TNM分類　治療前ステージ別　治療の件数－2013年





＊上皮内がんを含めて集計
＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療・内視鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅱ期
（件数）
0
10
20
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法


Ⅲ期
（件数）
0
20
40
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法


Ⅳ期
（件数）
0
10
20
30
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法

子宮体部(C54)

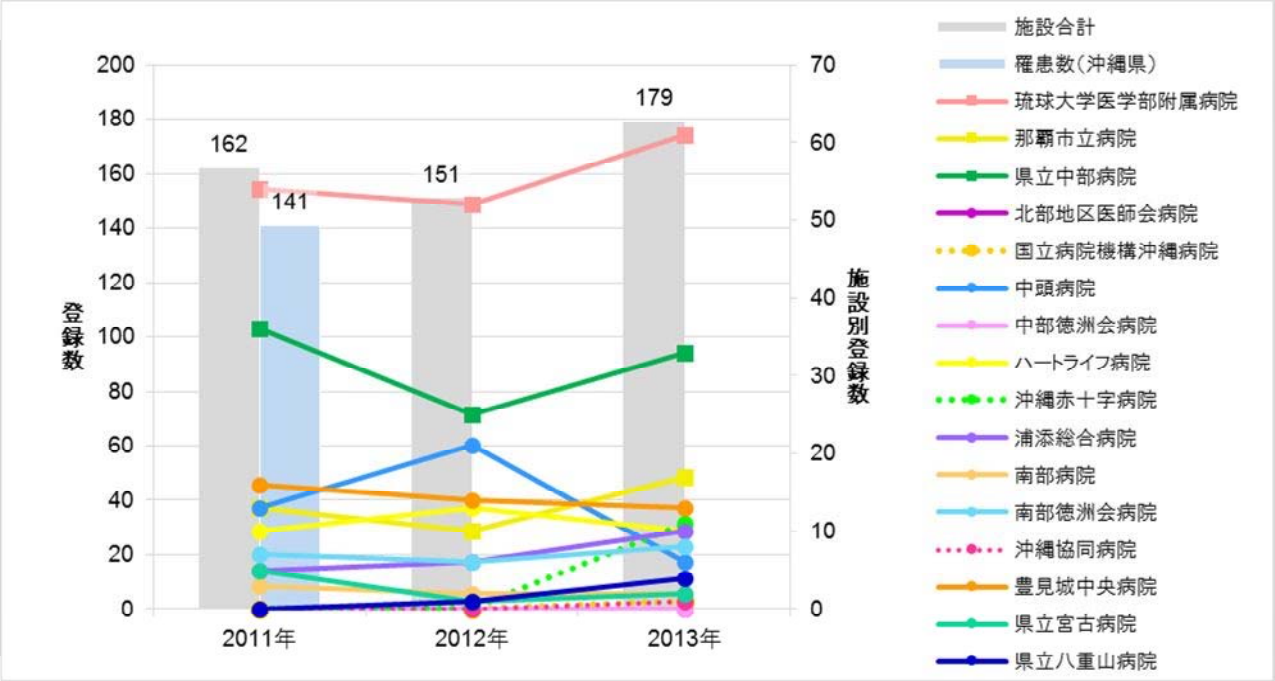
データをみると

全登数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の子宮体がん登録数における録数から「症例腫瘍の重複はありますが、子宮体がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は114.9%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、127.0%（2013年）と増加傾向を認めました。

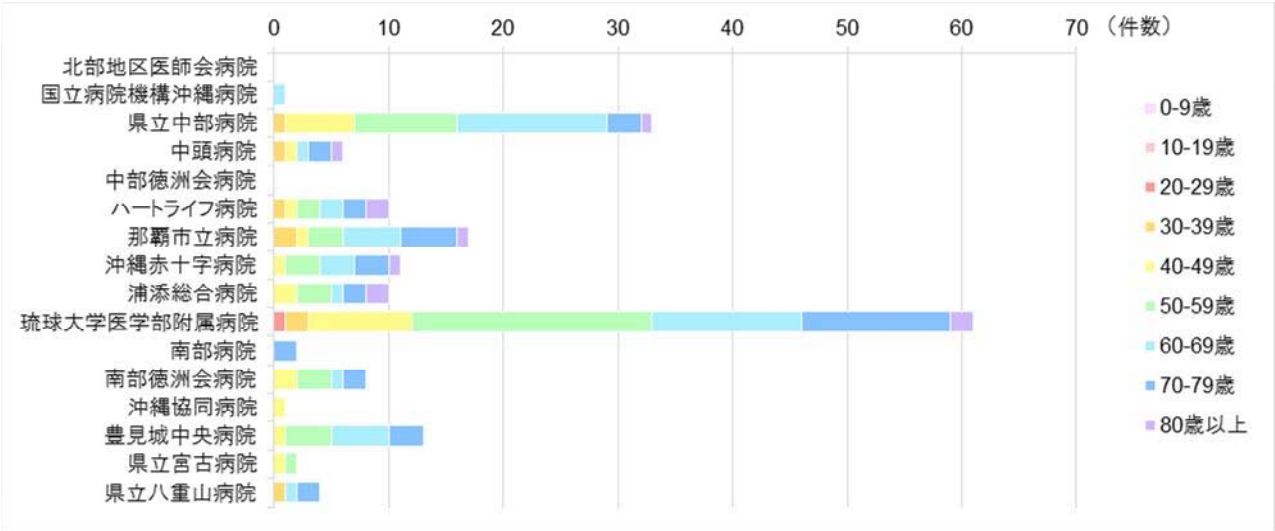
16施設の子宮体がん登録数は179件（2013年）で、その年齢階級別分布は 40歳～49歳で14.5%、50歳～59歳で27.4%、60歳～69歳で25.7%、70歳～79歳で21.8%と、子宮体がん罹患数の当該年齢階級別割合（順に19.9%、30.5%、19.1%、12.8%）と比べて、より高齢の傾向でした。

治療前ステージ別件数を施設別にみると、Ⅰ期で0件～36件（件数の多い上位3施設は、琉球大学医学部附属病院、県立中部病院、豊見城中央病院）、Ⅱ期で0件～2件（県立中部病院、中頭病院、那覇市立病院）、Ⅲ期で0件～3件（琉球大学医学部附属病院、県立中部病院、南部徳洲会病院、豊見城中央病院）、Ⅳ期で0件～6件（琉球大学医学部附属病院、那覇市立病院、県立中部病院、沖縄赤十字病院）でした。16施設の治療前ステージ別登録数Ⅳ期の割合（11.2%）は、全国409施設のⅣ期の割合（6.5%）と比べて、約5ポイント上回っていました。

施設別　登録数の推移

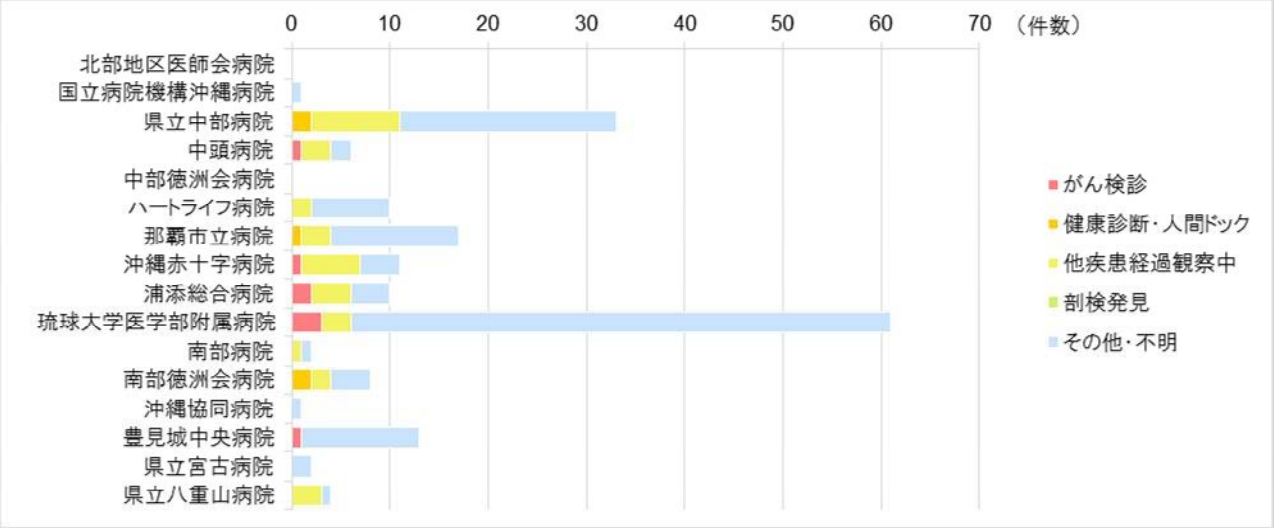


施設別　年齢階級別　登録数－2013年

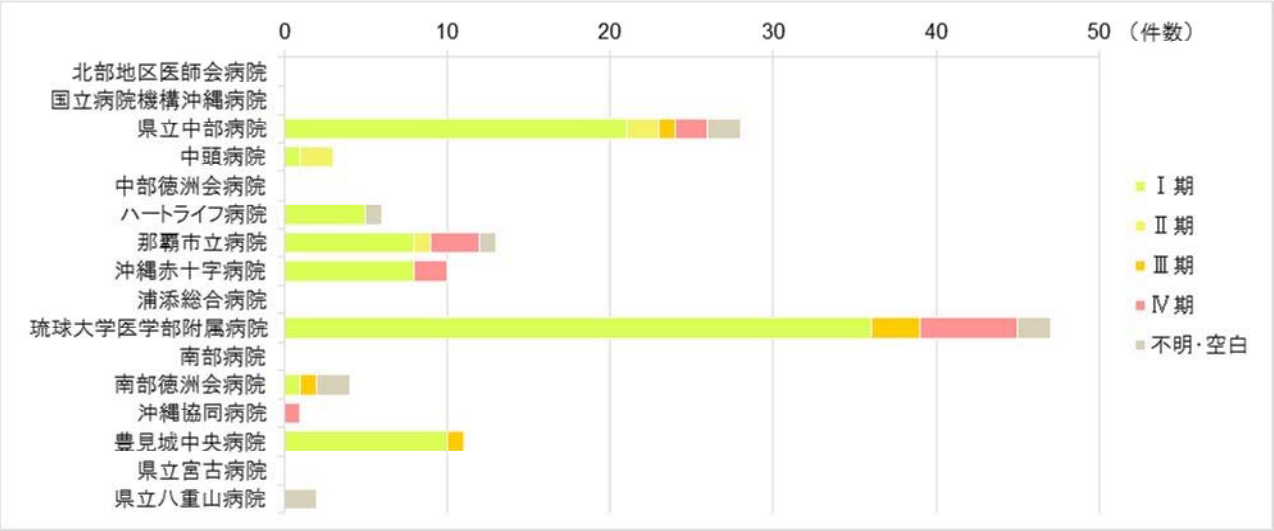


＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

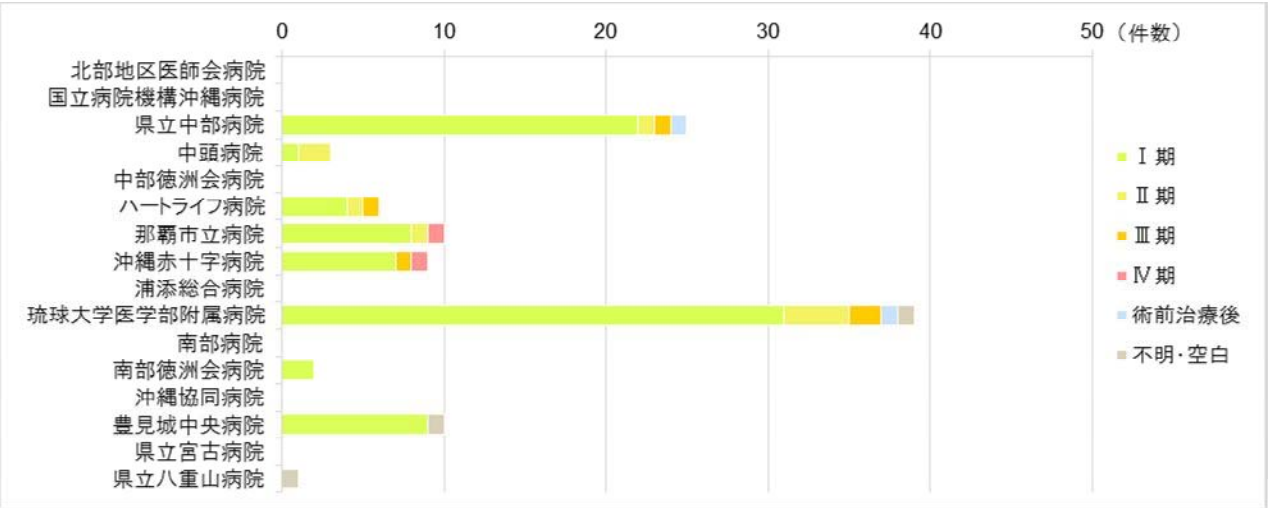
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

子宮体部(C54)

臨床医からのコメント

発見経緯別登録数をみると、子宮体がんの発見経緯は「その他・不明」と「他疾患の経過観察中」両者で92.5%と圧倒的でした。院内がん登録では症状があり病院を受診した場合は「その他・不明」に分類されます。実際に不正性器出血があり、産婦人科を受診していると思いますが、「子宮体がんは検診よりも症状受診が大切」を確認でき、素晴らしいと思います。

年齢階級別の子宮体がん発生は、50代・60代で過半数を占め、40歳以下の若年体癌は約5%であり、全国統計と同様です。進行期は、早期に発見されることが多い子宮体がんの特徴を表し、Ⅰ期（子宮体部限局）が75%と圧倒的多数です。Ⅲ期症例（リンパ節転移陽性例）が5.0%（全国的には15%前後）と少ないことは、施設におけるリンパ節郭清の程度が影響していることも推察されます。また、Ⅳ期（遠隔転移あり）症例が11.7%（全国統計では6～7%）と多いことは、一部ではありますが症状が出てもなかなか産婦人科を受診しない方もいるためと思われます。

治療については、Ⅰ～Ⅲ期症例に対しては手術療法が主治療であり、補助療法として抗がん剤療法、または放射線療法が行われ、Ⅳ期（遠隔転移）症例に対しては抗がん剤治療や緩和医療が実施されていました。これは子宮体がん治療ガイドラインに則した治療であり、施設間のばらつきも見られず素晴らしいことだと考えられます。

今後、更に精度の向上がなされ、沖縄県の「がん」の実態が精度高く提示され、その診断と治療の向上に貢献されることを多いに期待します。

UICC　TNM分類　治療前ステージ別　治療の件数－2013年





＊UICC TNM分類で子宮体がんには0期（上皮内がん）もあるが、診断例、治療例がないためグラフ提示はしない
＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療・内視鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅲ期
（件数）
0
2
4
6
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法


Ⅳ期
（件数）
0
2
4
6
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法

前立腺(C61)

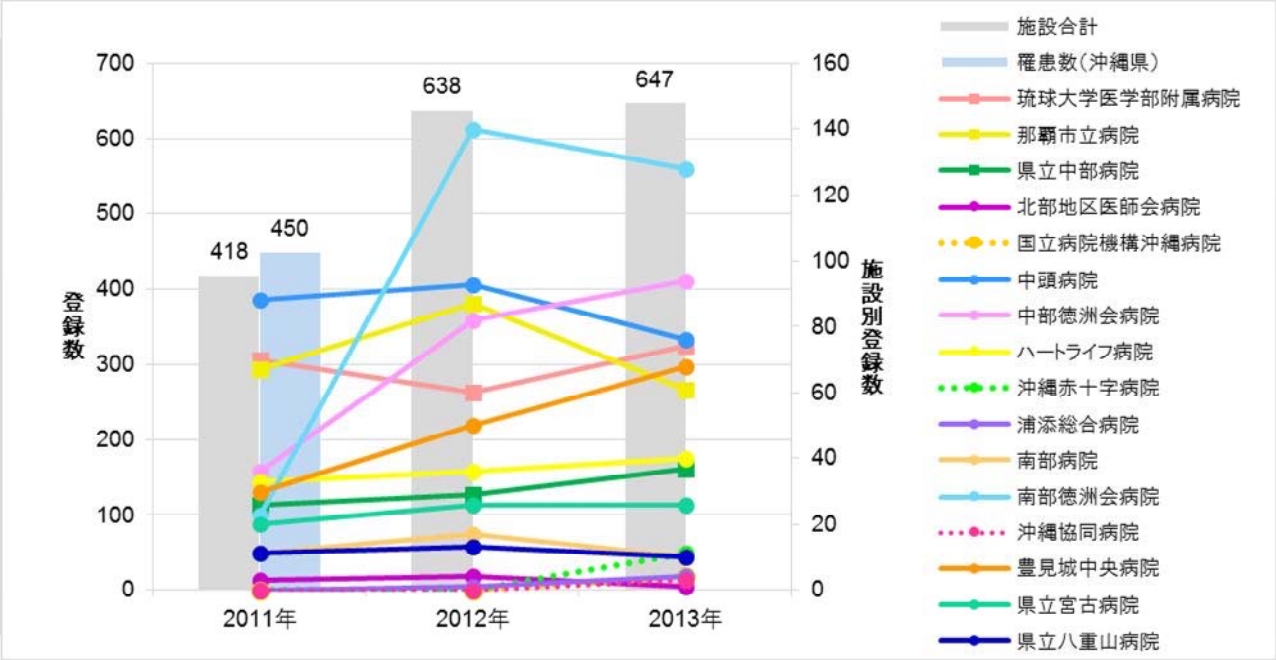
データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の前立腺がん登録数における腫瘍の重複はありますが、前立腺がん登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は92.9%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度向上に伴い、143.8%（2013年）と増加傾向を認めました。

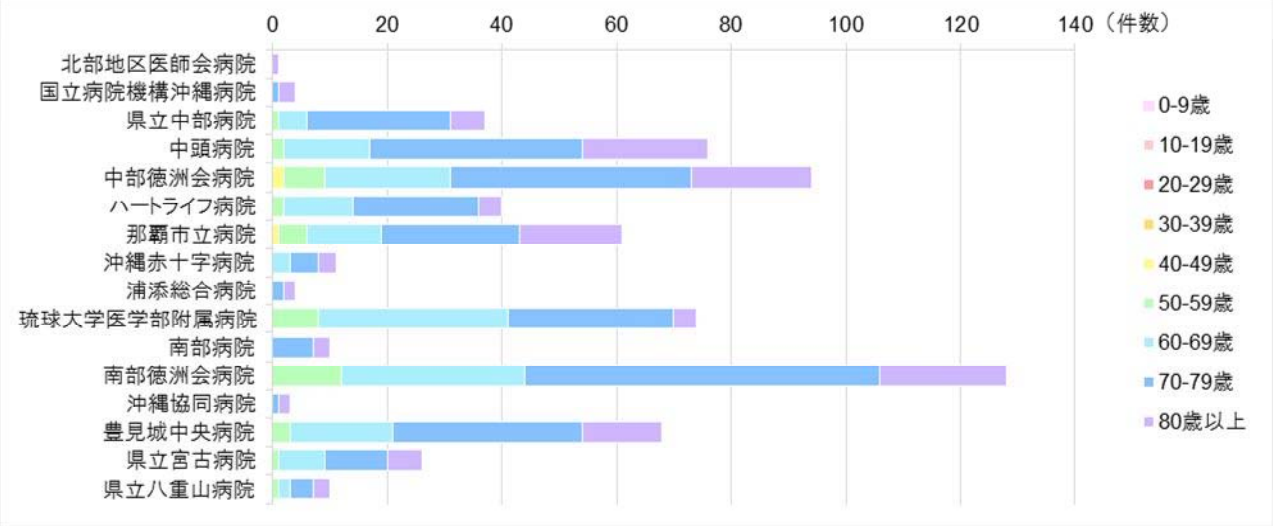
16施設の前立腺がん登録数は647件（2013年）で、その年齢階級別分布は50歳～59歳で6.5%、60歳～69歳で25.2%、70歳～79歳では47.1%、80歳以上では20.7%と、前立腺がん罹患数の当該年齢階級別割合（順に4.0%、23.8%、45.6%、26.2%）とほぼ同程度でした。

治療前ステージ別件数を施設別にみると、Ⅰ期で0件～40件（割合の大きい上位3施設は、中部徳洲会病院、琉球大学医学部附属病院、豊見城中央病院）、Ⅱ期で0件～18件（中頭病院、琉球大学医学部附属病院、県立宮古病院）、Ⅲ期で0件～15件（中部徳洲会病院、琉球大学医学部附属病院、中頭病院）、Ⅳ期で0件～22件（中部徳洲会病院、中頭病院、那覇市立病院）でした。16施設の治療前ステージ別登録数Ⅳ期の割合（23.6%）は、全国409施設のⅣ期の割合（13.6%）と比べて、10ポイント上回っていました。

施設別　登録数の推移

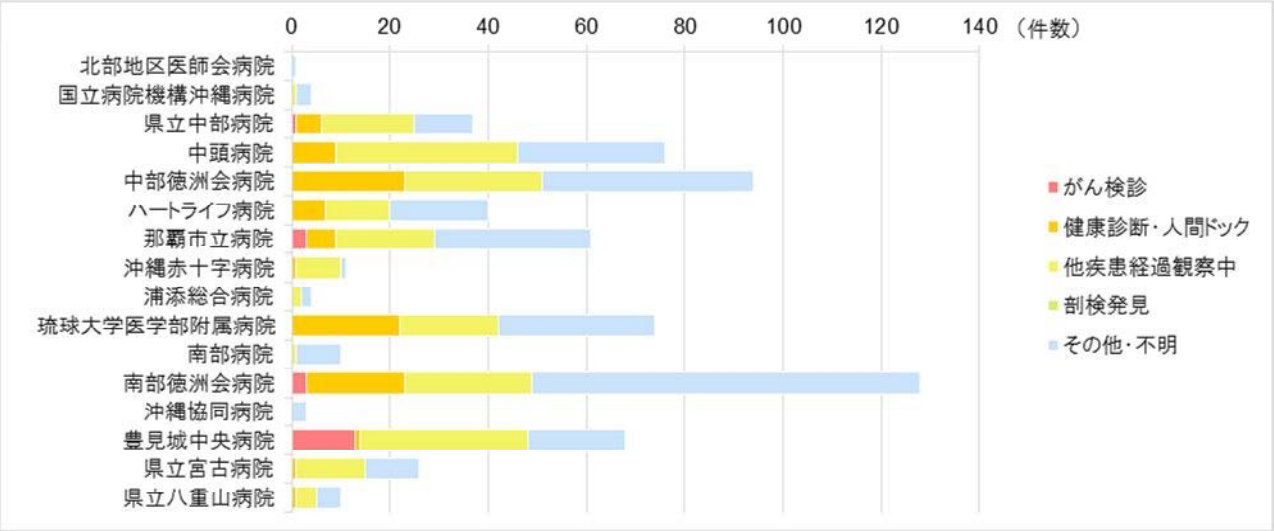


施設別　年齢階級別　登録数－2013年

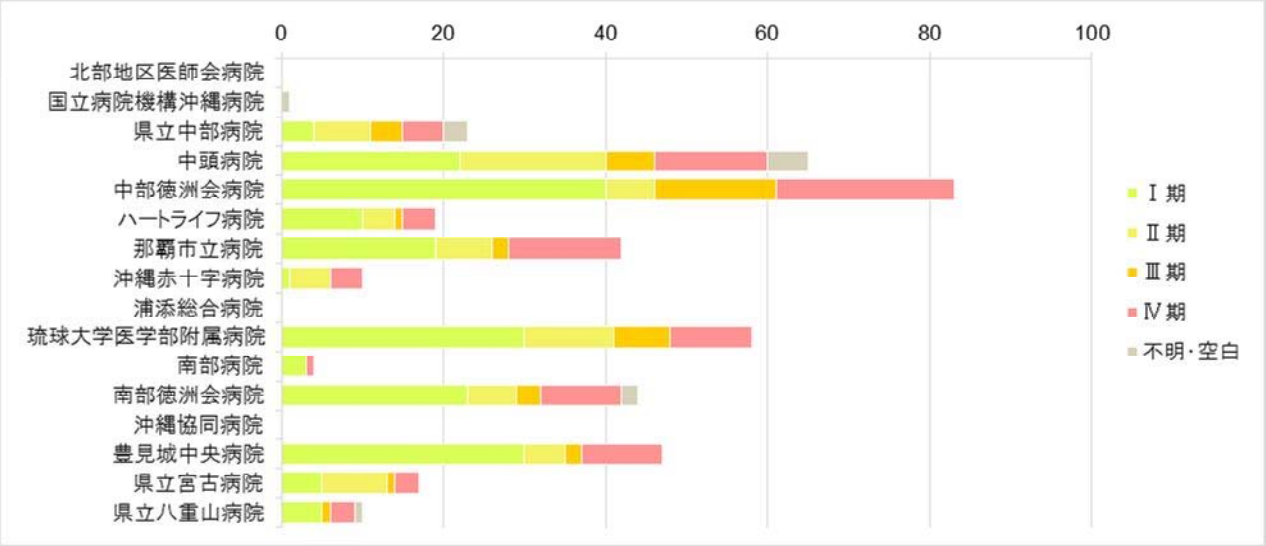


＊症例区分「８：その他」を除いて集計

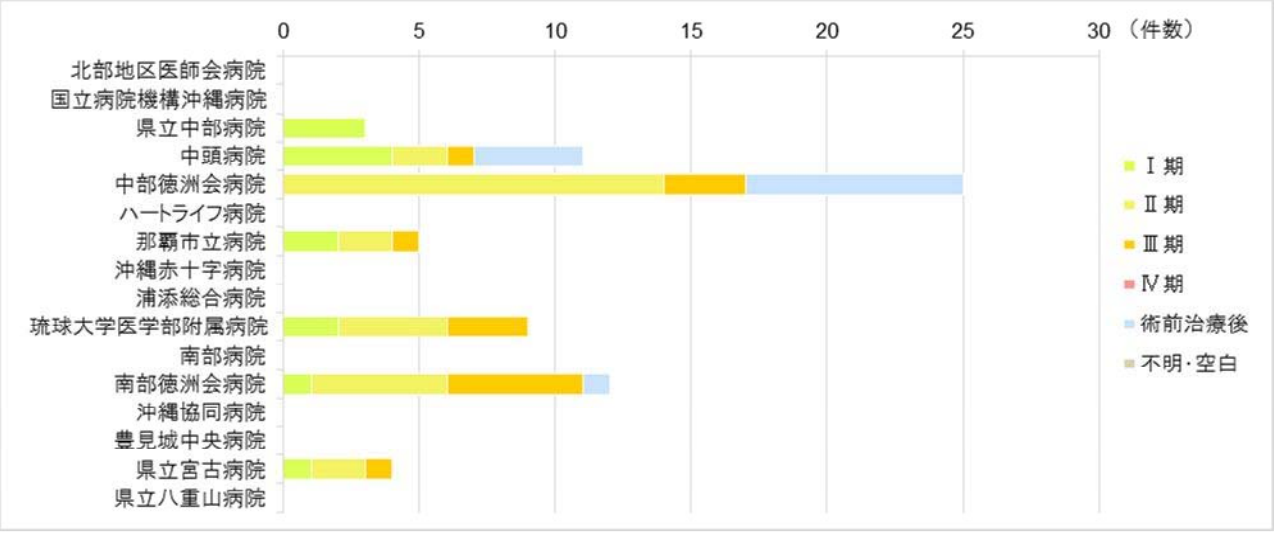
施設別　発見経緯別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療前ステージ別　登録数－2013年



施設別　UICC TNM分類　治療後ステージ別　登録数－2013年



＊発見経緯別登録数は、症例区分「８：その他」を除いて集計
＊UICC TNM分類 治療前・治療後ステージ別登録数は、症例区分「２：自施設診断・自施設治療」「３：他施設診断・自施設治療」のみ集計

前立腺(C61)

臨床医からのコメント

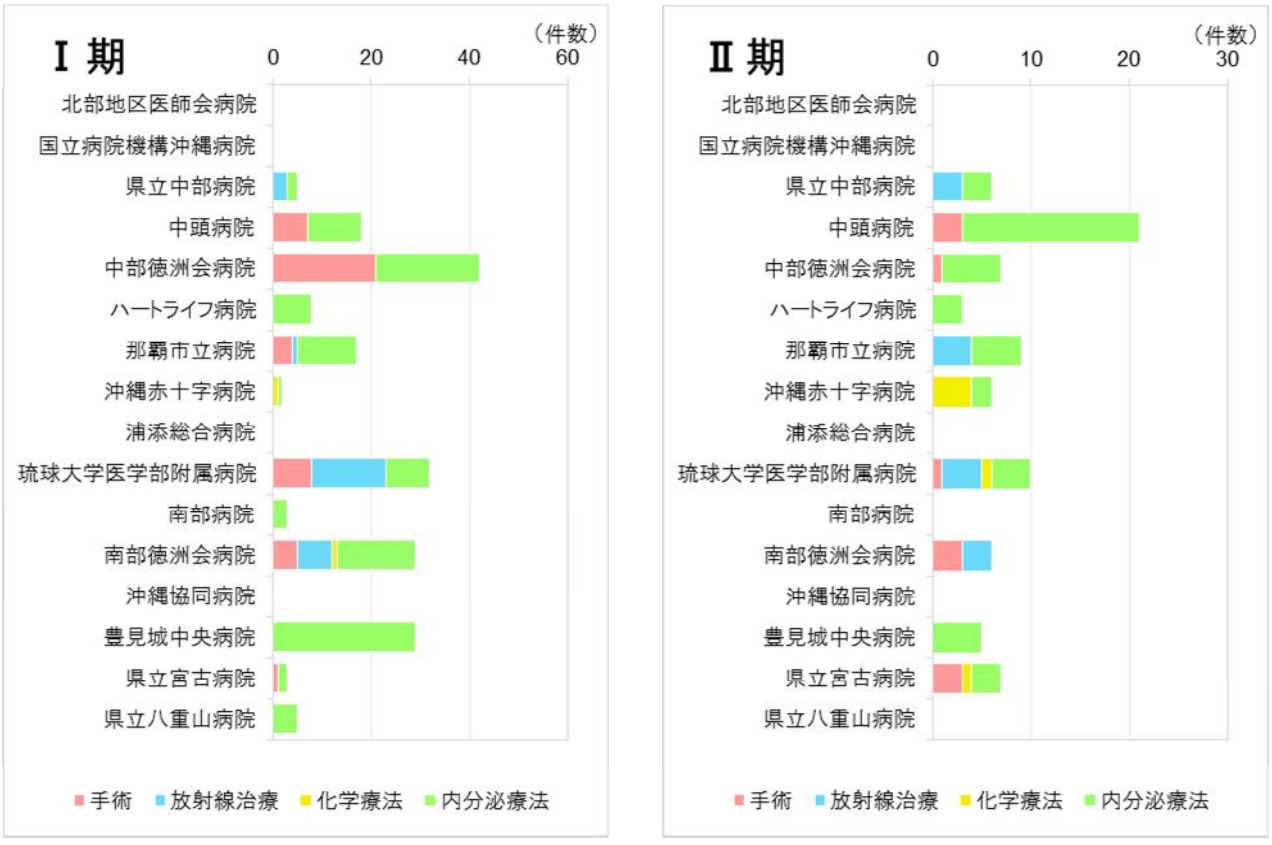
2015年の本邦のがん罹患率予想では、前立腺がんは、胃がん・肺がんを抜いて男性がんの罹患率で1位となる事が予想され、現在最も注目されているがんの1つです。今回の沖縄県院内がん登録データの各医療施設で登録・集計された前立腺がんの症例数も、年毎に増加しているのがわかります。本邦における前立腺がんの急増は、食生活等の欧米化などが原因とされ（米国、西ヨーロッパ、オーストラリアなど先進国での年齢調整がん罹患率は前立腺がんが1位）、さらに発見の経緯別では、がん検診、健診・人間ドック、そして他疾患の経過観察中に発見された、いわゆる無症候性の早期前立腺がん（ⅠおよびⅡ期）が増えています。これには前立腺腫瘍マーカー検査（PSA検査）の普及が大きく貢献していると考えます。

前立腺がんに対する治療としては、Ⅰ、Ⅱ期の早期がんに対しては手術、放射線療法が主に行われますが、前立腺がんは他のがん種に比べ比較的緩徐に進行するため、がんの進展リスクや患者さんの状態によっては、無治療経過観察を選択することもあります。

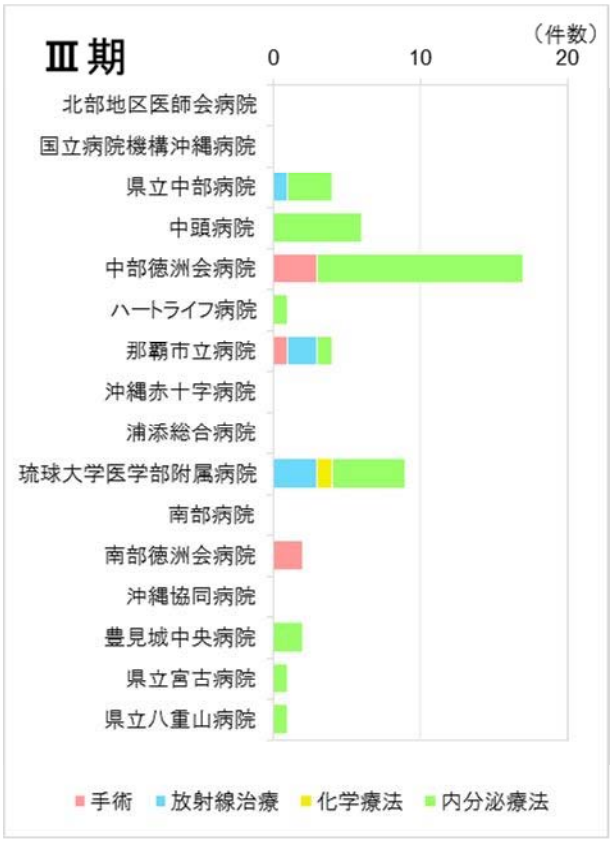
一方、転移を有する場合にはホルモン療法や化学療法が行なわれます。2013年院内がん登録データによる前立腺がんの登録数が50例以上となっている県内の6施設は、いずれも早期前立腺がんに対する根治的治療として手術（開腹、腹腔鏡下、ロボット補助下腹腔鏡下）や放射線療法（外照射、密封小線源療法）等を積極的に行っている施設で、前立腺がん患者が集中しております。内訳は中部地区では中頭病院と中部徳洲会病院、宜野湾・浦添・那覇地区では琉球大学附属病院と那覇市立病院、そして南部地区では南部徳洲会病院と豊見城中央病院と沖縄県の人口分布に応じて、治療施設と患者が均等に分散しているようにも読み取れます。

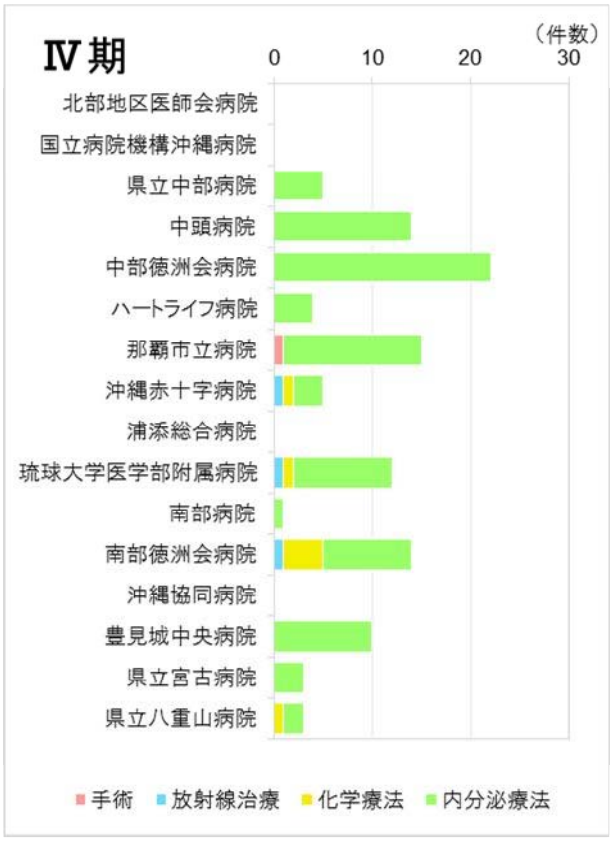
一方、北部、宮古および八重山地区の県立病院では、常勤の泌尿器科専門医が一人しかいないこと、かつIMRT（強度変調放射線治療）等の放射線治療装置も完備されていないため、これら医療圏の早期前立腺がんの患者は主に上記の6施設に紹介され、治療後に経過をフォローされているものと考えます。

UICC　TNM分類　治療前ステージ別　治療の件数－2013年



＊手術は、外科的治療・体腔鏡的治療・内視鏡的治療を合わせて集計
＊外科的治療・体腔鏡治療・内視鏡的治療は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（手術と化学療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照


Ⅲ期
（件数）
0
10
20
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法
内分泌療法


Ⅳ期
（件数）
0
10
20
30
北部地区医師会病院
国立病院機構沖縄病院
県立中部病院
中頭病院
中部徳洲会病院
ハートライフ病院
那覇市立病院
沖縄赤十字病院
浦添総合病院
琉球大学医学部附属病院
南部病院
南部徳洲会病院
沖縄協同病院
豊見城中央病院
県立宮古病院
県立八重山病院
手術
放射線治療
化学療法
内分泌療法

血液腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、他の造血器腫瘍）

データをみると

全登録数から「症例区分8：その他」（セカンドオピニオンなど）を除いた登録数を観察しました。16施設の血液腫瘍登録数における腫瘍の重複はありますが、血液腫瘍登録数がその罹患数（沖縄県、2011年）に占める割合は93.1%（2011年登録数）で、院内がん登録の精度の向上伴い、111.3%（2013年）と増加傾向を認めました。

施設別の血液腫瘍登録数は582件（2013年）で、6施設における患者の集約化傾向を認めました。その年齢階級別分布は0歳～9歳で0.5%、 10歳～19歳で0.9%、 20歳～29歳で0.9%、 30歳～39歳で3.6%、40歳～49歳で7.2%、 50歳～59歳で13.2%、60歳～69歳で19.8%、70歳～79歳で28.7%、80歳以上で25.3%と、小児（15歳未満）及びAYA世代（15～29歳）でもある一定の割合が観察されました。

詳細疾患別にみると、登録数の多い順に悪性リンパ腫（271件、46.6%）、白血病（100件、17.2%）、成人T細胞白血病／リンパ腫（98件、16.8%）でした。

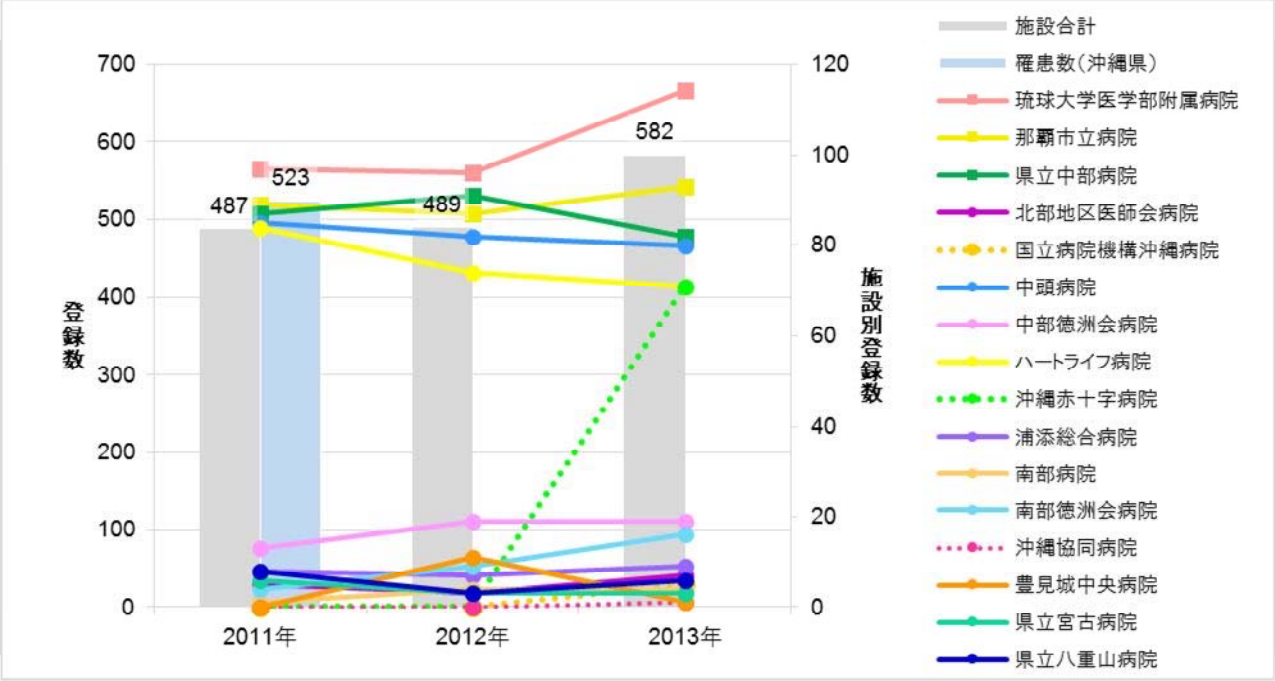
臨床医からのコメント

患者数が際立って多い6施設は、いずれも血液専門医ないし、それに準ずる複数の医師による診療が行われている施設です（2013年当時）。沖縄県では、血液腫瘍の患者さんのほとんどが専門医の診療を受けていることが分かります。血液腫瘍は、他施設から紹介される傾向が高いのですが、県内の医療機関は、血液専門医の勤務先等の情報を把握できているため、専門医のいる施設への紹介がきちんと行われ、結果的にほとんどの血液腫瘍の患者さんが、専門家のいる施設で治療を受けることにつながったと考えられます。

年齢階級別では、小児およびAYA世代に関して、県内では琉球大学医学部附属病院小児科が中心となって診療を行っているため、当該施設の登録数がとても多くなっています。

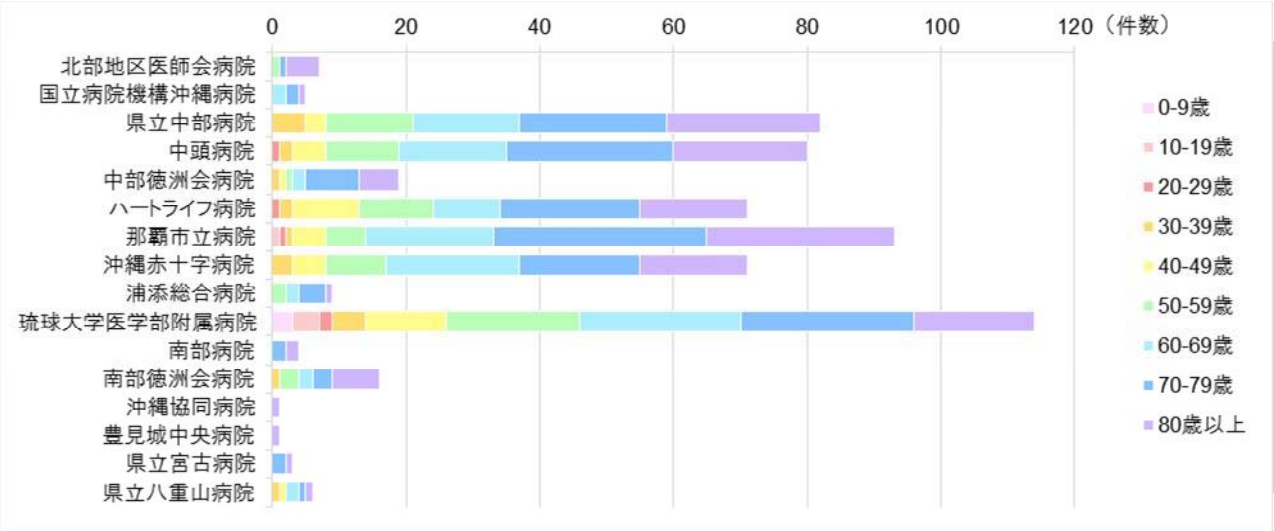
詳細疾患別では、九州地区に多い成人T細胞白血病／リンパ腫（ATL）が突出して多いことがわかります。

施設別　登録数の推移



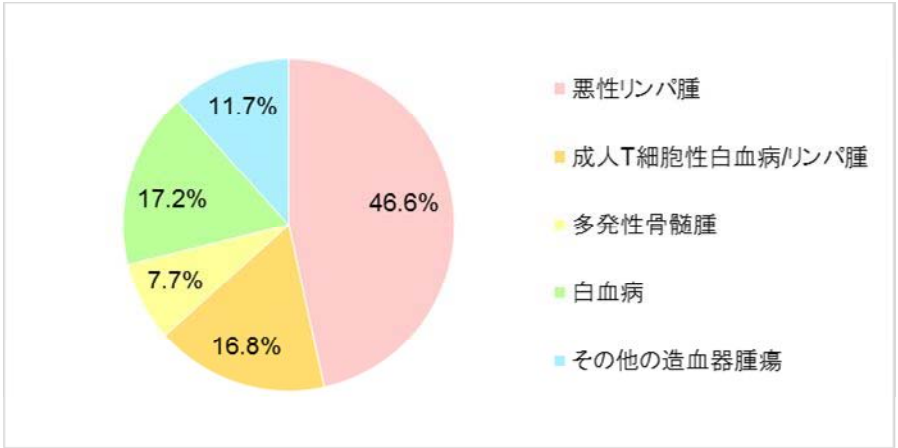
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

施設別　年齢階級別　登録数－2013年



腫瘍別　詳細疾患別（形態別）　登録数－2013年

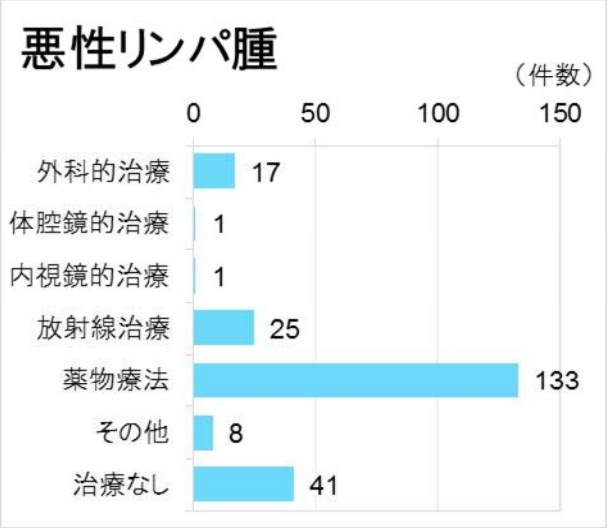
			節性	節外性	件数	
悪性リンパ腫	成熟B細胞リンパ腫	びまん性大細胞性B細胞型リンパ腫	59	54	113	(19.4%)
		ろ胞性リンパ腫	24	6	30	(5.2%)
		辺縁層B細胞リンパ腫（MALT含む）	<5	26	30	(5.2%)
		マントル細胞リンパ腫	7	<5	8	(1.4%)
		成熟B細胞リンパ腫　他	<5	0	<5	-
	成熟T細胞		14	21	35	(6.0%)
	NK細胞リンパ腫		0	<5	<5	-
	ホジキンリンパ腫		22	<5	25	(4.3%)
	悪性リンパ腫　他		14	14	28	(4.8%)
成人T細胞性白血病/リンパ腫			41	57	98	(16.8%)
多発性骨髄腫			45			(7.7%)
白血病		慢性骨髄性白血病	17			(2.9%)
		急性骨髄性白血病	60			(10.3%)
		慢性リンパ性白血病	<5			-
		急性リンパ性白血病	12			(2.1%)
		白血病　他	9			(1.5%)
その他の造血器腫瘍	骨髄増殖性疾患	真性赤血球増加症	5			(0.9%)
		本態性血小板血症	8			(1.4%)
		骨髄線維症	<5			-
		骨髄増殖性疾患　他	<5			-
	骨髄異形成症候群		32			(5.5%)
	他の造血器腫瘍　他		17			(2.9%)
合計			582			(100.0%)



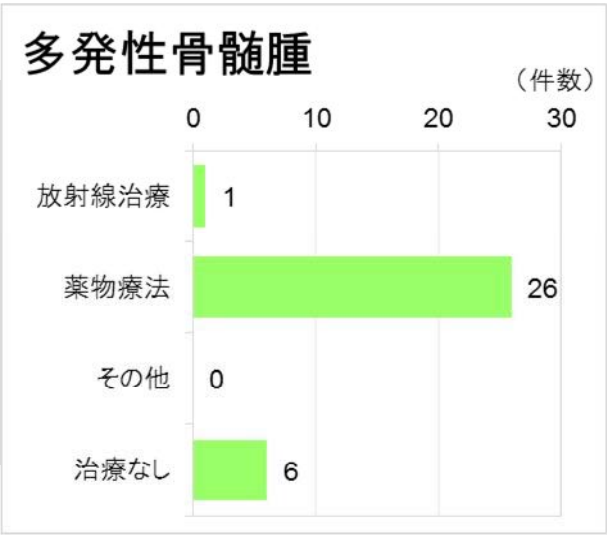
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

血液腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、他の造血器腫瘍）

初回治療の件数－2013年







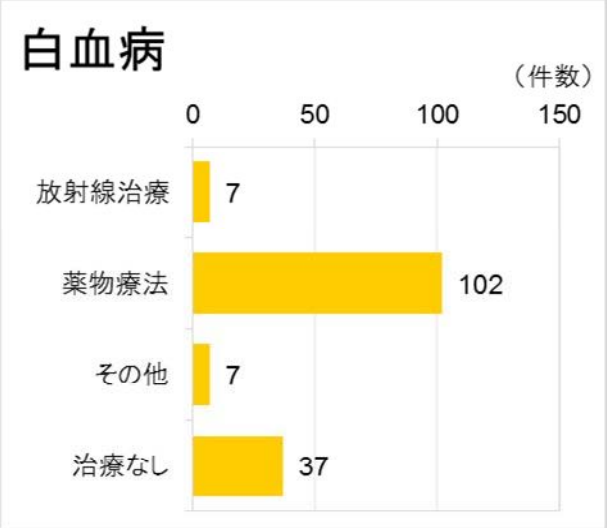


＊上皮内がんを含めて集計
＊手術は原発巣切除のみ集計
＊件数は延べ件数（放射線治療と薬物療法を組み合わせて行った場合は、どちらの項目でもカウントされる）
＊「その他」の治療には「造血幹細胞移植（輸血）」が含まれる
＊記載のない治療方法については巻末の実数を参照

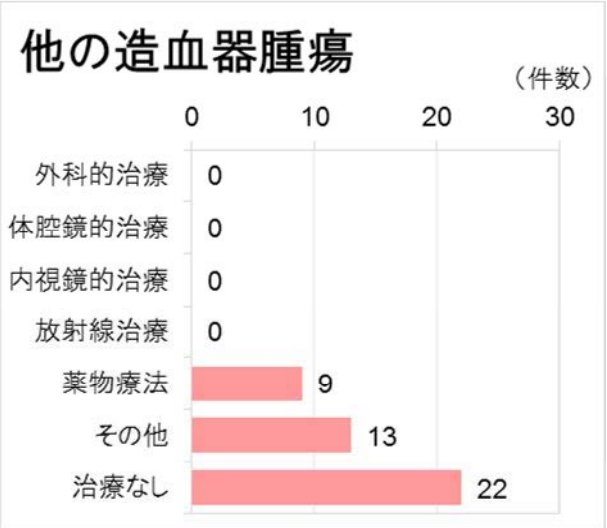
臨床医からのコメント

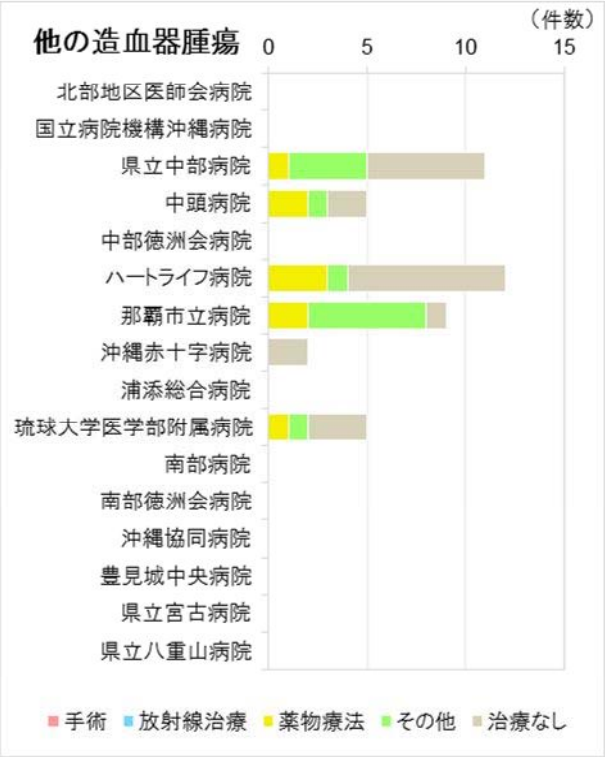
沖縄県で放射線治療のできる施設は７施設です。初回治療で行われている放射線治療に着目すると、放射線治療を受けたほとんどの症例は、７施設のうちの、血液専門医のいる４施設で治療を受けていることがわかります。単に放射線治療ができる施設で治療をするのではなく、血液専門医と放射線治療専門医の合議の元、治療されていることが推測されます。

今後は、北部・宮古・八重山医療圏での血液腫瘍の患者さんの診療をどのようにしていくのか、均てん化と集約化のバランスをどのように取っていくのかが課題だと思います。









北部地区医師会病院



基本情報	
病院名	公益社団法人　北部地区医師会　北部地区医師会病院
所在地	〒905-8611　沖縄県名護市字宇茂佐1712-3
電話（代表）	0980-54-1111
ホームページ	http://www.hokubuishikai-hp.or.jp/

診療案内			
診療科	内科、外科、消化器外科、整形外科、リウマチ科、皮膚科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科 合計　１０診療科		
病床数	200床	平均在院日数	14.3日
入院患者のべ数	62,276人	外来患者のべ数	57,918人
外来化学療法の実施	○	放射線治療の実施	×
緩和ケア外来	○	緩和ケアチーム	○
緩和ケア病棟	×	緩和ケア病床数	0床
院内がん登録実務者数 （実務者のうち研修修了者数）	実務者数2名（初級者2名）		

がん相談	
名称	北部地区医師会病院医療相談室
電話番号	代表　0980-54-1111
対応時間	月～金曜日　８：30～17：30　　土曜日　８：30～12：30

患者さん・ご家族用の設備	
交流の場 （がん患者サロンなど）	×
院内図書館 （図書等を設置している場所）	○



北部地区医師会病院は、沖縄本島北部地域のがん診療の中核として、がん診療に取り組んでいます。しかし、がんに関わる診療科が消化器、呼吸器、乳腺、甲状腺領域と限られています。よって、がん登録のがん種も、大腸がん、胃がん、乳がんなどが主となります。また、放射線治療装置を有していないこともあり、当院で治療の難しい領域があります。その領域に関しては、琉球大学医学部附属病院・県立中部病院・那覇市立病院等の拠点病院や中南部の病院に治療をお願いする場合もあります。そして、泌尿器や耳鼻科を有していないため、その領域のがんに関しては、同じ医療圏である県立北部病院と連携して対応しています。

当院における2013年のがん登録件数は254件であり、増加傾向にあります。部位別では、大腸、乳腺、胃、肺の順に多くなっています。沖縄県全体と比較して肺がんの登録数が少ないことは、呼吸器外科がないことも影響していると思われます。直近である2015年1～12月の当院におけるがん手術実績は134件であり、それも年々増加傾向にあります。がん種別で見ると、大腸、胃、乳腺、肝の順であり、特徴的であったのは肝胆膵領域の手術が増加していることでした。

近年のがん化学療法の進歩は、がん患者さんの治癒や延命に大きく寄与しています。当院でも手術件数の増加に伴い、ここ2～3年で外来化学療法件数が急増しています。2015年は、外来化学療法の件数が年間1,000件近くとなっており、それに対応すべく、看護スタッフの配置や化学療法室の整備を強化しています。また、北部医療圏の特徴として、離島が多いこともがん診療に大きく影響しています。患者さんの状態によっては、どうしても早めの受診や入院が必要となります。そして、ご家族の様々な負担にも配慮する必要があります。

地域の特性として、老々介護の現状もあり、ご家族だけではなく自治体との協力体制も求められています。体制作りをすることにより、がん患者さんを支援する方々の負担軽減を図っていくことも重要なことであると思います。それらの点に関しては、自治体の協力を得ながら、よりこの地域に定住していただく条件の1つとして整備をしていきたいと考えております。

これからも、地域の保健医療に関わる方々、県立北部病院と連携し、地域のがん診療のネットワークを構築することで、地域の患者さん・ご家族のご期待に応える所存です。



公益社団法人　北部地区医師会　北部地区医師会病院

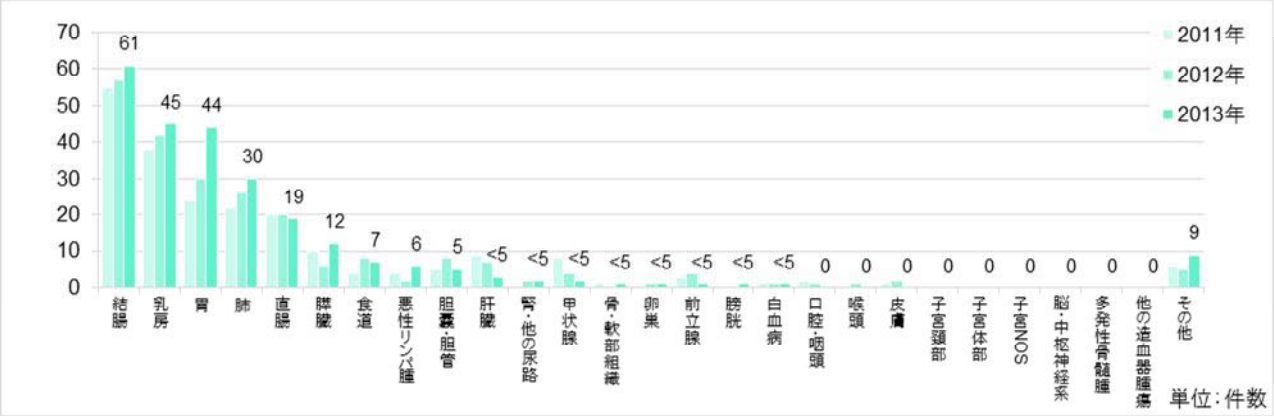
病院長　諸喜田 林

院内がん登録の概要

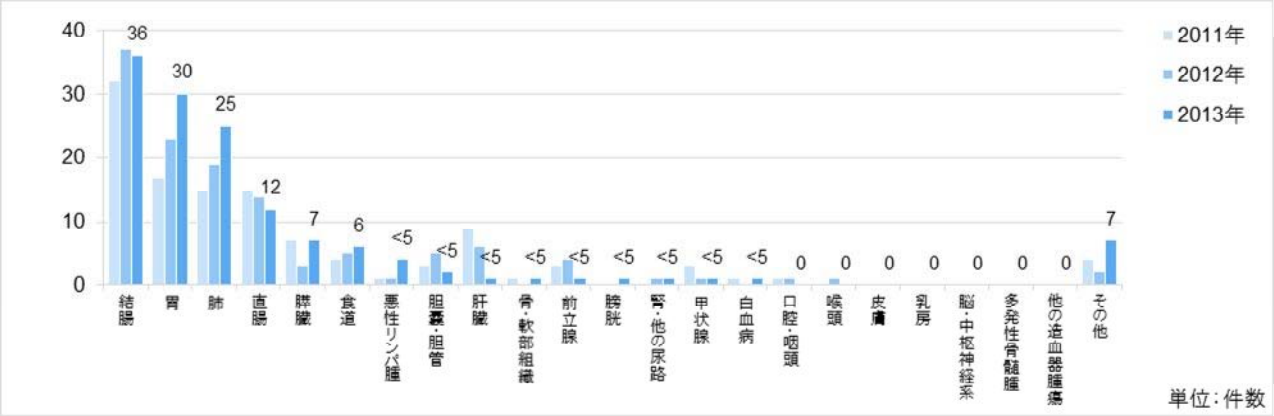
全登録数の推移



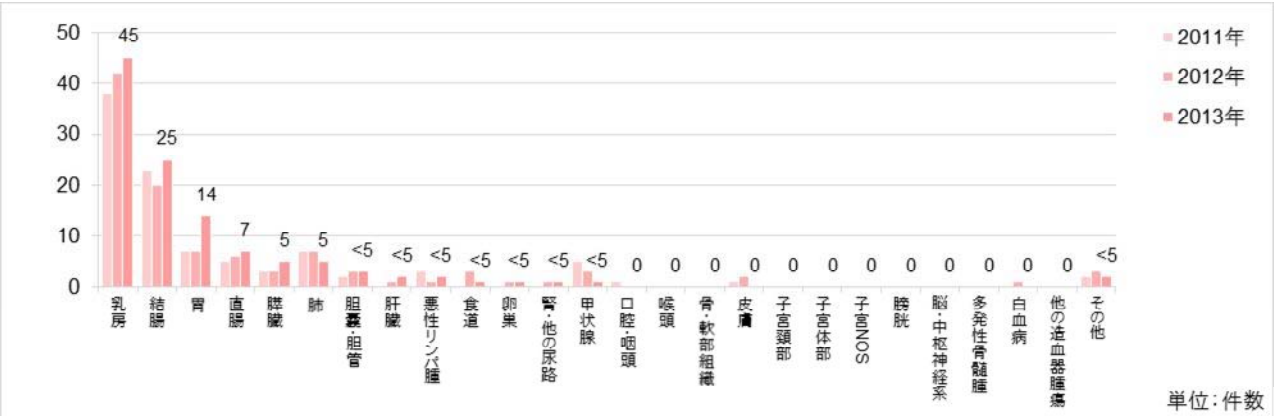
部位別　登録数の推移



部位別　登録数の推移ー男

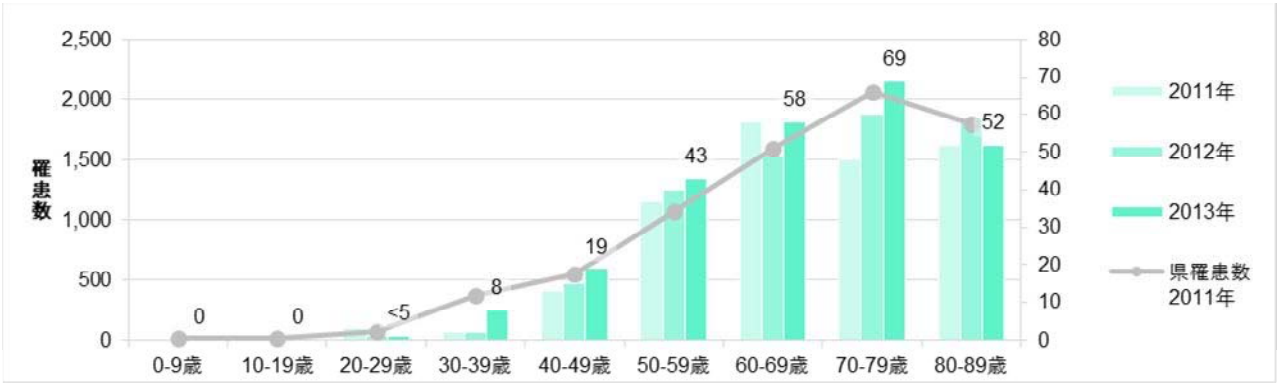


部位別　登録数の推移ー女

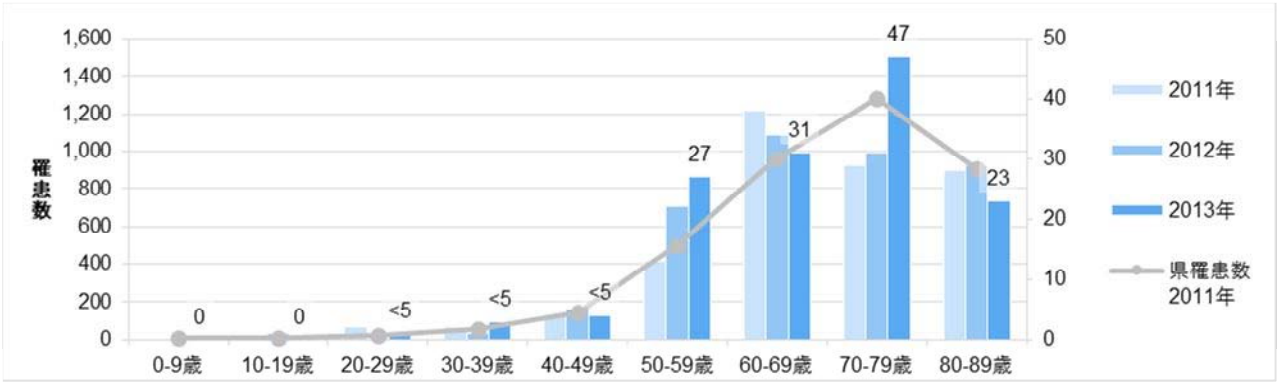


＊上皮内がんを含めて集計
＊全登録数の推移は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊部位別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

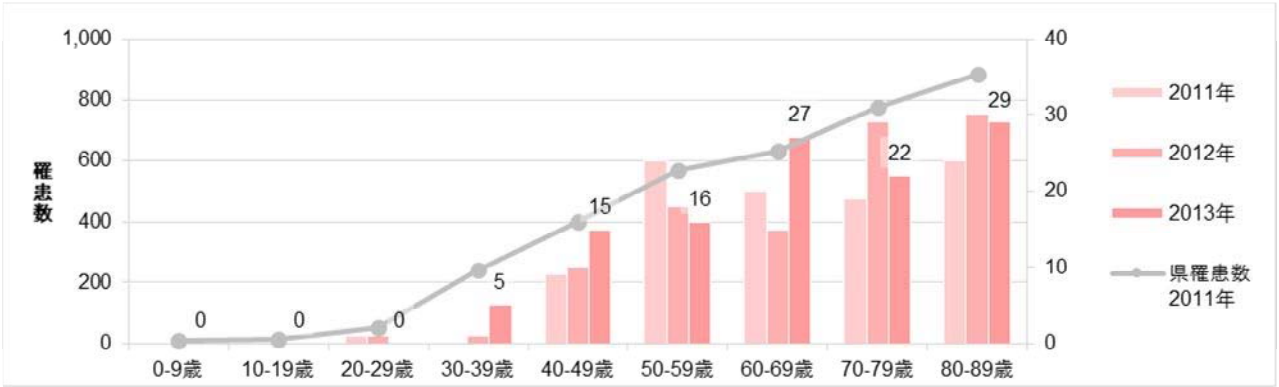
年齢階級別　登録数の推移



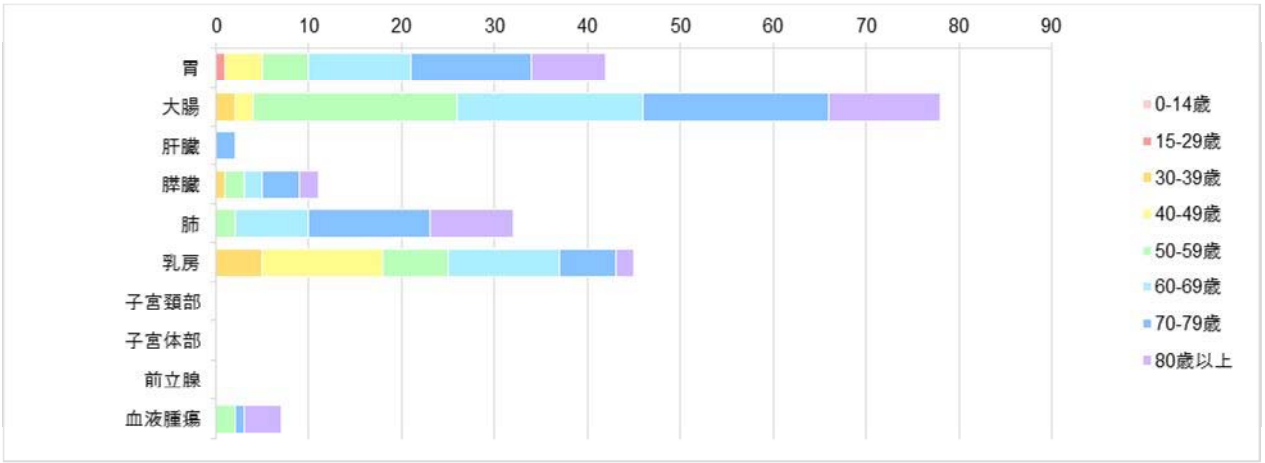
年齢階級別　登録数の推移ー男



年齢階級別　登録数の推移ー女



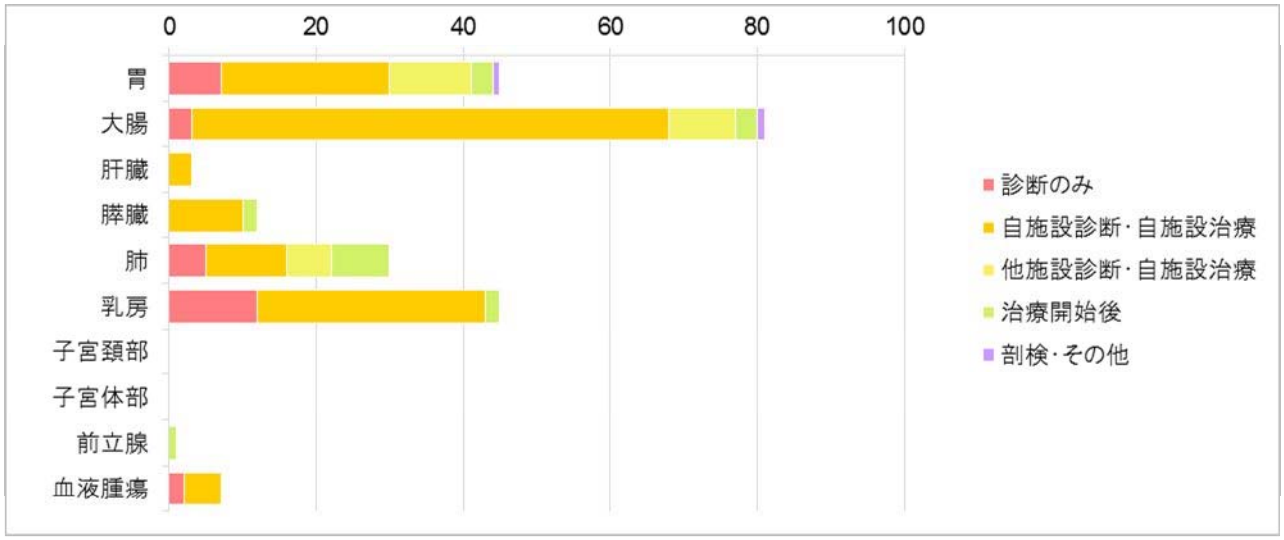
部位別　年齢階級別　登録数ー2013年



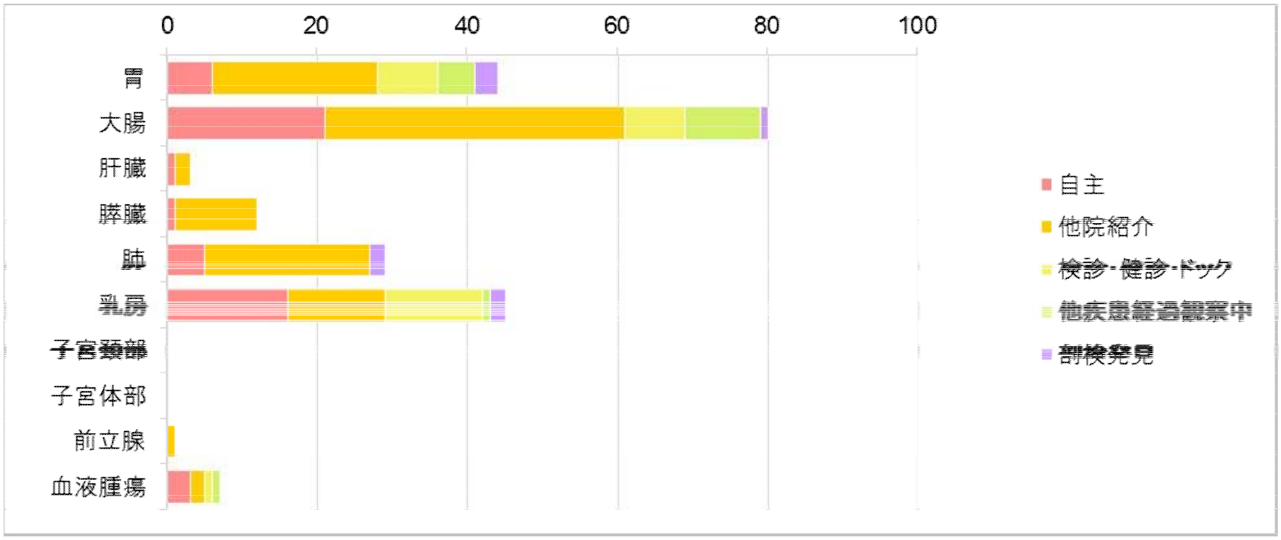
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

院内がん登録の概要

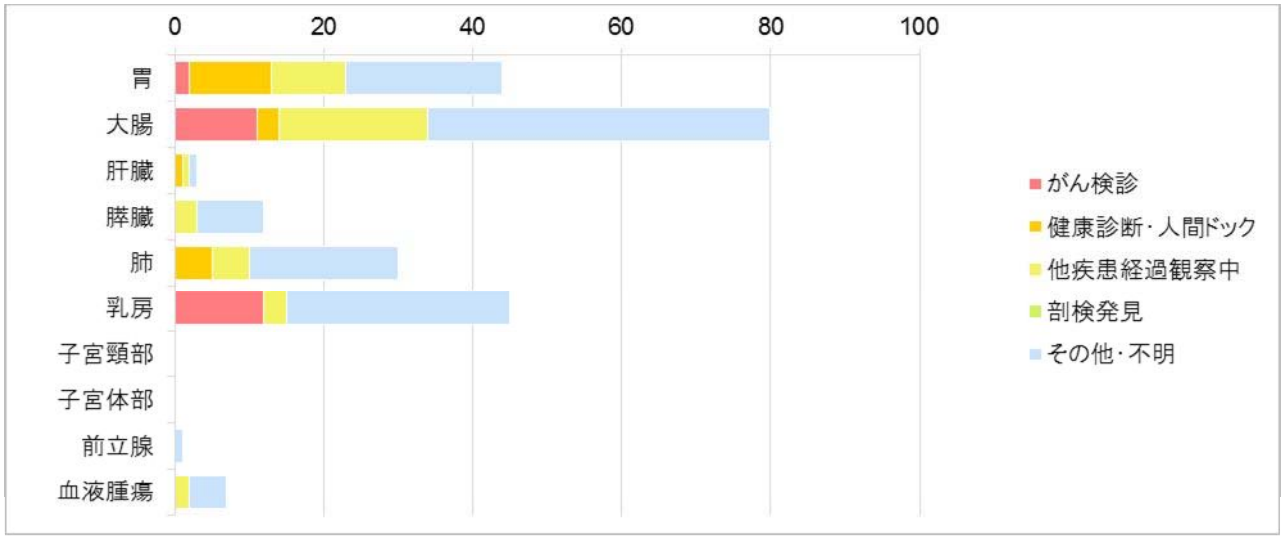
部位別　症例区分別　登録数－2013年



部位別　来院経路別　登録数―2013年



部位別　発見経緯別　登録数―2013年



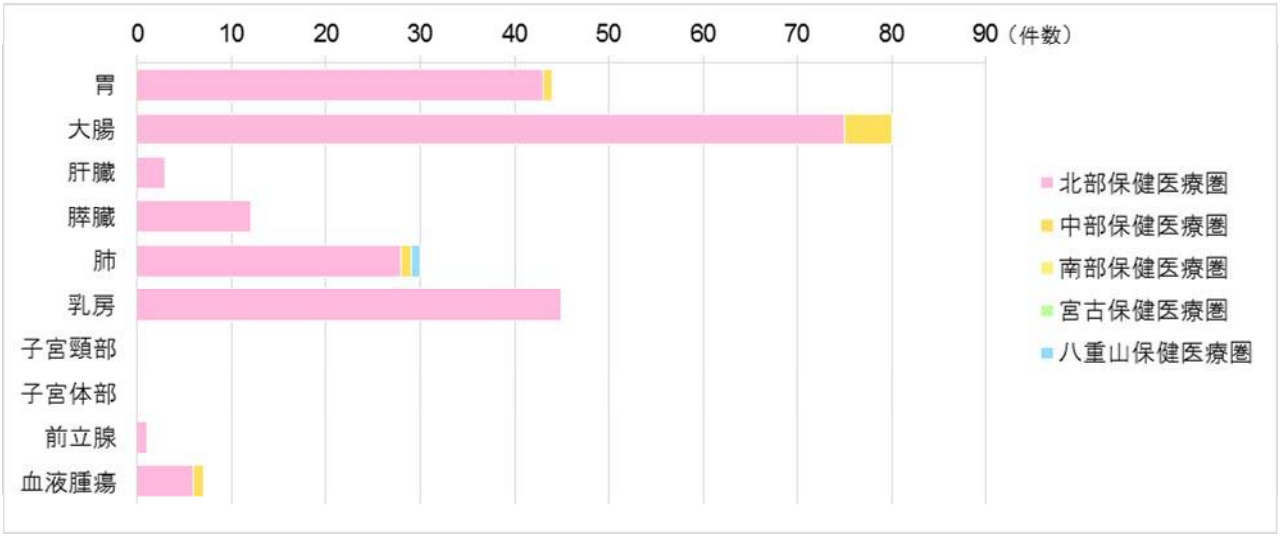
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区部別は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊来院経路別、発見経緯別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

二次保健医療圏別　登録数－2013年

圏域名	市町村名	罹患数（2011年）	16施設登録数（2013年）	カバー率*	カバー率上位3部位*	
北部保健医療圏	名護市　国頭村　大宜味村 東村　今帰仁村　本部町 伊江村　伊平屋村　伊是名村	517	240	46.4%	大腸	14.5%
					乳房	8.7%
					胃	8.3%
中部保健医療圏	宜野湾市　沖縄市　うるま市　恩納村 宜野座村　金武町　読谷村　嘉手納町 北谷町　北中城村　中城村	2,720	9	0.3%	大腸	0.2%
					肝臓	0.1%
					胃	0.0%
南部保健医療圏	那覇市　浦添市　糸満市　豊見城市 南城市　西原町　与那原町 南風原町　渡嘉敷村　座間味村 粟国村　渡名喜村　南大東村 北大東村　久米島町　八重瀬町	3,597	0	0.0%	-	-
					-	-
					-	-
宮古保健医療圏	宮古島市　多良間村	363	0	0.0%	-	-
					-	-
					-	-
八重山保健医療圏	石垣市　竹富町　与那国町	269	<5	-	肺	-
					-	-
					-	-
沖縄県内医療圏不定者		3	-	-	-	-
沖縄県外		-	0	-	-	-
合計		7,469	250	3.3%	大腸	1.1%
					乳房	0.6%
					胃	0.6%

＊当該医療圏を診断時住所とする登録数の当該医療圏の罹患数に占める割合

部位別　二次保健医療圏別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「8：その他」を除いて集計

沖縄県立中部病院



基本情報	
病院名	**沖縄県立中部病院**
所在地	〒904-2243　沖縄県うるま市宮里281番地
電話（代表）	098-973-4111
ホームページ	http://www.hosp.pref.okinawa.jp/chubu/

診療案内			
診療科	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、感染症内科、血液・腫瘍内科、神経内科、総合内科、心療内科、呼吸器外科、消化器外科、気管食道外科、肛門外科、心臓血管外科、脳神経外科、小児外科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、精神科、アレルギー科、リウマチ・膠原病・内分泌科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、新生児科、婦人科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、放射線科、眼科、病理診断科、歯科口腔外科、精神神経科　　合計　39診療科		
病床数	550床	平均在院日数	10.0日
入院患者のべ数	185,975人	外来患者のべ数	213,962人
外来化学療法の実施	○	放射線治療の実施	○
緩和ケア外来	○	緩和ケアチーム	○
緩和ケア病棟	×	緩和ケア病床数	0床
院内がん登録実務者数 （実務者のうち研修修了者数）	実務者数2名（初級者１名、中級者１名）		

がん相談	
名称	がん相談支援センター
電話番号	代表　098-973-4111（内線3232）
対応時間	月～金曜日　9：00～17：00

患者さん・ご家族用の設備	
交流の場 （がん患者サロンなど）	○
院内図書館 （図書等を設置している場所）	○



沖縄県立中部病院は、救急医療、研修医教育、離島医療支援、地域医療支援を主な使命としているが、同時に沖縄県がん拠点病院の1つでもある。この度、県内16施設のがん登録報告書がまとまり、沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センターより当院の状況についてコメントをとのご依頼があったので記してみたい。

2011年から2013年の3年間の登録数をみてみると、2011年998件、2012年969件、2013年997件とほぼ横ばいである。2013年の部位別登録数の男女計では、乳房が150件と最も多く、大腸119件、肺105件、子宮頸部83件と続いている。男女別にみると、男性では肺が80件で最も多く、次いで、大腸７７件、前立腺37件、胃32件、食道28件の順であった。女性では、乳房150件が最も多く、次いで、子宮頸部83件、大腸42件、子宮体部33件、皮膚28件の順であった。子宮頸部・体部が多いのが特徴的であり、中北部地区で婦人科系がんを扱う施設は当院のみであることを反映しているものと思われた。部位別・症例区分別登録数をみると、ほとんどのがんが、当院で診断・治療される例が多いが、乳房は、治療開始後の例が多かった。これは、他施設で手術を受け、放射線治療で当院を紹介される例が多いことを類推させる。部位別・来院経路別登録数をみると、ほとんどのがんが他院からの紹介が多く、地域連携が機能していることをうかがわせた。中でも、乳房、子宮頸部、子宮体部、血液腫瘍は他院からの紹介が多かった。発見経路別では、乳房と子宮頸部はがん検診で発見されることが多いが、それ以外のがんは、他疾患経過観察中に発見されているものが多い。普段、がん以外の疾患でフォローされている患者でも、常にがんの併発に留意しながら、診療しなければならないことを物語っているものと思われる。年齢階級別の登録数をみると、男性では70-79歳にピークがあるが、女性は10歳若い60-69歳にピークがみられた。二次保健医療圏別登録数のカバー率では、中部保健医療圏の31.0%、北部保健医療圏の13.5%を当院でカバーしていたが、離島の八重山保健医療圏も6.3%カバーしていた。部位別・医療圏別登録数をみると、すべてのがんで中部保健医療圏からの登録が最も多かった。子宮頸部、子宮体部、血液腫瘍は、北部保健医療圏からの登録が相対的に多く、北部保健医療圏に婦人科、血液腫瘍の専門施設がないことを反映しているものと思われた。

以上、まとめると、当院の特徴として、乳房、肺、子宮頸部・体部、大腸の登録数が多い、他院からの紹介が多い、特に子宮頸・体部の他院からの紹介が多い、放射線治療のためと思われる乳がんの他院からの紹介が多い、子宮頸部、乳房では、がん検診で発見されることが多いが、それ以外のがんは他疾患の経過観察中に発見されることが多い、中部保健医療圏の登録数の31%、北部保健医療圏の登録数の13.5%を当院でカバーしていることなどが挙げられる。

今後とも、それぞれの施設の得意分野を生かしつつ、連携を図りながら県全体が一つになってがん対策にあたっていくことが肝要かと思われる。



沖縄県立中部病院

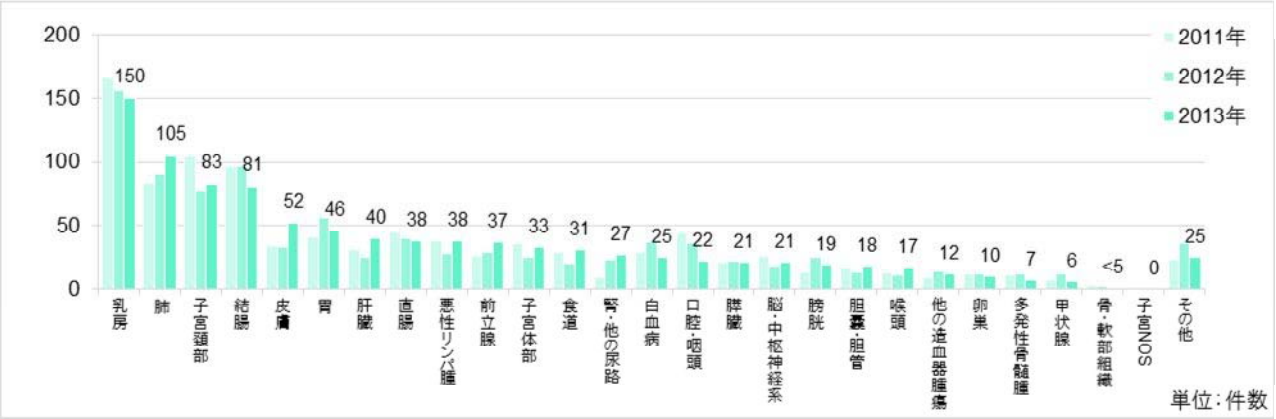
病院長　上原 元

院内がん登録の概要

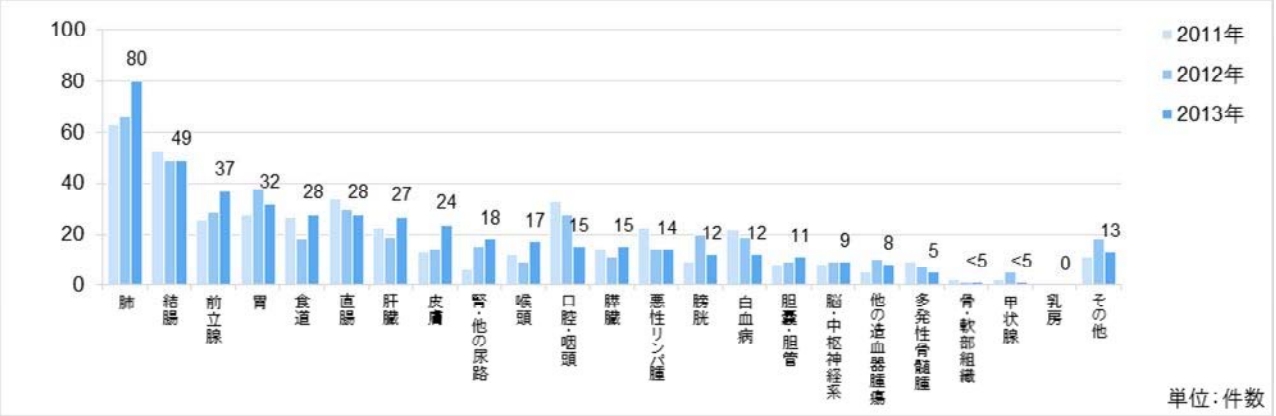
全登録数の推移



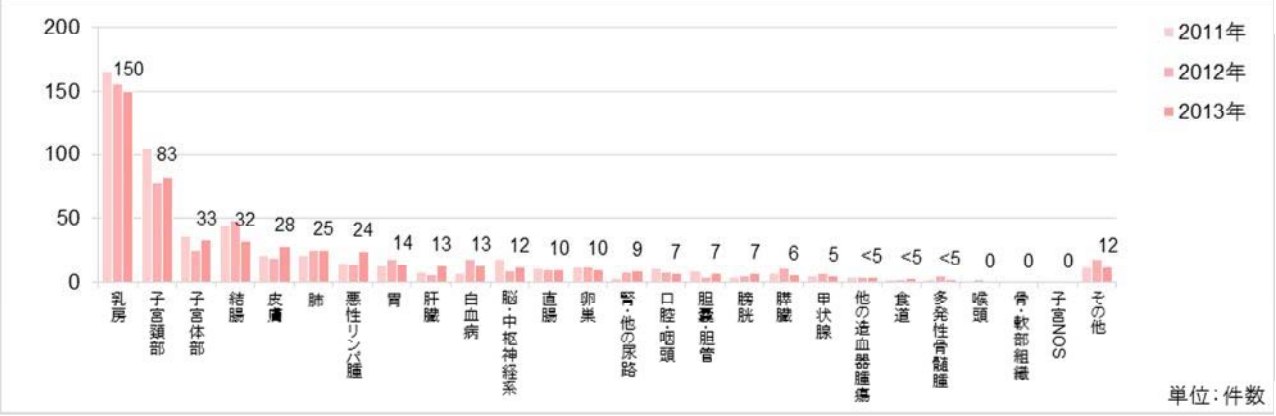
部位別　登録数の推移



部位別　登録数の推移ー男

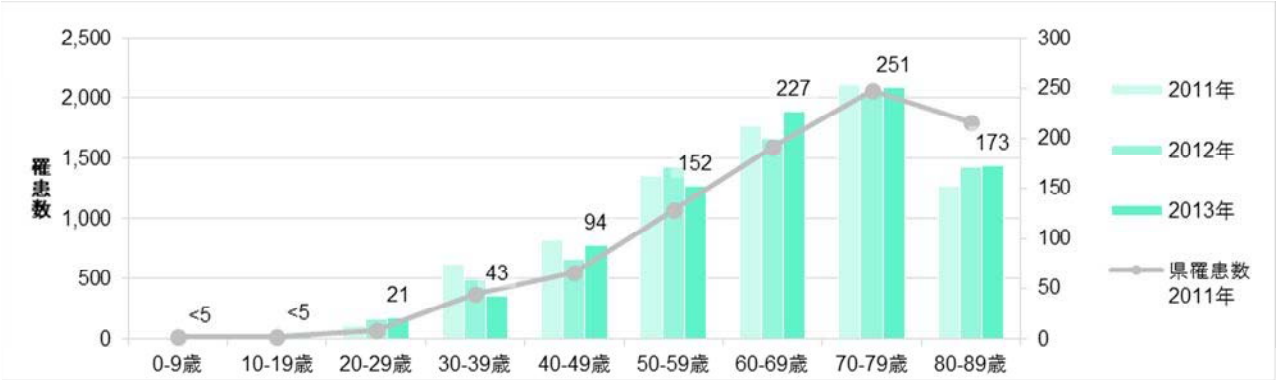


部位別　登録数の推移ー女

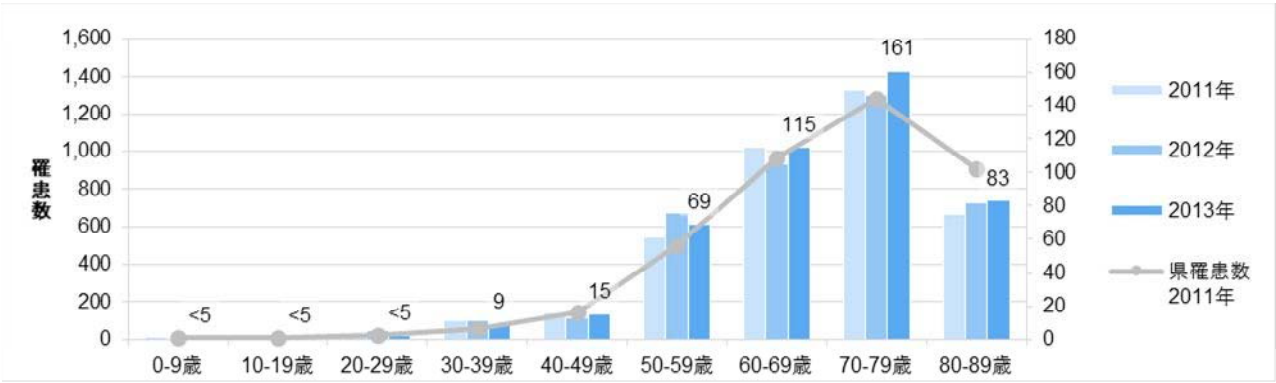


＊上皮内がんを含めて集計
＊全登録数の推移は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊部位別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

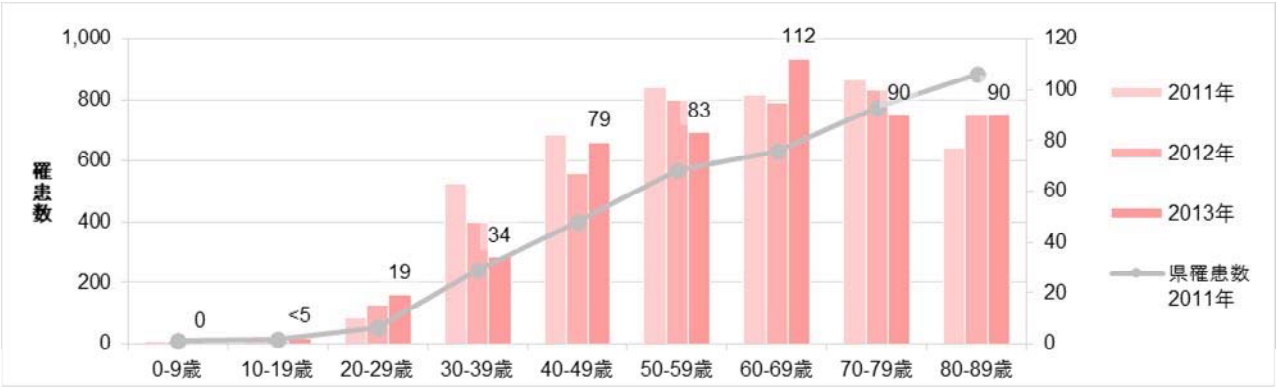
年齢階級別　登録数の推移



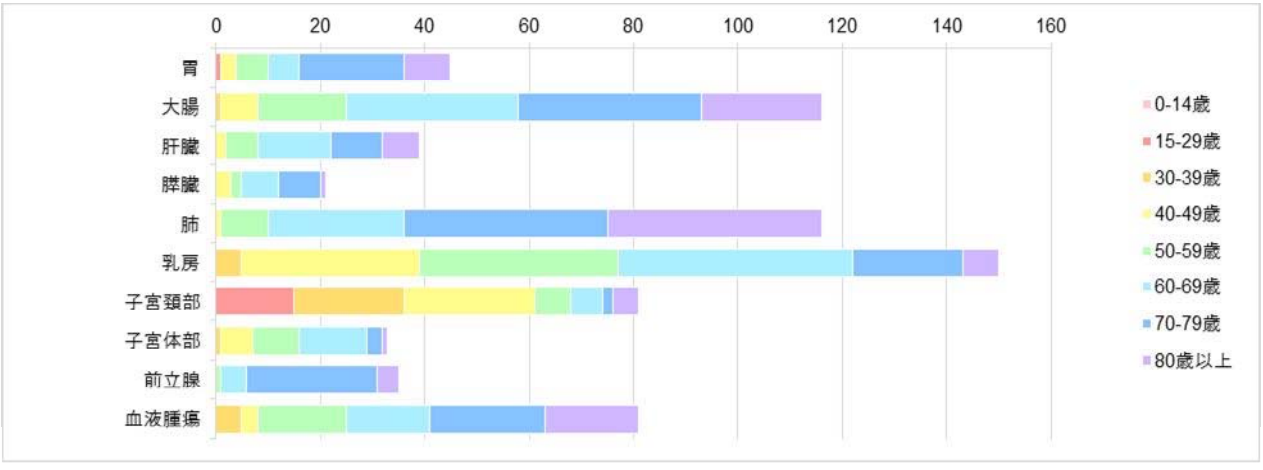
年齢階級別　登録数の推移ー男



年齢階級別　登録数の推移ー女



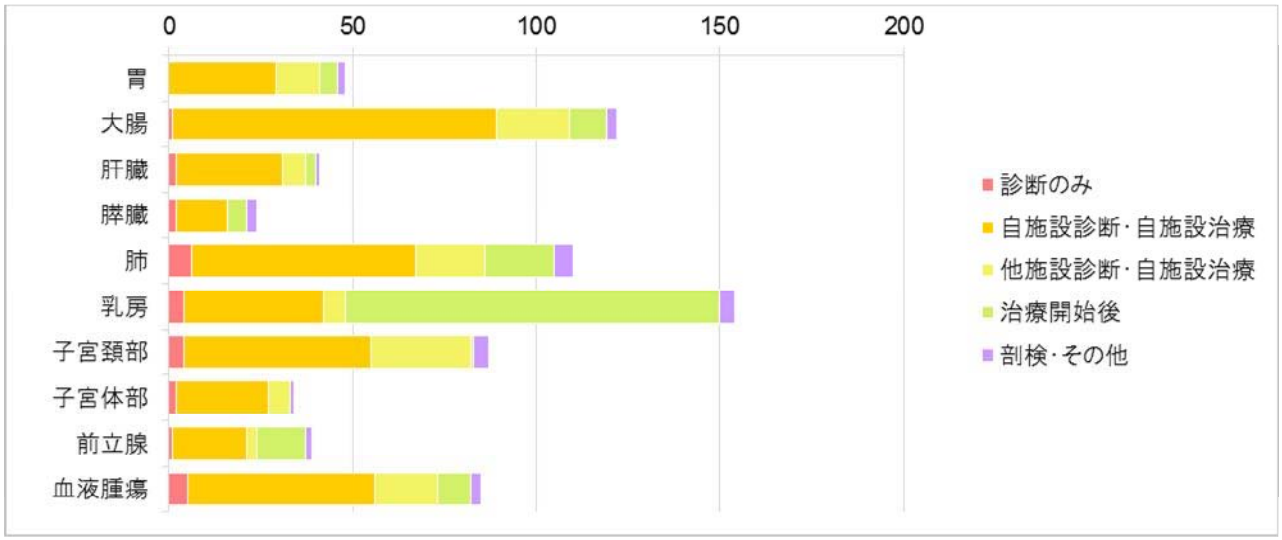
部位別　年齢階級別　登録数ー2013年



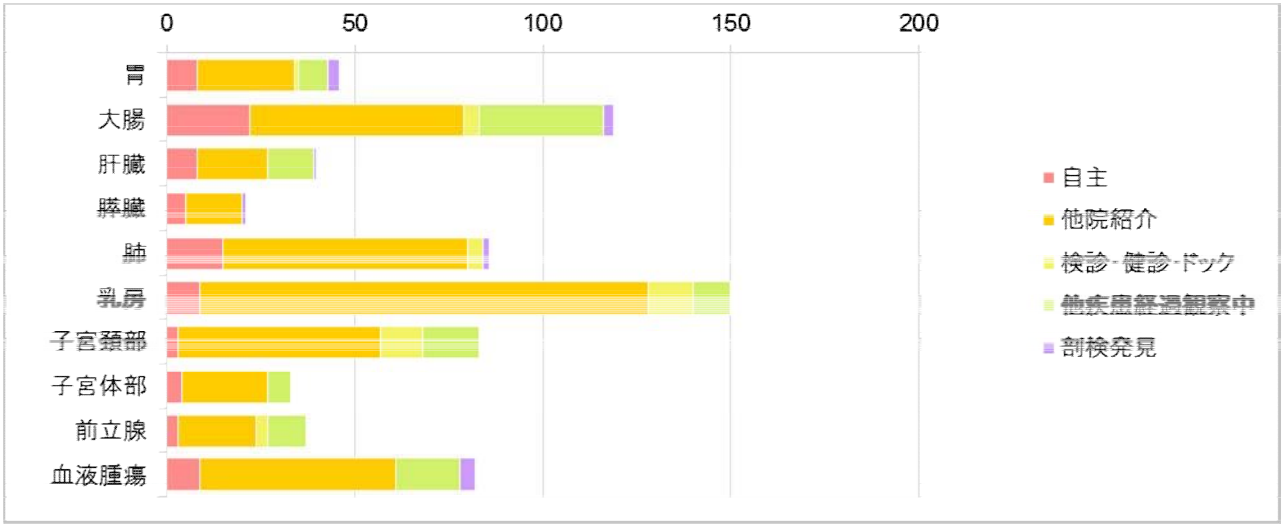
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

院内がん登録の概要

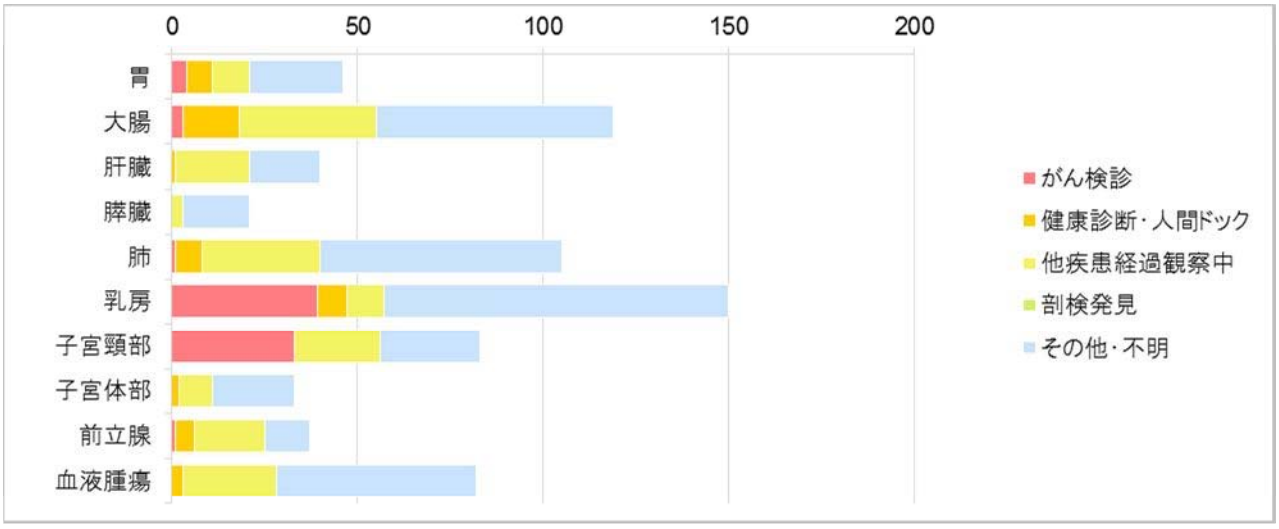
部位別　症例区分別　登録数－2013年



部位別　来院経路別　登録数―2013年



部位別　発見経緯別　登録数―2013年



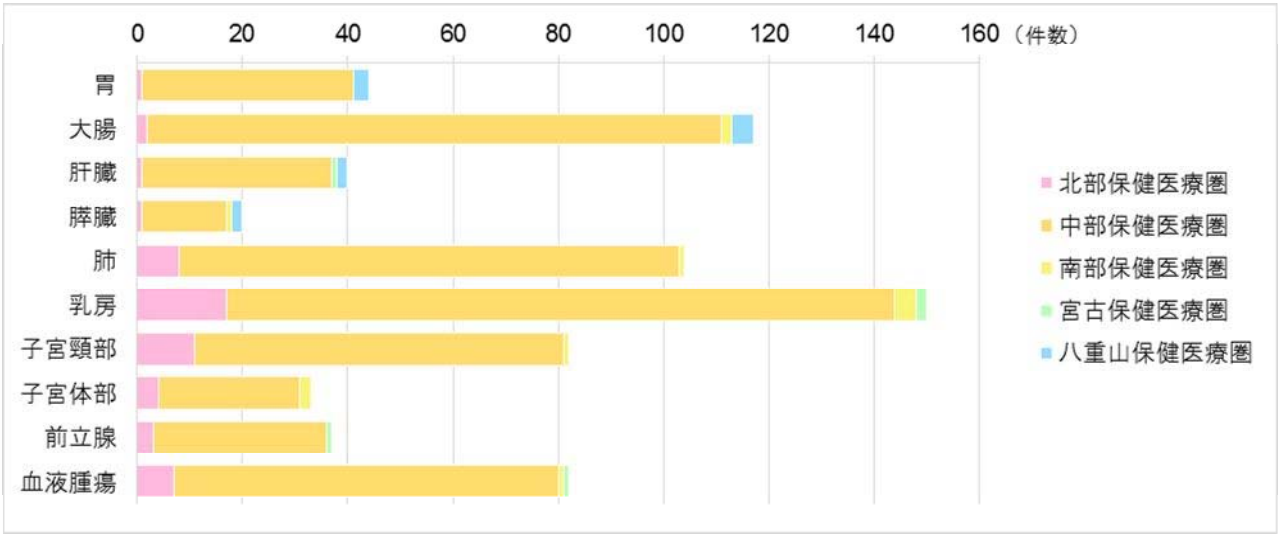
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区部別は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊来院経路別、発見経緯別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

二次保健医療圏別　登録数－2013年

圏域名	市町村名	罹患数（2011年）	16施設登録数（2013年）	カバー率*	カバー率上位3部位*	
北部保健医療圏	名護市　国頭村　大宜味村 東村　今帰仁村　本部町 伊江村　伊平屋村　伊是名村	517	70	13.5%	乳房	3.3%
					子宮頚部	2.1%
					肺	1.5%
中部保健医療圏	宜野湾市　沖縄市　うるま市　恩納村 宜野座村　金武町　読谷村　嘉手納町 北谷町　北中城村　中城村	2,720	844	31.0%	乳房	4.7%
					大腸	4.0%
					肺	3.5%
南部保健医療圏	那覇市　浦添市　糸満市　豊見城市 南城市　西原町　与那原町 南風原町　渡嘉敷村　座間味村 粟国村　渡名喜村　南大東村 北大東村　久米島町　八重瀬町	3,597	16	0.4%	乳房	0.1%
					大腸	0.1%
					子宮体部	0.1%
宮古保健医療圏	宮古島市　多良間村	363	7	1.9%	乳房	0.6%
					口腔･咽頭･喉頭	0.3%
					肝臓	0.3%
八重山保健医療圏	石垣市　竹富町　与那国町	269	17	6.3%	大腸	1.5%
					口腔･咽頭･喉頭	1.1%
					子宮頚部	2.2%
沖縄県内医療圏不定者		3	-	-	-	-
沖縄県外		-	11	-	-	-
合計		7,469	965	12.9%	乳房	2.0%
					大腸	1.6%
					肺	1.4%

＊当該医療圏を診断時住所とする登録数の当該医療圏の罹患数に占める割合

部位別　二次保健医療圏別登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

那覇市立病院



基本情報	
病院名	**地方独立行政法人　那覇市立病院**
所在地	〒902－8511　沖縄県那覇市古島2－31－1
電話（代表）	098-884-5111
ホームページ	http://www.nch.naha.okinawa.jp/

診療案内			
診療科	内科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病内科、内分泌内科、リウマチ科、小児科、精神科、外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、内視鏡外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、歯科 合計　33診療科		
病床数	470床	平均在院日数	12.07日
入院患者のべ数	12,462人	外来患者のべ数	188,270人
外来化学療法の実施	○	放射線治療の実施	○
緩和ケア外来	○	緩和ケアチーム	○
緩和ケア病棟	×	緩和ケア病床数	0床
院内がん登録実務者数 （実務者のうち研修修了者数）	実務者数3名（中級者3名、指導者1名）		

がん相談	
名称	那覇市立病院　がん相談支援センター
電話番号	代表　098－884－5111（内線127、283）
対応時間	月～金曜日（祝日除く）　9：00～17：00

患者さん・ご家族用の設備	
交流の場 （がん患者サロンなど）	○
院内図書館 （図書等を設置している場所）	○



当那覇市立病院は市民医療を確保し、市民の健康と福祉の増進を図ることを目的として1980年に那覇市内に一般病床470床の総合病院として開設されました。以来,地域の中核的な急性期病院としてその役割を担ってきています。

那覇市は沖縄県の５つある二次保健医療圏のなかで本島南部の南部保健医療圏内にあります。当該圏域人口は約70万人、そのうち那覇市は32万人を占めております。当院は24時間365日体制の救急医療をはじめとして、地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院などの指定を受け多機能の役割を担っており、地域になくてはならない病院となっています。

当院は、南部保健医療圏における地域がん診療連携拠点病院の指定を2005年に受けて、院内がん登録を開始しています。いままでは、3つのがん診療連携拠点病院がそれぞれ院内がん登録した症例を2010年、2011年、2012年と集計報告書として発行してきました。今回の本報告書で特筆すべきは、院内がん登録している病院数の増加です。2011年集計でも3つの連携拠点病院以外に10病院が加わっています。2013年ではさらに3病院が増えており、拠点病院を含めて16病院の登録患者が集計されています。これで沖縄県の5つの二次保健医療圏で院内がん登録を実施している病院がおおむね網羅されたことになります。

さて、当院の年間登録数は2010年から2013年の４年間で約850～930件で推移しており大きな変動は認められません。登録数の推移を部位別にみると、男性では大腸（結腸、直腸）、前立腺、血液腫瘍、胃、肺の順で登録数が多く、女性では乳房、子宮（頚部、体部）、大腸（結腸、直腸）、血液腫瘍、甲状腺、胃の順で登録数が多くなっています。年齢階級別に見ると、男性は70歳台が一番多く、ついで60歳台であり経年的にもほぼ同様に推移しています。女性は60歳台～70歳台が多く、ついでわずかに少なくなりますが40歳台～50歳台となだらかに続きます。この性差は女性では乳房、子宮の登録患者が40～50歳台に多いためと思われます。

当院は南部保健医療圏において地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けているので、その立場から2013年の登録データをみてみます。南部保健医療圏では3,892件（総登録数の46.3%）が登録されており、当院は887件で南部医療圏3,892件のうち22.8%を占めます。来院経路から症例区分別に見ると、乳房124例（79.0%）を筆頭に血液腫瘍、肺、肝臓、前立腺、大腸、膵と他院からの紹介が50%を超えています。紹介元の医院はほぼ南部保健医療圏にあります。これらの症例を区分別に見ると治療も当院で完結しています。大腸がんと血液腫瘍については、他院診断後に当院での治療のための紹介例が多いですが、大腸がんは早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術を施行している専門医がいること、血液疾患については専門医が南部保健医療圏では地域医療支援病院に複数配置されているためと思われます。また、乳房に関しては他院での治療開始後の症例が多いですが、これは放射線照射療法のための紹介です。

このように毎年、沖縄県全体の院内がん登録数が集計され報告発表されることで、沖縄県全体のがん診療の実態があきらかになり、沖縄県の二次保健医療圏における他のがん診療病院および当院のがん診療に対する取り組み情況が把握できます。

がん診療に関わる専門医師などの人材確保は当院のみならず、地域のどの病院でも困難を極めてきており、一病院単独ですべてのがん診療を完結させることは不可能であり、他の医療機関との連携がますます不可欠であることをデータは示しています。これらの情報がおおいに活用され、医療機関間の連携、がん診療の質の向上、ひいては地域のがん対策に役立つことを期待いたします。

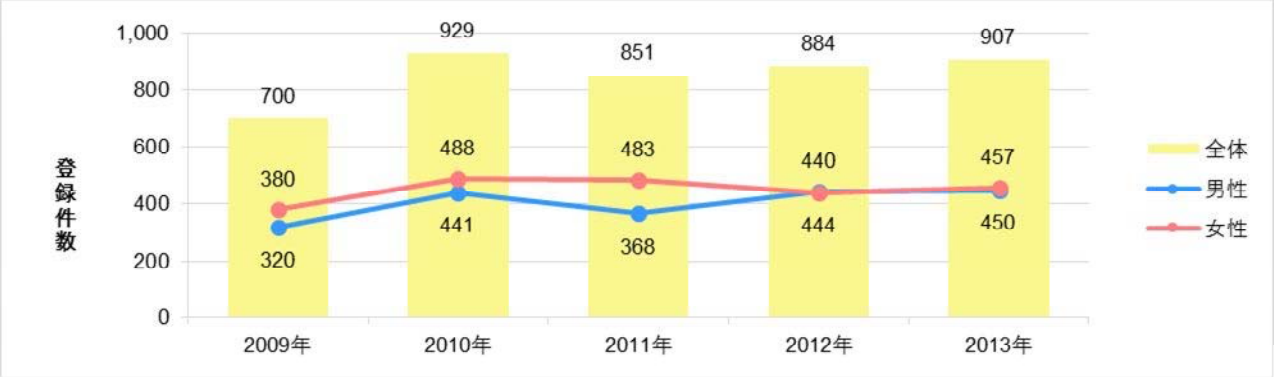


地方独立行政法人　那覇市立病院

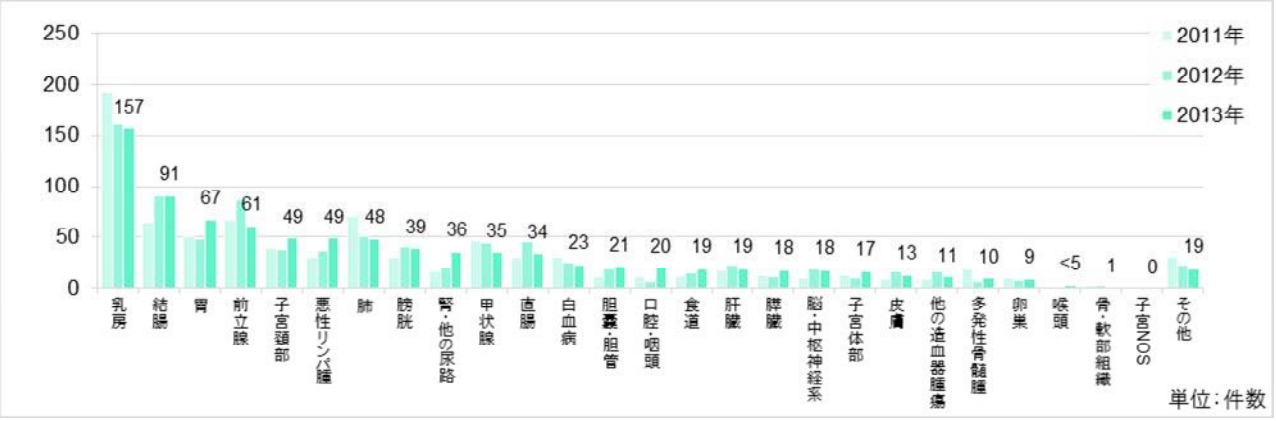
病院長　照喜名 重一

院内がん登録の概要

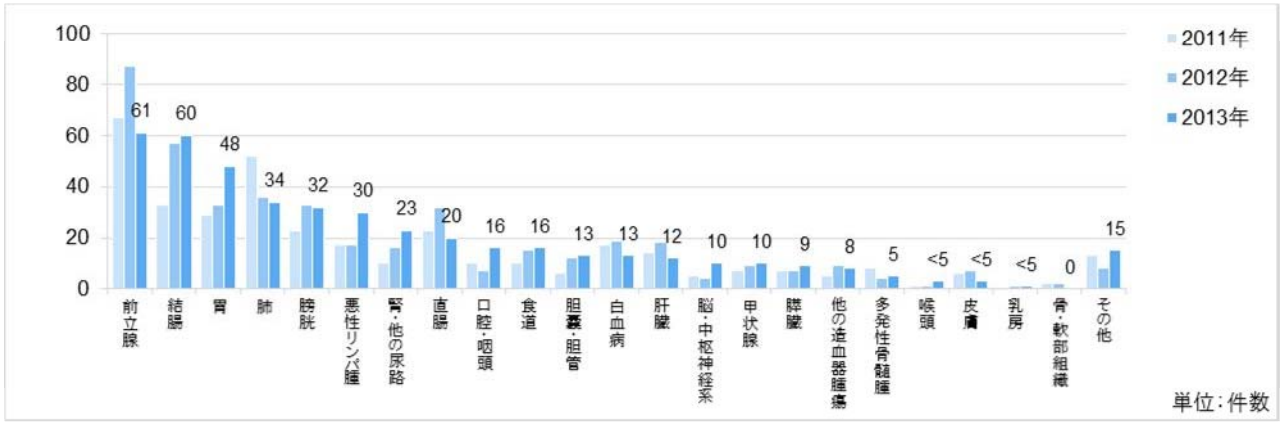
登録数の推移



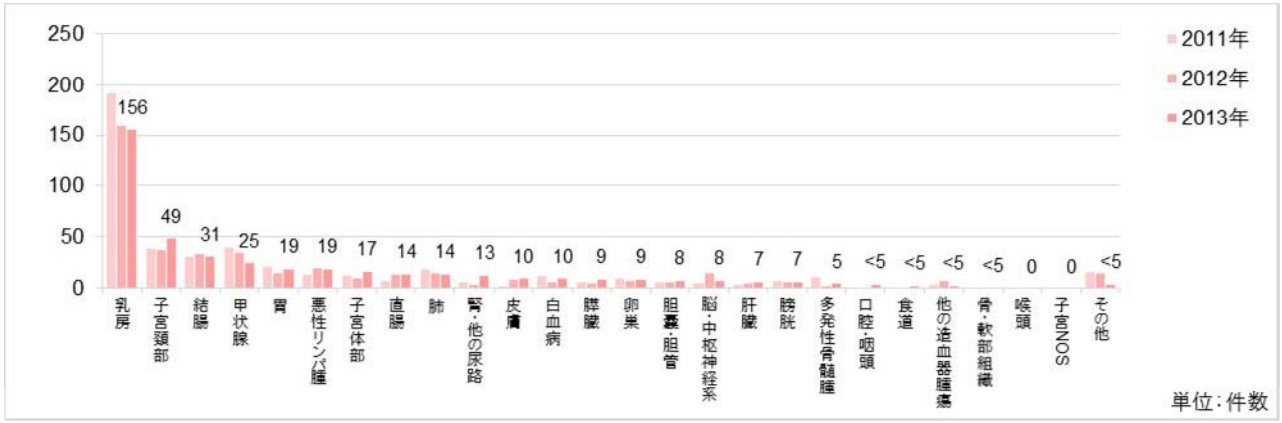
部位別　登録数の推移



部位別　登録数の推移ー男

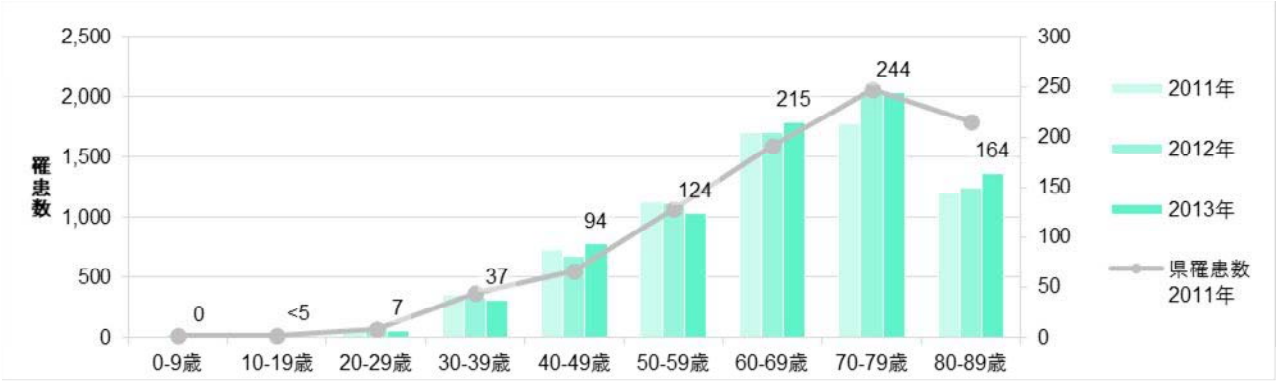


部位別　登録数の推移ー女

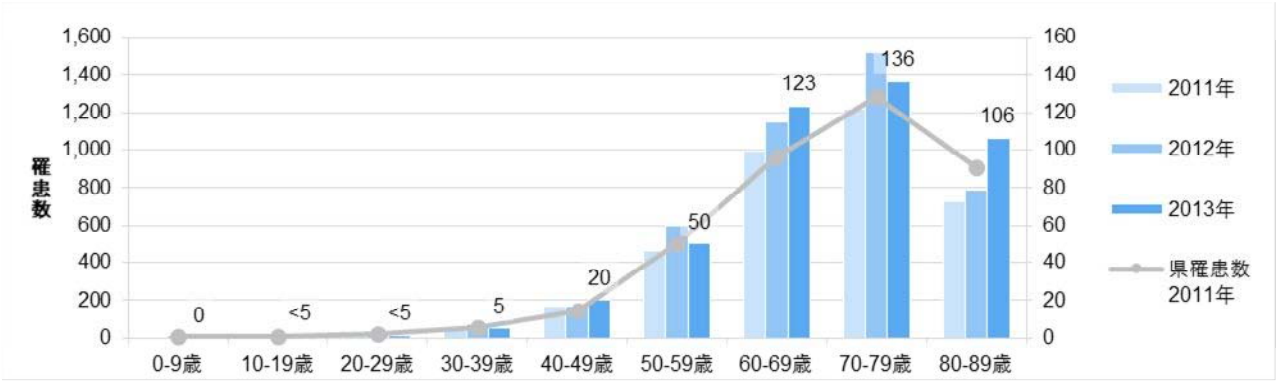


＊上皮内がんを含めて集計
＊全登録数の推移は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊部位別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

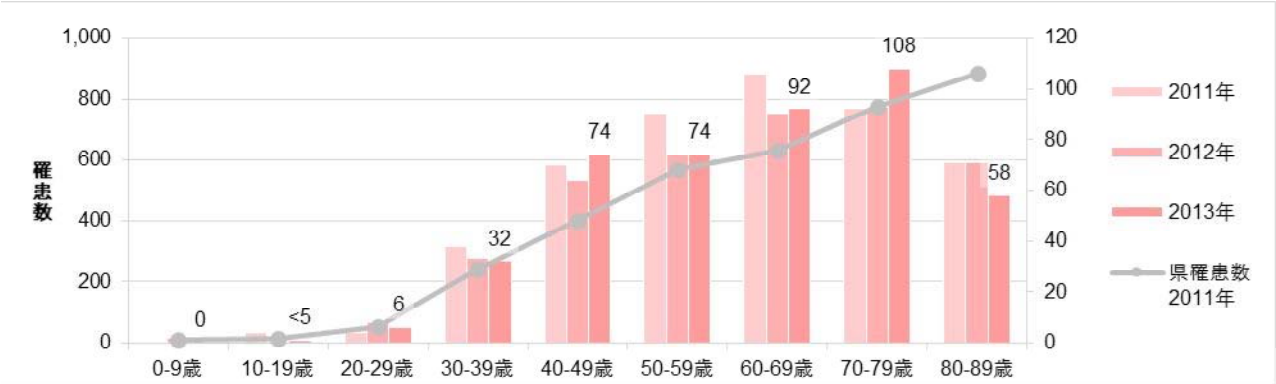
年齢階級別　登録数の推移



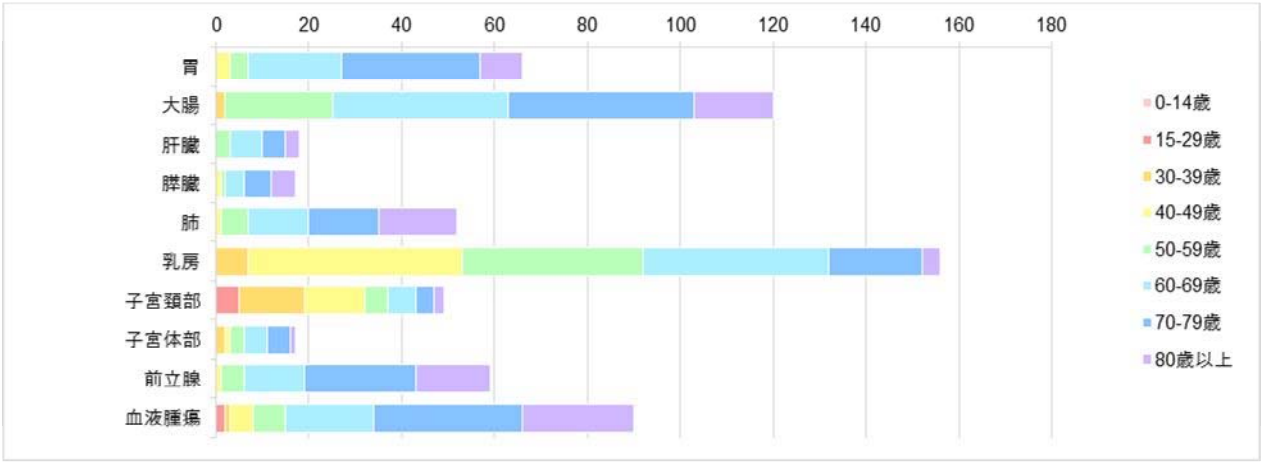
年齢階級別　登録数の推移ー男



年齢階級別　登録数の推移ー女



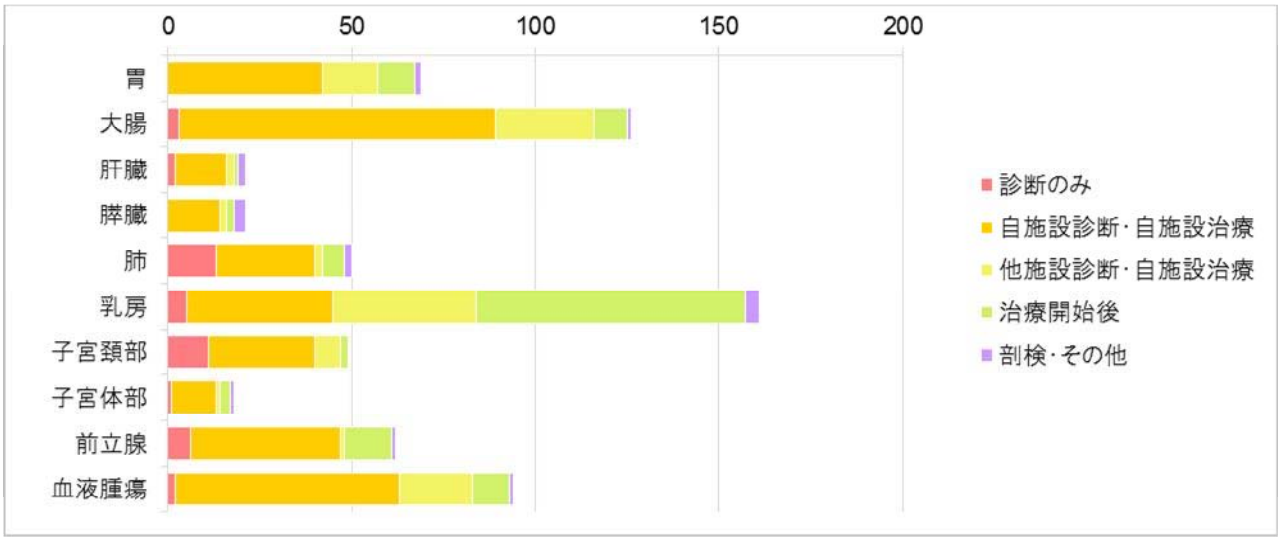
部位別　年齢階級別　登録数ー2013年



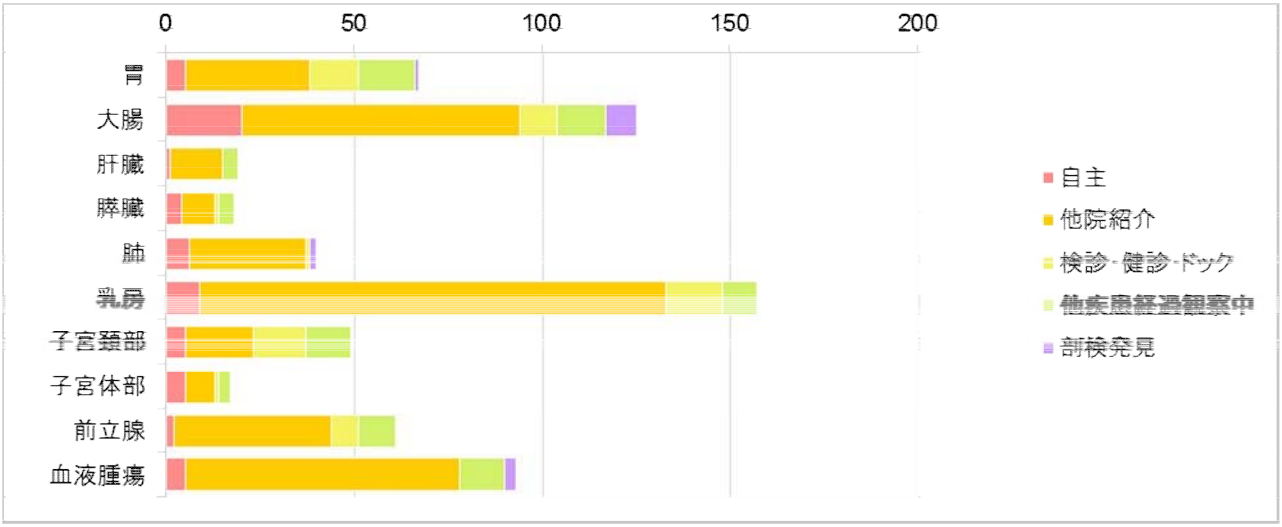
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

院内がん登録の概要

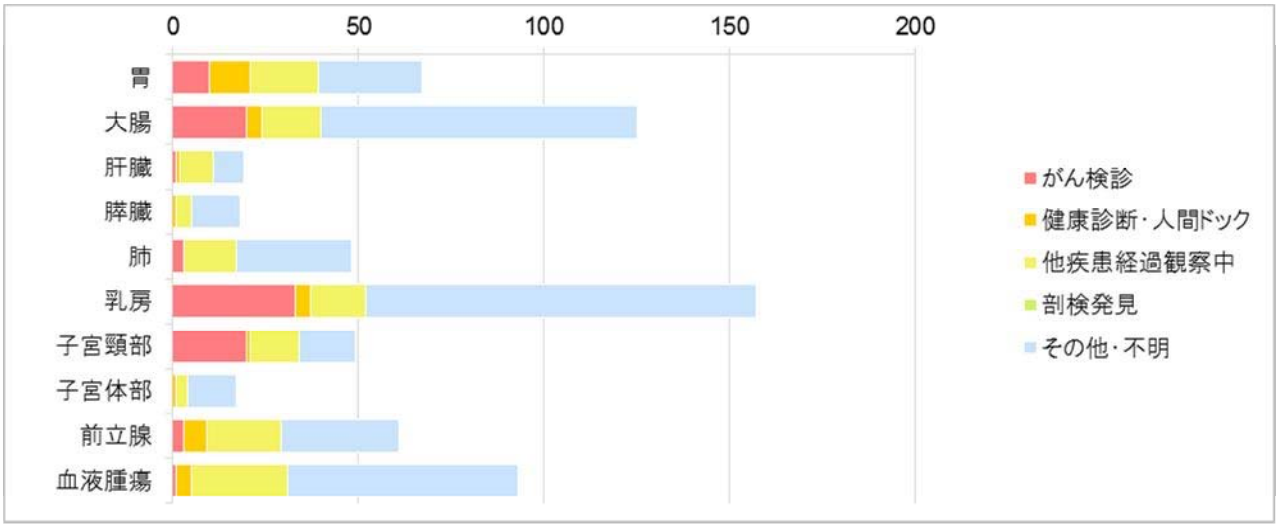
部位別　症例区分別　登録数－2013年



部位別　来院経路別　登録数―2013年



部位別　発見経緯別　登録数―2013年



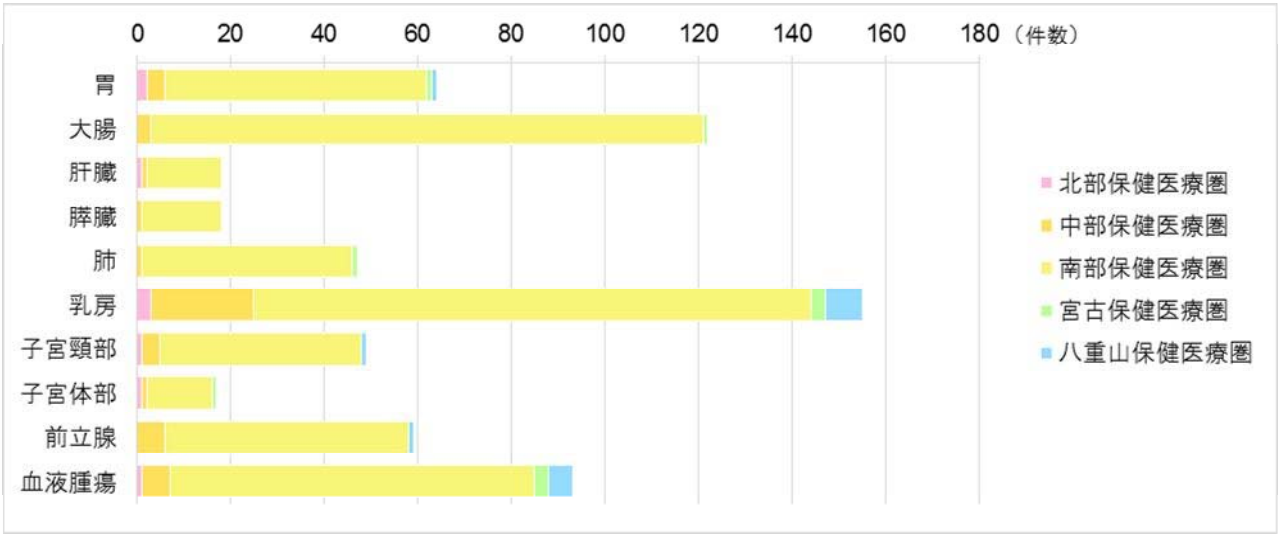
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区部別は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊来院経路別、発見経緯別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

二次保健医療圏別　登録数－2013年

圏域名	市町村名	罹患数（2011年）	16施設登録数（2013年）	カバー率*	カバー率上位3部位*	
北部保健医療圏	名護市　国頭村　大宜味村 東村　今帰仁村　本部町 伊江村　伊平屋村　伊是名村	517	14	2.7%	乳房	0.6%
					胃	0.4%
					食道	0.2%
中部保健医療圏	宜野湾市　沖縄市　うるま市　恩納村 宜野座村　金武町　読谷村　嘉手納町 北谷町　北中城村　中城村	2,720	57	2.1%	乳房	0.8%
					前立腺	0.2%
					血液腫瘍	0.2%
南部保健医療圏	那覇市　浦添市　糸満市　豊見城市 南城市　西原町　与那原町 南風原町　渡嘉敷村　座間味村 粟国村　渡名喜村　南大東村 北大東村　久米島町　八重瀬町	3,597	767	21.3%	乳房	3.3%
					大腸	3.3%
					血液腫瘍	2.2%
宮古保健医療圏	宮古島市　多良間村	363	16	4.4%	乳房	0.8%
					食道	0.6%
					胃	0.3%
八重山保健医療圏	石垣市　竹富町　与那国町	269	18	6.7%	乳房	3.0%
					血液腫瘍	1.9%
					口腔･咽頭･喉頭	0.4%
沖縄県内医療圏不定者		3	-	-	-	-
沖縄県外		-	15	-	-	-
合計		7,469	887	11.9%	乳房	2.1%
					大腸	1.6%
					血液腫瘍	1.2%

＊当該医療圏を診断時住所とする登録数の当該医療圏の罹患数に占める割合

部位別　二次保健医療圏別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

琉球大学
医学部附属病院



基本情報	
病院名	国立大学法人　琉球大学医学部附属病院
所在地	〒903-0215　沖縄県中頭郡西原町字上原207
電話（代表）	098-895-3331
ホームページ	http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/

診療案内			
診療科	内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、腎泌尿器外科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、心臓血管外科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、形成外科 合計　23診療科		
病床数	600床	平均在院日数	13.8日
入院患者のべ数	184,769人	外来患者のべ数	280,303人
外来化学療法の実施	○	放射線治療の実施	○
緩和ケア外来	○	緩和ケアチーム	○
緩和ケア病棟	×	緩和ケア病床数	0床
院内がん登録実務者数 （実務者のうち研修修了者数）	実務者数2名（中級者１名、指導者1名）		

がん相談	
名称	がん相談支援センター
電話番号	代表 098-895-3331（内線1359） 直通 098-895-1359
対応時間	月～金曜日　　9：00～12：00　　13：00～15：00

患者さん・ご家族用の設備	
交流の場 （がん患者サロンなど）	○
院内図書館 （図書等を設置している場所）	○



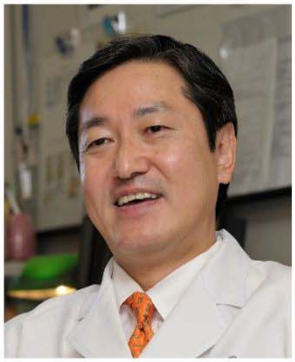
日本人の死因の第一位はがんによるものであり、がんは私達にとっても身近な病気です。実際に私の祖母は胃がんで、私の母は胆管がんで、私の義兄は膀胱がんで亡くなっています。がんの治療成績を向上させるために、がんの診療実態を明確にすることは重要です。今回、院内がん登録を実施する16施設のデータが集計されたことにより、沖縄県のがん診療の実態と各施設の診療状況が多面的に明らかとなりました。本集計が、がん診療の質の向上を図るための基礎データとして医療者に有効利用されますことを、また、がん診療の情報の一つとして患者さんやそのご家族の方々に活用されることを期待します。

私自身も柳田国男さんが執筆された「がん回廊の明日」という本に感激し、東京築地にある国立がんセンターにレジデントとして３年間勤務しました。細胞診、病理、腫瘍マーカー、内科診療、内視鏡室、および抗がん剤の開発部門など、様々な部門をローテーションしながら、がん診療は総合的な視点が必要であると感じました。最新の医療機器の導入、および最先端の医療技術を提供することの重要性はいうまでもありませんが、看護、緩和、心のケアなど総合的な診療が求められます。またその根底には患者さんに寄り添う心が必須です。そのためにも人間性豊かな質の高い医療人を育成していく必要があると感じています。

さて琉球大学医学部附属病院は沖縄県唯一の特定機能病院として、がんに対する高度な医療を提供しています。南部医療圏に位置する当院には、北部医療圏、宮古医療圏、八重山医療圏からも多くのがん患者さんが来院されています。北部医療圏、宮古医療圏、八重山医療圏に在住する患者さんの、当院の全がん患者さんに占める割合はそれぞれ7.8%、4.2%、3.4%であり、周辺離島も含めた離島在住の患者さんは100名を超え、本島にある院内がん登録を実施している14医療機関の中では、最も多く離島在住の患者さんを診療しています。また、当院では、多くの小児およびAYA世代（15～29歳）のがん患者さんを診ており、この年代のがん患者さんの当院への集約化が進んでおります。部位別では、頭頸部がん（口腔・咽頭がん、喉頭がん）、子宮頸部がん、血液腫瘍（悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫など）、皮膚がん、大腸がんの順に多く診療しており、頭頸部がんや皮膚がんなどのいわゆる希少がんも、当院への集約化が進んでおります。

また琉球大学医学部附属病院は、2008年より厚生労働省指定の都道府県がん診療連携拠点病院として、沖縄県におけるがん診療の均てん化を目指して、地域におけるがん診療連携体制の構築、相談支援及び情報提供等に取り組んでいます。同じく2008年より、当院は院内がん登録を開始し、現在、院内がん登録実務指導者1名と中級認定者1名の計2名で、がん登録を行っています。これまで、年間登録件数は1,000件余りで推移していましたが、2013年には1,300件を超えました。これは、「他院からの紹介」症例が増えているためと推測しております。

琉球大学医学部附属病院長として、当院のがん診療の今後の展望を述べたいと思います。
まずは機能画像診断センターの充実です。現在、紹介患者さんの増加により、検査数は飽和状態になりつつありますが、がん検診にも応用したいと考えています。また最新の医療機器としてダヴィンチ（da Vinci：手術支援ロボット）を導入し、ロボット手術への道を開き低侵襲な手術の確立を目指します。MRI、およびCT機器を１台ずつ導入し、計3台ずつ稼働させることで、患者さんの検査待ち時間、ひいては治療までの時間を短縮したいと願っています。さらに将来、西普天間に移転した際には、重粒子線治療施設が導入される可能性があり、質の高い放射線治療医師の育成にも力を入れたいと思っています。琉球大学医学部附属病院の充実を通し、沖縄県全体のがん診療の質の向上を図ることを目指します。



国立大学法人　琉球大学医学部附属病院

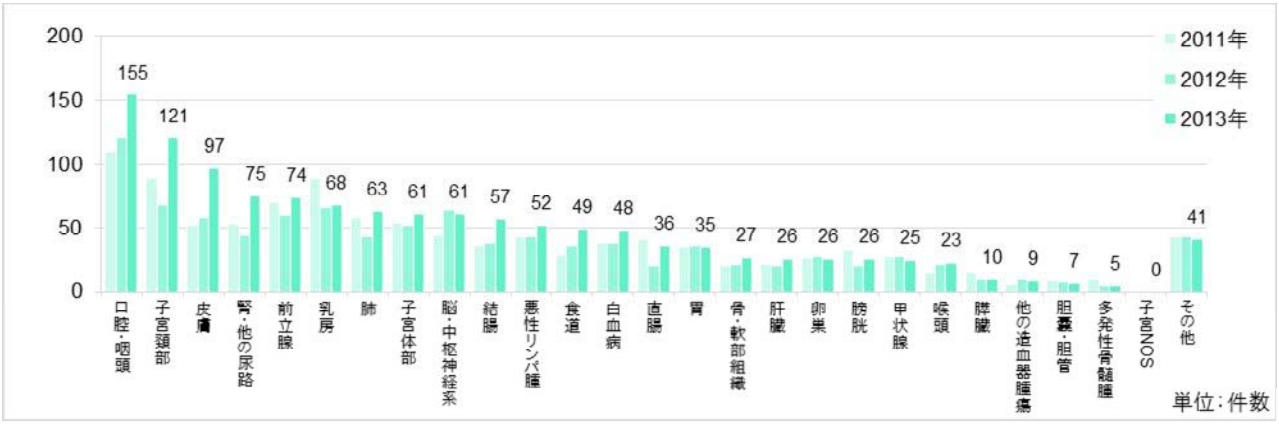
病院長　藤田 次郎

院内がん登録の概要

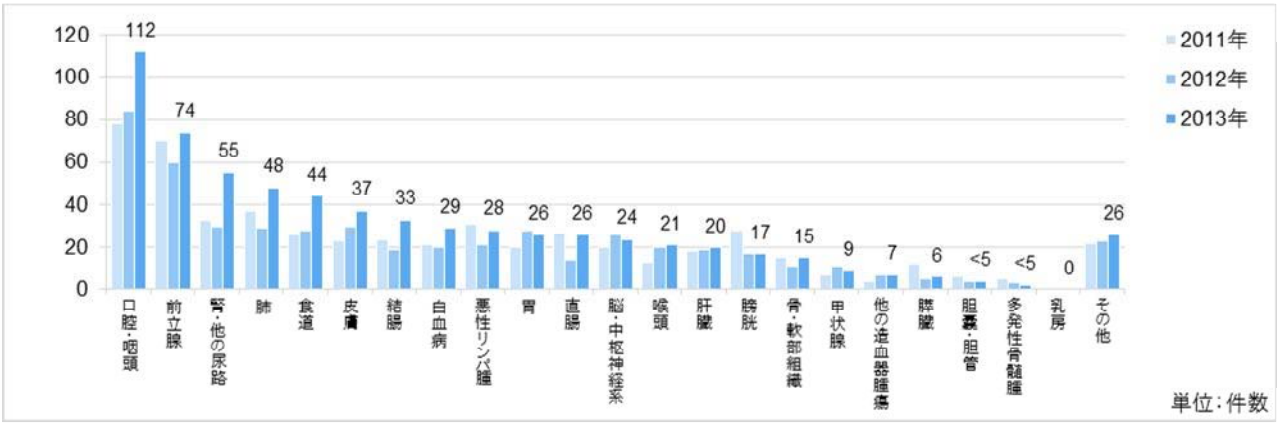
全登録数の推移



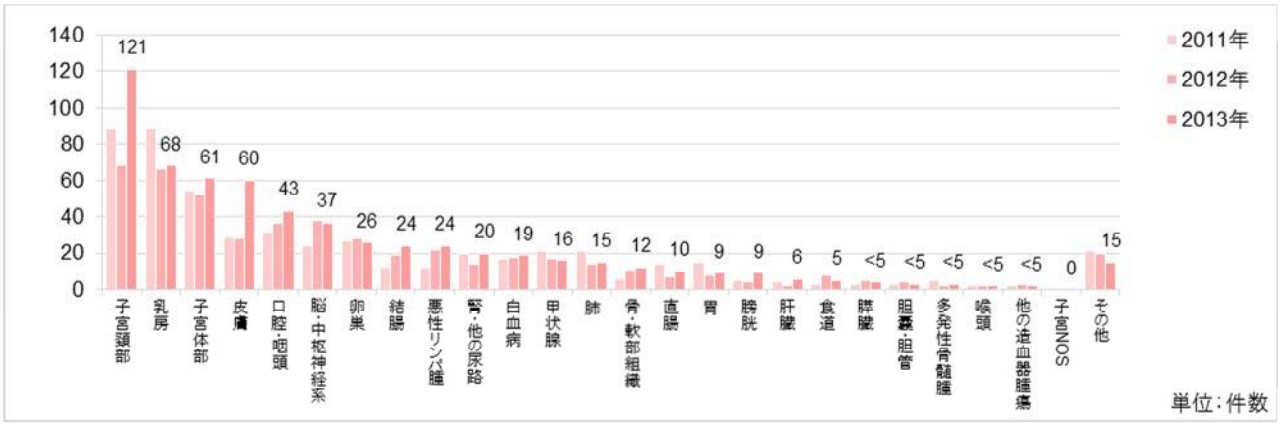
部位別　登録数の推移



部位別　登録数の推移ー男

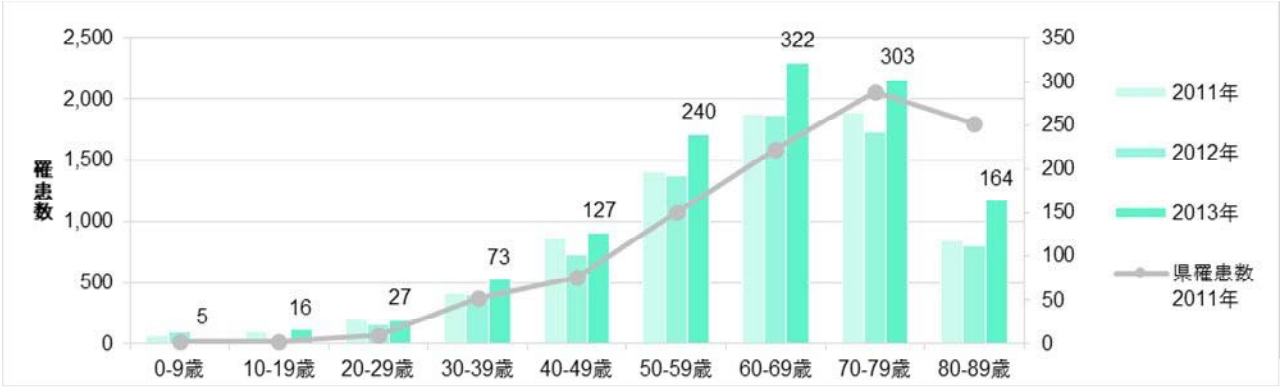


部位別　登録数の推移ー女

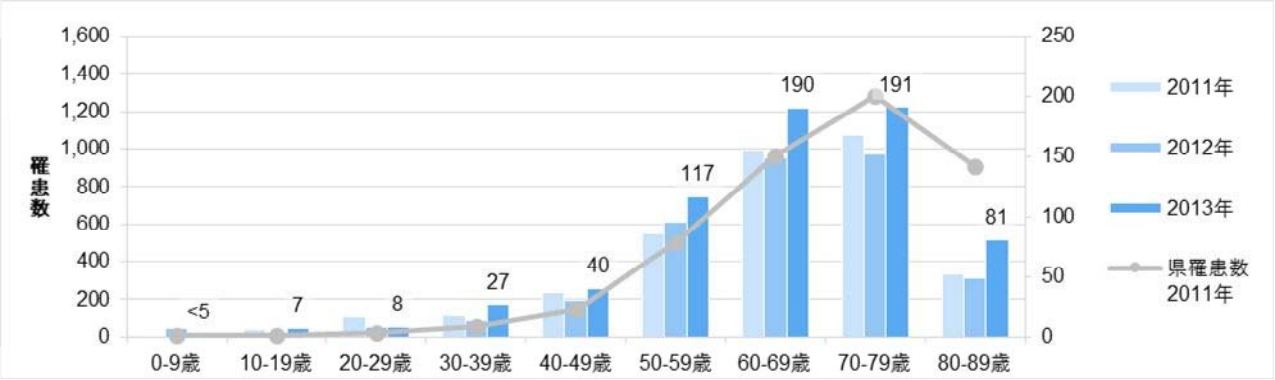


＊上皮内がんを含めて集計
＊全登録数の推移は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊部位別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

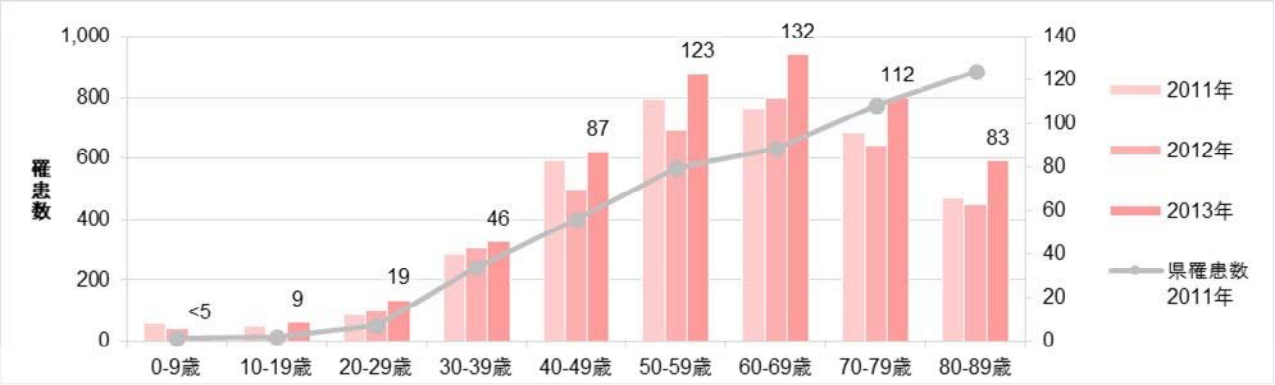
年齢階級別　登録数の推移



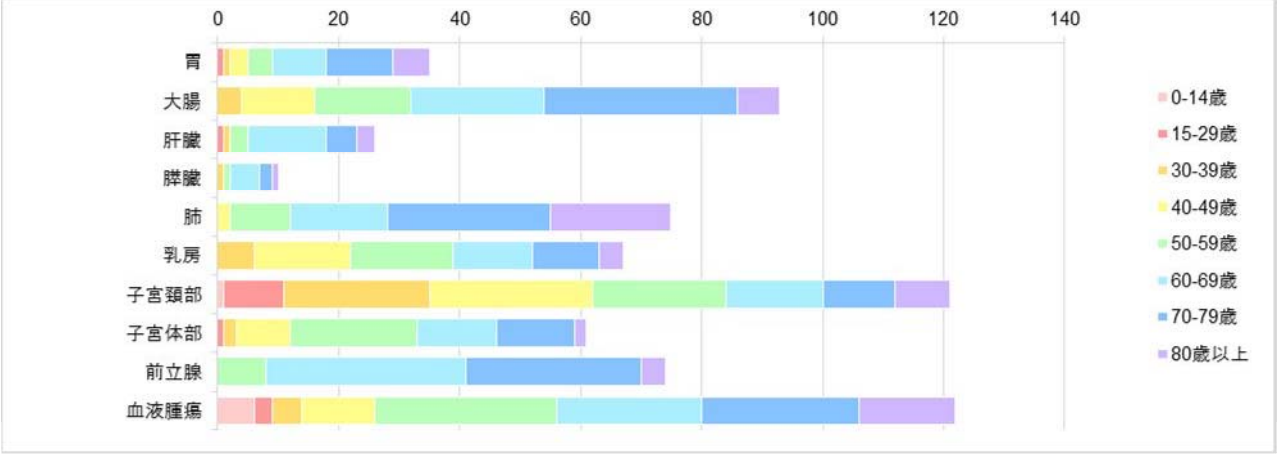
年齢階級別　登録数の推移ー男



年齢階級別　登録数の推移ー女



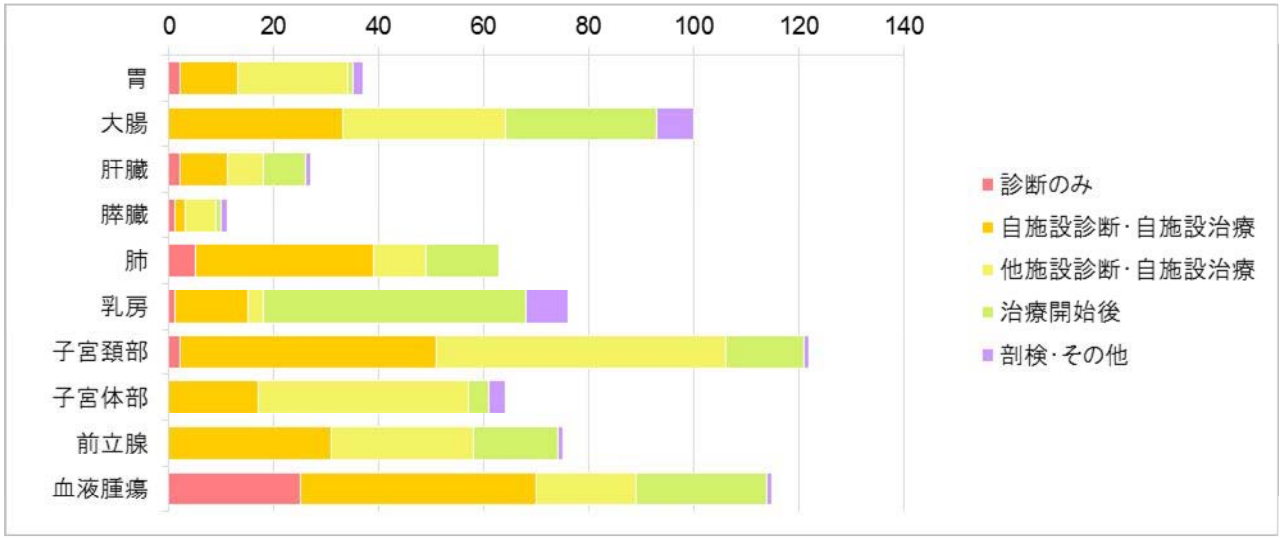
部位別　年齢階級別　登録数ー2013年



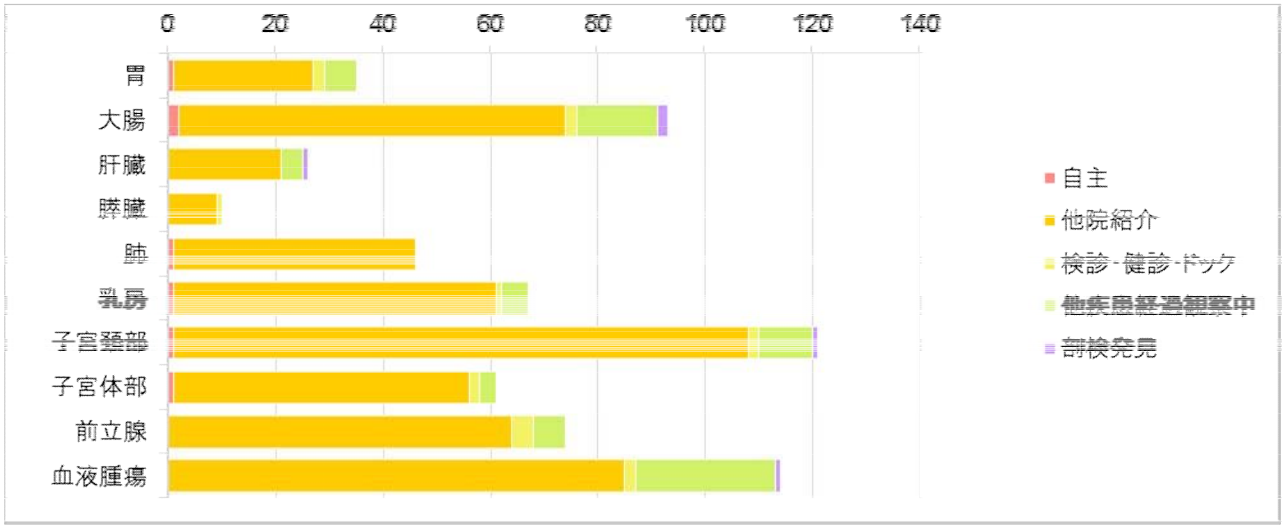
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

院内がん登録の概要

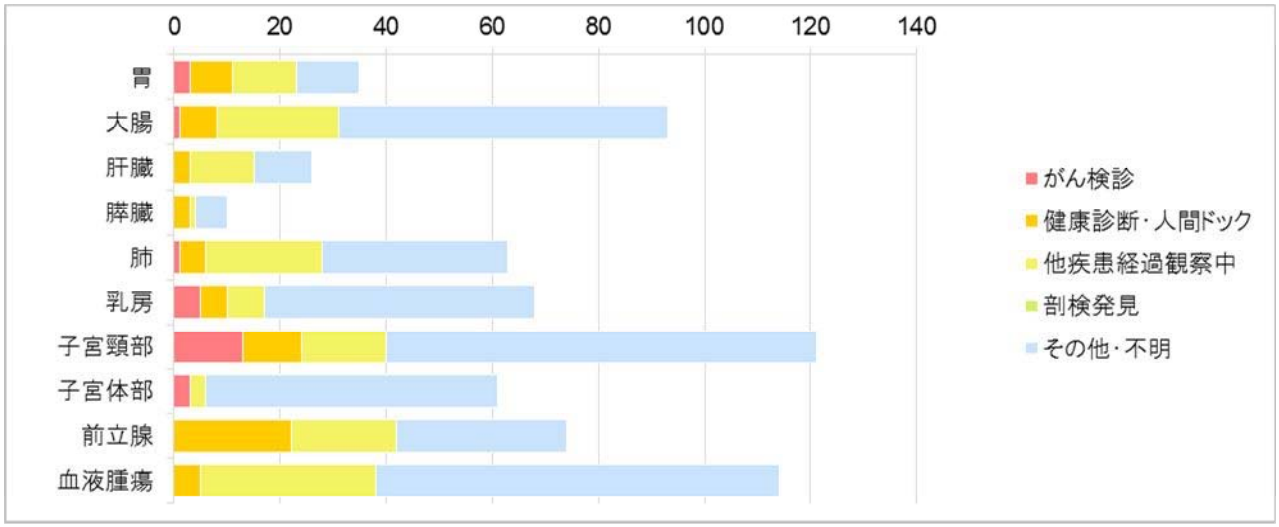
部位別　症例区分別　登録数－2013年



部位別　来院経路別　登録数―2013年



部位別　発見経緯別　登録数―2013年



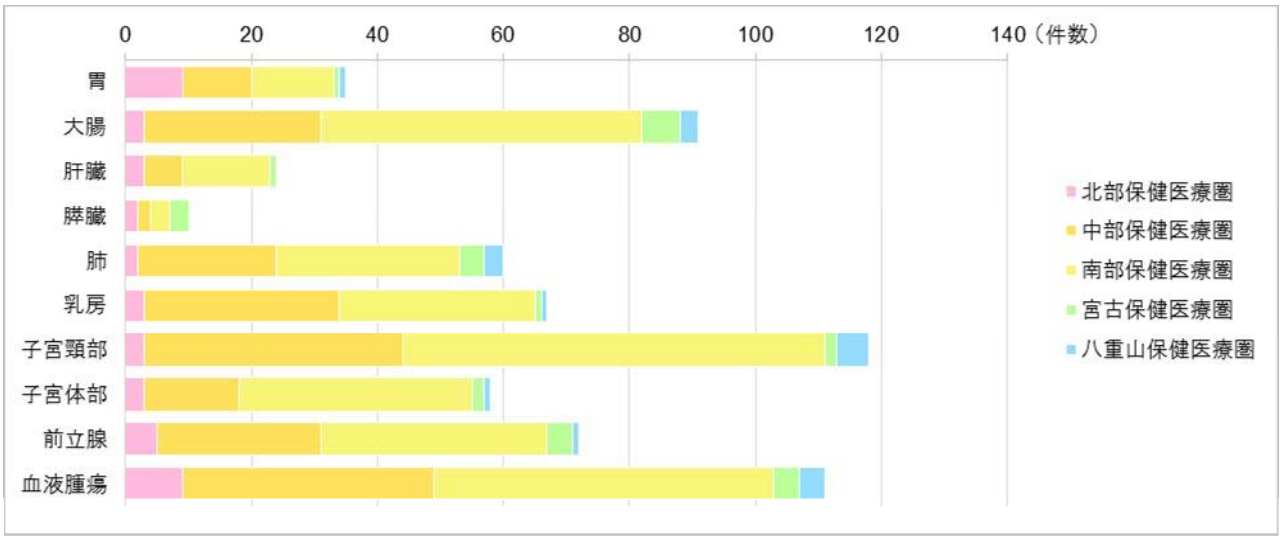
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区部別は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊来院経路別、発見経緯別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

二次保健医療圏別　登録数－2013年

圏域名	市町村名	罹患数（2011年）	16施設登録数（2013年）	カバー率*	カバー率上位3部位*	
北部保健医療圏	名護市　国頭村　大宜味村 東村　今帰仁村　本部町 伊江村　伊平屋村　伊是名村	517	99	19.1%	口腔･咽頭･喉頭	2.5%
					皮膚	1.9%
					胃	1.7%
中部保健医療圏	宜野湾市　沖縄市　うるま市　恩納村 宜野座村　金武町　読谷村　嘉手納町 北谷町　北中城村　中城村	2,720	389	14.3%	子宮頚部	1.5%
					血液腫瘍	1.5%
					口腔･咽頭･喉頭	1.4%
南部保健医療圏	那覇市　浦添市　糸満市　豊見城市 南城市　西原町　与那原町 南風原町　渡嘉敷村　座間味村 粟国村　渡名喜村　南大東村 北大東村　久米島町　八重瀬町	3,597	660	18.3%	口腔･咽頭･喉頭	3.2%
					子宮頚部	1.9%
					血液腫瘍	1.5%
宮古保健医療圏	宮古島市　多良間村	363	53	14.6%	皮膚	2.2%
					大腸	1.7%
					口腔･咽頭･喉頭	1.1%
八重山保健医療圏	石垣市　竹富町　与那国町	269	44	16.4%	食道	2.6%
					口腔･咽頭･喉頭	2.2%
					子宮頚部	2.2%
沖縄県内医療圏不定者		3	-	-	-	-
沖縄県外		-	32	-	-	-
合計		7,469	1,277	17.1%	口腔･咽頭･喉頭	2.3%
					子宮頚部	1.6%
					血液腫瘍	1.5%

＊当該医療圏を診断時住所とする登録数の当該医療圏の罹患数に占める割合

部位別　二次保健医療圏別登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「8：その他」を除いて集計

沖縄県立宮古病院



基本情報	
病院名	**沖縄県立宮古病院**
所在地	〒906-0013　沖縄県宮古島市平良字下里427番地1
電話（代表）	0980-72-3151
ホームページ	http://www.hosp.pref.okinawa.jp/miyako/

診療案内			
診療科	内科、外科、小児科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、精神科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科、放射線科技術科 合計　14診療科		
病床数	276床	平均在院日数	17.60日
入院患者のべ数	5,787人	外来患者のべ数	127,274人
外来化学療法の実施	○	放射線治療の実施	×
緩和ケア外来	×	緩和ケアチーム	○
緩和ケア病棟	×	緩和ケア病床数	0床
院内がん登録実務者数 （実務者のうち研修修了者数）	実務者数１名（初級者１名）		

がん相談	
名称	がん相談支援
電話番号	代表　0980-72-3151（内線1511） 直通　0980-72-1352
対応時間	月～金曜日　８：30～12：00　13：00～16：30

患者さん・ご家族用の設備	
交流の場 （がん患者サロンなど）	○
院内図書館 （図書等を設置している場所）	×



沖縄県立宮古病院は、沖縄県の6つの県立病院の1つで、8つの有人島からなる宮古群島の中核病院として、旧病院での本館（昭和51年）、新館（昭和59年）の増改築等を経て、長年その役割を果たしていましたが、設備や建物の老朽化や狭隘化に伴い、平成25年6月、6階建て、病床数276床の新病院に新築移転いたしました。病院新築に伴い、外来患者や手術件数が増加、また、平成27年1月に伊良部島との伊良部大橋の開通も増加を後押ししました。平成27年10月には地域がん診療病院の指定を受け、その役割を果たすべくスタッフの確保、拡充に備えているところです。人口5万2千余の住民を対象に、1次から2.5次（医療圏）までの、365日24時間の救急医療や急性期医療を担い、5大がんの大部分を地域で完結できる医療の提供を目標としています。

がん登録も旧病院時代から開始し、県の拠点病院である琉球大学医学部附属病院、連携拠点病院の沖縄県立中部病院との連携を密にしながら、離島においても標準的がん治療を受けることが出来るよう、本島の基幹病院の支援、指導を受けながら実施しているところです。

院内がん登録症例は、2011年169件、2012年185件、2013年218件と増加しました。2013年の症例を見ますと、全体の部位別では、大腸48件、肺28件、前立腺26件、乳房19件、子宮頸部15件、胃11件、肝胆膵の合計が18件で、やはり大腸が最も多く、胃が少ない傾向が見られました。性差では、男性は大腸33件、前立腺26件、肺23件で、女性では乳房19件、大腸15件、子宮頸部15件でした。年齢では、女性は20代から徐々に多くなり、男性では50代から多くなってきます。この地域における大量飲酒や飲酒機会の多いことで、胃や肝胆膵のがんに多い傾向はまだ見られていませんが、メタボの若年化と、肝胆膵の機能障害はすでに起こっており、その後の影響が注目されます。

がんの診療では、診断、手術、化学療法を多くの疾患で行っていますが、放射線療法は設備の関係上290ｋｍ離れた本島に紹介するという状況です。

消化器外科指導医の確保もあり、大部分の消化器がんの手術を腹腔鏡下の手術を含め実施していますが、胸部外科指導医の不在やPETの検査が出来ない等で、肺がんは28件中16件が島外に紹介されています。婦人科のがんは、集約化の一環として琉球大学医学部附属病院に紹介する事を原則としています。

泌尿器のがんは、琉球大学医学部附属病院からの派遣スタッフ一名ではありますが、積極的な生検や検査の実施で、多くの症例が島内で発見、治療されています。

術中病理迅速診断はテレパソ（遠隔病理診断支援）を利用し、病理標本の切片画像を琉球大学医学部附属病院病理部に電送し、悪性の診断やセンチネルリンパ節転移の有無、切除断端の評価を行っています。血液疾患等は、沖縄県立中部病院より専門医の定期的な派遣、応援による外来診療でのフォローアップや、コンサルト等が中心であり、今後の常勤スタッフの確保による島内での積極的治療が課題です。

離島における医療の確保は、常にスタッフの確保に左右されることが多く、ローテーションを含めた安定した指導医の確保が困難であり、本島や本土を含めたがんセンター等の基幹病院からの医師の派遣に期待することが大です。多くの国民ががんになる時代に、集約化の方向と、地域完結型の医療の組み合わせが重要かと考えます。

また、平成２７年４月設立スタートした家庭医療センターでは、在宅医療や、総合内科の後期研修制度が始まり、在宅や訪問診療、看とり等の終末期医療の研修等も行っています。診断、治療から終末期まで、出来るだけ住み慣れた地域で完結出来るような地域包括ケアーシステムを、地域の医療機関、医師会等との連携を密にして、構築していく所存です。がん診療を含めた離島僻地における医療の均てん化を目標に、日々努力しているところです。ご支援、ご指導のほど宜しくお願い致します。

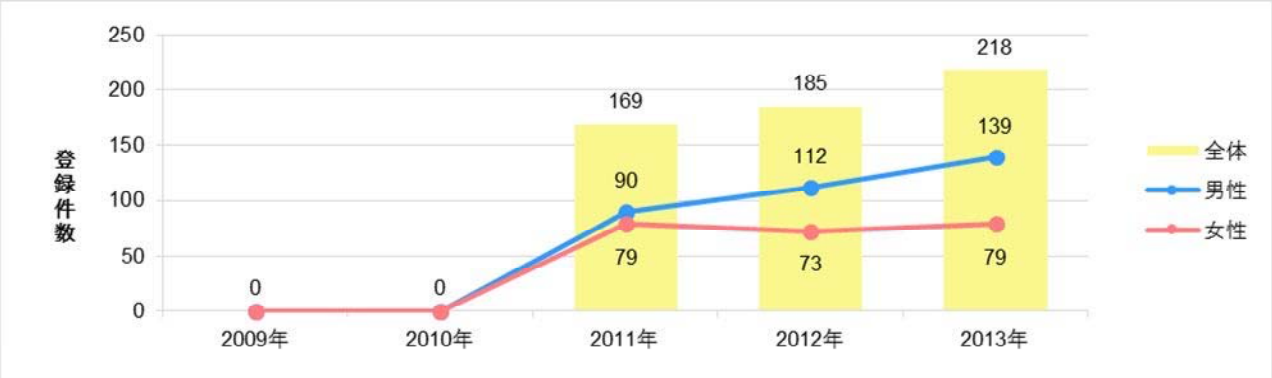


沖縄県立宮古病院

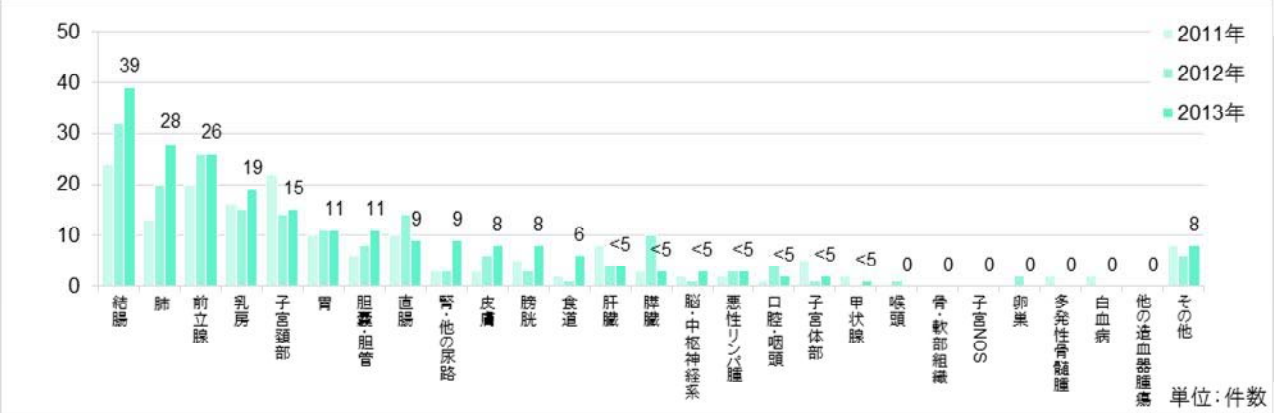
病院長　上原 哲夫

院内がん登録の概要

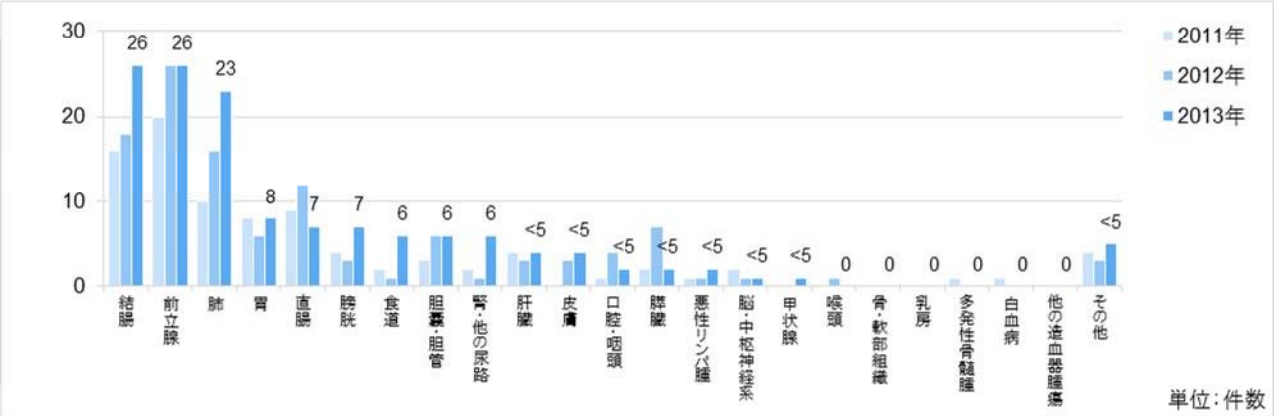
全登録数の推移



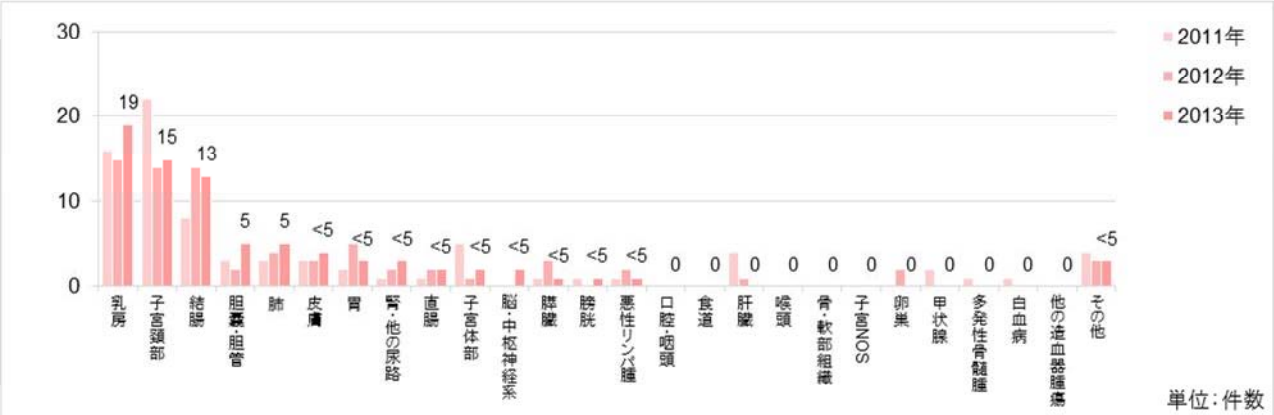
部位別　登録数の推移



部位別　登録数の推移ー男

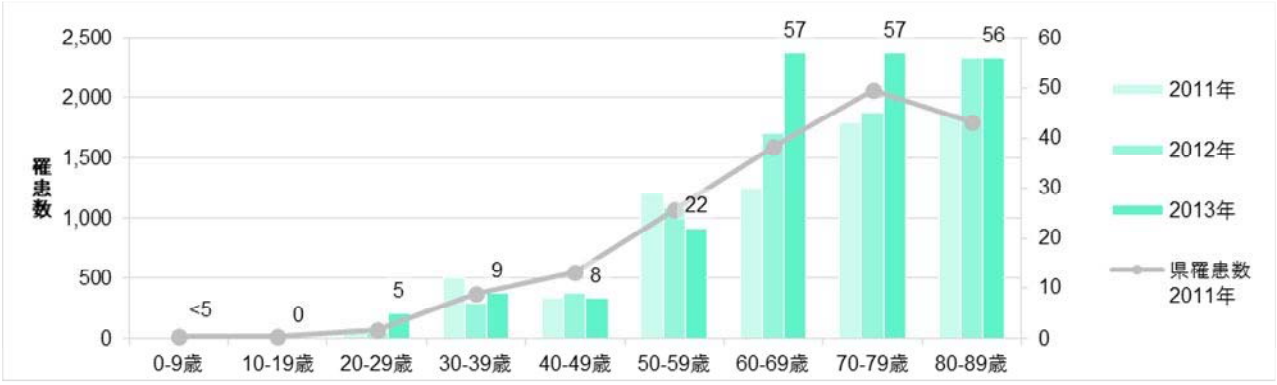


部位別　登録数の推移ー女

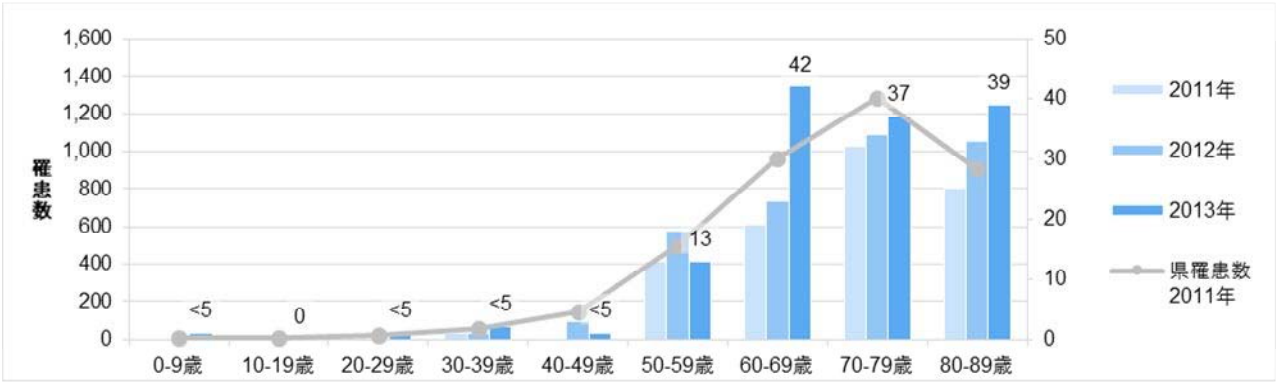


＊上皮内がんを含めて集計
＊全登録数の推移は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊部位別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

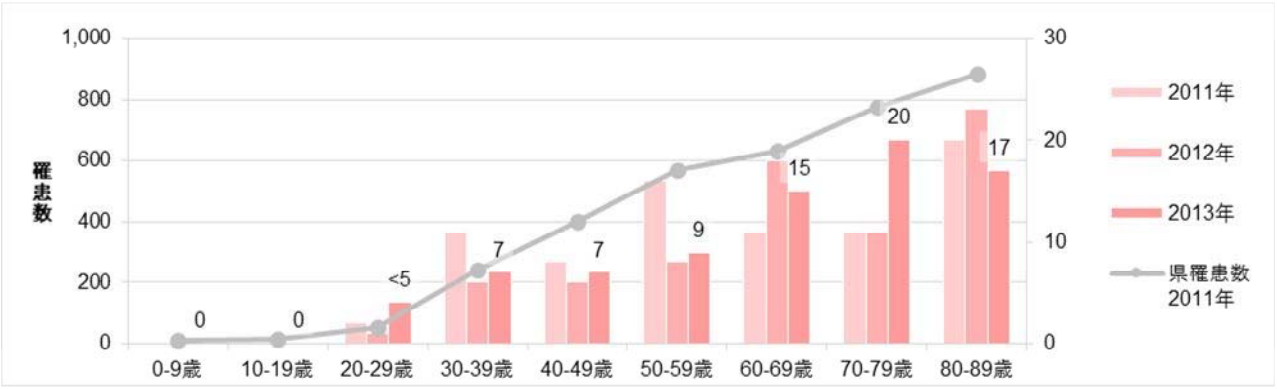
年齢階級別　登録数の推移



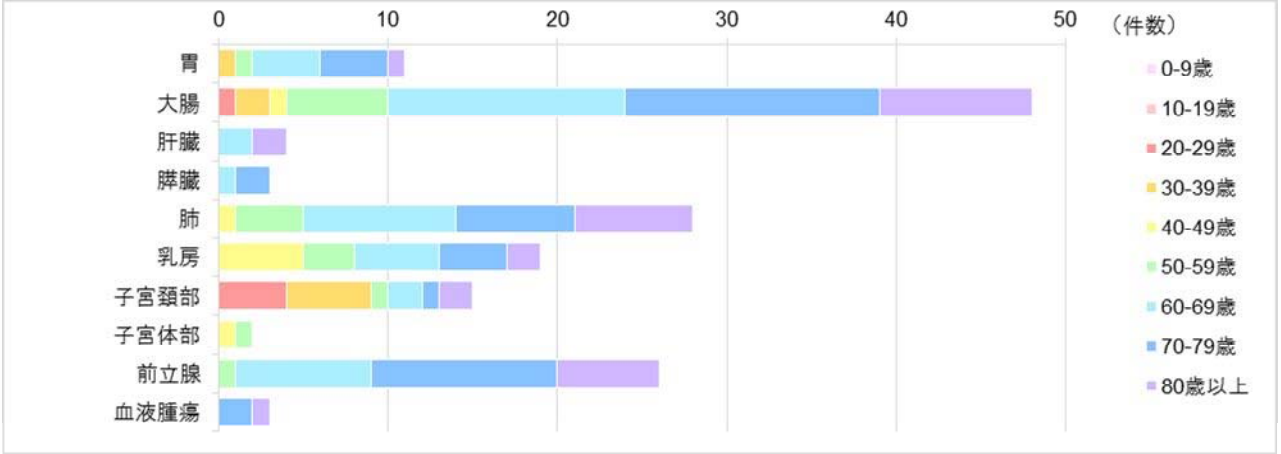
年齢階級別　登録数の推移ー男



年齢階級別　登録数の推移ー女



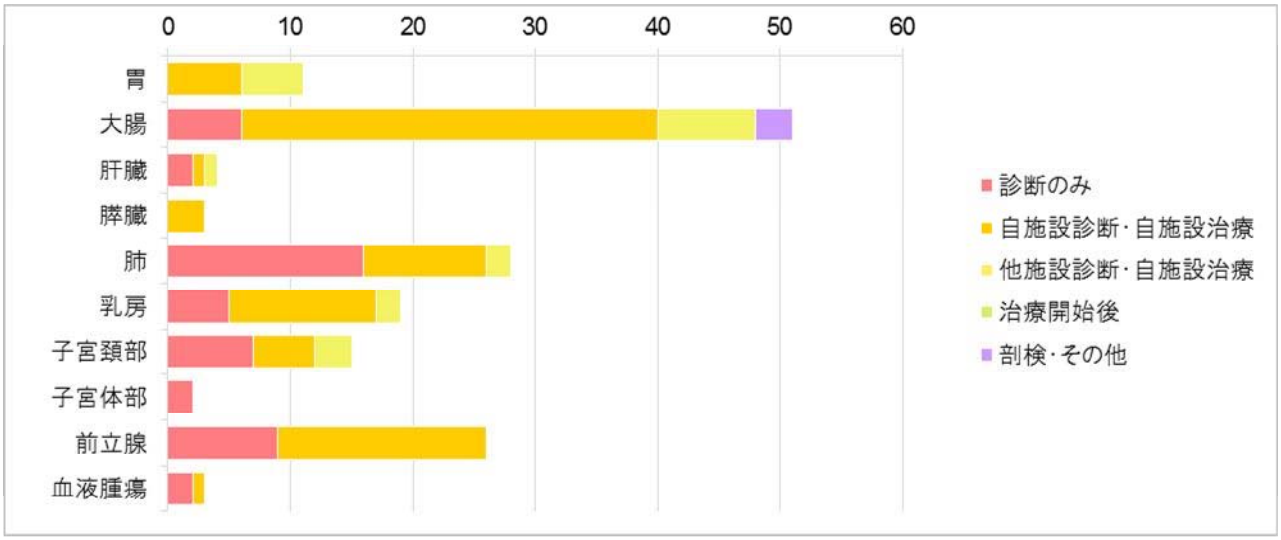
部位別　年齢階級別　登録数ー2013年



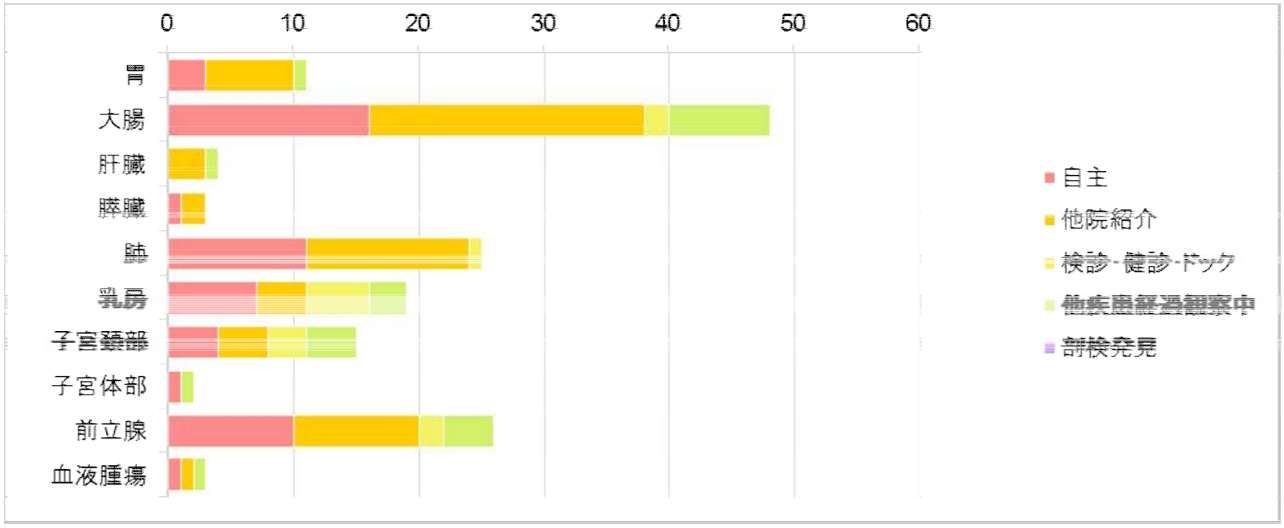
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

院内がん登録の概要

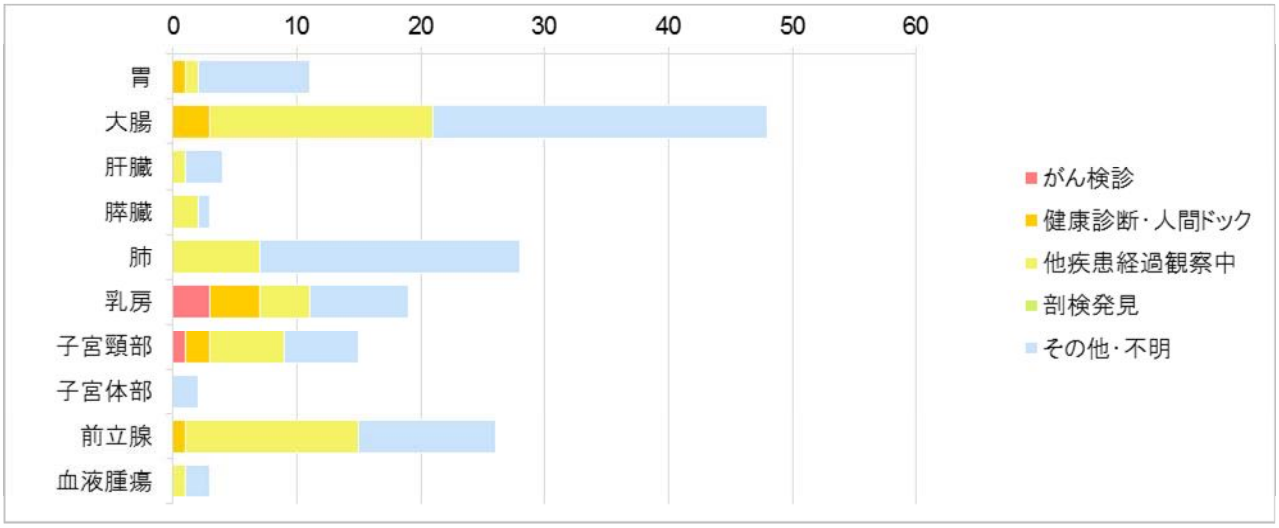
部位別　症例区分別　登録数－2013年



部位別　来院経路別　登録数―2013年



部位別　発見経緯別　登録数―2013年



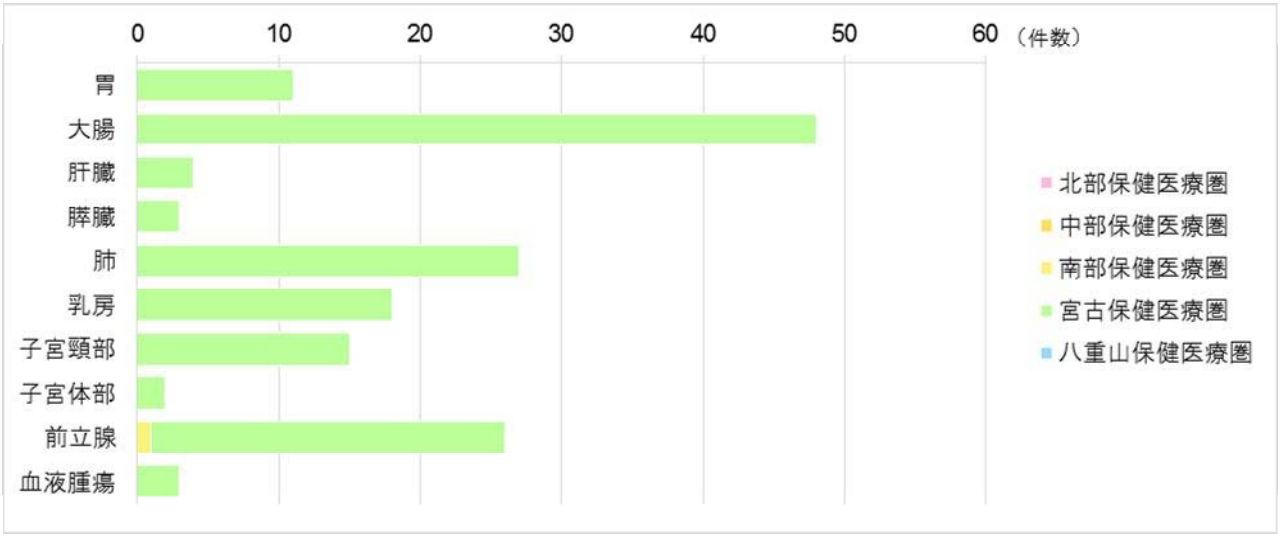
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区部別は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊来院経路別、発見経緯別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

二次保健医療圏別　登録数－2013年

圏域名	市町村名	罹患数（2011年）	16施設登録数（2013年）	カバー率*	カバー率上位3部位*	
北部保健医療圏	名護市　国頭村　大宜味村 東村　今帰仁村　本部町 伊江村　伊平屋村　伊是名村	517	0	0.0%	–	-
					–	-
					–	-
中部保健医療圏	宜野湾市　沖縄市　うるま市　恩納村 宜野座村　金武町　読谷村　嘉手納町 北谷町　北中城村　中城村	2,720	0	0.0%	–	-
					–	-
					–	-
南部保健医療圏	那覇市　浦添市　糸満市　豊見城市 南城市　西原町　与那原町 南風原町　渡嘉敷村　座間味村 粟国村　渡名喜村　南大東村 北大東村　久米島町　八重瀬町	3,597	<5	-	前立腺	-
					–	-
					–	-
宮古保健医療圏	宮古島市　多良間村	363	212	58.4%	大腸	13.2%
					肺	7.4%
					前立腺	6.9%
八重山保健医療圏	石垣市　竹富町　与那国町	269	0	0.0%	–	-
					–	-
					–	-
沖縄県内医療圏不定者		3	-	-	–	-
沖縄県外		-	2	-	–	-
合計		7,469	215	2.9%	大腸	0.6%
					肺	0.4%
					前立腺	0.3%

＊当該医療圏を診断時住所とする登録数の当該医療圏の罹患数に占める割合

部位別　二次保健医療圏別登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「8：その他」を除いて集計

沖縄県立八重山病院



基本情報	
病院名	**沖縄県立八重山病院**
所在地	〒907-0022　沖縄県石垣市大川732番地
電話（代表）	0980-83-2525
ホームページ	http://www.hosp.pref.okinawa.jp/yaeyama/

診療案内			
診療科	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、救急科、麻酔科、腎臓内科 合計　２３診療科		
病床数	350床	平均在院日数	15.4日
入院患者のべ数	78,660人	外来患者のべ数	102,661人
外来化学療法の実施	○	放射線治療の実施	×
緩和ケア外来	○	緩和ケアチーム	○
緩和ケア病棟	×	緩和ケア病床数	0床
院内がん登録実務者数 （実務者のうち研修修了者数）	実務者数2名（初級者1名）		

がん相談	
名称	がん相談支援センター
電話番号	代表　0980-83-2525
対応時間	月～金曜日　８：３０～１７：００ ※休み：土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始、 慰霊の日（6月23日）

患者さん・ご家族用の設備	
交流の場 （がん患者サロンなど）	○
院内図書館 （図書等を設置している場所）	×



沖縄県立八重山病院は、昭和24年（1949年）戦後医師不足の中、八重山民生府立慈善病院として10床で創設されました。昭和47年（1972年）の本土復帰で沖縄県立八重山病院へ名称変更時、病床数は146床（一般26床、結核病床70床、精神50床）へ増加、現在は有人離島12を含む人口約6万人の八重山保健医療圏で唯一の総合病院となり、許可病床350床（一般291床、精神科50床、結核6床、感染3床）のへき地中核病院を継続しています。
当院の特徴として24時間、365日、緊急手術も可能な救急室を有し、災害拠点病院、2類感染症指定病院、地域周産期母子医療センター（八重山保健医療圏で唯一の分娩施設でNICU併設）、沖縄県地域がん診療連携支援病院（地域がん診療病院申請中）、4つの離島診療所の親病院等を医師47名、看護師約200名、コメディカル、事務職等総勢約400名で支えています。しかし、現病院は昭和55年（1980年）に新築移転してから36年が経過し、老朽化が甚だしく、2年前の大型台風で大被害を受け病院機能が停止寸前まで追い込まれました。それを契機に新病院建築の計画が具体化し、平成29年度開院を目指し工事が始まろうとしているところです。

当院の院内がん登録数は、年間約140～160件と大きな変動はありませんが、がん化学療法看護認定看護師が誕生してから化学療法件数（2011年345件／2012年454件／2013年518件／2014年628件）が毎年100件程増加してます。消化器内科、消化器外科が充実してからは、最も多い消化器のがん（胃、結腸、直腸等）は地域完結が可能になりました。また呼吸器外科医、婦人科医の赴任により肺がん、子宮がんの手術も可能になっています。しかし、放射線治療を除くがん治療が当院で可能でも、家庭の事情・患者様の希望・地域住民への周知不足で、島外への流出が30%以上となっています。統計を見てみると、へき地・離島の人材確保が、いかにがん治療に影響を与えているかがわかります。
当院は医師の約半数が1年間で入れ替わるため、特に主治医と患者さんとの信頼関係が重要ながん治療にとって、主治医が何度も変わるのは双方に多大なストレスとなっているのは明らかです。それを少しでも軽減させるためには、緩和ケア、がん相談、地域連携室、がん治療に関わる全ての部署を含むがん治療チームが大きな役割を担っています。

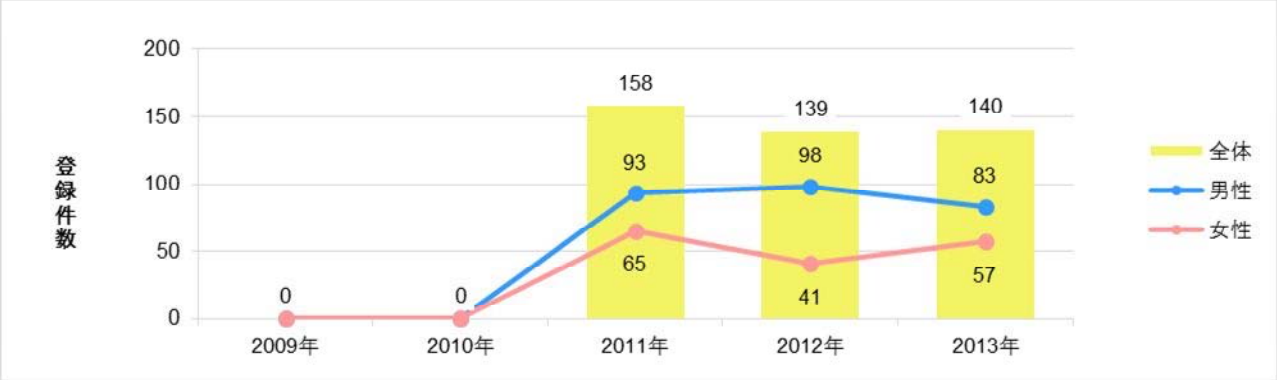
院外では八重山のがん患者の会『ゆんたく会』（ゆんたくとは沖縄の方言でおしゃべりしながら楽しく過ごすという意味）との会議、年間行事へ病院・市役所からも参加（新年会等に参加し患者様との交流を地域連携室を中心に行ってます）して、地域全体でがん患者さんを支える『結の絆』を、日本最南西端の八重山病院から発信したいと思っています。

沖縄県立八重山病院
病院長　依光 たみ枝

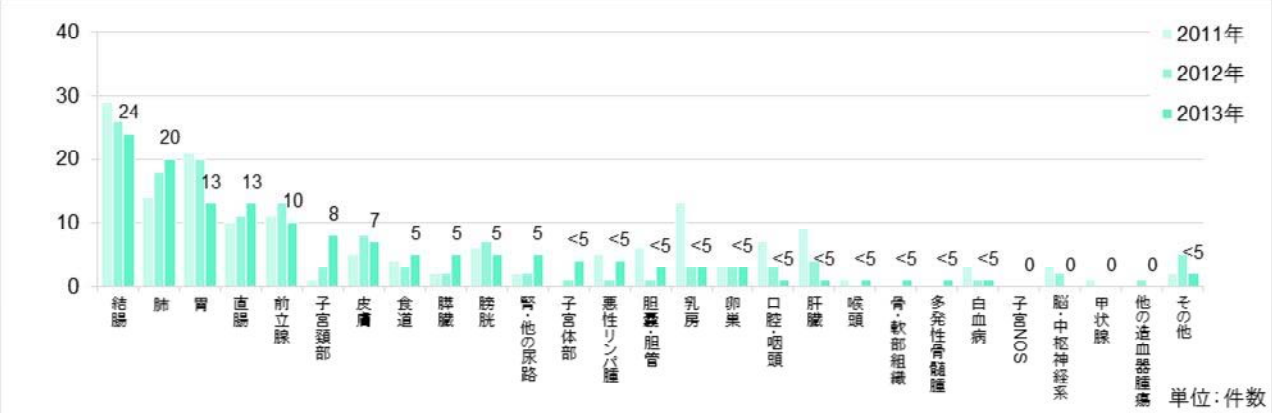


院内がん登録の概要

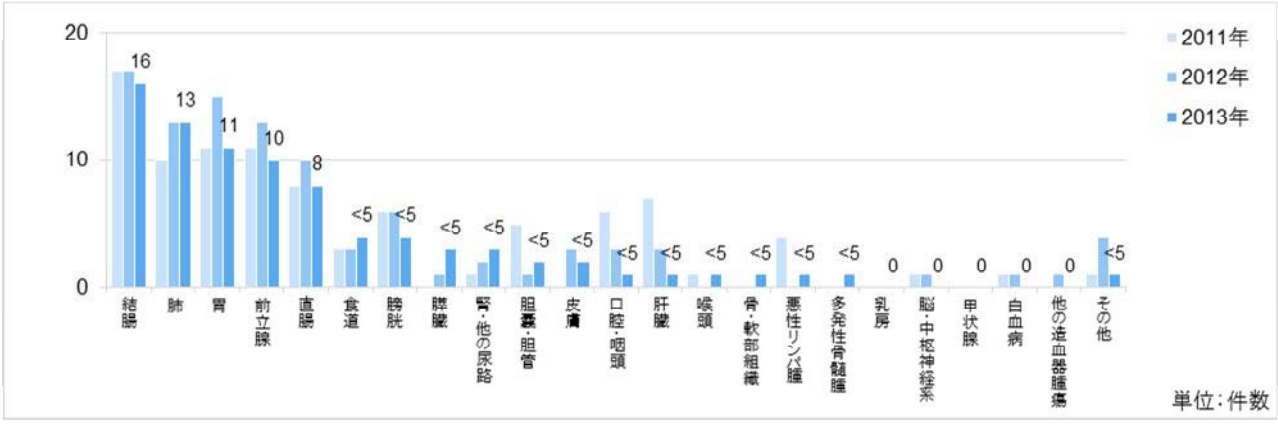
全登録数の推移



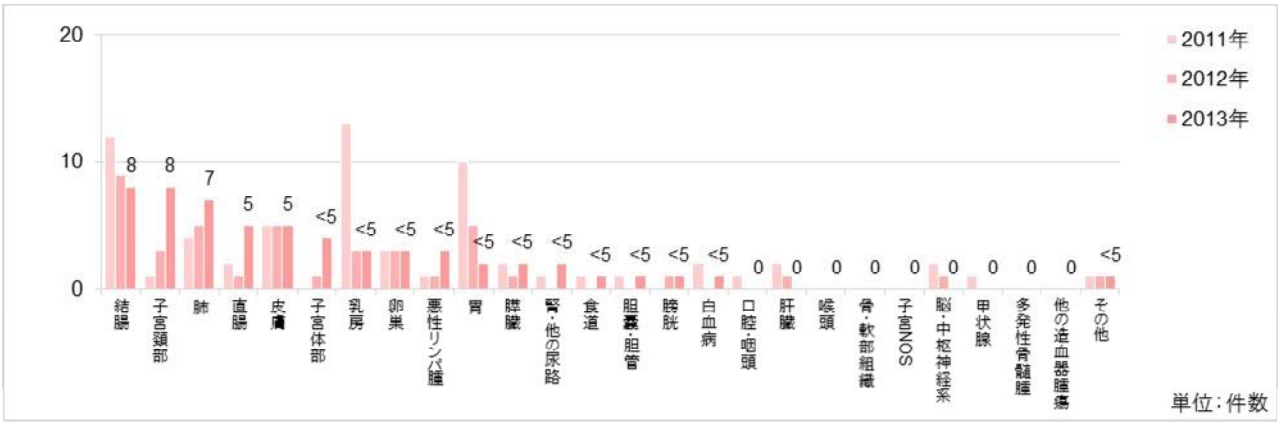
部位別　登録数の推移



部位別　登録数の推移ー男

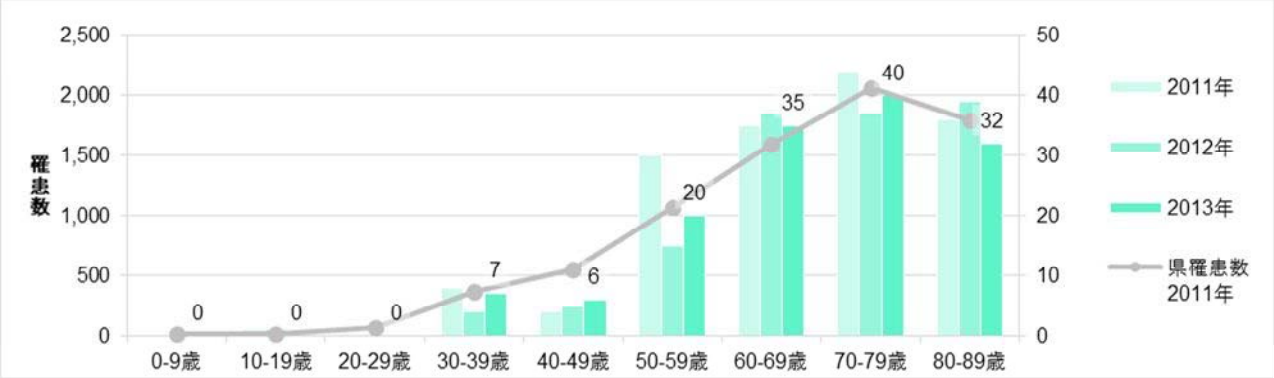


部位別　登録数の推移ー女

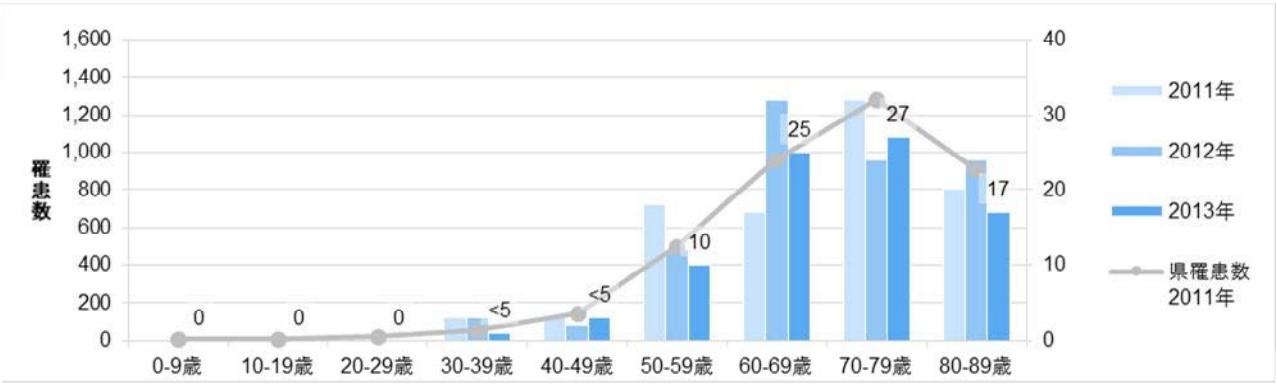


＊上皮内がんを含めて集計
＊全登録数の推移は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊部位別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

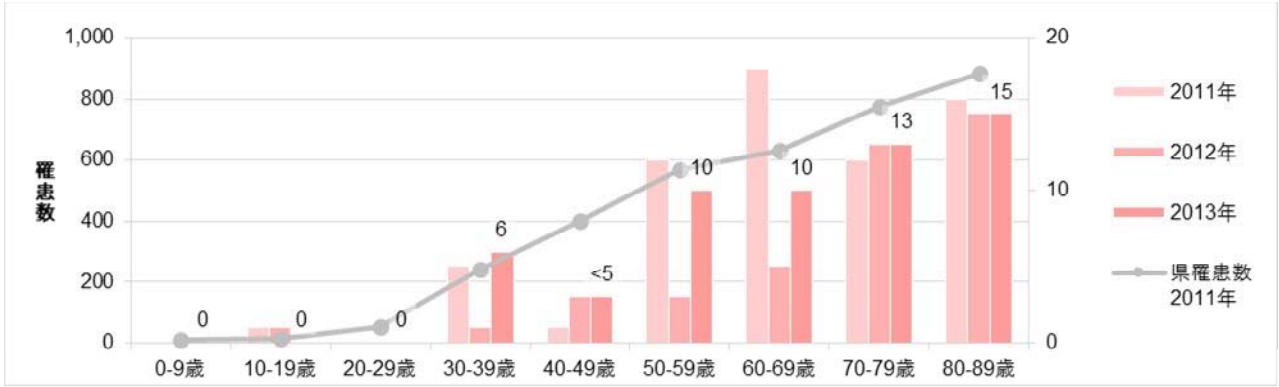
年齢階級別　登録数の推移



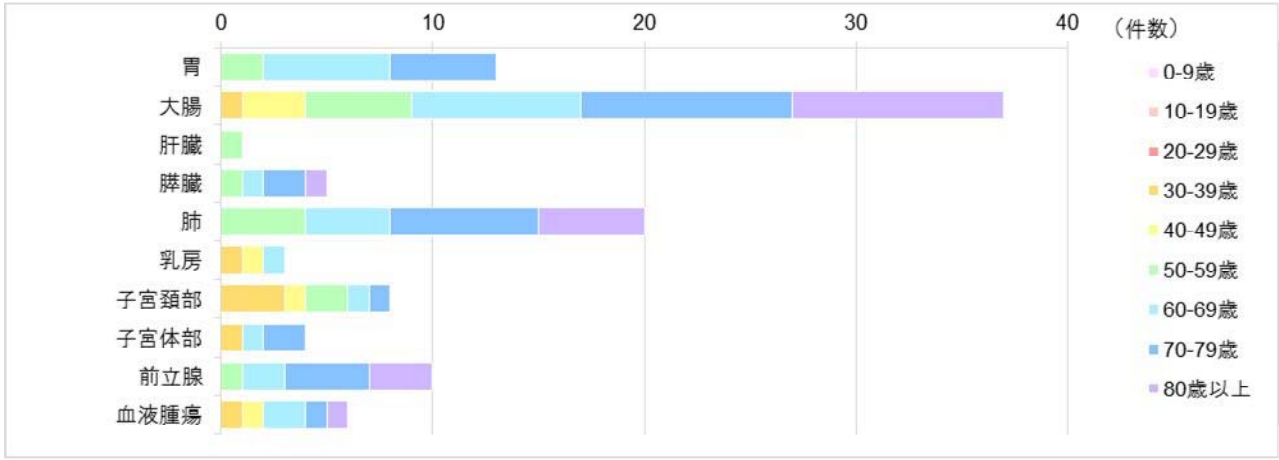
年齢階級別　登録数の推移ー男



年齢階級別　登録数の推移ー女



部位別　年齢階級別　登録数ー2013年

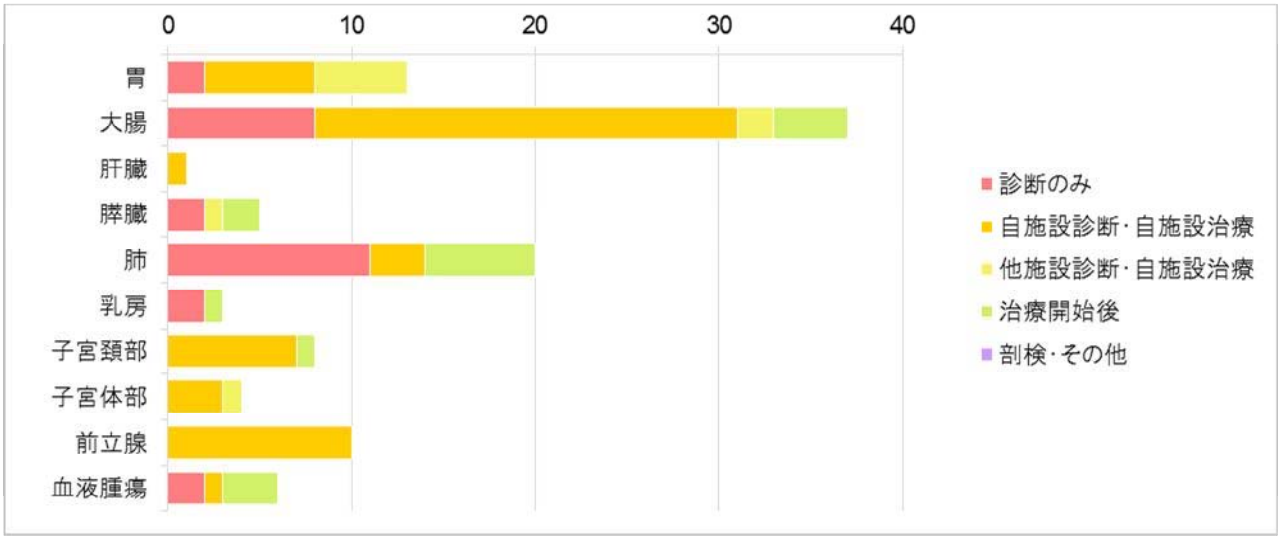


＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「８：その他」を除いて集計

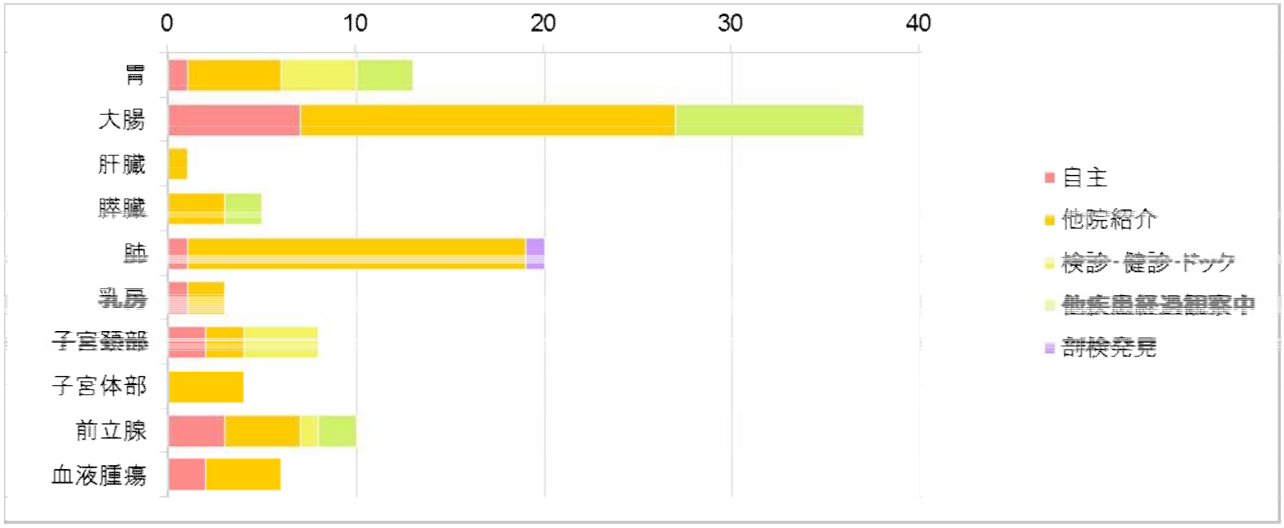
院内がん登録の概要

沖縄県立八重山病院

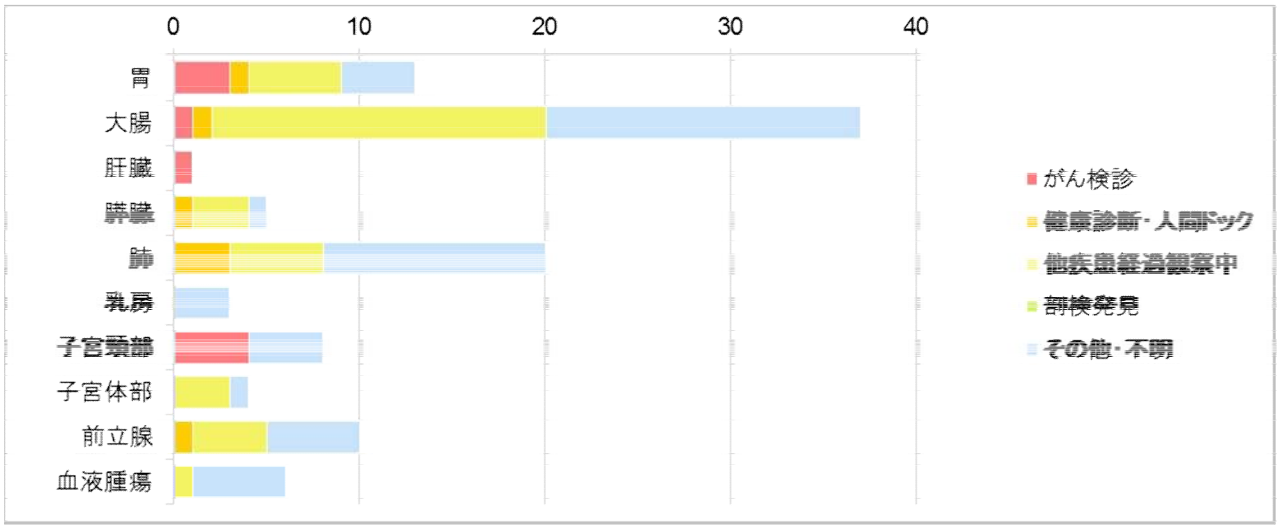
部位別　症例区分別　登録数－2013年



部位別　来院経路別　登録数―2013年



部位別　発見経緯別　登録数―2013年



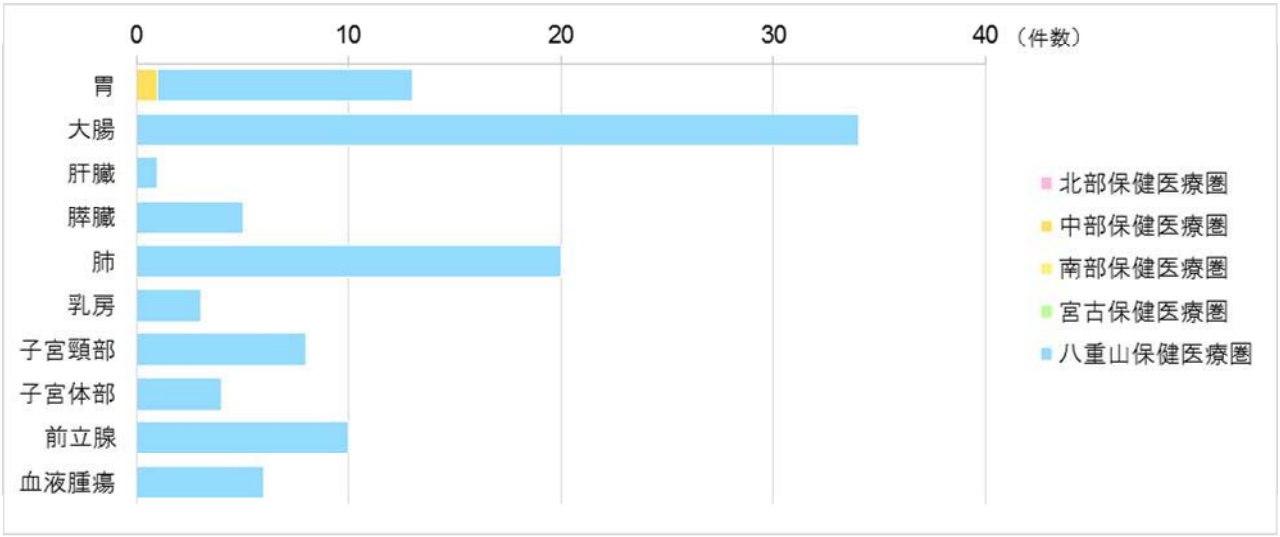
＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区部別は、症例区分「８：その他」を含めて集計
＊来院経路別、発見経緯別は、症例区分「８：その他」を除いて集計

二次保健医療圏別　登録数－2013年

圏域名	市町村名	罹患数（2011年）	16施設登録数（2013年）	カバー率*	カバー率上位3部位*	
北部保健医療圏	名護市　国頭村　大宜味村 東村　今帰仁村　本部町 伊江村　伊平屋村　伊是名村	517	0	0.0%	-	-
					-	-
					-	-
中部保健医療圏	宜野湾市　沖縄市　うるま市　恩納村 宜野座村　金武町　読谷村　嘉手納町 北谷町　北中城村　中城村	2,720	<5	-	胃	-
					-	-
					-	-
南部保健医療圏	那覇市　浦添市　糸満市　豊見城市 南城市　西原町　与那原町 南風原町　渡嘉敷村　座間味村 粟国村　渡名喜村　南大東村 北大東村　久米島町　八重瀬町	3,597	0	0.0%	-	-
					-	-
					-	-
宮古保健医療圏	宮古島市　多良間村	363	0	0.0%	-	-
					-	-
					-	-
八重山保健医療圏	石垣市　竹富町　与那国町	269	135	50.2%	大腸	12.6%
					肺	7.4%
					子宮頚部	2.2%
沖縄県内医療圏不定者		3	-	-	-	-
沖縄県外		-	4	-	-	-
合計		7,469	140	1.9%	大腸	0.5%
					肺	0.3%
					胃	0.2%

＊当該医療圏を診断時住所とする登録数の当該医療圏の罹患数に占める割合

部位別　二次保健医療圏別　登録数－2013年



＊上皮内がんを含めて集計
＊症例区分「8：その他」を除いて集計

がん診療にかかわる情報

○ がんや療養生活について詳しく知るには



『がんになったら手にとるガイド　普及新版』
（2013年発行　880円（税別））

　がんとの向き合い方やがんの基礎知識、各種がんの療養に役立つヒントをまとめた冊子です。



『おきなわがんサポートハンドブック　2015年版』

　がんと診断されて間もない患者さんの思いに寄り添い、支える事の助けとなることを目指して、「信頼できる情報で、わかりやすく、役にたつもの」をまとめた冊子です。

○ 沖縄県のがん診療、がん対策、がん登録集計に関するサイト



『沖縄県がん診療連携協議会うちなーがんネットがんじゅう』
http://www.okican.jp
　沖縄県内の患者さんやご家族向けの情報（患者会の紹介やがんサポートハンドブックの閲覧、がんについての講演会のお知らせなど）を掲載しています。さらに、国立がん研究センターや沖縄県などのリンク先も多く、幅広いがん情報を得ることができます。



『沖縄県地域がん登録事業報告書』
http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/gantouroku/gantouroku.html
　沖縄県では、沖縄県に発生したがんをひとつのがんごとにまとめて、がんの実態、治療成績を把握する目的に、医療機関から提供されたデータを分析・評価し、毎年、報告書を作成しています。



『沖縄県がん診療連携拠点病院院内がん登録集計報告書』
http://www.okican.jp
　院内がん登録とは、各医療機関がその施設の全ての患者さんのがんについて、診断、治療、予後に関する情報を登録・収集するしくみのことをいいます。沖縄県の院内がん登録実施施設の院内がん登録情報を取りまとめた報告書を作成しています。

○ 沖縄県内のがん相談支援センター（がんの治療や療養生活全般の相談窓口）

　ご相談は、看護師やソーシャルワーカー（社会福祉士）などのがん相談の専門スタッフがお受けしています。患者さんやご家族のがんの治療や療養生活全般に関して心配や困ったことなどについて、一緒に考え、情報を探すお手伝いをします。がんの患者さんやご家族がその病院に通院していなくても、がんに関する相談はどなたでもご利用することができます、電話または面談での対応になります。相談は無料です。

琉球大学医学部附属病院
☎ 098-895-1507　対応日時：月～金・９時～１２時、１３時から１６時半

県立中部病院
☎ 098-973-4111（内線3232）　対応日時：月～金・９時～１７時

那覇市立病院
☎ 098-884-5111（内線127、283）　対応日時：月～金・９時～１７時

北部地区医師会病院
☎ 0980-54-1111　対応日時：月～金・９時～１７時

県立宮古病院
☎ 0980-72-1352　対応日時：月～金・９時～１７時

県立八重山病院
☎ 0980-83-2525　対応日時：月～金・９時～１７時